EPSON
EXCEED YOUR VISION

取扱説明書

ビジネスプロジェクター

EB-710UT
EB-700U

目次

マニュアル中の表示の意味 8

プロジェクターを使用する前に 9

本機の特長 10
- 長寿命のレーザー光源 10
- インタラクティブ機能 10
- かんたん投写 11
- 柔軟な接続性 11
  - コンピューターと接続する 11
  - モバイルデバイスと接続する 12
  - 書画カメラで手持ちの資料を拡大投写 12

プロジェクターの各部名称と働き 13
- プロジェクターの各部名称 - 前面/側面 13
- プロジェクターの各部名称 - 上面/側面 14
- プロジェクターの各部名称 - インターフェイス 15
- プロジェクターの各部名称 - 底面 17
- プロジェクターの各部名称 - 操作パネル 18
- プロジェクターの各部名称 - リモコン 19
- プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン 21
- プロジェクターの各部名称 - ペントレイ 22
- プロジェクターの各部名称 - タッチユニット 23

プロジェクターを準備する 25

プロジェクターの設置 26
- プロジェクターの設置・取り付け 27
  - 設置時のご注意 27
- インタラクティブ機能を使用するとき 28
  - タッチユニットを設置する 29

プロジェクターを接続する 30
- コンピューターを接続する 30
  - コンピューターケーブルを接続して映像と音声を出力する 30
  - USBケーブルを接続して映像と音声を出力する 31
  - HDMIケーブルを接続して映像と音声を出力する 32
- スマートフォン・タブレット端末を接続する 33
- ビデオ機器を接続する 34
  - HDMIケーブルで接続する 34
  - コンポーネントビデオケーブルで接続する 35
  - コンポジットケーブルで接続する 36
- USB機器を接続する 37
  - USB機器のデータを投写する 37
  - USB機器を接続する 37
  - USB機器を取り外す 38
- 書画カメラを接続する 38
- 外部出力機器を接続する 38
  - VGAモニターを接続する 38
  - 外部スピーカーを接続する 39
  - マイクを接続する 39
- 複数台のプロジェクターを接続する 40

リモコンに電池を取り付ける 43

インタラクティブペンに電池を取り付ける 44

リモコンを操作する 45

プロジェクターの基本機能を使用する 46

プロジェクターの電源を入れる 47
- ホーム画面 48

プロジェクターの電源を切る 50

日時を設定する 51

メニューの言語を選択する 53

設置モードを選択する 54
- リモコンで 設置モードを変更する 54
- メニューから設置モードを変更する 54

ピントを調整する 56
映像の高さを調整する 59
映像の形状を補正する 60
台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する 60
Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する 61
湾曲補正で映像のゆがみを補正する 63
登録したメモリーを呼び出す 66
ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する 67
映像の位置を調整する 68
投写映像を切り替える 69
映像のアスペクト比を設定する 71
映像のアスペクト比を切り替える 71
アスペクトモードの種類 71
各アスペクトモードの投写イメージ 72
カラーモードを設定する 73
カラーモードを変更する 73
カラーモードの種類 73
映像の光量を調整する 74
映像の色合いを調整する 76
色相、彩度、明度を調整する 76
ガンマを調整する 77
明るさを設定する 79
残り時間目安の見方 80
光源寿命 81
音量ボタンで音量を調整する 82

インタラクティブ機能を使用する 83

インタラクティブ機能でできること 84
インタラクティブ機能をご使用になる前に 86
インタラクティブ機能を安全にお使いいただくために 86
インタラクティブペンを使う 86
ペン位置合わせ 88
自動位置合わせ 88
手動位置合わせ 90
指を使って操作する 92
指タッチ位置合わせ 94
指での操作を安全に行っていただくために 96
投写映像に描画する（アノテーションモード） 97
ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード） 99
投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作） 101
マウス操作機能の動作条件 101
マウス操作機能を使う 102
ペン操作エリアを調整する 104
Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ） 106
インタラクティブ機能を活用する 107
インタラクティブ機能のモードを切り替える 107
アノテーションモード/ホワイトボードモードのツールバー 108
ペンの色と太さを選択する 109
背景を選択する 110
下段ツールバー（プロジェクター制御） 110
描画内容を保存する 112
描画内容を印刷する 112
ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する 112
ネットワーク経由でインタラクティブ機能を利用する 114
サブネットの異なる場所にあるプロジェクターに接続する際のご注意 114
Windowsのペン入力とインクツール 116
Windowsのペン入力とインク機能を有効にする 116
Windowsのペン入力とインク機能を使用する 117
2画面投写時にインタラクティブ機能を利用する 118
2画面投写に切り替える 118
2画面投写の設定をする 118

2台のプロジェクターから投写した画面でインタラクティブ機能を利用する 120
一時的に1台だけでインタラクティブ機能を利用する 120

プロジェクターの便利な機能 122

2つの映像を同時に投写する 123
2画面投写できない入力ソースの組み合わせ 125
2画面投写中の制限事項 125
PC Free機能で投写する 126
サポートファイル形式 126
PC Free使用時の注意事項 126
PC Freeのスライドショーを開始する 127
PC Freeで動画を投写する 129
PC Freeの表示オプション 130
映像と音声を一時的に遮断する 131
映像を一時的に停止する 132
画面の一部を拡大表示する 133
リモコンでコンピューターのマウス操作をする 134
リモコンでポインターを表示する 136
ユーザーロゴを設定する 137
ユーザーパターンを登録する 140
複数台のプロジェクターから投写する（マルチプロジェクション機能） 142
プロジェクターのID設定 142
プロジェクターにIDを設定する 142
操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する 143
ユニフォーミティーを調整する 144
カラーマッチングを調整する 146
RGBCMYを調整する 147
オプションのインターフェースボックスを使ってHDMI3端子の映像を投写する 149
セキュリティー機能 151
パスワードプロテクトの種類 151
パスワードを設定する 151
パスワードプロテクトの種類を設定する 152
パスワードを入力する 153
操作パネルのボタン操作を制限する 154
操作ボタンロックを解除する 155
セキュリティーケーブルを取り付ける 155

ネットワーク上のプロジェクターを使用する 157

有線LANでの映像投写 158
有線LANに接続する 158
有線LANを設定する 158
無線LANでの映像投写 161
無線LANユニットを取り付ける 161
プロジェクターの無線LANを設定する 162
Windowsで無線LANを設定する 165
Macで無線LANを設定する 165
無線LANのセキュリティーを設定する 165
サポートするクライアント・CA証明書の一覧 167
QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する 168
USBキーを使って接続する（Windowsのみ） 169
セキュアHTTP 170
メニューからWebサーバー証明書を設定する 170
サポートするWebサーバー証明書の一覧 171

プロジェクターを監視および制御する 172

Epson Projector Management 173

Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する 174
Webブラウザーで証明書を設定する 176
メールでプロジェクターの異常を通知する 178
異常通知メールの見方 178
SNMPを使ってプロジェクターを監視する 180
ESC/VP21コマンドを使用する 181
ESC/VP21コマンドリスト 181
ケーブル配線 181
PJLinkについて 183
Crestron RoomViewについて 184
Crestron RoomViewを設定する 184
Crestron RoomViewを使ってネットワークプロジェクターを制御する 185
Crestron RoomView操作画面 186
Crestron RoomView Tools画面 187
プロジェクターのイベントスケジュールを設定する 189

メニューの設定 192

プロジェクターメニューを操作する 193
ソフトキーボードを操作する 194
ソフトキーボードで入力可能な文字 194
画質メニュー 195
映像メニュー 197
設定メニュー 199
拡張設定メニュー 202
拡張設定メニュー - Easy Interactive Functionメニュー 206
全般設定 206
マウス操作 208
ネットワークメニュー 209
ネットワークメニュー - 基本設定メニュー 210
ネットワークメニュー - 無線LANメニュー 211
ネットワークメニュー - 有線LANメニュー 213
ネットワークメニュー - 通知メニュー 214
ネットワークメニュー - その他メニュー 215
ネットワークメニュー - 初期化メニュー 216
節電メニュー 217
情報メニュー 219
情報メニュー - プロジェクター情報 219
Event ID一覧 220
情報メニュー - 光源情報 221
初期化メニュー 222
メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能） 223
USBメモリーを使って一括設定する 223
コンピューターを使って一括設定する 224
一括設定でエラーが発生したときは 225

プロジェクターをメンテナンスする 226

プロジェクターのメンテナンス 227
投写窓を清掃する 228
障害物検知センサーを清掃する 229
本機を清掃する 230
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする 231
エアフィルターを清掃する 231
エアフィルターを交換する 233
リモコンの電池を交換する 235
インタラクティブペンの電池を交換する 236
インタラクティブペンのペン先を交換する 237

ソフトペン先を交換する 237
ハードペン先に交換する 238

困ったときに 239

トラブルの対処方法 240
インジケーターの見方 241
ヘルプの見方 243
映像や音声に関するトラブル 244
映像が表示されない 244
USB Displayの映像が表示されない 245
「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示される 245
ノート型コンピューターから映像を出力する 246
Macのノート型コンピューターから映像を出力する 246
「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示される 246
映像の一部が表示されない 246
映像がゆがむ 247
映像にノイズが入る、乱れる 247
映像がぼやける 248
映像の明るさや色合いが違う 248
音が出ない、小さい 249
マイクの音が出ない 249
PC Freeで画像ファイル名が正しく表示されない 249
プロジェクター、リモコンの操作に関するトラブル 250
電源が入らない、予期せず切れる 250
リモコンで操作できない 250
パスワードが入力できない 251
「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される 251
インタラクティブ機能に関するトラブル 252
「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というメッセージが表示される 252
インタラクティブペンが動作しない 252
手動でペン位置合わせができない 253
投写画面上でコンピューターを操作できない 253
インタラクティブペンの位置が正しくない 253
インタラクティブペンの反応が遅い、使いにくい 254
指タッチ操作がうまくできない 254
ネットワークに関するトラブル 255
無線LAN認証できない 255
Webブラウザーを使って設定を変更できない 255
異常が起きたときにメール通知されない 255
ネットワーク経由で投写した映像が乱れる 256

付録 257

オプション・消耗品一覧 258
ケーブル 258
設置用金具 258
インタラクティブ用オプション 258
無線LAN用オプション 259
外付けオプション 259
消耗品 259
スクリーンサイズと投写距離 260
対応解像度 262
本機仕様 264
接続端子 265
外形寸法図 266
USB Displayのシステム要件 268
Easy Interactive Driverシステム動作条件 269
IEC60950-1 A2対応 安全規格対応シンボルマーク 270
レーザー製品を安全にお使いいただくために 272
レーザー警告ラベル 272

レーザー警告ラベル - タッチユニット 273
用語解説 274
一般のご注意 277
使用限定について 277
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意 277
瞬低（瞬時電圧低下）基準について 277
JIS C 61000-3-2適合品 277
表記について 277
商標について 278
ご注意 278
著作権について 279

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

注意	注意して取り扱わないと、本機の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
【ボタン名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【戻る】ボタン
［メニュー/設定名］	プロジェクターのメニュー、設定の名称を示しています。 例： ［画質］メニューを選択する ☛ ［画質］ > ［アドバンスト］
⏩	関連事項を記載しているページを示しています。
☛	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

プロジェクターを使用する前に

本機の特長と各部の名称について説明します。

関連項目

- 「本機の特長」 p.10
- 「プロジェクターの各部名称と働き」 p.13

本機は、すばやく簡単に投写準備をすることができ、状況に応じてさまざまな機器と接続できる柔軟性を備えたプロジェクターです。各機能の特長と各部の名称について説明します。

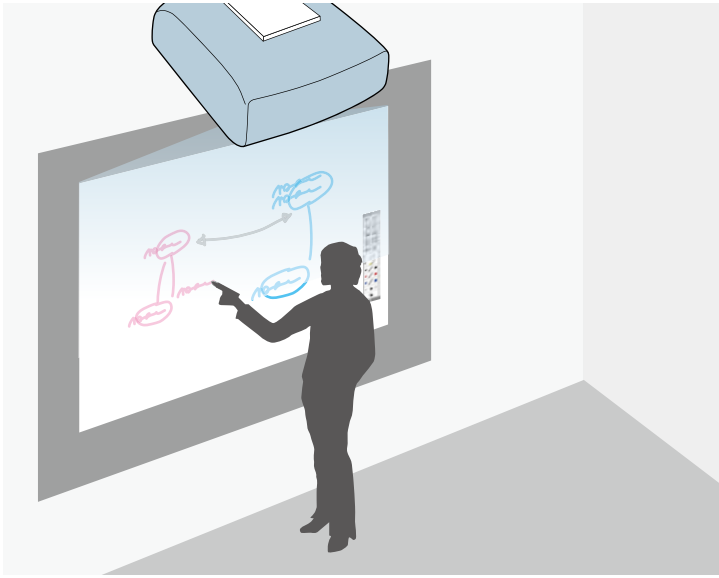
関連項目
- 「長寿命のレーザー光源」 p.10
- 「インタラクティブ機能」 p.10
- 「かんたん投写」 p.11
- 「柔軟な接続性」 p.11

長寿命のレーザー光源

レーザーダイオードを使用しているため、メンテナンスの手間が少なく、突然の光源切れにより投写が中断されることもありません。

インタラクティブ機能

投写画面に描画などの書き込みができます（EB-710UT）。



- 投写画面に描画できます。
- 2本のペンで同時に描画できます。
- ツールバーを使って、描画以外の機能も利用できます。
- 投写画面からプロジェクターを操作できます。
- 描画した画面を、簡単に印刷・保存・配信できます。
- 投写画面からコンピューターを操作できます。
- 指でも描画やコンピューターの操作ができます。

関連項目
- 「インタラクティブ機能を使用する」 p.83

かんたん投写

- 電源コードをコンセントに差し込むだけで本機の電源をオンにします（ダイレクトパワーオン）。
- 映像信号を検出して、自動的に本機の電源をオンにします（オートパワーオン）。
- ホーム画面を使って、入力ソースやよく使う機能を簡単に選択できます。

関連項目
- 「プロジェクターの電源を入れる」 p.47
- 「ホーム画面」 p.48

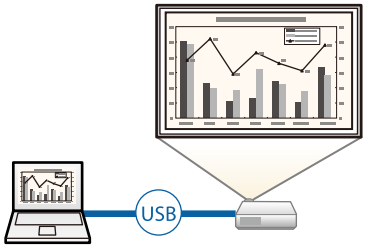
柔軟な接続性

本機はさまざまな機器と簡単に接続ができます。

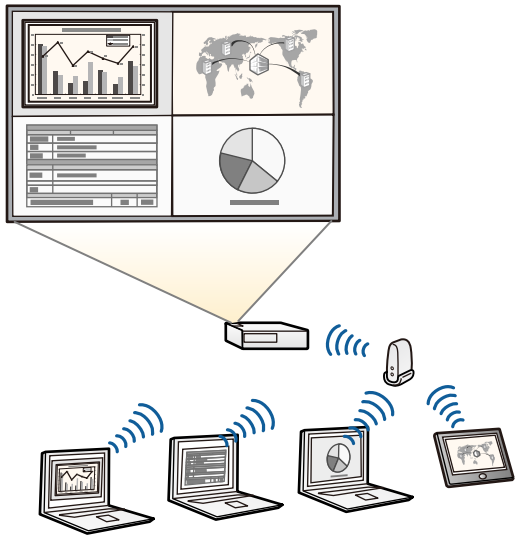
関連項目
- 「コンピューターと接続する」 p.11
- 「モバイルデバイスと接続する」 p.12
- 「書画カメラで手持ちの資料を拡大投写」 p.12

コンピューターと接続する

- USBケーブルを接続して、映像の投写と音声の出力ができます（USB Display）。



- Epson iProjection (Windows/Mac) を使うと、投写画面を分割して最大4つの画面を同時に投写できます。ネットワーク上のコンピューターの画面や、Epson iProjectionがインストールされているスマートフォンやタブレット端末内のデータを投写できます。
  詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。



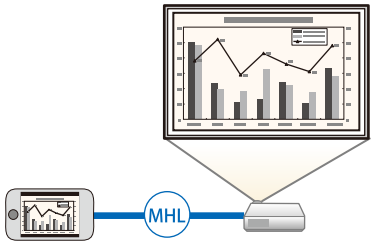
- 無線LAN経由で投写するときは、本機に無線LANユニットを取り付けてから無線LAN設定をしてください。
  お使いの機種によっては、無線LANユニットが同梱されていないことがあります。
- 必要なソフトウェアおよび取扱説明書は以下のWebサイトからダウンロードできます。
  http://www.epson.jp/download/

関連項目
- 「コンピューターを接続する」 p.30

- 「ネットワーク上のプロジェクターを使用する」 p.157

モバイルデバイスと接続する

- 本機のHDMI1/MHL端子とモバイルデバイスをMHLケーブルで接続できます。



- Epson iProjection (iOS/Android) を使うと、本機とモバイルデバイスを無線で接続できます。Epson iProjectionはApp Store、Google Playからダウンロードできます。

> App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

- Epson iProjection (Chromebook)を使うと、本機とChromebookを無線で接続できます。Epson iProjectionは、Chromeウェブストアからダウンロードできます。

> Chromeウェブストアへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

関連項目

- 「スマートフォン・タブレット端末を接続する」 p.33

書画カメラで手持ちの資料を拡大投写

オプションの書画カメラを使うと、紙資料や立体物などを投写できます。

また、投写画面から書画カメラを操作することもできます（EB-710UT）。

ELPDC06/ELPDC11/ELPDC12/ELPDC20をお使いの場合は、投写画面からの操作はできません。

関連項目

- 「書画カメラを接続する」 p.38

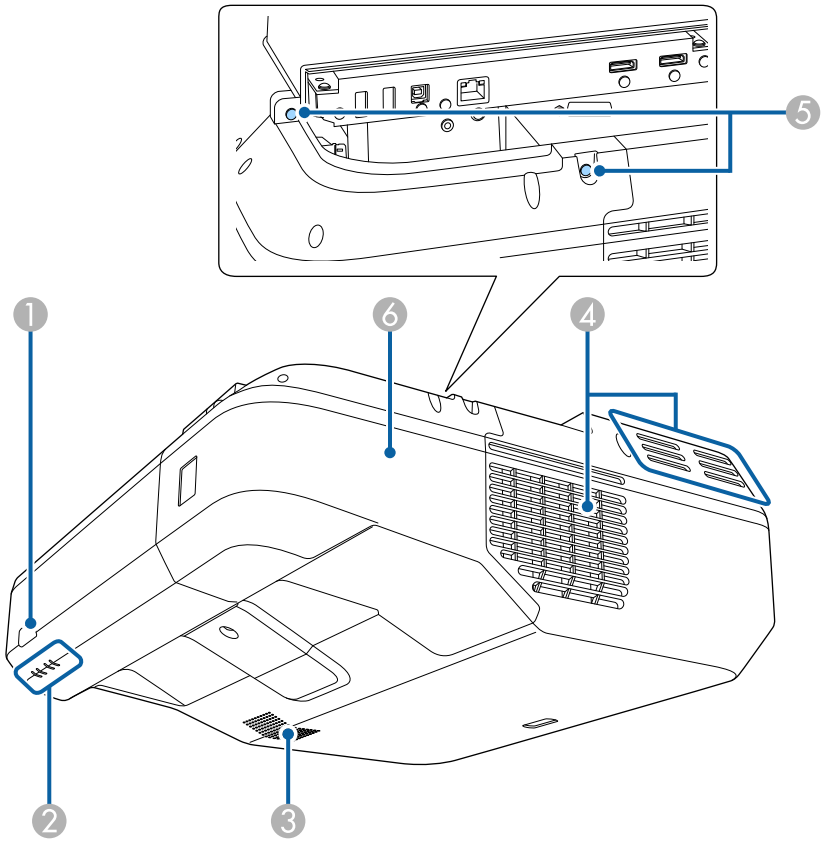
本機の各部名称とその働きについて説明します。

本書では断りがないかぎりEB-710UTのイラストを用いて説明しています。

関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - 前面/側面」 p.13
- 「プロジェクターの各部名称 - 上面/側面」 p.14
- 「プロジェクターの各部名称 - インターフェイス」 p.15
- 「プロジェクターの各部名称 - 底面」 p.17
- 「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 p.18
- 「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 p.19
- 「プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン」 p.21
- 「プロジェクターの各部名称 - ペントレイ」 p.22
- 「プロジェクターの各部名称 - タッチユニット」 p.23

プロジェクターの各部名称 - 前面/側面

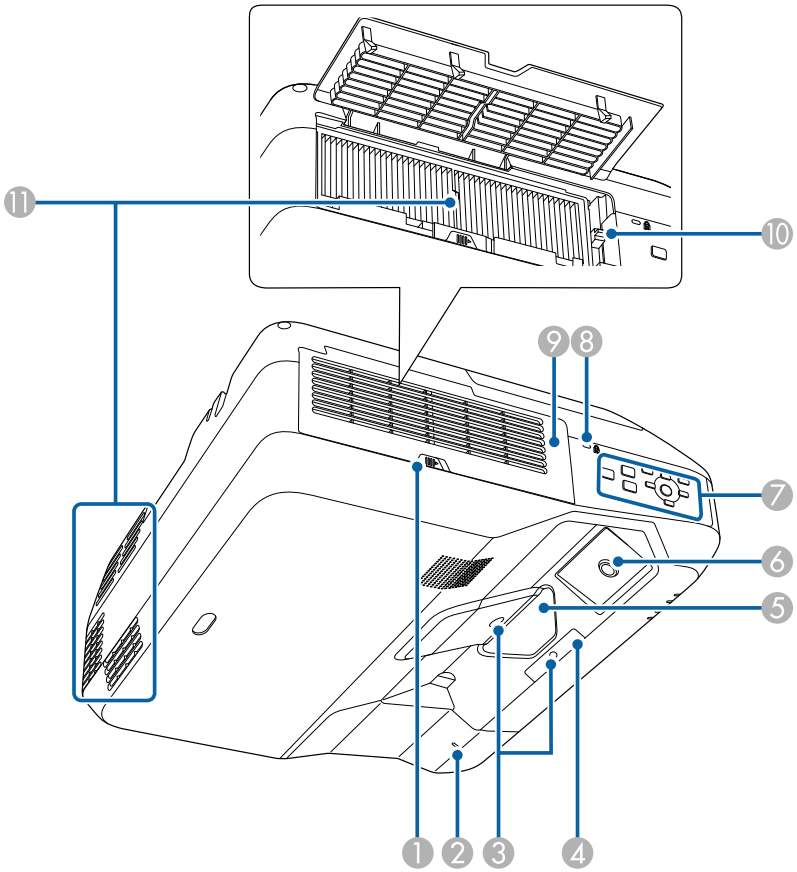


名称		働き
1	リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
2	インジケーター	本機の状態を表示します。
3	スピーカー	音声を出力します。

名称		働き
④	排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 **⚠ 注意** 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
⑤	ケーブルカバー固定ネジ	ケーブルカバーを固定するネジです。
⑥	ケーブルカバー	接続機器をケーブルで接続するときや無線LANユニットを装着するときに、ネジを2本ゆるめてカバーを開けます。

関連項目
- 「インジケーターの見方」 p.241
- 「リモコンを操作する」 p.45

プロジェクターの各部名称 - 上面/側面



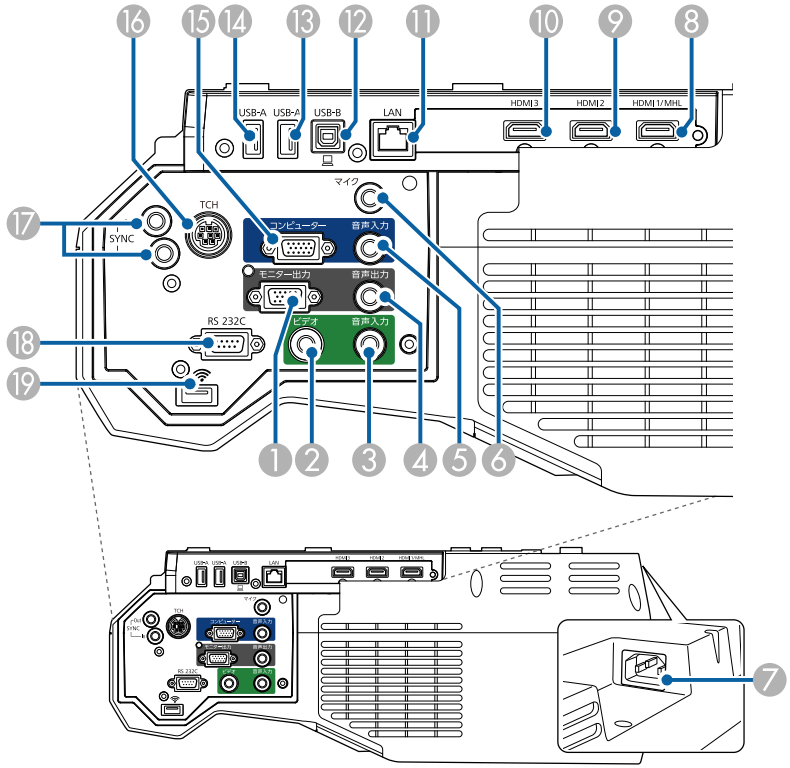
名称		働き
❶	エアフィルターカバー操作つまみ	エアフィルターカバーを開けます。

名称		働き
②	無線LANインジケーター	無線LANユニットのアクセス状況をお知らせします。
③	障害物検知センサー	投写窓付近の障害物を検知します。
④	リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑤	投写窓	ここから映像を投写します。 **⚠ 警告** • 投写中は投写窓をのぞかないでください。 • 投写窓にものを置いたり、手を近付けたりしないでください。投写光が集束するため高温になり、やけどや変形、火災の原因になります。
⑥	インタラクティブペン受光部（EB-710UT）	インタラクティブペンの信号を受信します。
⑦	操作パネル	本機の操作をします。
⑧	セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。
⑨	エアフィルターカバー	エアフィルターの交換時や、フォーカスレバーを操作するときはこのカバーを開けます。
⑩	フォーカスレバー	映像のピントを合わせます。 エアフィルターカバーを開けて、操作します。
⑪	吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。

関連項目

- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.155
- 「ピントを調整する」 p.56

プロジェクターの各部名称 - インターフェイス



EB-700Uをお使いの場合、プロジェクター本体には（）内の名称が印字されています。

名称		働き
❶	モニター出力端子（Monitor Out）	コンピューター端子から入力しているアナログRGB信号を、外部モニターに出力します。他の端子から入力している信号やコンポーネントビデオ信号は出力できません。
❷	ビデオ端子（Video）	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。
❸	音声入力端子（Audio）	ビデオ端子に接続された機器の音声を入力します。 USB-A端子に接続した機器からの映像を投写しているときに、他の機器の音声を入力します。 以降は音声入力2端子と記載します。
❹	音声出力端子（Audio Out）	現在投写している映像の音声やマイク端子（EB-710UT）からの音声を外部スピーカーに出力します。
❺	音声入力端子（Audio）	コンピューター端子に接続された機器の音声を入力します。 以降は音声入力1端子と記載します。
❻	マイク端子（EB-710UT）	マイクの音声を入力します。
❼	電源端子	電源コードを接続します。
❽	HDMI1/MHL端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューター、MHL（Mobile High-Definition）に対応したモバイルデバイスのビデオ信号を入力します。 本機はHDCPに対応しています。
❾	HDMI2端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 本機はHDCPに対応しています。

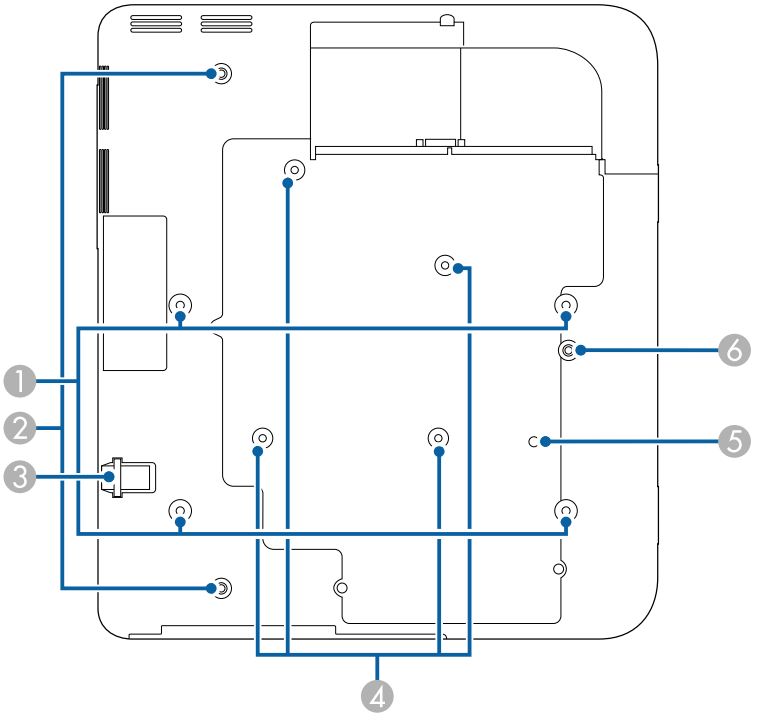
名称		働き
❿	HDMI3端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 本機はHDCPに対応しています。
⓫	LAN端子	LANケーブルを接続して、ネットワークに接続します。
⓬	USB-B端子	USBケーブルでコンピューターと接続して、コンピューターの映像を投写したり、ワイヤレスマウス機能を使用したりします。 インタラクティブペンでマウスの操作をするときに、同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続します（EB-710UT）。
⓭	USB-A端子	USBメモリーやデジタルカメラを接続して、動画や画像をPC Freeで投写します。この端子にUSB機器を接続して、プロジェクターのPC Free機能で投写するときは、入力ソースの設定を［USB1］にしてください。 オプションの書画カメラを接続します。この端子に書画カメラを接続するときは、入力ソースの設定を［USB2］にしてください。
⓮	USB-A端子	USBメモリーやデジタルカメラを接続して、動画や画像をPC Freeで投写します。この端子にUSB機器を接続して、プロジェクターのPC Free機能で投写するときは、入力ソースの設定を［USB1］にしてください。 オプションの書画カメラを接続します。この端子に書画カメラを接続するときは、入力ソースの設定を［USB2］にしてください。
⓯	コンピューター端子（Computer）	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
⓰	TCH端子（EB-710UT）	同梱のタッチユニット接続ケーブルでタッチユニットと接続します。

名称		働き
⑰	SYNC IN/OUT端子（EB-710UT）	同じ部屋で本機を2台以上設置してインタラクティブ機能を使用するときに、オプションのワイヤードリモコンケーブルでプロジェクター同士を接続します。接続するとインタラクティブペンの動作が安定します。
⑱	RS-232C端子	RS-232Cケーブルを接続して、コンピューターから本機を制御します。（制御用の端子で通常は使用しません。）
⑲	無線LANユニット装着部	無線LANユニットを取り付けます。

関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 p.30

プロジェクターの各部名称 - 底面

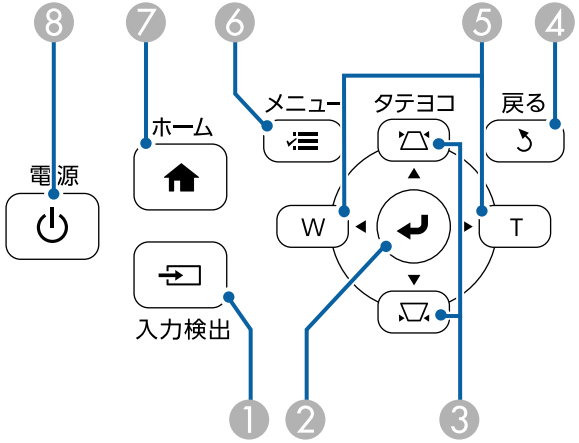


名称		働き
❶	天吊り金具固定部（4箇所）	天井からプロジェクターを吊り下げるときは、オプションの天吊り金具をここに取り付けます。
❷	リアフット取付け部（2箇所）	机などに置いて使用するときに、フットを取り付けます。（フット同梱機種のみ）

名称		働き
❸	セキュリティーケーブル取付け部	市販の盗難防止用ワイヤーロックをこの部分に通して施錠します。 壁掛けまたは天吊り設置するときに、落下防止用ワイヤー等はこの部分に通さないでください。
❹	壁掛け金具固定部（4箇所）	壁に設置するとき、同梱またはオプションのセッティングプレートを取り付けます。
❺	照度センサー（EB-710UT）	周囲の明るさを感知して、画面の明るさを自動で切り替えます。［節電］メニューで［光源モード］を［オート］に設定してください。 ☛［節電］＞［明るさ設定］＞［光源モード］＞［オート］
❻	フロントフット取付け部	机などに置いて使用するとき、スペーサー付きのフットを取り付けます。（フット同梱機種のみ）

関連項目
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.155

プロジェクターの各部名称 - 操作パネル



EB-700Uをお使いの場合、プロジェクター本体には（）内の名称が印字されています。

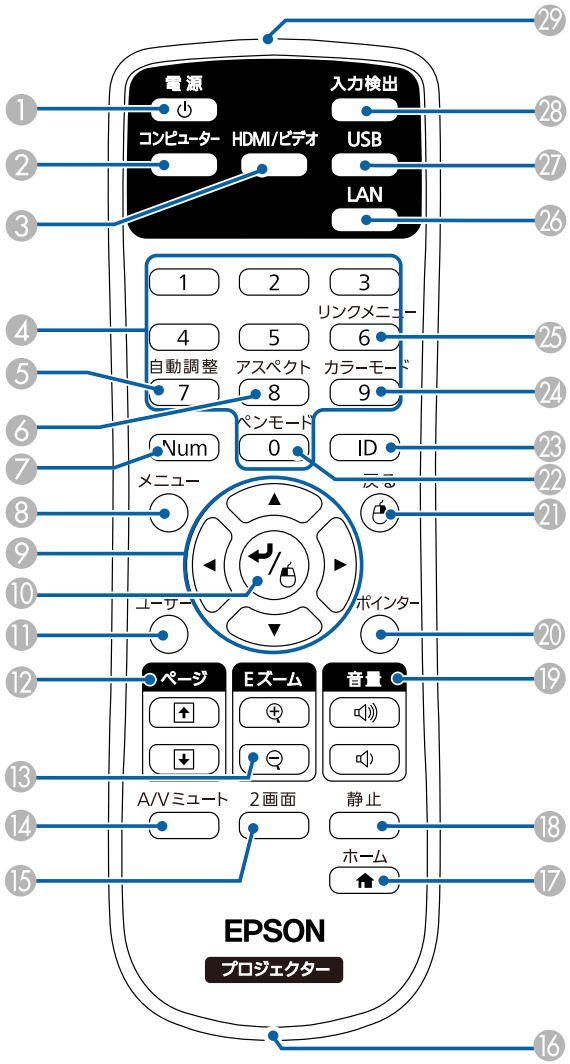
名称		働き
❶	【入力検出】ボタン（Source Search）	映像信号が入力されている入力ソースに順番に切り替えます。
❷	【決定】ボタン【↵】	メニューやヘルプの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。 コンピューター端子からのアナログRGB信号を投写しているときに押すと、［映像］メニューの［トラッキング］、［同期］、［表示位置］の設定を最適にします。 以降は【決定】ボタンと記載します。

名称		働き
❸	台形補正ボタン/上下ボタン	台形補正画面を表示して、タテヨコ方向の台形ゆがみを補正します。 メニューやヘルプの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
❹	【戻る】ボタン（Esc）	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
❺	ワイド・テレ/左右ボタン	W：投写映像のサイズを大きくします。 T：投写映像のサイズを小さくします。 台形補正画面を表示中は、ヨコ方向のゆがみを補正します。 メニューやヘルプの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
❻	【メニュー】ボタン（Menu）	メニュー画面を表示/終了します。
❼	【ホーム】ボタン（Home）	ホーム画面を表示/終了します。
❽	電源ボタン 【⏻】	本機の電源をオン/オフします。 以降は電源ボタンと記載します。

関連項目

- 「ホーム画面」 p.48
- 「投写映像を切り替える」 p.69
- 「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 p.60
- 「ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する」 p.67

プロジェクターの各部名称 - リモコン



名称		働き
❶	電源ボタン【⏻】	本機の電源をオン/オフします。 以降は電源ボタンと記載します。
❷	【コンピューター】ボタン	コンピューター端子からの映像に切り替えます。
❸	【HDMI/ビデオ】ボタン	HDMI端子とビデオ端子からの映像に切り替えます。
❹	テンキーボタン	【Num】ボタンを押しながらテンキーボタンを押して、メニュー内で数字を入力します。
❺	【自動調整】ボタン	コンピューター端子からアナログRGB信号を投写しているときに押すと、［映像］メニューの［トラッキング］、［同期］、［表示位置］の設定を最適にします。
❻	【アスペクト】ボタン	アスペクトモードを切り替えます。
❼	【Num】ボタン	数字を入力するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。
❽	【メニュー】ボタン	メニュー画面を表示/終了します。
❾	上下左右ボタン	メニューやヘルプの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
❿	【決定】ボタン【↵】	メニューやヘルプの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。 ワイヤレスマウス機能を使用しているときは、マウスの左ボタンとして機能します。 以降は【決定】ボタンと記載します。
⓫	【ユーザー】ボタン	［設定］メニューの［ユーザーボタン］で設定した機能を実行します。

名称		働き
⓬	【ページ】送り/戻しボタン	USBケーブルやネットワーク経由でプロジェクターとコンピューターを接続しているときに、コンピューター上のページを送り/戻しします。 PC Free機能を使用しているときは、画像ファイルを送り/戻しします。
⓭	【Eズーム】+/–ボタン	投写映像の一部分を拡大表示します。
⓮	【A/Vミュート】ボタン	映像と音声を一時的に遮断します。
⓯	【2画面】ボタン	投写画面を分割して、2つの異なる機器の画面を同時に投写します。
⓰	ストラップホール	市販のストラップを取り付けるときは、この穴に通します。
⓱	【ホーム】ボタン	ホーム画面を表示/終了します。
⓲	【静止】ボタン	映像を一時停止します。
⓳	【音量】上げ/下げボタン	スピーカーの音量を調整します。
⓴	【ポインター】ボタン	投写中の映像にポインターを表示します。
㉑	【戻る】ボタン	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。 ワイヤレスマウス機能を使用しているときは、マウスの右ボタンとして機能します。
㉒	【ペンモード】ボタン（EB-710UT）	インタラクティブペンでコンピューターを操作するか描画するかを切り替えます。
㉓	【ID】ボタン	リモコンで操作対象のプロジェクターのIDを選択するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。

名称		働き
㉔	【カラーモード】ボタン	カラーモードを変更します。
㉕	【リンクメニュー】ボタン	HDMI端子に接続された機器の設定メニューを表示します。
㉖	【LAN】ボタン	ネットワーク経由で接続している機器からの映像に切り替えます。
㉗	【USB】 ボタン	入力ソースをUSB Display、USB1、USB2に切り替えます。
㉘	【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力ソースに順番に切り替えます。
㉙	リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

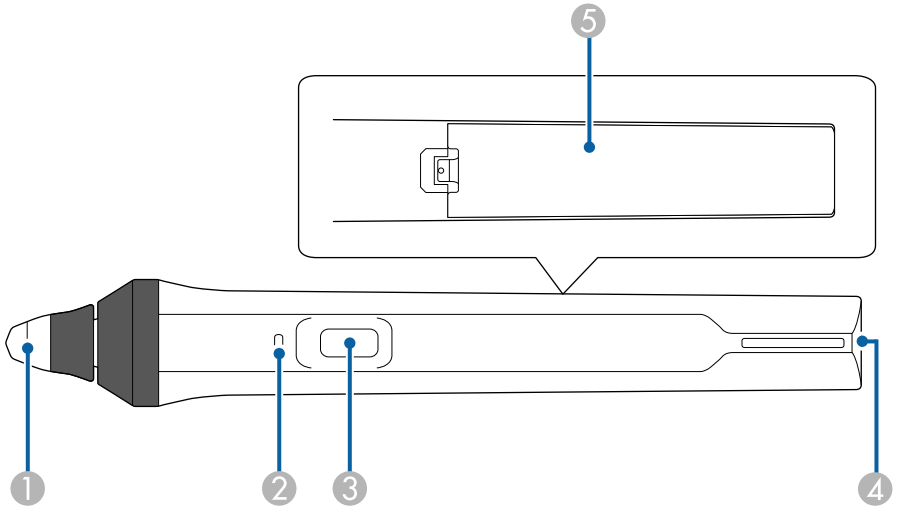
関連項目

- 「映像のアスペクト比を設定する」 p.71
- 「カラーモードを設定する」 p.73
- 「映像メニュー」 p.197
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「2つの映像を同時に投写する」 p.123
- 「リモコンでコンピューターのマウス操作をする」 p.134
- 「リモコンでポインターを表示する」 p.136
- 「PC Free機能で投写する」 p.126
- 「ネットワーク上のプロジェクターを使用する」 p.157

プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン

インタラクティブペンはEB-710UTでのみ使用できます。

ペンを持つと自動で電源が入ります。使い終わったら元の場所に戻してください。ペンを置いてから15秒後に自動で電源がオフになります。



名称		働き
❶	ペン先	交換できるソフトペン先です。 投写画面によってソフトペン先が使いづらいときは、ハードペン先と交換してください。
❷	バッテリーインジケーター	ペン側面にあるボタンを押したときに、電池残量をお知らせします。 • 電池残量がある場合は、ボタンを離すまで青色に点灯します。 • 電池残量が少ない場合は、ボタンを離すまで青色に点滅します。 • 電池残量がない場合は、点灯しません。電池を交換してください。

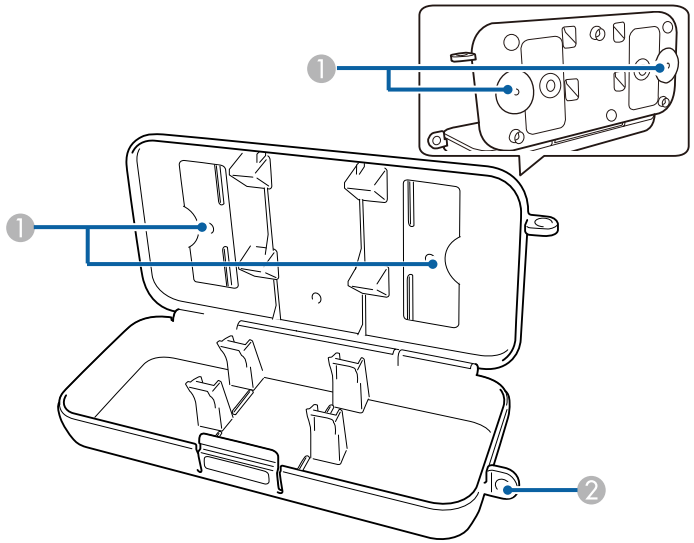
名称		働き
❸	ボタン	［拡張設定］メニューで［ペンボタン動作］を［消しゴム］に設定すると、描画時にボタンを押すたびに、ペンの機能をペンから消しゴムに交互に切り替えます。 ［ペンボタン動作］を［描画ツールバーを開く］に設定すると、ボタンを押したときにペン先付近に描画ツールバーを表示します。 ［ペンボタン動作］を［画面クリア］に設定すると、ボタンを押したときにすべての描画内容を削除します。 ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［ペンボタン動作］ マウス操作時に押すと、マウス操作の右クリックができます。
❹	ストラップホール	市販のストラップを取り付けるときは、この穴に通します。
❺	電池カバー	電池交換時にこのカバーを開けます。

関連項目

- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.237

プロジェクターの各部名称 - ペントレイ

ペントレイはEB-710UTでのみ使用できます。



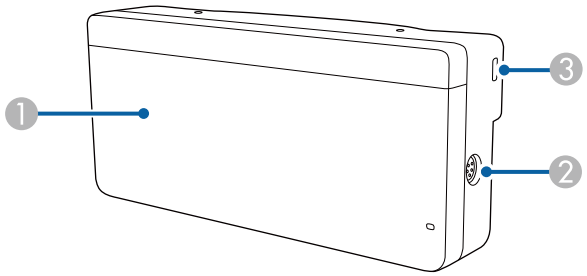
名称		働き
❶	固定部	ホワイトボードや壁にペントレイを取り付けるために使います。
❷	セキュリティーロック取り付け穴	市販のロックなどを取り付けることができます。

ペントレイは市販のM5ボルト2本で固定することをお奨めします。

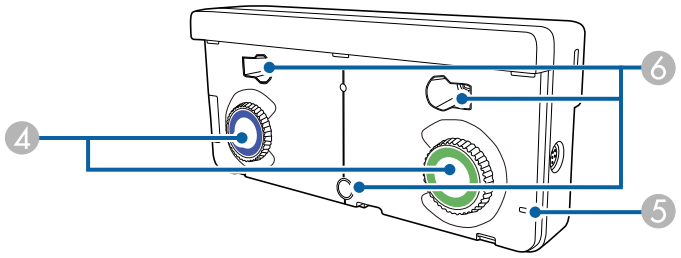
プロジェクターの各部名称 - タッチユニット

タッチユニットはEB-710UTでのみ使用できます。

前面

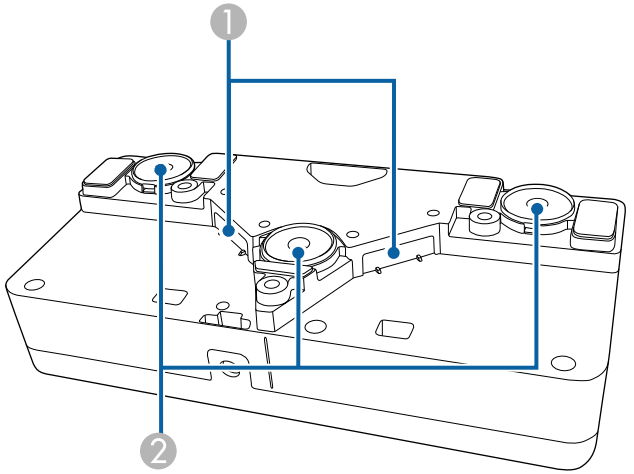


ダイヤルカバー非装着時



名称		働き
1	ダイヤルカバー	調整ダイヤルを使うときに取り外します。
2	TCH端子	タッチユニットとプロジェクターをタッチユニット接続ケーブルで接続します。
3	セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。
4	調整ダイヤル	角度調整を行います。
5	インジケーター	タッチユニットの電源がオンになると点灯します。
6	ネジ穴（設置用）	タッチユニットを固定するためのネジ穴です。

背面



名称		働き
1	レーザー照射口	指の位置を検出するためのレーザーが照射されます。
2	設置用マグネット	設置に使うマグネットです。

⚠ 警告

心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方は、タッチユニットに近づかないでください。また、タッチユニットを取り扱うときは、近くに心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方がいないことを確認してください。電磁妨害が生じ、医療機器が誤動作する可能性があります。

⚠ 注意

- 磁気カードなどの磁気記憶媒体や、コンピューター、電子腕時計、携帯電話などの精密電子機器をタッチユニットに近づけないでください。データの破損や故障の原因となる可能性があります。
- マグネットが使える設置面にタッチユニットを設置するときは、マグネットと設置面の間に指や体の一部をはさまないようご注意ください。

注意

- EB-710UT以外の機器にタッチユニットを接続しないでください。機器の故障や制限以上のレーザー光が放出される可能性があります。
- 必ず同梱のタッチユニット接続ケーブルをお使いください。市販のケーブルでは正しく動作しません。
- タッチユニットを廃棄するときは分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

タッチユニットの設置方法、角度調整方法は『設置工事説明書』をご覧ください。

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

関連項目

- 「プロジェクターの設置」 p.26
- 「プロジェクターを接続する」 p.30
- 「リモコンに電池を取り付ける」 p.43
- 「インタラクティブペンに電池を取り付ける」 p.44
- 「リモコンを操作する」 p.45

プロジェクターは、壁などに取り付けたり、机に置いたりして使います。

壁や天井に設置するか、机などに縦に設置するときは、オプションの金具が必要です。

プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。
- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。

投写面に対して平行に設置できないときは、台形補正機能を使って映像を補正します。

⚠ 警告

- 壁や天井への取り付け工事は、特別な技術が必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- プロジェクターの壁掛け金具用プレート固定部・天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、プロジェクターが落下するおそれがあります。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。

注意

- 本機を標高1,500 m以上の場所で使用するときは、［拡張設定］メニューの［高地モード］を［オン］にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
  ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［高地モード］
- 湿気やホコリの多い場所、たばこなどの煙が当たる場所への設置は、できるだけ避けてください。

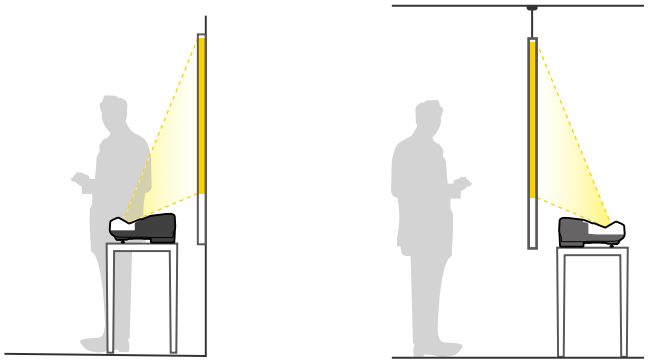
» 関連項目

- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.27
- 「インタラクティブ機能を使用するとき」 p.28
- 「オプション・消耗品一覧」 p.258
- 「拡張設定メニュー」 p.202

プロジェクターの設置・取り付け

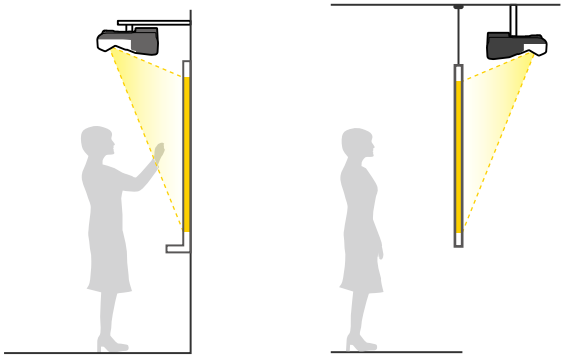
本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

フロント/リア

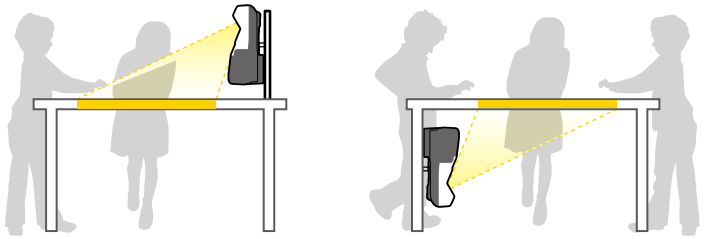


机などに置いて使用するときは、フットを取り付けます（フット同梱機種のみ）。

フロント・上下反転/リア・上下反転



フロント・上下反転/リア・上下反転（縦置き）



設置する場所や方法に合わせて、［拡張設定］メニューで［設置モード］を選択します。

- ［設置モード］の初期設定は［フロント・上下反転］です。
- リモコンの【A/Vミュート】ボタンを約5秒間押し続けると、［設置モード］を次のように切り替えることができます。
  - ［フロント］ - ［フロント・上下反転］
  - ［リア］ - ［リア・上下反転］

関連項目

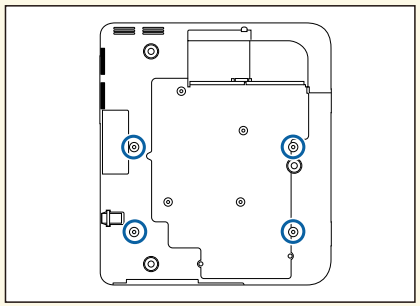
- 「設置時のご注意」 p.27
- 「設置モードを選択する」 p.54

設置時のご注意

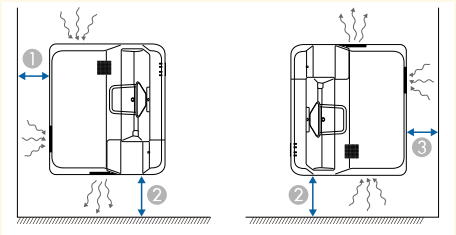
本機は360°あらゆる角度で設置が可能です。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。本機を傾けて設置する際には、以下の点にご注意ください（EB-700U）。

注意

- 本機を傾けて設置する場合は、専門業者にご依頼のうえ、本機に対応した専用の設置用金具をお使いください。
- 正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- 市販のM4ネジ（最大深さ12mm）を使って、本機底面の天吊り金具固定部（4個所）と設置用金具を固定してください。



- 本機を縦に設置する場合は、本機周辺に以下のスペースを確保してください。



1. 50 mm
2. 150 mm
3. 50 mm

インタラクティブ機能を使用するとき

インタラクティブ機能を使用するときは、スクリーンの正面から投写します（EB-710UT）。

［設置モード］を［フロント・上下反転］または［フロント］に設定してください。

注意

インタラクティブ機能は赤外線通信により動作します。プロジェクターを設置するときは、以下の点に注意してください。

- 3°以上傾けて設置しないでください。インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。
- インタラクティブペン受光部、投写画面、本体側面、背面などに、強い光や太陽光が直接当たらないようにしてください。
- 太陽光が直接入るような窓の近くに本機を設置しないでください。インタラクティブ機能の誤動作の原因となります。
- インタラクティブペン受光部と蛍光灯の距離を離して本機を設置してください。周囲が明るすぎると、インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。
- インタラクティブペン受光部にホコリが付着すると、赤外線受信の妨げとなり正常に使用できないことがあります。本機が汚れたら掃除をしてください。
- インタラクティブペン受光部のカバーには、塗装やシールの貼付けをしないでください。
- インタラクティブ機能を使用するときは、赤外線リモコンや赤外線マイクを同じ室内で使用しないでください。インタラクティブペンが誤動作することがあります。
- 回転機や変圧器など、強いノイズを発生する機器を本機に近づけないでください。インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。

- 凹凸のない平らなボードタイプのスクリーンの使用をお奨めします。投写面に凹凸があると、投写画面にゆがみが生じることがあります。
- 使用するスクリーンの材質や固定方法により、投写映像にゆがみが生じることがあります。
- インタラクティブ機能を使用するときは、投写画面がゆがみのない長方形になるように設置してください。
- 同じ部屋にプロジェクターを2台以上設置してインタラクティブ機能を使用するときは、インタラクティブペンの動作が不安定になることがあります。そのときは、プロジェクター同士をオプションのワイヤードリモコンケーブルで接続して、［拡張設定］メニューの［複数台同期］を［有線接続］に変更してください。

  ☛［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［複数台同期］

関連項目

- 「タッチユニットを設置する」 p.29

タッチユニットを設置する

タッチユニットを使用するときは、次のいずれかの方法でプロジェクターを設置してください。他の方法で設置すると、タッチユニットは使用できません。

- 壁掛けまたは天吊りして、スクリーンの正面から投写する（セッティングプレートまたは天吊り金具が必要です）
- 机上に縦置き設置して、机の正面から投写する（テーブル投写金具が必要です）

関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 p.258

コンピューター、モバイルデバイス、ビデオ機器、オーディオ機器をプロジェクターに接続して、プレゼンテーション資料を投写したり、動画や画像を投写したりできます。また、音声をプロジェクターから出力することもできます。

注意
接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクターを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。

本機に同梱されているケーブルは、『かんたん操作ガイド』で確認できます。同梱されていないケーブルは、オプション品または市販品をお買い求めください。

- USB端子、映像出力端子、またはHDMI端子を搭載したコンピューターを接続できます。
- DVDプレーヤー、ゲーム機器、デジタルカメラ、スマートフォンなどの機器を接続して、動画を投写できます。
- プレゼンテーション資料や動画に音声が入っているときは、オーディオケーブルを接続して本機から音声を出力できます。
- USB機器（USBメモリーやデジタルカメラ）、オプションのエプソン製書画カメラを接続すると、コンピューターを使用せずに映像を投写できます。

関連項目

- 「コンピューターを接続する」 p.30
- 「スマートフォン・タブレット端末を接続する」 p.33
- 「ビデオ機器を接続する」 p.34
- 「USB機器を接続する」 p.37
- 「書画カメラを接続する」 p.38
- 「外部出力機器を接続する」 p.38
- 「複数台のプロジェクターを接続する」 p.40
- 「オプション・消耗品一覧」 p.258

コンピューターを接続する

プロジェクターとコンピューターを接続します。

関連項目

- 「コンピューターケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.30
- 「USBケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.31
- 「HDMIケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.32

コンピューターケーブルを接続して映像と音声を出力する

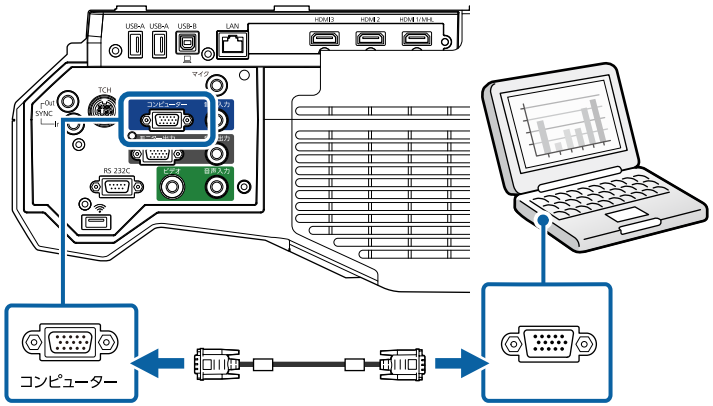
プロジェクターとコンピューターをコンピューターケーブルで接続します。

ステレオミニプラグオーディオケーブルを接続することで、本機のスピーカーから音声を出力できます。

- 映像出力用のVGA端子を搭載していないコンピューターをお使いのときは、VGA変換アダプターが必要です。
- 音声入力として使用する端子は、メニューで設定することもできます。
  ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［音声出力］
- 「抵抗なし」と表記されているオーディオケーブルをお使いください。

1 コンピューターの映像出力端子にコンピューターケーブルを接続します。

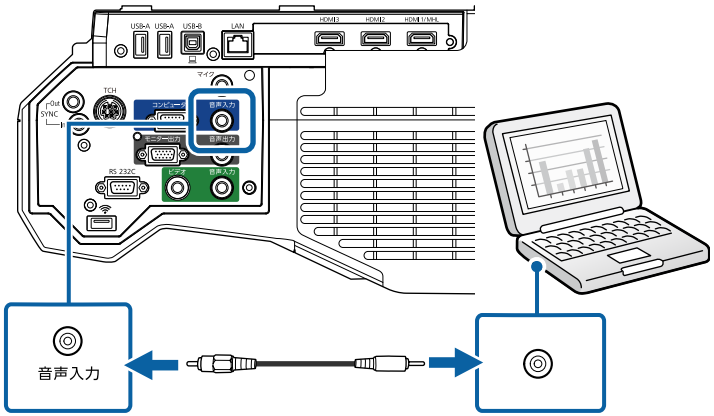
2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のコンピューター端子に接続します。



3 VGAコネクターのネジを締めます。

4 オーディオケーブルをコンピューターのヘッドフォン/スピーカージャックまたは音声出力端子に接続します。

5 ケーブルのもう一方のコネクターを本機の音声入力1端子に接続します。

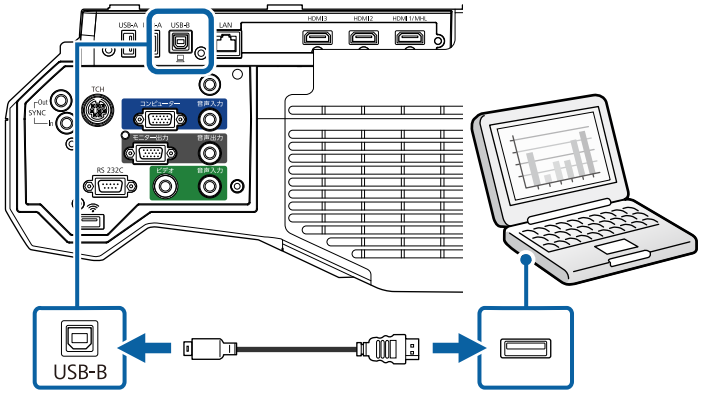


USBケーブルを接続して映像と音声を出力する

お使いのコンピューターがシステム要件を満たしている場合は、コンピューターのUSB端子から映像と音声をプロジェクターに送信できます。この機能をUSB Displayといいます。プロジェクターとコンピューターをUSBケーブルで接続します。

- USBハブを使用すると正しく動作しません。USBケーブルを直接本機に接続してください。
- USB Displayを使用するときは、［拡張設定］メニューで［USB Type B］を、［USB Display/Easy Interactive Function］または［ワイヤレスマウス/USB Display］に設定します（EB-710UT）。

1 本機のUSB-B端子にUSBケーブルのType Bコネクターを接続します。



2 USBケーブルのTypeAコネクターをコンピューターのUSB端子に接続します。

3 本機の電源を入れます。

4 以下のいずれかの操作でドライバーをインストールします。

本機とコンピューターを初めてUSBケーブルで接続したときは、ドライバーのインストールが必要です。

- Windowsの場合：ダイアログボックスが表示されたら、［EMP_UDSE.EXEの実行］を選択します。
- Macの場合：Epson USB Displayのセットアップフォルダーが表示されます。［USB Display Installer］を選択して画面の指示に従います。自動的に表示されないときは、［EPSON_PJ_UD］>［USB Display Installer］の順にダブルクリックします。

5 画面の指示に従います。

映像が投写されるまでは、USBケーブルを抜いたり、プロジェクターの電源を切ったりしないでください。

コンピューターの映像が投写されます。映像に音声が入っているときは、音声も出力されます。

- 映像が投写されないときは、以下のいずれかの操作を行います。
  - Windowsの場合：［すべてのプログラム］>［EPSON Projector］>［Epson USB Display］>［Epson USB Display Ver.x.xx］の順にクリックします。
  - Macの場合：［アプリケーション］フォルダーの［USB Display］をダブルクリックします。
- 投写が終了したら、以下のいずれかの操作を行います。
  - Windowsの場合：USBケーブルを取り外します。［ハードウェアの安全な取り外し］を使用する必要はありません。
  - Macの場合：メニューバーまたは［Dock］の［USB Display］アイコンメニューから［切断］を選択し、USBケーブル を取り外します。

関連項目

- 「USB Displayのシステム要件」 p.268

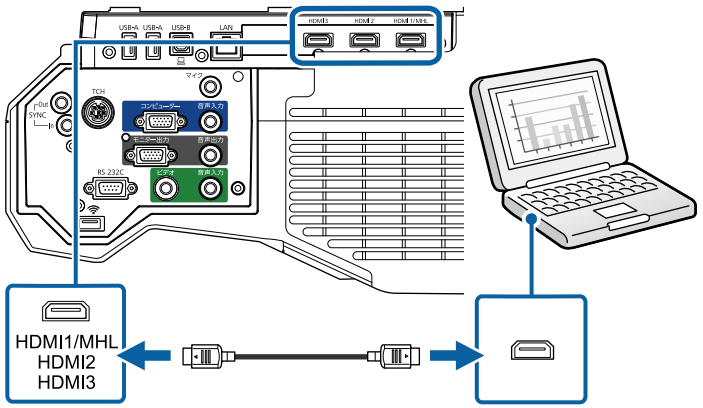
HDMIケーブルを接続して映像と音声を出力する

HDMI端子を搭載したコンピューターを使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとコンピューターを接続して映像と音声を出力できます。

映像出力用HDMI端子を搭載していないMacをお使いのときは、HDMI変換アダプターが必要です。お使いのMacに対応した変換アダプターは、Appleにお問い合わせください。2009年以前に発売されたMacはHDMI端子からの音声出力に対応していないことがあります。

1 コンピューターのHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



HDMI接続で出力される音声に問題があるときは、ステレオミニプラグオーディオケーブルで本機の音声入力端子とコンピューターの音声出力端子を接続します。［拡張設定］メニューで、接続している音声入力端子を設定してください。

- ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［HDMI1音声出力］
- ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［HDMI2音声出力］
- ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［HDMI3音声出力］

関連項目

・「拡張設定メニュー」 p.202

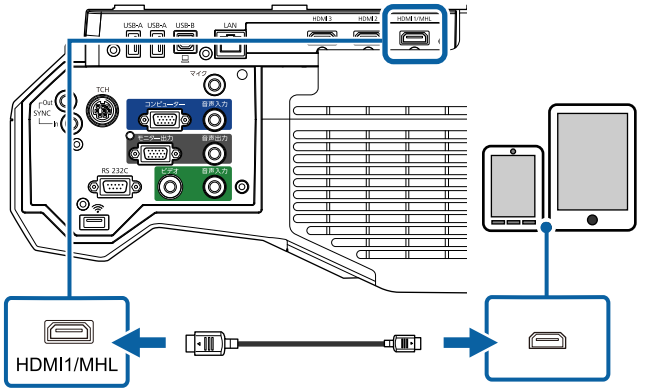
スマートフォン・タブレット端末を接続する

MHLケーブルでスマートフォン、タブレット端末をプロジェクターに接続して、映像と音声を出力できます。

- スマートフォン、タブレット端末の機種や設定によっては、正しく投写できないことがあります。
- MHLケーブルでの接続に対応していないスマートフォン、タブレット端末もあります。お使いのスマートフォン、タブレット端末がMHLに対応しているかについては、スマートフォン、タブレット端末のメーカーにお問い合わせください。

1 スマートフォン、タブレット端末のMHL端子にMHLケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI1/MHL端子に接続します。



注意

MHL規格に対応していないケーブルを接続すると、スマートフォン、タブレット端末が高温になったり、液もれや破裂が生じたりするおそれがあります。

映像の投写中は、接続しているスマートフォン、タブレット端末が充電されます。市販のMHL-HDMI変換アダプターを使用して接続しているときは、スマートフォン、タブレット端末の充電や、プロジェクターのリモコンを使ったスマートフォン、タブレット端末の操作ができないことがあります。

- 動画を再生するなど使用電力が大きい場合は、充電されないことがあります。
- 本機がスタンバイ状態のときや、スマートフォンやタブレット端末のバッテリー残量がないときは充電されません。

映像が正しく投写されないときは、MHLケーブルを一度外し、再度接続します。

ビデオ機器を接続する

プロジェクターにビデオ機器を接続します。

- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- 使用するケーブルは、接続するビデオ機器の出力信号によって異なります。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。
- 音声が正しく出力されないときは、［音声出力機器］の設定をご確認ください。
  ☛ ［設定］ > ［HDMIリンク］ > ［音声出力機器］

関連項目

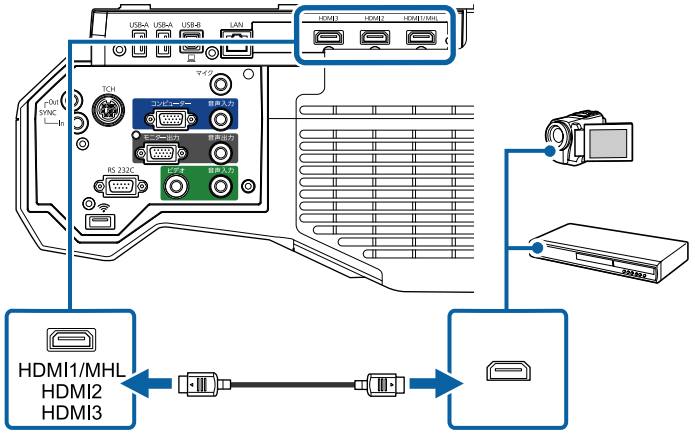
- 「HDMIケーブルで接続する」 p.34
- 「コンポーネントビデオケーブルで接続する」 p.35
- 「コンポジットケーブルで接続する」 p.36

HDMIケーブルで接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

注意
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。

1. ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。
2. ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



HDMI接続で出力される音声に問題があるときは、ステレオミニプラグオーディオケーブルで、本機の音声入力端子とビデオ機器の音声出力端子を接続します。［拡張設定］メニューで、接続している音声入力端子を設定してください。

☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［HDMI1音声出力］
☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［HDMI2音声出力］
☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［HDMI3音声出力］

関連項目

- 「拡張設定メニュー」 p.202

コンポーネントビデオケーブルで接続する

コンポーネントビデオ端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、コンポーネントビデオケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続します。コンポーネント端子によっては、コンポーネントビデオケーブルに加えてアダプターケーブルが必要になることがあります。

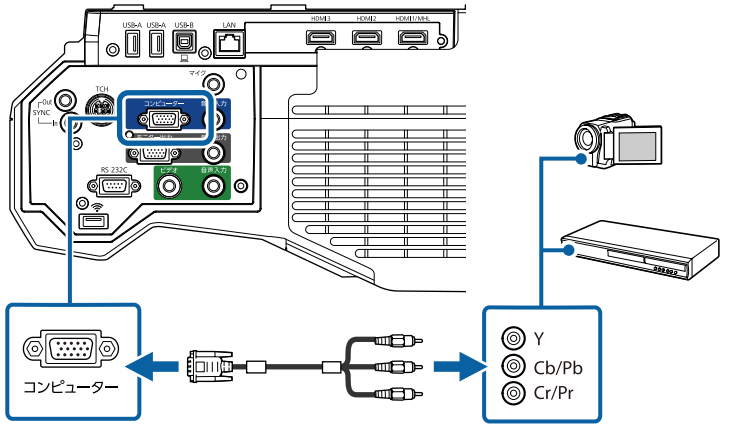
ステレオミニプラグオーディオケーブルを接続することで、本機のスピーカーから音声を出力できます。

- 音声入力として使用する端子は、［拡張設定］メニューで設定することもできます。
  ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［音声出力］
- 「抵抗なし」と表記されているオーディオケーブルをお使いください。

1 コンポーネントコネクターをビデオ機器のコンポーネントビデオ出力端子（緑、青、赤）に接続します。

コンポーネントビデオ出力端子は、通常Y、Pb、PrまたはY、Cb、Crと表示されます。アダプターケーブルを使用するときは、コネクターをコンポーネントビデオケーブルに接続します。

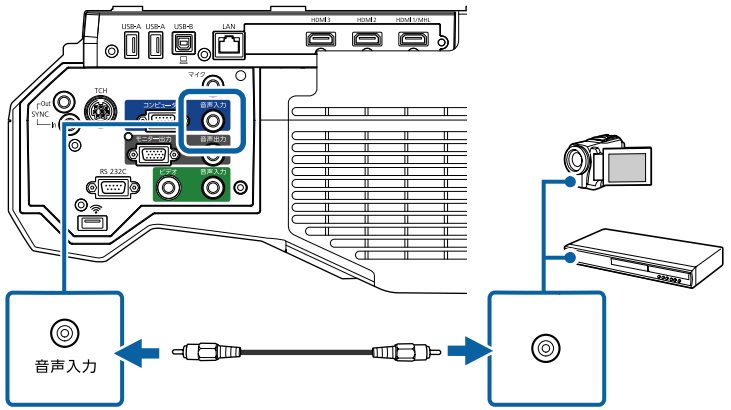
2 VGAコネクターを本機のコンピューター端子に接続します。



3 VGAコネクターのネジを締めます。

4 ビデオ機器の音声出力端子にオーディオケーブルを接続します。

5 ケーブルのもう一方のコネクターを本機の音声入力1端子に接続します。



映像の色が正しく投写されないときは、［映像］メニューの［入力信号方式］を変更してください。

☛ ［映像］ > ［アドバンスト］ > ［入力信号方式］

関連項目

- 「映像メニュー」 p.197

コンポジットケーブルで接続する

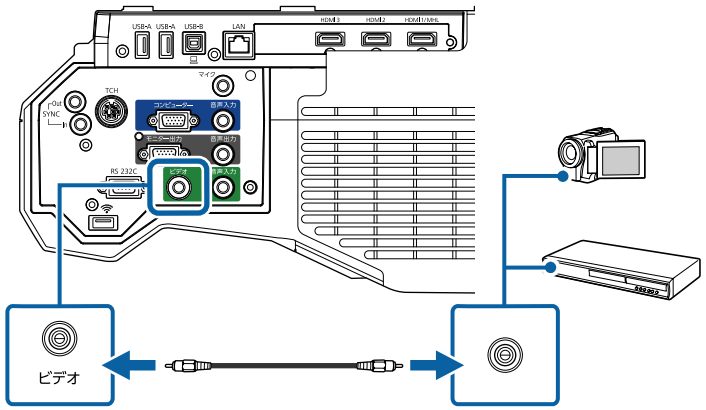
コンポジットビデオ端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、RCAビデオケーブルまたはA/Vケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続します。

ステレオミニプラグオーディオケーブルを接続することで、本機のスピーカーから音声を出力できます。

「抵抗なし」と表記されているオーディオケーブルをお使いください。

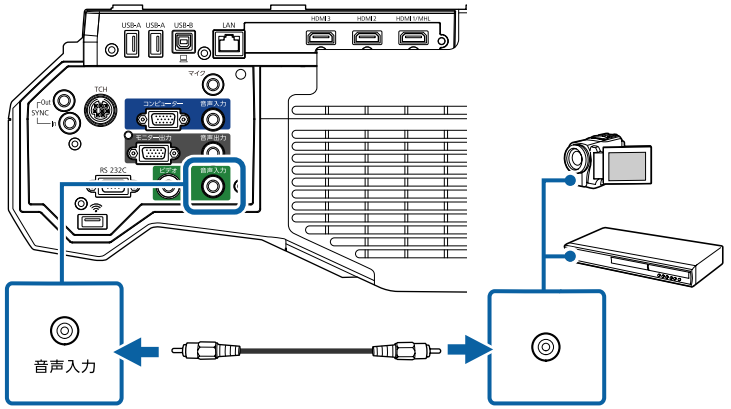
1 コンポジットケーブルの黄色のコネクターをビデオ機器のビデオ出力端子（黄）に接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のビデオ端子に接続します。



3 ビデオ機器の音声出力端子にオーディオケーブルを接続します。

4 ケーブルのもう一方のコネクターを本機の音声入力2端子に接続します。



USB機器を接続する

プロジェクターにUSB機器を接続します。

関連項目
- 「USB機器のデータを投写する」 p.37
- 「USB機器を接続する」 p.37
- 「USB機器を取り外す」 p.38

USB機器のデータを投写する

以下のUSB機器をプロジェクターに接続すると、コンピューターやビデオ機器を接続しなくても映像を投写できます。

- USBメモリー
- デジタルカメラ、スマートフォン
- USBハードドライブ
- マルチメディアストレージビューワー

- デジタルカメラ、スマートフォンはUSBマスストレージクラスに準拠したUSB機能が搭載されている必要があります。TWAIN準拠の機器では投写できません。
- USBハードドライブは以下の要件を満たしている必要があります。
  - USBマスストレージクラスに準拠していること（対応していないUSBマスストレージクラスの機器もあります）
  - フォーマット形式がFAT16/32であること
  - USBハードドライブに付属のACアダプターから電源供給ができること（USBケーブルから電源供給を受けるハードドライブは推奨しません）
  - ハードドライブのパーティションは1つのみであること

USB機器内の映像ファイルを投写できます。

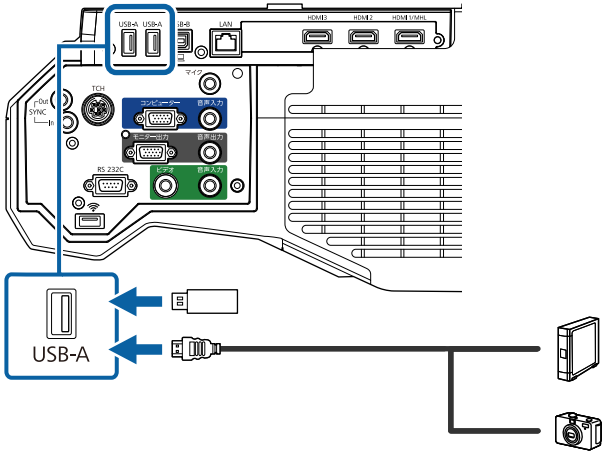
関連項目
- 「PC Free機能で投写する」 p.126

USB機器を接続する

USB機器をプロジェクターのUSB-A端子に接続して、映像を投写します。

1. USB機器に電源アダプターが付属しているときは、USB機器をコンセントに接続します。

2. 本機のUSB-A端子にUSBケーブル（またはUSBメモリー）を接続します。



注意
- USB機器に付属のUSBケーブル、または指定されたUSBケーブルを使用してください。
- USBハブや長さが3メートル以上のUSBケーブルを使用しないでください。機器が正しく動作しないことがあります。

どのUSB-A端子にUSB機器を接続するときでも、入力ソースは［USB1］を選択してください。

3 USBケーブルのもう一方のコネクターをUSB機器に接続します。

USB機器を取り外す

USB機器による投写が終了したら、プロジェクターから機器を取り外します。

1 USB機器の電源を切り、必要に応じて電源アダプターを抜きます。

2 プロジェクターからUSB機器を取り外します。

書画カメラを接続する

エプソン製書画カメラをプロジェクターに接続して、カメラから読み込んだ映像を投写します。

接続方法は、お使いの書画カメラの機種によって異なります。詳しくは、書画カメラの取扱説明書をご覧ください。

- どのUSB-A端子に書画カメラを接続するときでも、入力ソースは［USB2］を選択してください。
- プロジェクターに接続した複数のUSB書画カメラを同時に使用することはできません。

外部出力機器を接続する

プロジェクターに外部出力機器を接続します。

関連項目

- 「VGAモニターを接続する」 p.38
- 「外部スピーカーを接続する」 p.39
- 「マイクを接続する」 p.39

VGAモニターを接続する

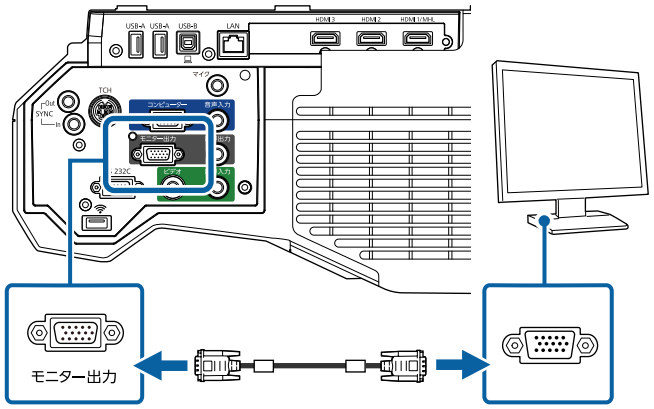
プロジェクターのコンピューター端子にコンピューターを接続しているときに、接続した外部モニター（VGA）に映像を表示します。これにより、本機からの投写映像が見えないときでも、外部モニターに表示した映像を見ることができます。

- 本機の電源がオフの場合に外部モニターに映像を出力するときは、［拡張設定］メニューで［A/V出力］を［常時］に設定します。
  ☛［拡張設定］＞［A/V出力設定］＞［A/V出力］
- インタラクティブ機能で描画した内容は外部モニターに表示されません。同梱のEasy Interactive Toolsを使用して描画した内容は外部モニターに表示できます（EB-710UT）。
- リフレッシュレートが60Hz以下のモニターを使用しているときは、映像が正しく表示できないことがあります。

1 本機のコンピューター端子にコンピューターを接続します。

- 外部モニターに出力できる映像は、コンピューター端子から入力しているアナログRGB信号のみです。他の端子から入力している信号やコンポーネントビデオ信号は出力できません。

2 本機のモニター出力端子に外部モニターのケーブルを接続します。



外部スピーカーを接続する

外部スピーカーをプロジェクターに接続して、投写映像の音質を向上できます。本機のリモコンで音量を調整できます。

外部スピーカーから音声を出力するときは、［設定］メニューの［音声出力機器］を［プロジェクター］に設定します。［音声出力機器］が［AVアンプ］に設定されていても、アンプが接続されていなければ、音声は外部スピーカーから出力されます。

☛ ［設定］ > ［HDMIリンク］ > ［音声出力機器］

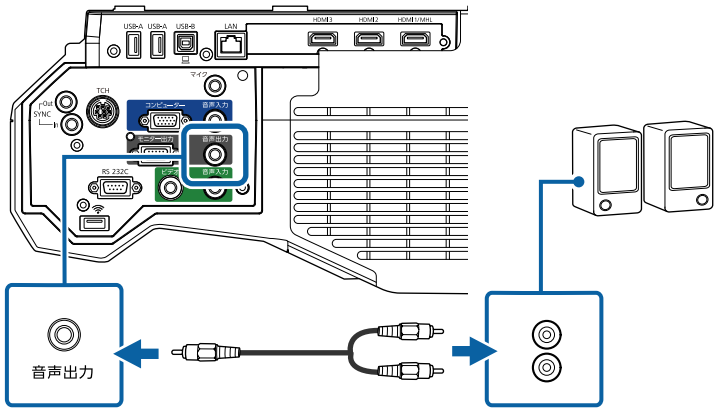
- 本機の電源がオフの場合に外部スピーカーから音声を出力するときは、［拡張設定］メニューで［A/V出力］を［常時］に設定します。
  ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［A/V出力］
- スピーカー付きのアンプも本機に接続できます。
- 外部スピーカーを接続しているときは、本機の内蔵スピーカーから音声は出力されません。

1 必要に応じてオーディオケーブル、ビデオケーブルを使用して、お使いのコンピューターやビデオ機器と本機が接続されていることを確認します。

2 ステレオミニプラグオーディオケーブル、またはその他のケーブル、アダプターなど、外部スピーカーに接続するケーブルを用意します。

3 必要に応じて、接続ケーブルを外部スピーカーに接続します。

4 接続ケーブルのもう一方のコネクターを本機の音声出力端子に接続します。



マイクを接続する

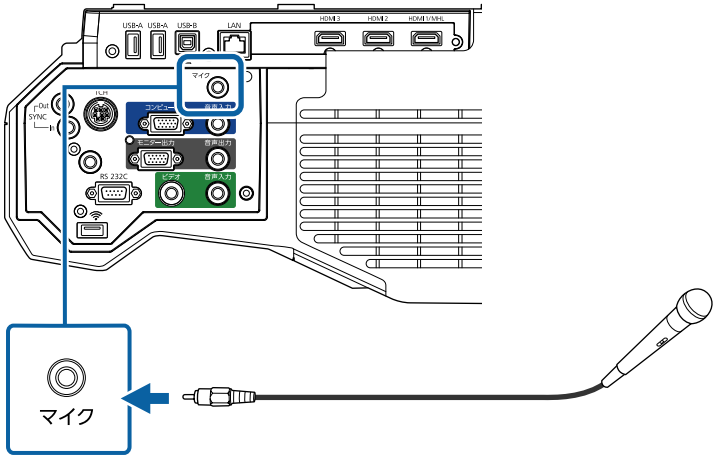
プロジェクターのマイク端子にマイクを接続して、本機のスピーカーから音声を出力できます（EB-710UT）。

本機の電源がオフの場合にマイクの音声を出力するときは、［拡張設定］メニューで［A/V出力］を［常時］に設定します。

☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］ > ［A/V出力］

- プラグインパワー方式には対応していません。
- マイクの音声が小さくて聞き取りにくいときや、マイクの音声が大きすぎて割れてしまうときは、［マイク入力レベル］を調整します。
  ☛ ［設定］ > ［マイク入力レベル］

1 マイクケーブルのコネクターを本機のマイク端子に接続します。

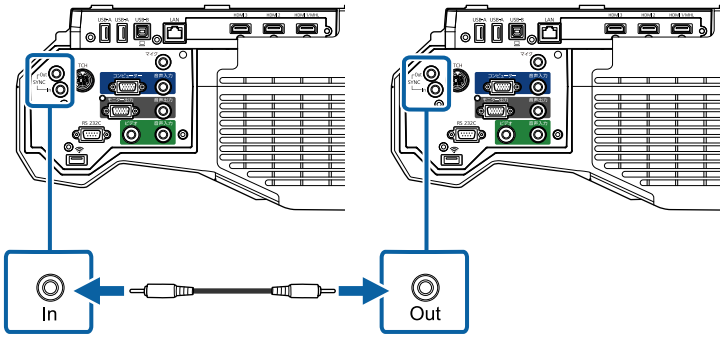


2 必要に応じて、マイクの電源を入れます。

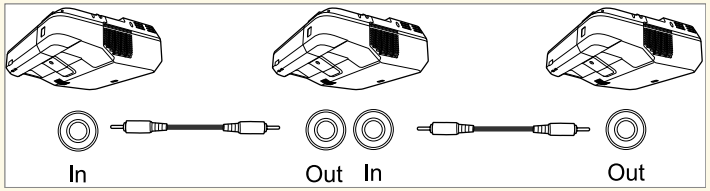
複数台のプロジェクターを接続する

同じ部屋に本機を2台以上設置してインタラクティブ機能を使用するときは、オプションのワイヤードリモコンケーブルで、各プロジェクターSYNC端子を直列に接続します（EB-710UT）。

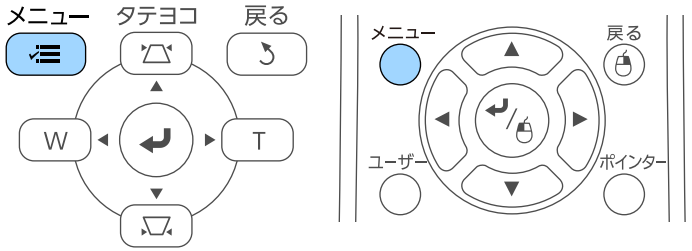
1 ワイヤードリモコンケーブルを、1台目のプロジェクターのSYNC IN端子と2台目のプロジェクターのSYNC OUT端子に接続します。



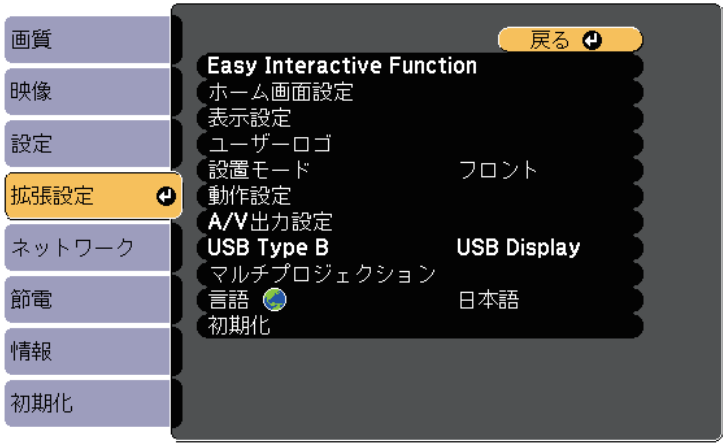
3台以上のプロジェクターを接続するときは、1台目のプロジェクターと最後のプロジェクターを接続する必要はありません。



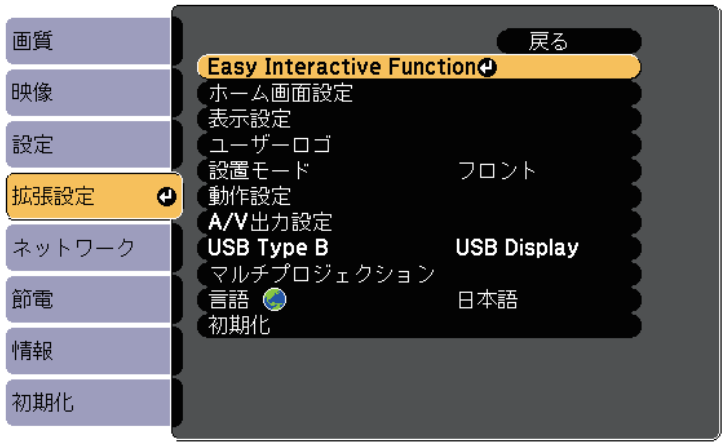
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



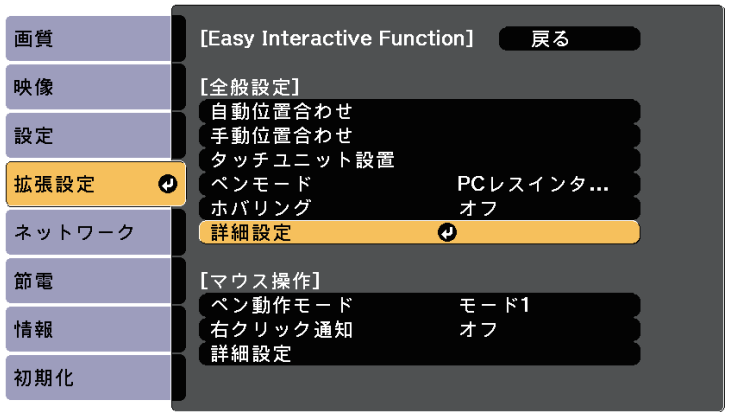
3 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



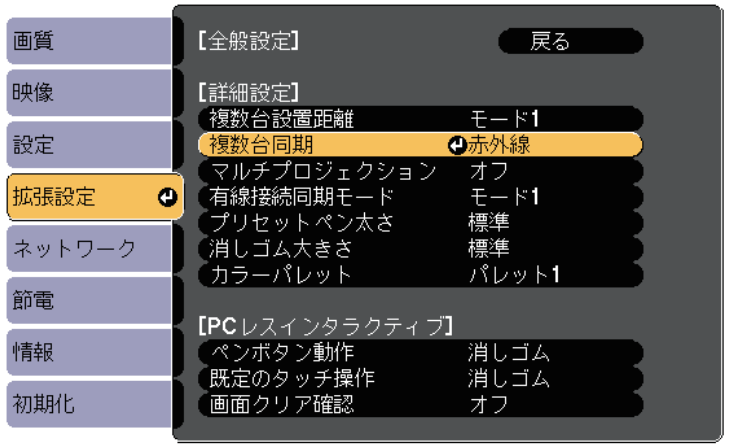
4 ［Easy Interactive Function］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 ［全般設定］で［詳細設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



6 ［複数台同期］を選択し、【決定】ボタンを押します。



7 ［有線接続］を選択し、【決定】ボタンを押します。

8 【メニュー】ボタン、または【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

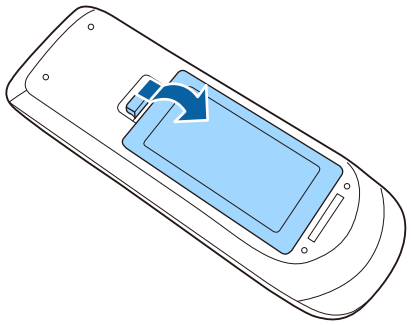
- 有線接続に対応していないプロジェクターと本機を同じ部屋で使用するときは、［拡張設定］メニューの［有線接続同期モード］を［モード2］に設定してください。
  ☛［拡張設定］>［Easy Interactive Function］>［全般設定］>［詳細設定］>［有線接続同期モード］
- オプションのワイヤードリモコンケーブルをお持ちでない方は、［拡張設定］メニューの［複数台設置距離］の設定を変更してみてください。
  ☛［拡張設定］>［Easy Interactive Function］>［全般設定］>［詳細設定］>［複数台設置距離］

リモコンに電池を取り付ける

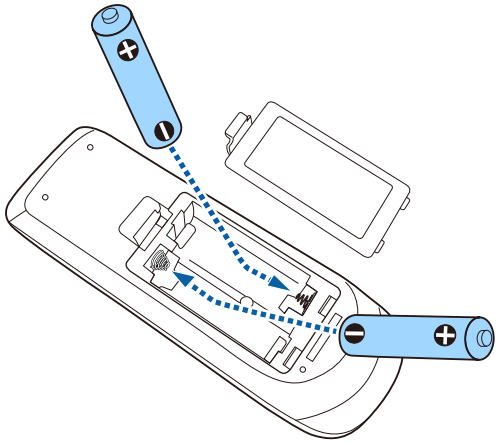
本機に付属の単3形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意
電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

1 電池カバーを外します。



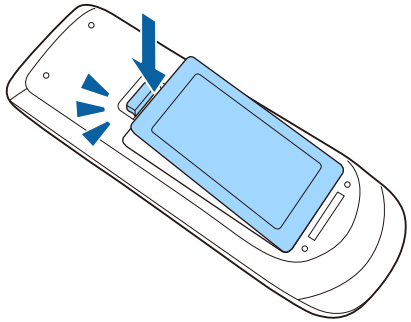
2 電池の+と–の向きを確認してリモコンにセットします。



⚠ 警告

電池ホルダー内の表示を確認し、（+）（-）を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

3 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



インタラクティブペンに電池を取り付ける

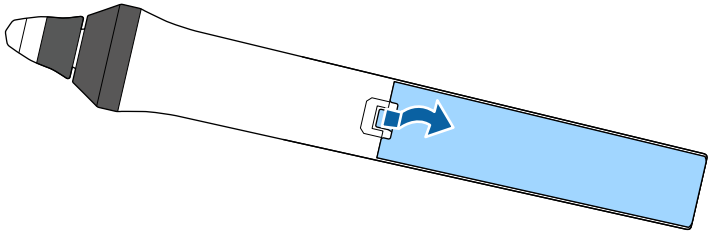
ペン1本につき単3形電池1個が必要です（EB-710UT）。

注意
電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

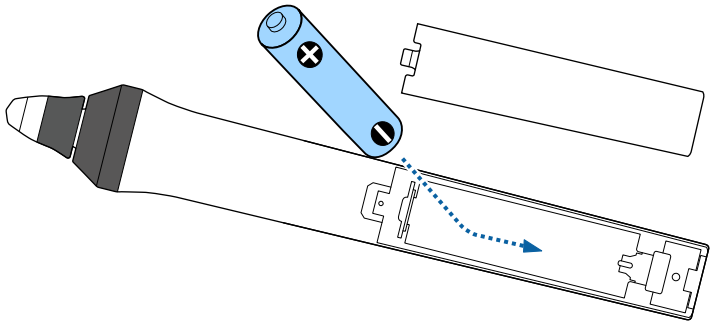
⚠ 警告

電池ホルダー内の表示を確認し、（+）（-）を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

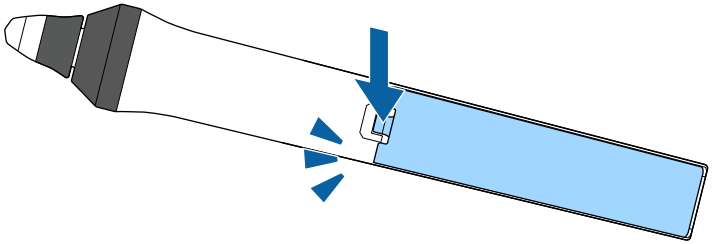
1 電池カバーを開きます。



2 電池の+と–の向きを確認してインタラクティブペンにセットします。

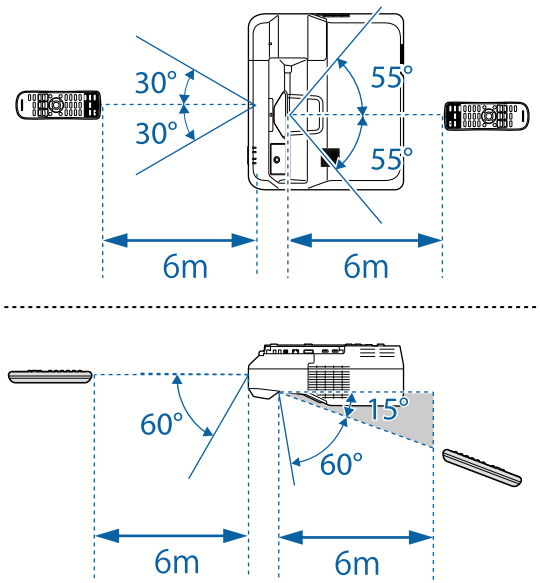


3 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを制御できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用してください。



蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが操作に反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

プロジェクターの基本機能を使用する

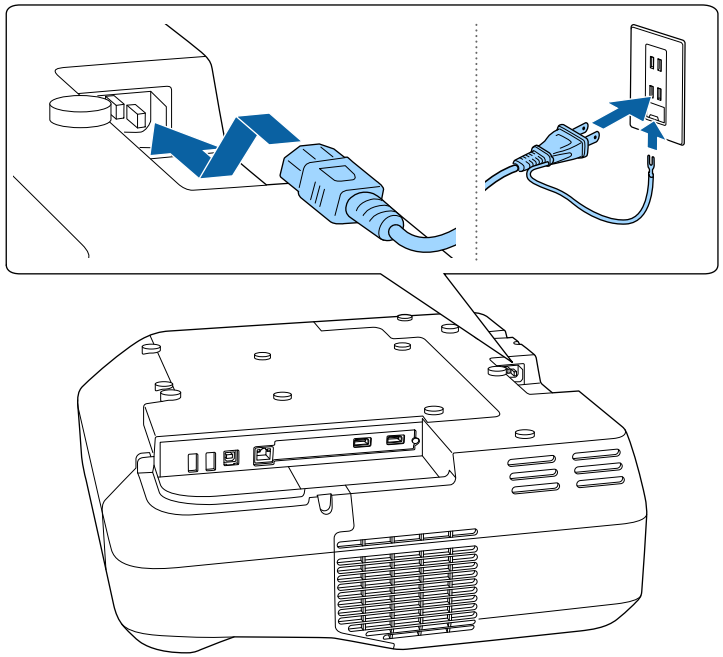
プロジェクターの基本機能を説明します。

関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 p.47
- 「プロジェクターの電源を切る」 p.50
- 「日時を設定する」 p.51
- 「メニューの言語を選択する」 p.53
- 「設置モードを選択する」 p.54
- 「ピントを調整する」 p.56
- 「映像の高さを調整する」 p.59
- 「映像の形状を補正する」 p.60
- 「ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する」 p.67
- 「映像の位置を調整する」 p.68
- 「投写映像を切り替える」 p.69
- 「映像のアスペクト比を設定する」 p.71
- 「カラーモードを設定する」 p.73
- 「映像の色合いを調整する」 p.76
- 「明るさを設定する」 p.79
- 「音量ボタンで音量を調整する」 p.82

プロジェクターの電源を入れた後、使用するコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。

1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



> **⚠ 警告**
>
> 必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

本機の電源インジケーターが青色に点灯します（スタンバイ状態）。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

2 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して本機の電源を入れます。

「ピッ」と確認音が鳴り、ステータスインジケーターが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケーターが青色に点灯します。

> • ［拡張設定］メニューで［高速起動］をオンにすると、次回の電源投入時には数秒で投写可能状態になります。
> ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［高速起動］

映像が投写されないときは、以下を試してください。

- 接続されているコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。
- ノート型コンピューターを使用するときは、コンピューターの画面出力を切り替えます。
- DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押して入力ソースを検出します。
- 投写したい入力ソースに対応するリモコンのボタンを押します。
- ホーム画面が表示されたら、投写したい入力ソースを選択します。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。 投写光を遮ると、光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因となります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときはA/Vミュート機能を使うか、本機の電源を切ってください。

- ［拡張設定］メニューの［ダイレクトパワーオン］が［オン］に設定されているときは、本機に電源コードを接続したときに自動で電源が入ります。停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると、本機の電源がオンになりますのでご注意ください。
  ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［ダイレクトパワーオン］
- ［拡張設定］メニューの［オートパワーオン］を有効にしているときは、映像信号が入力されたときに自動で電源が入ります。
  ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［オートパワーオン］

関連項目

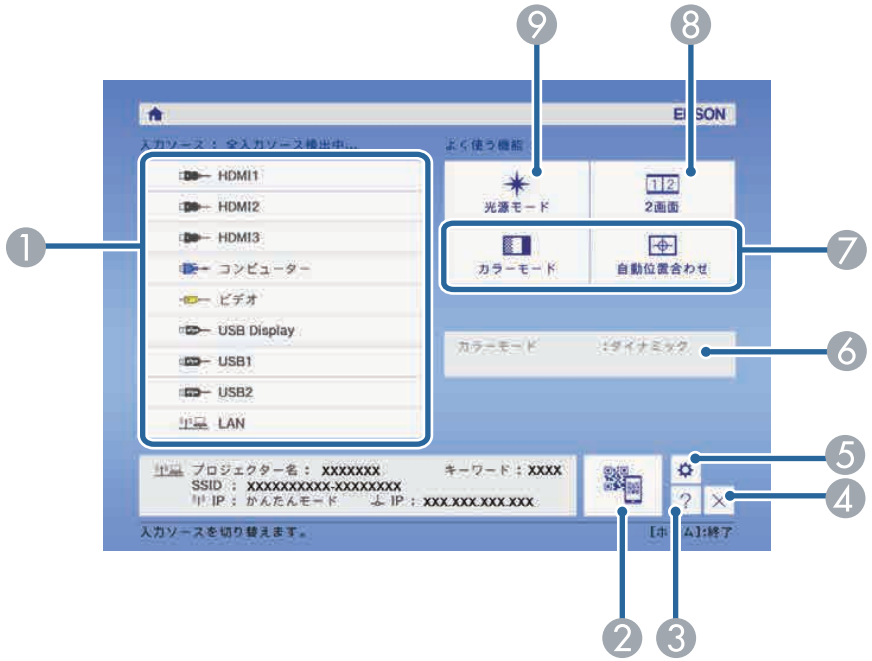
- 「ホーム画面」 p.48
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「節電メニュー」 p.217

ホーム画面

ホーム画面を使うと、入力ソースやよく使う機能を簡単に選択できます。ホーム画面は操作パネルまたはリモコンの【ホーム】ボタンを押すと表示されます。また、本機の電源投入時に、入力ソースからの信号がないときにも、ホーム画面が表示されます。

操作パネルやリモコンの上下左右ボタンで項目を選択して、【決定】ボタンを押します。

インタラクティブペンや指でも項目を選択できます（EB-710UT）。



❶ 投写したい入力ソースを選択します。

❷ QRコードを表示して、スマートフォンやタブレット端末のデータを投写します。

③ ヘルプ画面を表示します。

④ ホーム画面を閉じます。

⑤ インタラクティブ機能に関する設定をします（EB-710UT）。

⑥ ホーム画面上でインタラクティブペンや指を使って設定した［明るさ切替］などの設定値を表示します（EB-710UT）。

⑦ ［拡張設定］メニューの［ホーム画面設定］に割り当てた機能を実行します。

⑧ 投写画面を分割して、2つの異なる機器の画面を同時に投写します。

⑨ 光源の明るさを設定します。

10分間操作がないと、ホーム画面は自動的に消えます。

関連項目

- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する」 p.168
- 「プロジェクターメニューを操作する」 p.193
- 「ヘルプの見方」 p.243

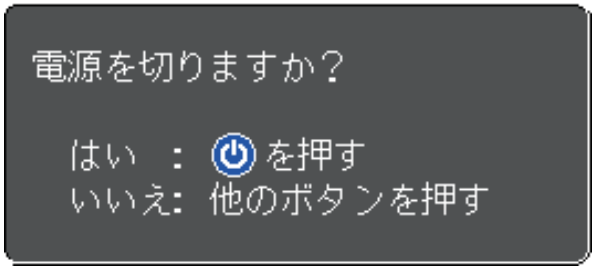
プロジェクターの電源を切る

使用後にプロジェクターの電源を切ります。

- 本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、メニューの設定、環境条件、および使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、投写時間の経過にしたがって低下します。
- 本機の電源を切ると、定期的に自動で光源キャリブレーションを開始します。
  ただし、以下の場合には自動的に開始しません。
  - 本機を24時間以上連続して使用する場合
  - 常にダイレクトシャットダウンで本機の電源を切る場合

  ［拡張設定］メニューで［光源キャリブレーション］を設定してください（EB-700U）。
  ☛ ［拡張設定］ > ［スケジュール設定画面へ］
- 本機はダイレクトシャットダウン機能に対応していますので、電源ブレーカーで直接電源を切ることができます。

1 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押します。
シャットダウン確認画面が表示されます。



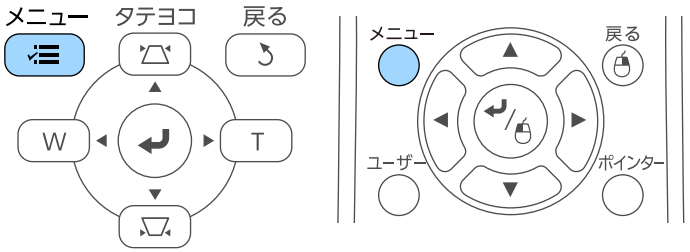
2 再度電源ボタンを押します。（電源を切らないときは、他のボタンを押します。）
「ピッピッ」と確認音が2回鳴った後、光源がオフになり、ステータスインジケーターが消灯します。

3 本機を搬送または保管するときは、電源インジケーターが青色に点灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

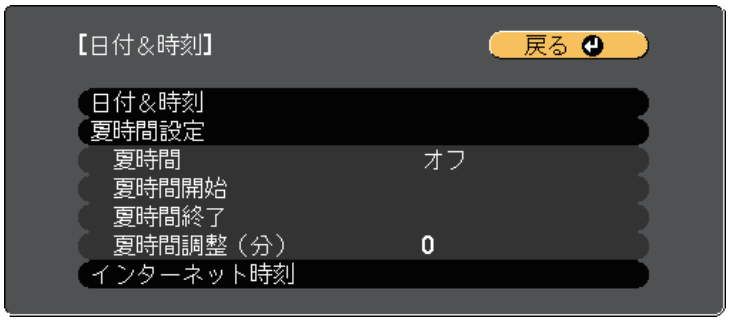
日時を設定する

プロジェクターの日時を設定します。

1. 本機の電源を入れます。
2. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3. ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。
4. ［動作設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。
5. ［日付＆時刻］を選択し、【決定】ボタンを押します。
次の画面が表示されます。



6. ［日付＆時刻］を選択し、【決定】ボタンを押します。

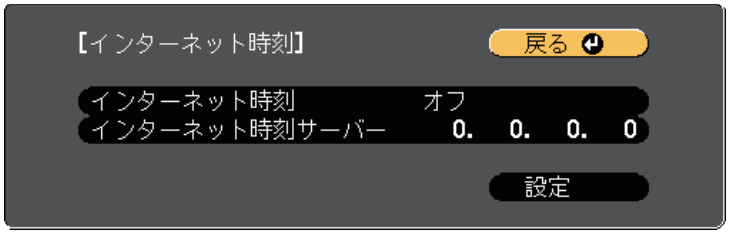
次の画面が表示されます。

7. ［日付］を選択し、【決定】ボタンを押します。表示されたソフトキーボードで本日の日付を入力します。
8. ［時刻］を選択し、【決定】ボタンを押します。表示されたソフトキーボードで現在の時刻を入力します。
9. ［時差（UTC）］を選択し【決定】ボタンを押して、協定世界時からの時差を設定します。
10. 終了したら、［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

11 夏時間を有効にするときは、［夏時間設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。表示された画面の各項目を設定します。

12 終了したら、［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

13 インターネット時刻サーバーから自動的に時刻を設定するときは、［インターネット時刻］を選択し、【決定】ボタンを押します。表示された画面の各項目を設定します。



14 終了したら、［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

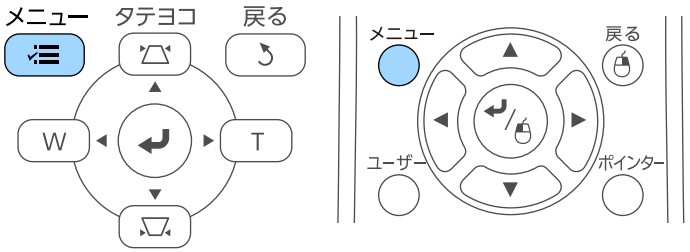
15 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

メニューの言語を選択する

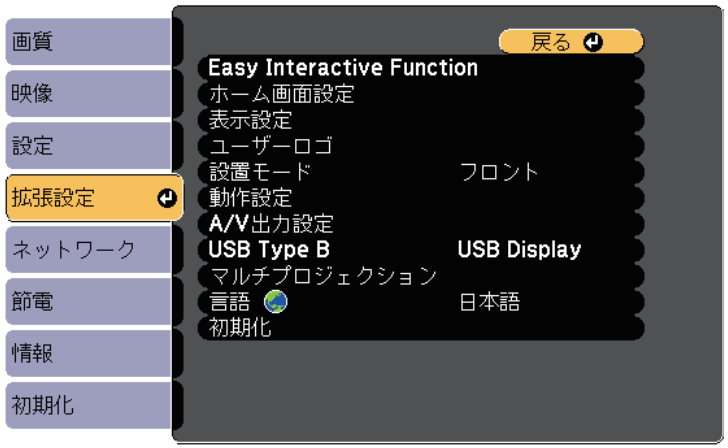
メニューおよびメッセージの言語を変更します。

1 本機の電源を入れます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［言語］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 使用する言語を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- ［フロント］：机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- ［フロント・上下反転］（デフォルト設定）：天吊りまたは壁掛け設置して、映像を上下反転して投写します。
- ［リア］：リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- ［リア・上下反転］：天吊りまたは壁掛け設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。

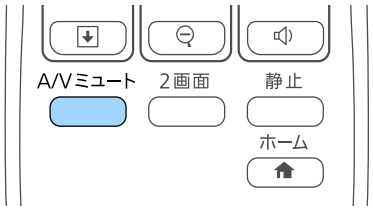
関連項目

- 「リモコンで 設置モードを変更する」 p.54
- 「メニューから設置モードを変更する」 p.54
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.27

リモコンで 設置モードを変更する

設置モードを変更して、映像を上下反転します。

1. 本機の電源を入れ、映像を表示します。
2. リモコンの【A/Vミュート】ボタンを5秒間押します。



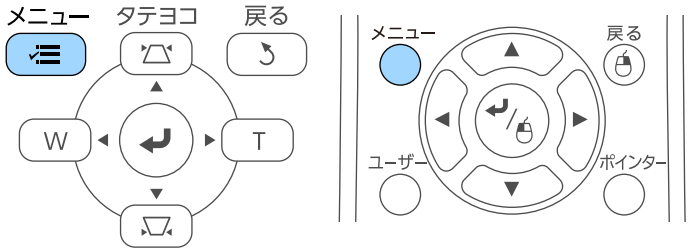
映像が一時的に消え、上下反転して再度投写されます。

3. 元の設置モードに戻すには、【A/Vミュート】ボタンをもう一度5秒間押します。

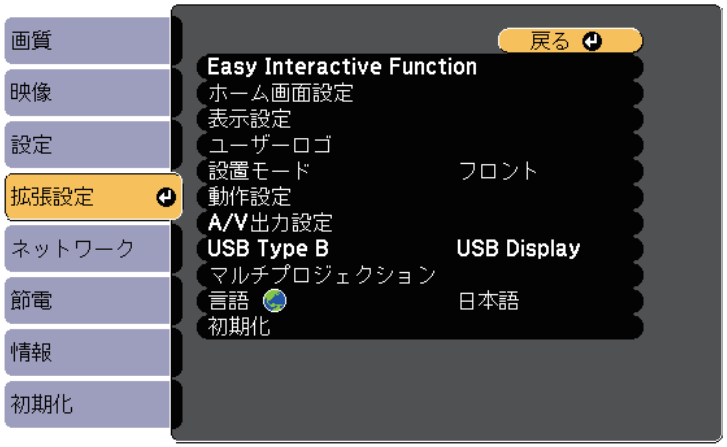
メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を上下左右反転します。

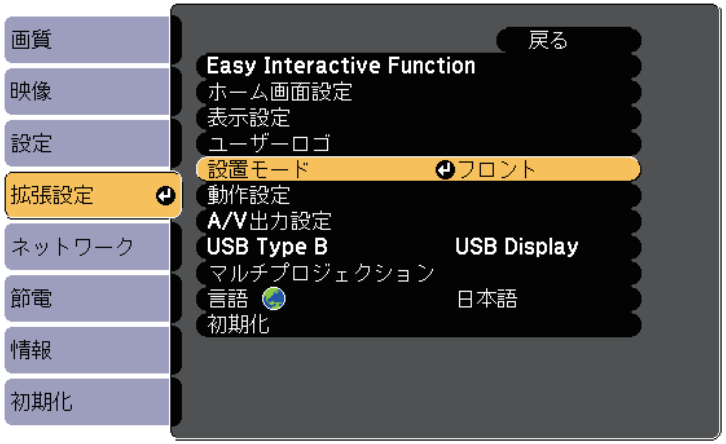
1. 本機の電源を入れ、映像を表示します。
2. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［設置モード］を選択し、【決定】ボタンを押します。



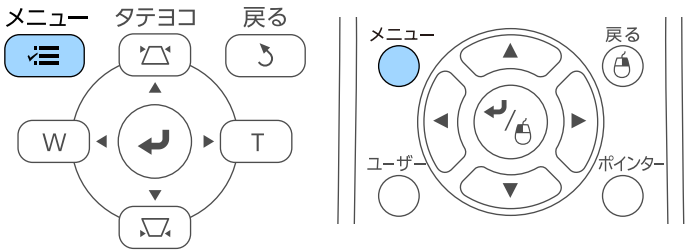
5 お使いの環境に合わせた設置モードを選択し、【決定】ボタンを押します。

6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

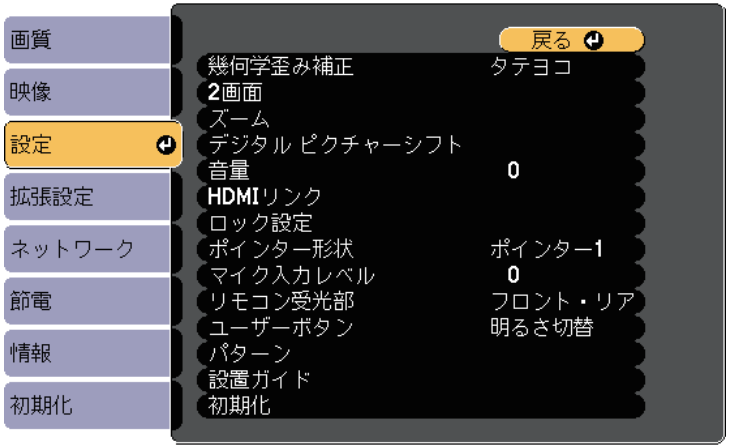
テストパターンを表示してピントのズレを補正します。

> プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。ピントの調整は、映像を投写し始めてから10分以上たってから行ってください。

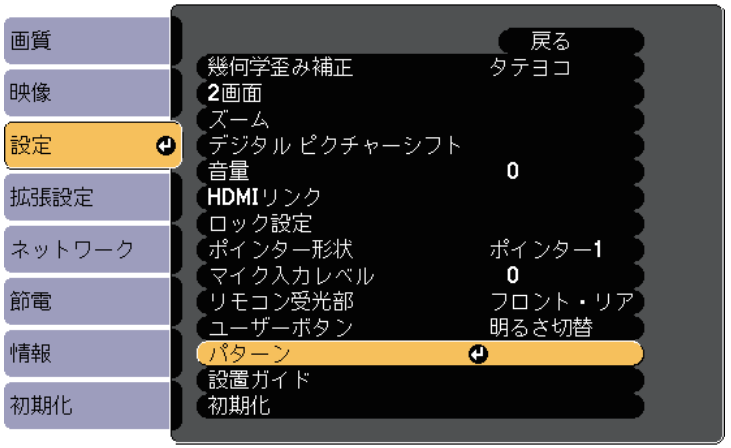
1 操作パネルまたはリモコンの 【メニュー】 ボタンを押します。



2 ［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

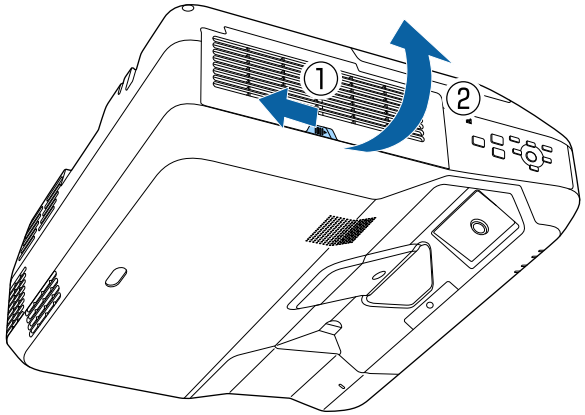


3 ［パターン］を選択し、【決定】ボタンを押します。

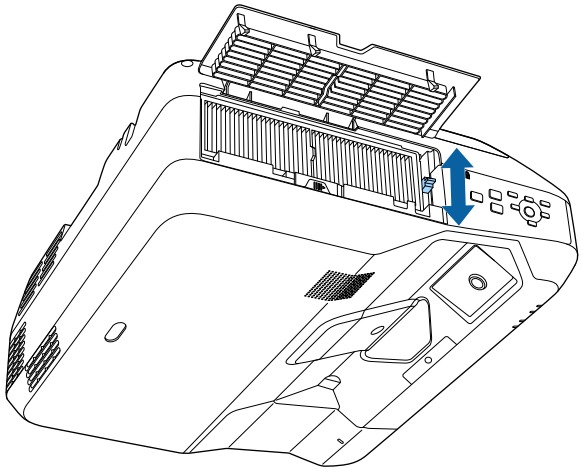


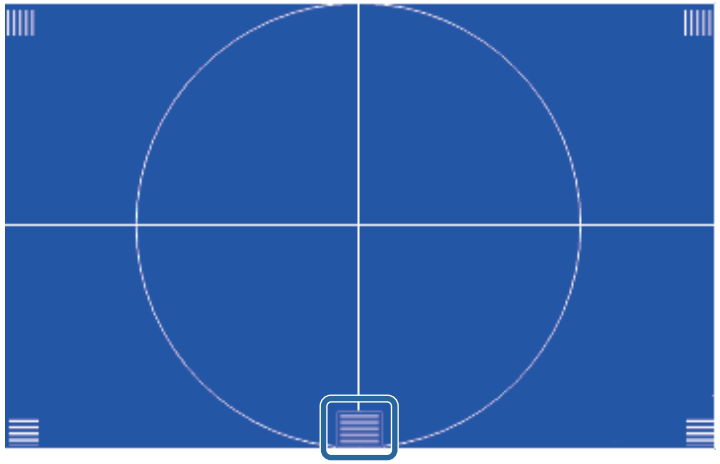
4 ［テストパターン］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 エアフィルターカバーを開けます。

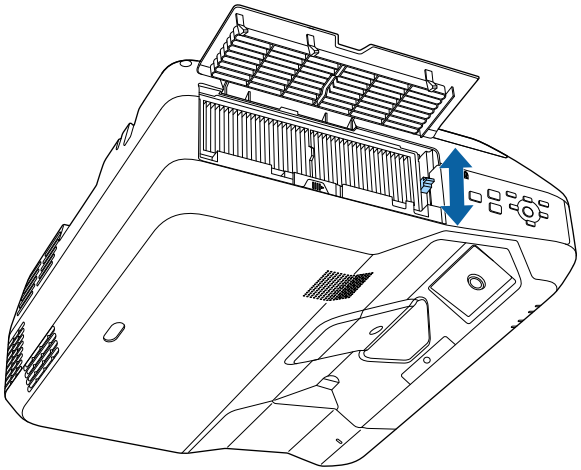


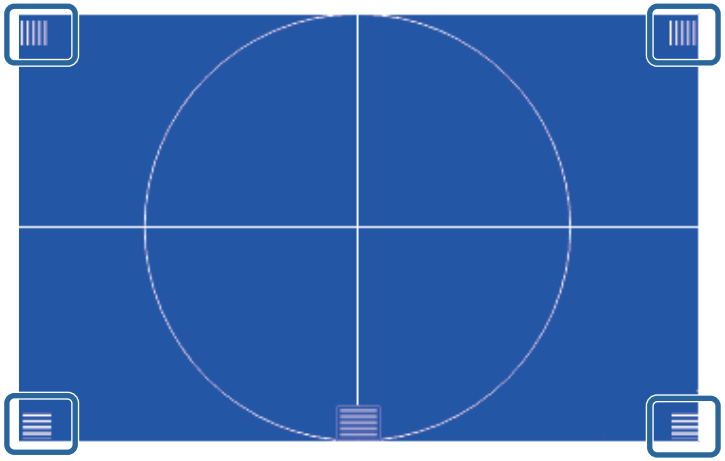
6 フォーカスレバーで投写画面の中央下にピントを合わせます。





7 投写画面の四隅のピントが合っていることを確認します。





ピントが合っていない箇所があるときは、四隅のピントが均一になるようにフォーカスレバーで調整します。

8 リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押して、テストパターンを消します。

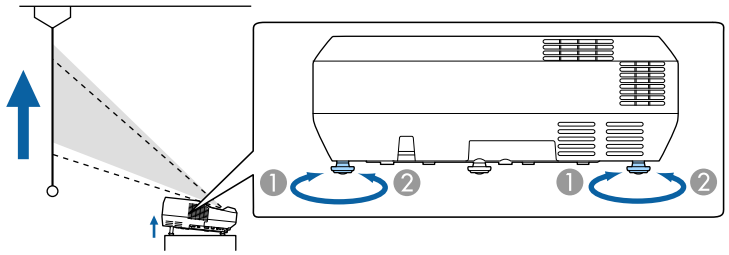
映像の高さを調整する

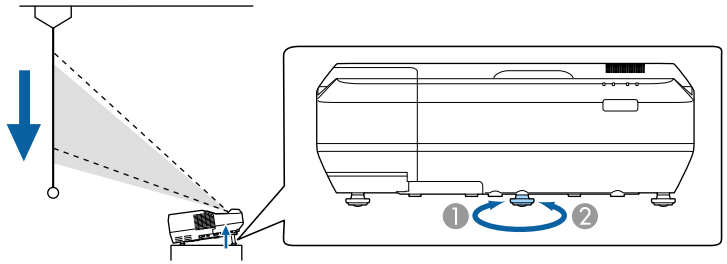
机などの平らな場所に置いて投写するときは、プロジェクターのフットを使って高さを調整します（フット同梱機種のみ）。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 フロントフット、リアフットを回して高さを調整します。

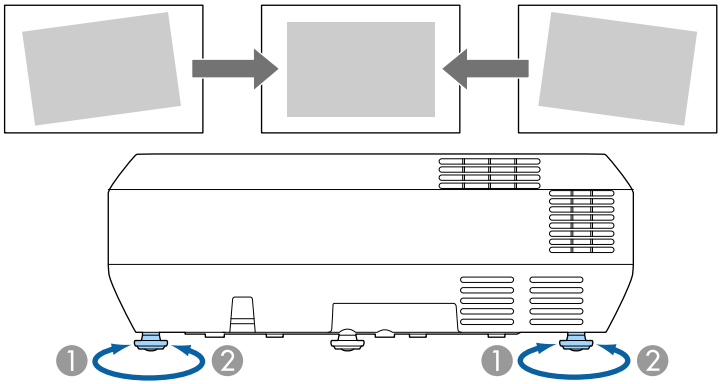




❶ フットを伸ばす

❷ フットを縮める

3 映像が傾いているときは、リアフットを回して左右の高さを調整します。



❶ フットを伸ばす

❷ フットを縮める

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

関連項目

- 「映像の形状を補正する」 p.60

スクリーンの正面にプロジェクターを設置し、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

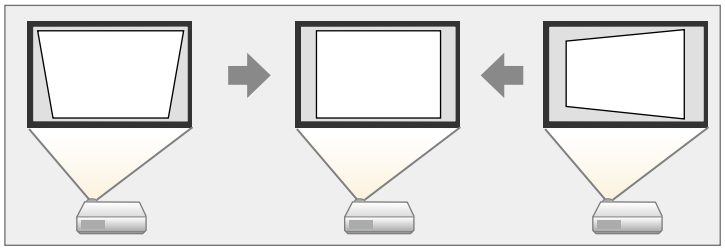
同時に複数の補正方法を使って補正することはできません。

関連項目

- 「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 p.60
- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.61
- 「湾曲補正で映像のゆがみを補正する」 p.63

台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する

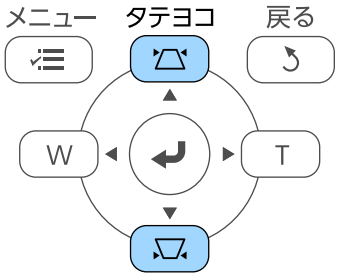
台形補正/上下ボタンを押して、映像のゆがみを補正します。

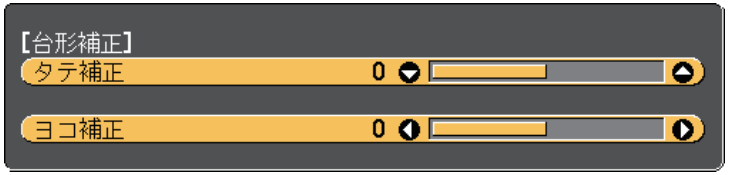


台形補正/上下ボタンで映像を補正できる条件は、投写角度が上下左右約3°のときです。

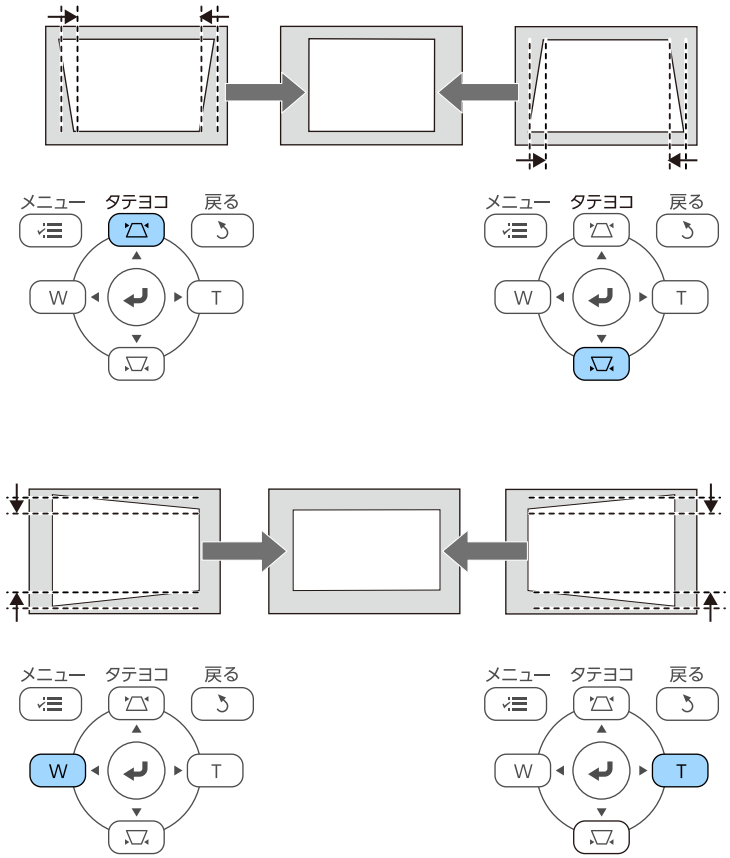
1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 操作パネルの台形補正/上下どちらかのボタンを押して、台形補正画面を表示します。





3 上下左右ボタンを押して映像の形状を調整します。



補正後は、映像が少し小さくなります。

プロジェクターが手の届かない場所に設置されているときは、リモコンで映像のゆがみを補正してください。

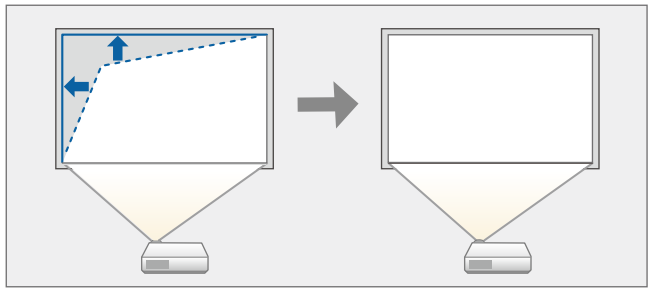
☛ ［設定］ > ［幾何学歪み補正］ > ［タテヨコ］

関連項目

- 「設定メニュー」 p.199

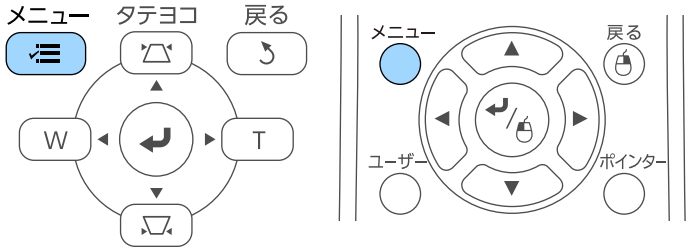
Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する

Quick Corner機能を使用して、映像のゆがみと大きさを補正します。

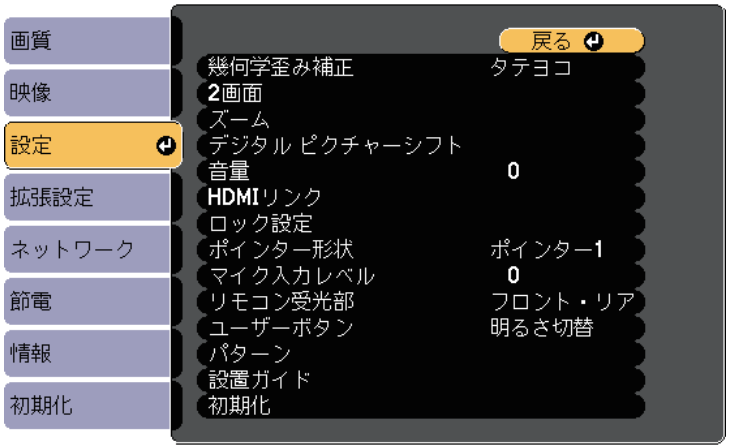


1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

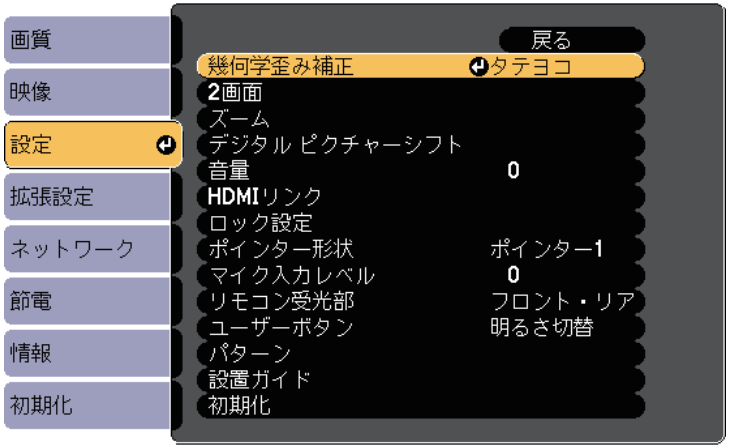
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



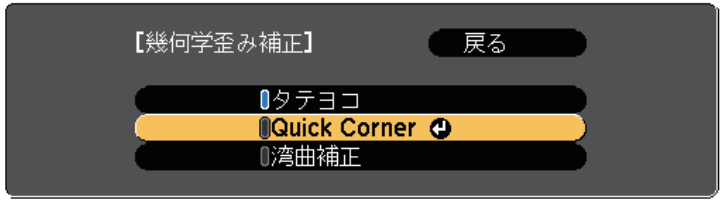
3 ［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［幾何学歪み補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。

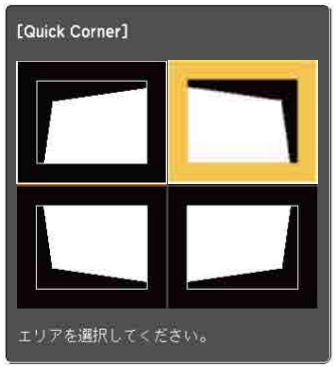


5 ［Quick Corner］を選択し、【決定】ボタンを押します。必要に応じて【決定】ボタンをもう一度押します。



エリア選択画面が表示されます。

6 上下左右ボタンを押して、調整するコーナーを選択します。その後、【決定】ボタンを押します。



Quick Cornerで補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに【戻る】ボタンを約2秒間押し、［はい］を選択します。

7 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。

【決定】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

・以下の画面で、グレーの三角形で示される方向にはこれ以上調整できません。

8 手順6と7を繰り返して、調整が必要なすべてのコーナーを調整します。

9 終了したら、【戻る】ボタンを押します。

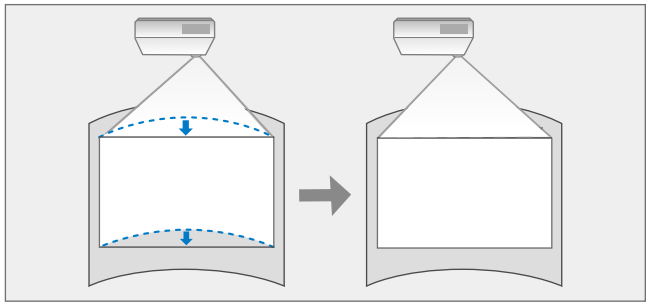
Quick Corner実行後は、［設定］メニューの［幾何学歪み補正］が［Quick Corner］に設定されます。操作パネルの台形補正/上下ボタンを押したときは、エリア選択画面が表示されます。

関連項目

・「設定メニュー」 p.199

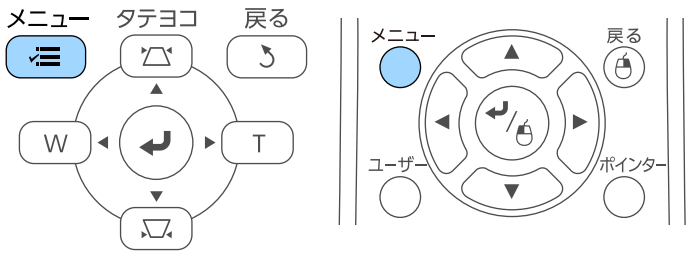
湾曲補正で映像のゆがみを補正する

曲面に映像を投写するときは、湾曲補正機能を使用して映像のゆがみを補正します。

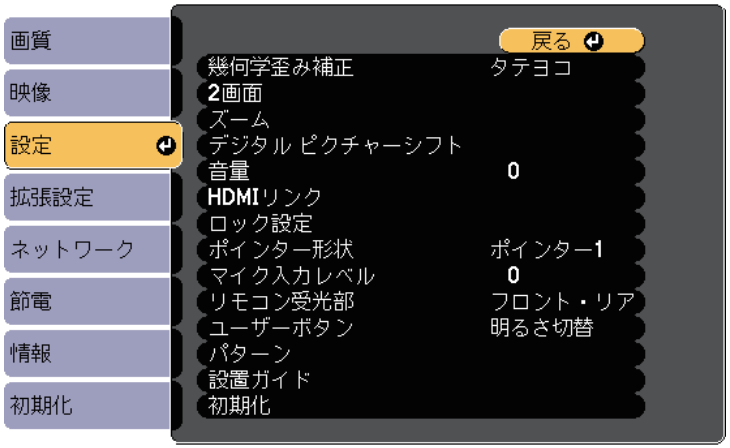


1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

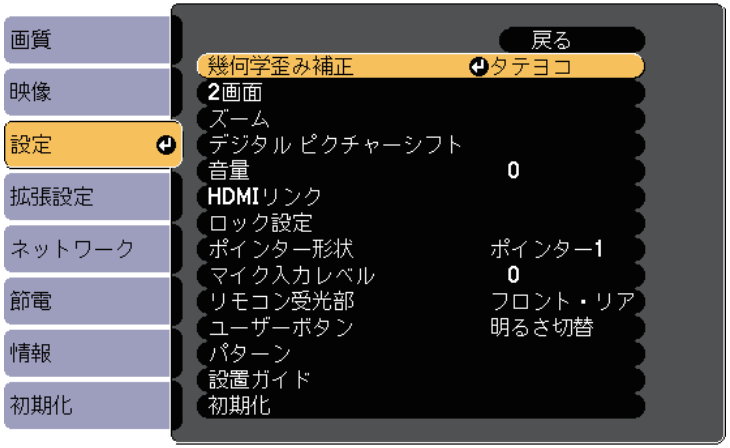
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［幾何学歪み補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 ［湾曲補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 ［湾曲補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。

エリア選択画面が表示されます。

7 上下左右ボタンを押して補正するエリアを選択し、【決定】ボタンを押します。

湾曲補正で補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに【戻る】ボタンを約2秒間押し、［はい］を選択します。

8 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。
【決定】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

以下の画面で、グレーの三角形で示される方向にはこれ以上調整できません。

9 手順7と8を繰り返して、調整が必要なすべてのエリアを調整します。

10 終了したら、【戻る】ボタンを押します。

補正した映像の形状をメモリーとして登録するには、［湾曲補正］で［メモリー登録］を選択します。湾曲補正のメモリーには、映像の形状を3つまで登録できます。

関連項目

- 「登録したメモリーを呼び出す」 p.66

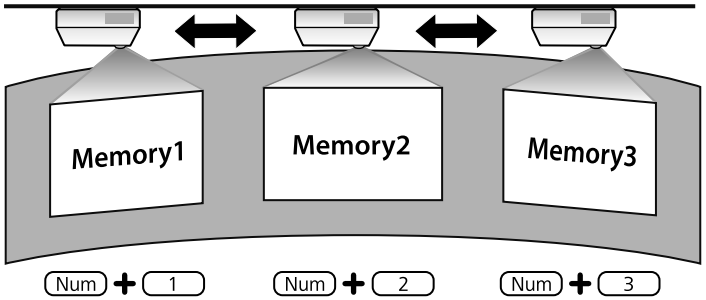
登録したメモリーを呼び出す

［湾曲補正］で設定・登録した内容を呼び出します。

事前に［設定］メニューの［幾何学歪み補正］が［湾曲補正］に設定されている必要があります。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 リモコンの【Num】ボタンを押しながら、登録したメモリー番号（1～3）のテンキーボタンを押します。



イラストはイメージです。

3 設定が読み込まれたら、画面の指示に従います。

- ［設定］メニューの［メモリー呼出］からもメモリーを呼び出すことができます。
- MHL対応のモバイルデバイスを接続している場合は、［設定］メニューの［メモリー呼出］からメモリーを呼び出してください。

☛［設定］＞［幾何学歪み補正］＞［湾曲補正］＞［メモリー呼出］

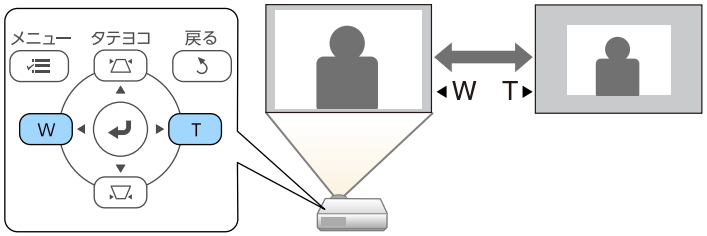
ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する

ワイド・テレボタンで投写映像のサイズを調整します。

プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。映像サイズの調整は、映像を投写し始めてから10分以上たってから行ってください。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 操作パネルのワイドボタンを押して、映像のサイズを大きくします。テレボタンを押して、映像のサイズを小さくします。

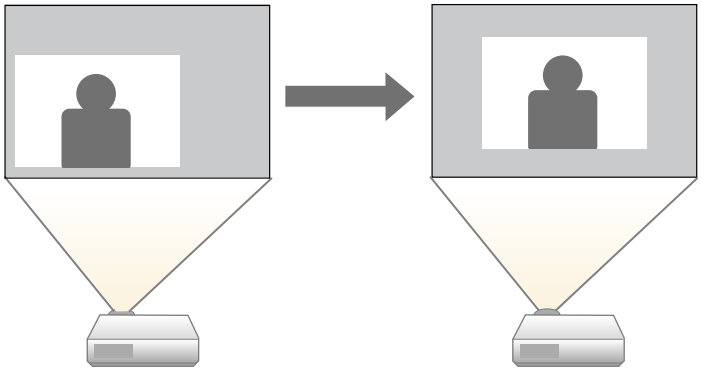


映像のサイズは、［設定］メニューの［ズーム］でも設定できます。

映像の位置を調整する

本機を動かさずに映像の投写位置を微調整できます。

- ズームをワイド側に最大にしているときは投写位置を調整できません。
- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。投写位置の調整は、映像を投写し始めてから10分以上たってから行ってください。

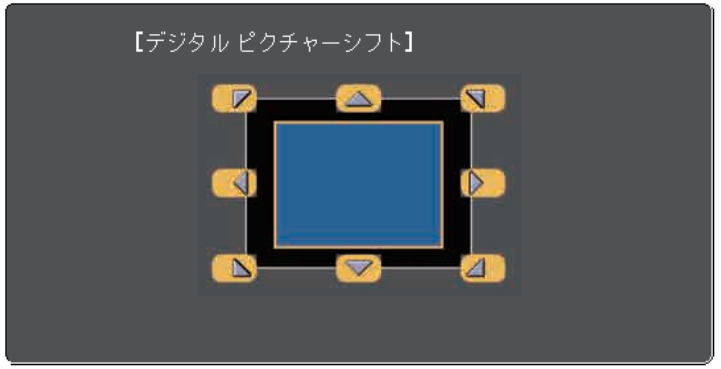


1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 ワイド・テレボタンを押して映像のサイズを調整します。

調整が終了すると、デジタル ピクチャーシフト画面が自動的に表示されます。

3 操作パネルまたはリモコンの上下左右ボタンで映像の位置を調整します。



隣り合う上下左右ボタンを2つ同時に押すと、映像を斜めに移動できます。

4 【戻る】ボタンを押して調整画面を終了します。

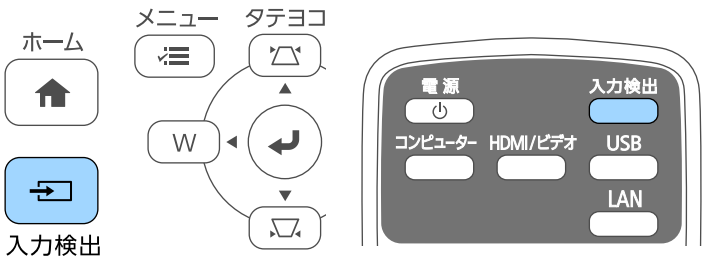
約10秒間何もしないと、調整画面は自動的に消えます。

- デジタル ピクチャーシフトの設定は電源を切っても記憶されています。本機の設置位置や角度を変えたときは、再度調整してください。
- ［設定］メニューの［デジタル ピクチャーシフト］からも映像の位置を調整できます。

投写映像を切り替える

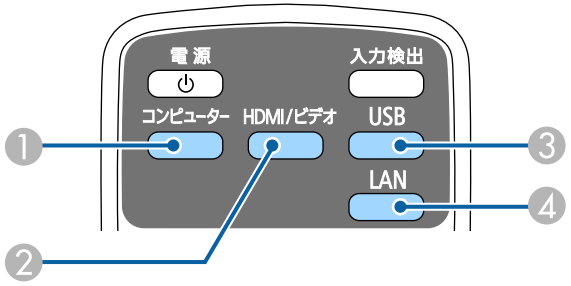
コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

1. 接続機器の電源が入っていることを確認します。
2. ビデオ機器の映像を投写するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 目的の機器からの映像が表示されるまで、操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押します。



映像信号が検出されないときは、次の画面が表示されます。本機と接続機器が正しく接続されていることを確認してください。

- リモコンで、投写したい入力ソースのボタンを押します。押したボタンに対応する入力ソースが複数あるときは、ボタンを再度押して入力ソースを切り替えます。

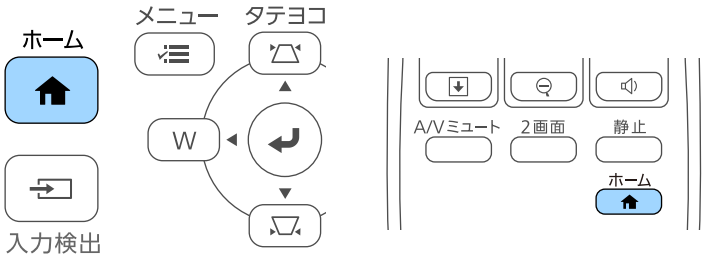


1. コンピューター入力ソース（コンピューター端子）
2. ビデオ、HDMI、およびMHL入力ソース（ビデオ、HDMI1/MHL、HDMI2、およびHDMI3端子）

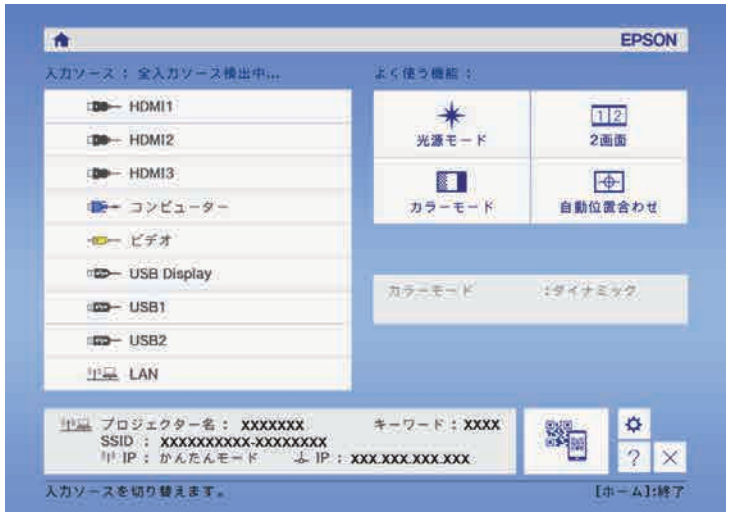
③ USB入力ソース（USB-A端子に接続された外付デバイス、およびUSB-B端子）

④ ネットワーク入力ソース（LAN）

- 操作パネルまたはリモコンの【ホーム】ボタンを押します。



投写する入力ソースを選択します。



本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。USB Display、USB、LANソースを除く入力信号では、映像をスクリーンに合わせるためにアスペクト比を切り替えることができます。

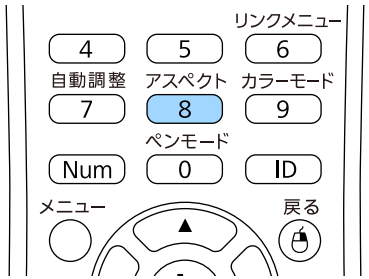
常に特定のアスペクト比で投写するときは、［映像］メニューでアスペクトを設定します。

関連項目
- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.71
- 「アスペクトモードの種類」 p.71
- 「各アスペクトモードの投写イメージ」 p.72
- 「映像メニュー」 p.197

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比を切り替えます。

1. 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。
2. リモコンの【アスペクト】ボタンを押します。



3. 投写中の入力信号で設定可能なアスペクト比を順に切り替えるときは、【アスペクト】ボタンを繰り返し押します。

投写映像に黒帯が発生するときは、コンピューターの解像度に合わせて［映像］メニューの［入力解像度］を［ワイド］または［ノーマル］に設定してください。

関連項目
- 「映像メニュー」 p.197

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。

- 入力信号のアスペクト比と解像度によっては、特定のアスペクトモードで黒帯が発生したり、映像の端が欠けたりすることがあります。
- ［オート］は、入力ソースがHDMIのときのみ使用できます。
- 著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作者の権利を侵害するおそれがあります。

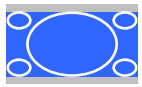
アスペクトモード	説明
オート	入力信号と［入力解像度］の設定に従って、アスペクト比が自動的に設定されます。
ノーマル	入力信号のアスペクト比を維持し、投写エリア内に映像を表示します。
16:9	入力信号のアスペクト比が16:9に変換されます。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。

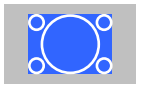
アスペクトモード	説明
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持し、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。
リアル	入力信号のアスペクト比と解像度を維持して表示します。

各アスペクトモードの投写イメージ

入力信号のアスペクト比と解像度によっては、特定のアスペクトモードで黒帯が発生したり、映像の端が欠けたりすることがあります。黒帯が発生する領域と映像の欠けが発生する領域は、以下の表をご覧ください。

［リアル］を選択したときのイメージは、入力信号の解像度によって異なることがあります。

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
ノーマル オート			
16:9			
フル			
ズーム			

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
リアル			

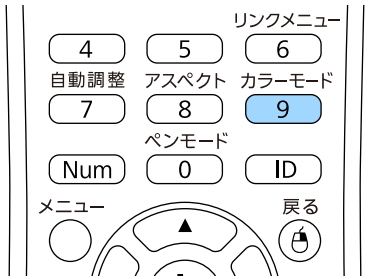
本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

関連項目
- 「カラーモードを変更する」 p.73
- 「カラーモードの種類」 p.73
- 「映像の光量を調整する」 p.74

カラーモードを変更する

リモコンでカラーモードを変更して、映像を最適化します。

1. 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。
2. リモコンの【カラーモード】ボタンを押してカラーモードを切り替えます。



カラーモードの名称が一時的に投写画面に表示され、映像の表示が切り替わります。

3. 投写中の入力信号で選択できるカラーモードを順に切り替えるには、【カラーモード】ボタンを繰り返し押します。

カラーモードは［画質］メニューの［カラーモード］でも設定できます。

関連項目
- 「画質メニュー」 p.195

カラーモードの種類

投写している映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
プレゼンテーション	映像を明るく鮮やかに投写したい場合に適しています。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
sRGB	コンテンツの持つ色表現を忠実に再現したい場合に適しています。
黒板（EB-710UT）	黒板に直接投写する場合に適しています。
DICOM SIM（EB-700U）	エックス線写真などの医用画像を投写するのに適しています。ただし、本機は医療機器ではありませんので、医療診断の用途ではご利用いただけません。

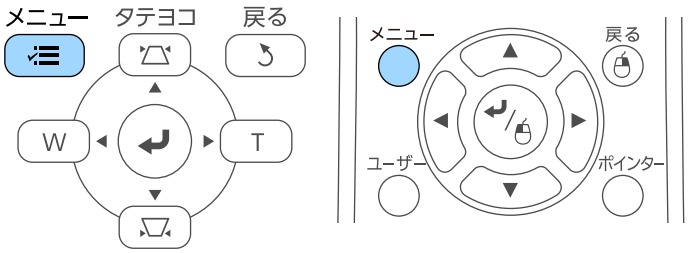
映像の光量を調整する

ダイナミックコントラストをオンにすると、投写映像の光量を自動的に調整できます。光量を自動的に調整することで、映像の明るさに合わせてコントラストを改善します。

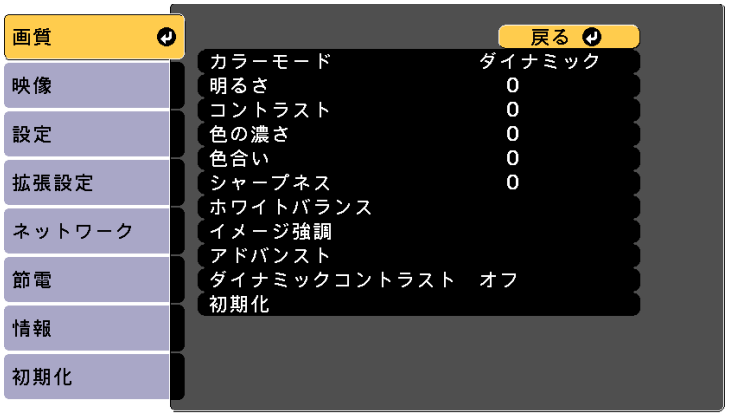
カラーモードが［ダイナミック］または［シネマ］のときに設定できます。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

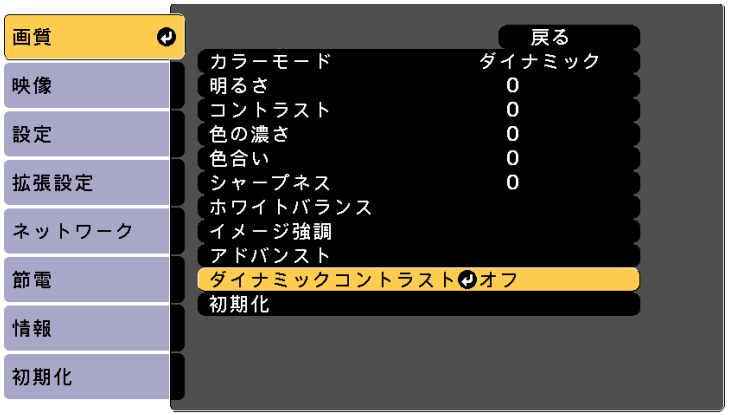
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［画質］メニューを選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［ダイナミックコントラスト］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 次のいずれかを選択し、【決定】ボタンを押します。

- ［高速］：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。

- ［標準］：標準の光量調整が行われます。

6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

投写映像の色合いを細かく調整できます。

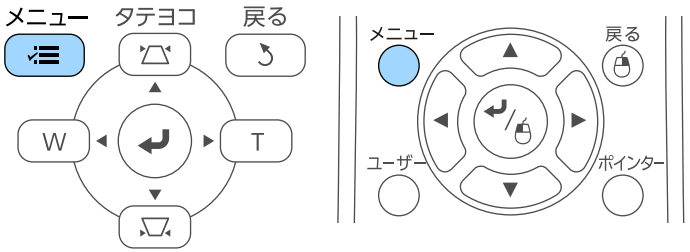
関連項目
- 「色相、彩度、明度を調整する」 p.76
- 「ガンマを調整する」 p.77

色相、彩度、明度を調整する

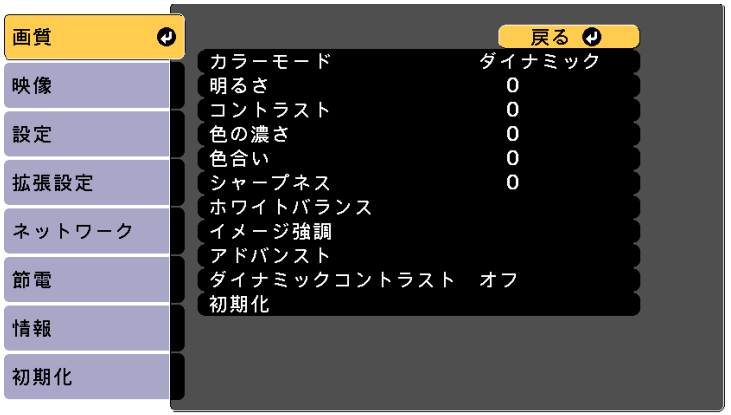
映像の色相、彩度、明度を調整します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



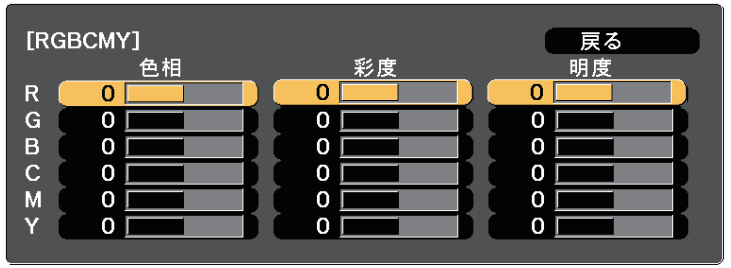
3 ［画質］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［アドバンスト］を選択し、【決定】ボタンを押します。

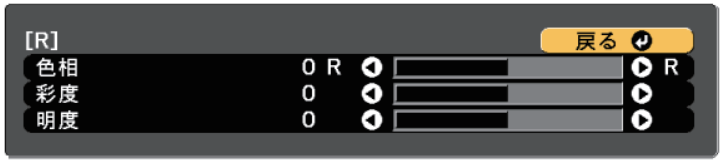
5 ［RGBCMY］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 調整する色を選択し、【決定】ボタンを押します。



7 必要に応じて以下を調整します。
- ［色相］：映像全体の色味を、青系～緑系～赤系へと調整します。
- ［彩度］：映像全体の鮮やかさを調整します。

・［明度］：映像全体の明るさを調整します。



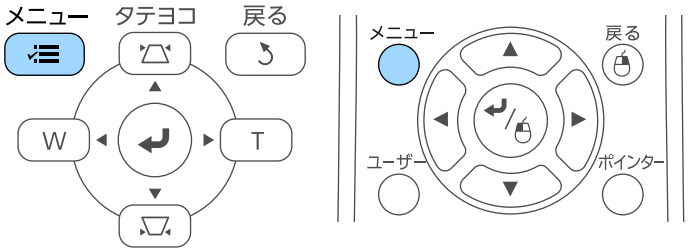
8 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

ガンマを調整する

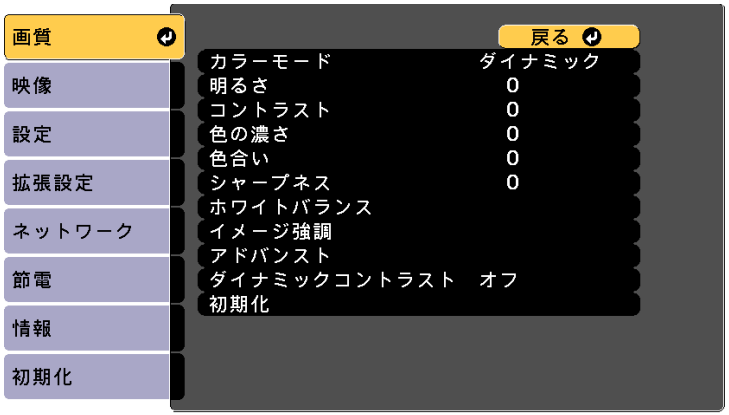
ガンマを調整することにより、接続機器の違いにより生じる投写映像の発色の違いを調整します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



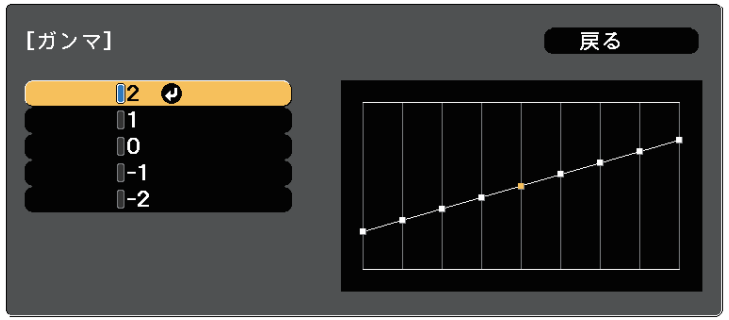
3 ［画質］を選択し、【決定】ボタンを押します。



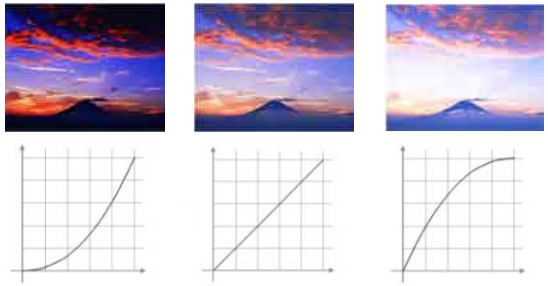
4 ［アドバンスト］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［ガンマ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 補正値を選んで調整します。



数値が小さいほど、映像全体の明るさを抑えてメリハリのある映像になります。数値が大きいと、映像の暗い部分が明るくなり、明るい部分は色の濃淡が小さくなります。



- ［画質］メニューの［カラーモード］で［DICOM SIM］を選択したときは、投写サイズに応じた補正値を選択します（EB-700U）。
  - 投写サイズが型以下：より小さい数値を選択します。
  - 投写サイズが型以上：より大きい数値を選択します。
- 本機の設置環境やスクリーンの仕様によっては、医用画像を正しく再現できないことがあります。

7 【メニュー】ボタン、または【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

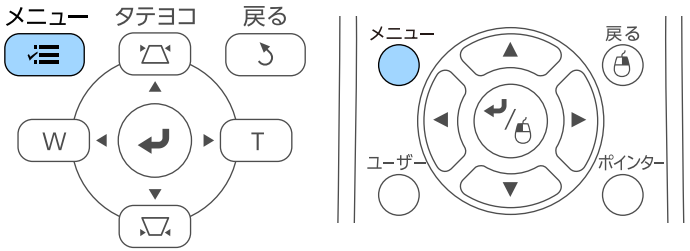
明るさを設定する

光源の明るさを設定します。

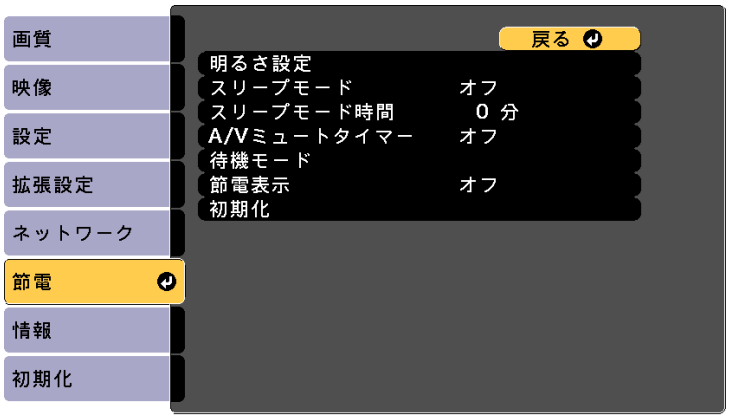
> 光源の明るさは、マルチプロジェクションをオフに設定しているときのみ設定可能です。
> ☛［拡張設定］＞［マルチプロジェクション］＞［マルチプロジェクション］

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

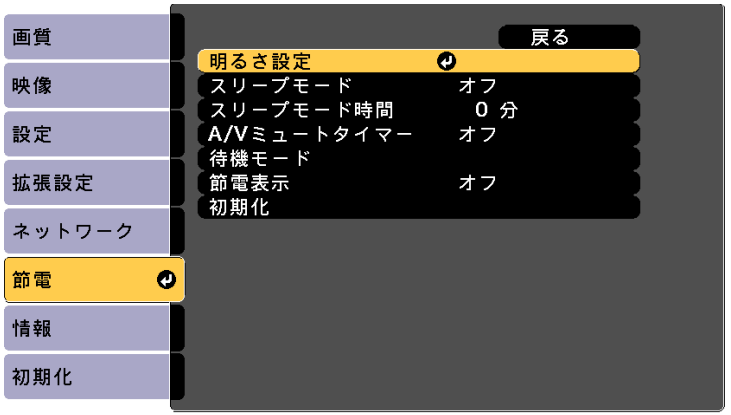
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［節電］メニューを選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［明るさ設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 ［光源モード］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 次のいずれかを選択します。

- ［オート］：明るさを自動で設定します（EB-710UT）。本機を上下反転して設置しているときのみ選択可能です。光源寿命の目安はお使いの環境によって異なります。
- ［ノーマル］：明るさを落としたくないときに選択します。光源寿命の目安は約20,000時間です。
- ［静音］：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源寿命の目安は約20,000時間です。
- ［ロング］：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源寿命の目安は約30,000時間です。
- ［カスタム］：明るさレベルを70～100%の範囲で設定します。

7 ［カスタム］を選択したときは、明るさ設定画面で［明るさレベル］を選択し、左右矢印ボタンを押して明るさを設定します。

8 光源の明るさを一定に保ちたいときは、［一定モード］をオンにします。

［一定モード］をオンにすると、［光源モード］と［明るさレベル］は変更できません。［一定モード］をオフにすると、そのときの光源の状態に応じて［明るさレベル］の値が変わります。

9 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

以下の場合は［拡張設定］メニューで［光源キャリブレーション］を設定してください（EB-700U）。
- 本機を24時間以上連続して使用する場合
- 常にダイレクトシャットダウンで本機の電源を切る場合

設定しないと［一定モード］の機能が動作しません。

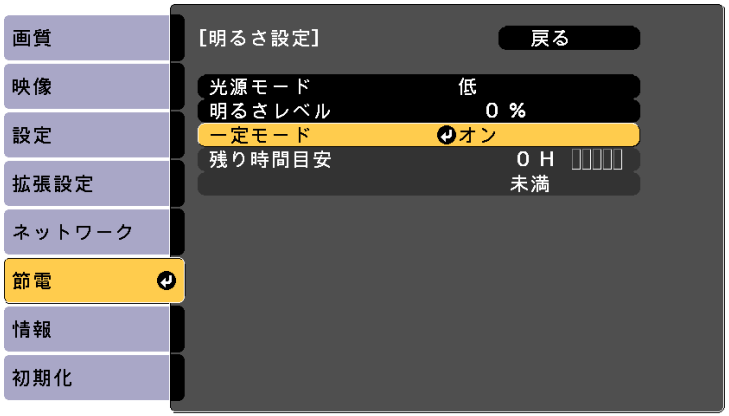
☛ ［拡張設定］ > ［スケジュール設定画面へ］

関連項目

- 「残り時間目安の見方」 p.80
- 「光源寿命」 p.81
- 「本機仕様」 p.264
- 「節電メニュー」 p.217
- 「プロジェクターのイベントスケジュールを設定する」 p.189

残り時間目安の見方

［一定モード］をオンにしたときは、明るさを一定に保つことができる時間の目安として［残り時間目安］が表示されます。



表示レベル	残り時間目安
▮▮▮▮▮	10,000時間以上
▮▮▮▮▯	8,000～9,999時間
▮▮▮▯▯	6,000～7,999時間
▮▮▯▯▯	4,000～5,999時間
▮▯▯▯▯	2,000～3,999時間

表示レベル	残り時間目安
▮▮▮▮▮	0〜1,999時間

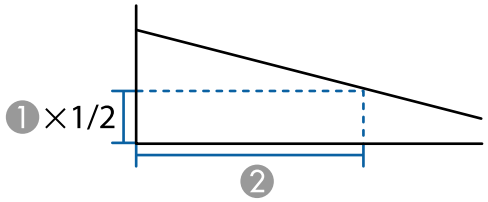
［残り時間目安］に表示される時間は目安です。

光源寿命

光源寿命の目安は、［明るさレベル］の設定や［一定モード］のオン/オフによって異なります。

- 光源寿命はお使いの環境によって異なります。
- 以下に示す時間は目安であり、保証期間ではありません。
- 使用時間が20,000時間を超えた場合は、本機内部の部品交換が必要となることがあります。
- ［一定モード］がオンのときに、以下に示す目安時間を超えて使用した場合は、［明るさレベル］の設定を高くすることはできません。

一定モードがオフの場合

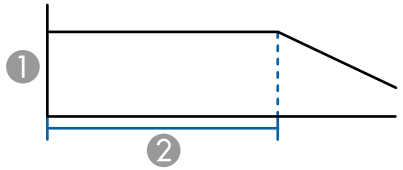


❶ 明るさレベル

❷ 光源の明るさが半減するまでの時間（目安）

明るさレベルの設定	時間
100%	20,000時間
90%	21,000時間
80%	24,000時間
70%	30,000時間

一定モードがオンの場合



❶ 明るさレベル

❷ 光源の明るさを一定に保つことができる時間（目安）

明るさレベルの設定	時間
90%	6,000時間
80%	10,000時間
70%	19,000時間

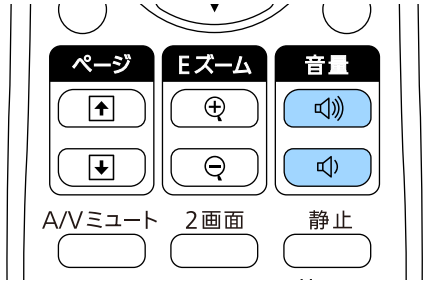
音量ボタンで音量を調整する

音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。

プロジェクターに接続している外部スピーカーの音量も調整できます。

音量は接続した入力ソースごとに調整する必要があります。

1. 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。
2. リモコンの【音量】ボタンを押して音量を調整します。



音量調節画面が表示されます。

3. メニューから音量を調整するときは、［設定］メニューの［音量］を設定します。設定値は入力ソースごとに保持されます。

> **⚠ 注意**
>
> 初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。
>
> 電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

» 関連項目

- 「設定メニュー」 p.199

インタラクティブ機能を使用する

インタラクティブ機能の使い方について説明します。

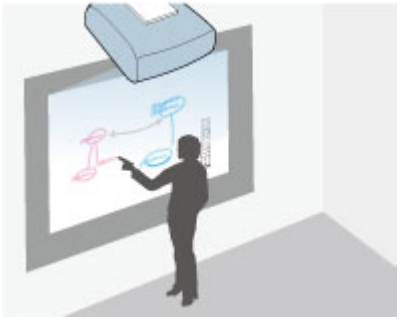
関連項目

- 「インタラクティブ機能でできること」 p.84
- 「インタラクティブ機能をご使用になる前に」 p.86
- 「投写映像に描画する（アノテーションモード）」 p.97
- 「ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード）」 p.99
- 「投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作）」 p.101
- 「インタラクティブ機能を活用する」 p.107
- 「ネットワーク経由でインタラクティブ機能を利用する」 p.114
- 「Windowsのペン入力とインクツール」 p.116
- 「2画面投写時にインタラクティブ機能を利用する」 p.118
- 「2台のプロジェクターから投写した画面でインタラクティブ機能を利用する」 p.120

インタラクティブ機能を使うと、以下のことができます。

・インタラクティブ機能は、EB-710UTでのみ使用できます。

- ペンまたは指を使って、ホワイトボードのような無地の投写画面に描画できます（ホワイトボードモード）。

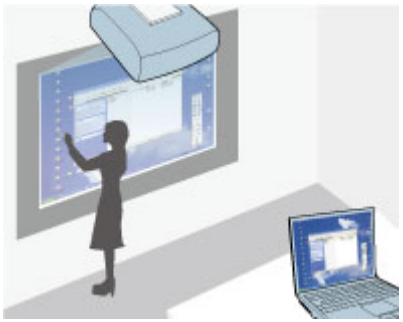


特定のアプリケーションソフトをインストールしたり、コンピューターを接続したりしなくても、プロジェクター内蔵のホワイトボード機能を使って描画できます。会議でホワイトボードの代わりに使用すると便利です。 描画した内容を保存、印刷、配信することもできます。

- ペンまたは指を使って、コンピューター、タブレット端末、書画カメラなどから投写した資料に注釈を書き込めます（アノテーションモード）。

重要なポイントを強調したり補足を書き込んだりして、効果的な授業やプレゼンテーションを実現できます。 注釈を書き込んだ画面を保存、印刷、配信することもできます。

- ペンまたは指を使って、投写画面でコンピューターを操作できます（マウス操作）。コンピューターのマウスと同じように、クリックやドラッグ＆ドロップなどができます。



同梱の描画アプリケーションソフト Easy Interactive Toolsを使っても、描画した内容を保存したり印刷したりして、インタラクティブ機能をより活用できます。機能の詳細については、ソフトに同梱の『Easy Interactive Tools操作ガイド』をご覧ください。

関連項目

- 「投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作）」 p.101
- 「投写映像に描画する（アノテーションモード）」 p.97
- 「ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード）」 p.99

インタラクティブ機能を安全にお使いいただくための注意事項について説明します。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

関連項目

- 「インタラクティブ機能を安全にお使いいただくために」 p.86
- 「インタラクティブペンを使う」 p.86
- 「指を使って操作する」 p.92

インタラクティブ機能を安全にお使いいただくために

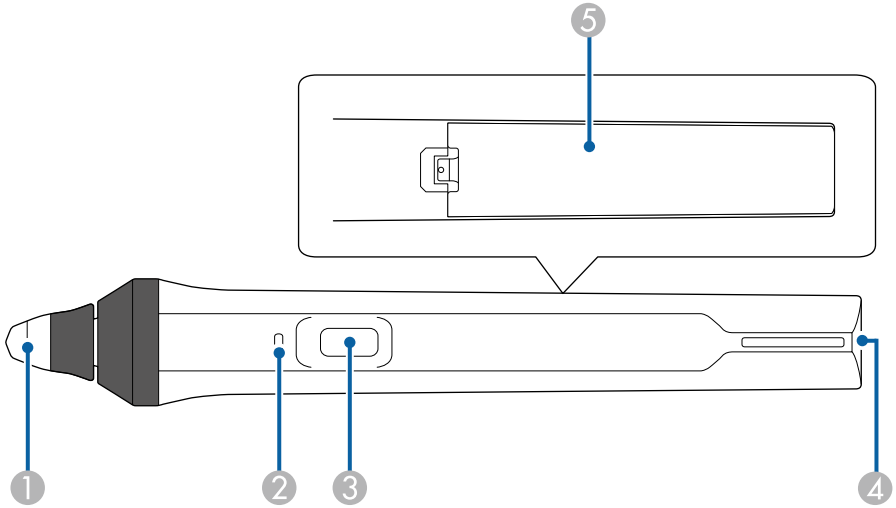
インタラクティブ機能は赤外線通信により動作します。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

- 本機のインタラクティブペン受光部や投写画面に、強い光や太陽光が直接当たらないようにしてください。
- インタラクティブペン受光部にホコリが付着すると、赤外線受信の妨げとなり、正常に使用できないことがあります。インタラクティブペン受光部が汚れたら掃除をしてください。
- インタラクティブペン受光部のカバーには、塗装やシールの貼付けをしないでください。
- 赤外線リモコンや赤外線マイクロホンを同じ部屋で使用すると、インタラクティブペンが誤動作することがあります。
- 回転機や変圧器など、強いノイズを発生する機器を本機に近づけないでください。インタラクティブ機能を使用できなくなることがあります。

インタラクティブペンを使う

本機には2種類のペンが同梱されており、ペン後方部の色が異なります（オレンジと青）。色の異なるペンは2本同時に使用できます。

ペンの電源をオンにする前に、電池が入っていることを確認します。



1. ペン先
2. バッテリーインジケーター
3. ボタン
4. ストラップホール
5. 電池カバー

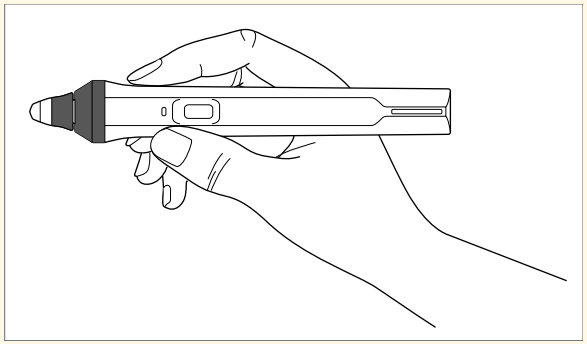
ペンを持つと電源が入ります。

ペンを使い終わったら、投写画面から離れた場所に置いてください。

注意

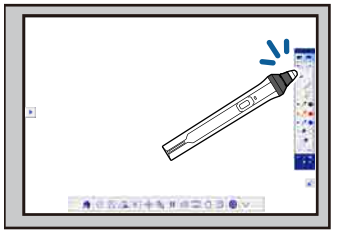
- 濡れた手でペンを使用したり、直接水のかかる場所で使用したりしないでください。ペンは防滴仕様ではありません。
- 太陽光が直接当たる場所には、プロジェクターやスクリーンを設置しないでください。太陽光がプロジェクターやスクリーンに直接当たると、インタラクティブ機能が正しく動作しない場合があります。

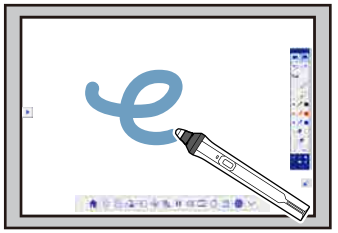
- ペンを置くと15秒後に自動的に電源が切れます。ペンを持つと再び電源が入ります。
- ペンが正しく動作するよう、次の図のように投写面に対してペンを垂直に持ってください。また、ペン先の黒い部分を持たないでください。



インタラクティブペンを使って次のことができます。

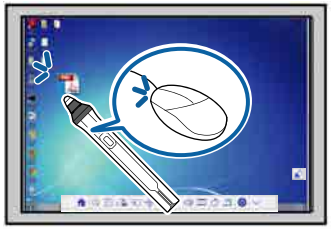
- ホワイトボードモードまたはアノテーションモードでは、以下の操作ができます。

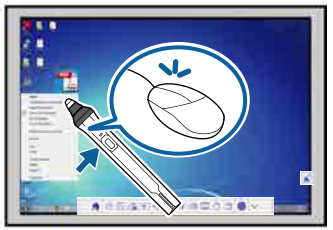




  - アイコンなどを選択するには、ペン先を投写面に押し当てます。
  - 投写面に描画するには、ペン先を押し当てて動かします。
  - ポインターを移動するには、ペン先を投写面から浮かせて動かします。これをホバリングと呼びます。
  - ペン先の機能を描画ツールから消しゴムに切り替えるには、ペン側面のボタンを押します。［拡張設定］メニューで設定した機能に切り替えるときも、ペン側面のボタンを押します。

    ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［ペンボタン動作］
- ペンをマウス操作として使用しているときは、以下の操作ができます。





  - クリックするには、投写面にペン先を押し当ててすぐに離します。

- ダブルクリックするには、ペン先を2回押し当てます。
- 右クリックするには、ペン側面のボタンを押します。
- ドラッグ＆ドロップするには、移動したいアイコン等の上にペン先を押し当てて、投写面から離さずに移動し、移動先でペン先を離します。
- カーソルを移動するには、ペン先を投写面から浮かせて動かします。これをホバリングと呼びます。

- ホバリング機能は［拡張設定］メニューの［ホバリング］で無効にできます。
  ☛［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［ホバリング］
- ペン先の長押しを右クリックとして使用したいときは、［拡張設定］メニューで以下を設定します。
  - ［ペン動作モード］を［モード2］に設定する。
    ☛［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［ペン動作モード］
  - ［右クリック通知］を［オン］にする。
    ☛［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［右クリック通知］

関連項目

- 「ペン位置合わせ」 p.88
- 「自動位置合わせ」 p.88
- 「手動位置合わせ」 p.90
- 「プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン」 p.21

ペン位置合わせ

ペン位置を正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。位置合わせは、プロジェクターを初めて使うときに必要です。

ペン位置合わせは、［自動位置合わせ］で行います。［自動位置合わせ］に失敗したときや微調整が必要なときは、［手動位置合わせ］を行います。

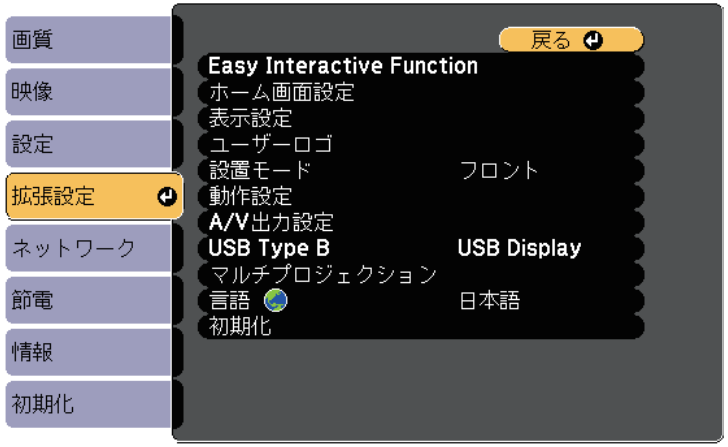
- ペン位置合わせをするときは、使用していないペンを投写画面から離してください。
- ペン位置合わせを行った後、以下の操作を行うと、位置がずれることがあります。位置ずれが気になるときは、再度ペン位置合わせを行ってください。
  - 幾何学歪み補正を行ったとき
  - 映像のサイズを調整したとき
  - デジタル ピクチャーシフトを行ったとき
  - プロジェクターの投写位置が変わったとき
- ペン位置合わせの結果は、再度ペン位置合わせを行うまで保持されます。

自動位置合わせ

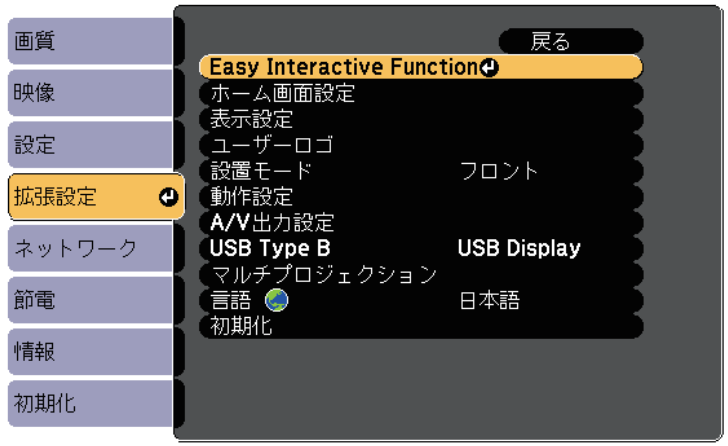
プロジェクターを初めて使用するときは、ペン位置合わせを行う必要があります。［自動位置合わせ］には、ペンやコンピューターは必要ありません。

［自動位置合わせ］は、リモコンの【ユーザー】ボタンを押しても開始できます。

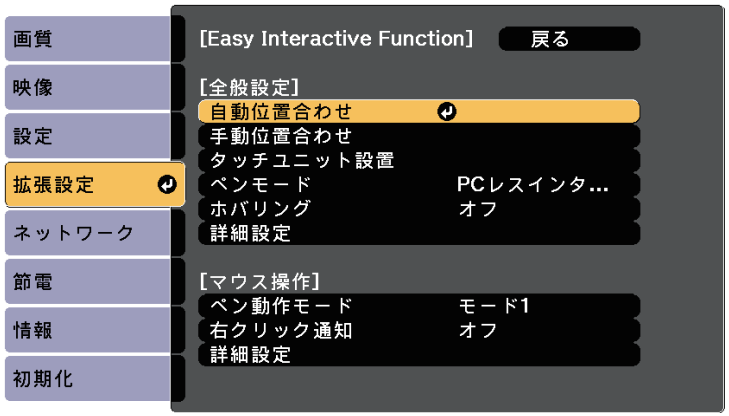
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］メニューを選択して、【決定】ボタンを押します。



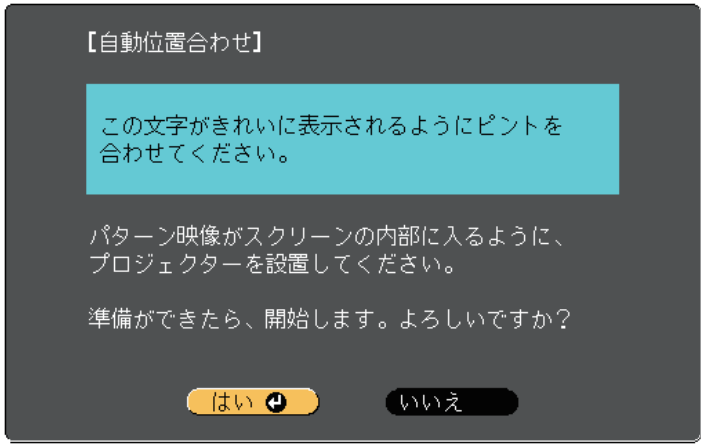
2 ［Easy Interactive Function］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［自動位置合わせ］を選択し、【決定】ボタンを押します。



次の画面が表示されます。



4 必要に応じて、プロジェクターの側面にあるエアフィルターカバーを開け、フォーカスレバーを操作してピントを合わせます。

5 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

パターン映像が投写され、ペン位置合わせが始まります。自動位置合わせに失敗したときは、エラーメッセージが表示されます。手動位置合わせを行ってください。

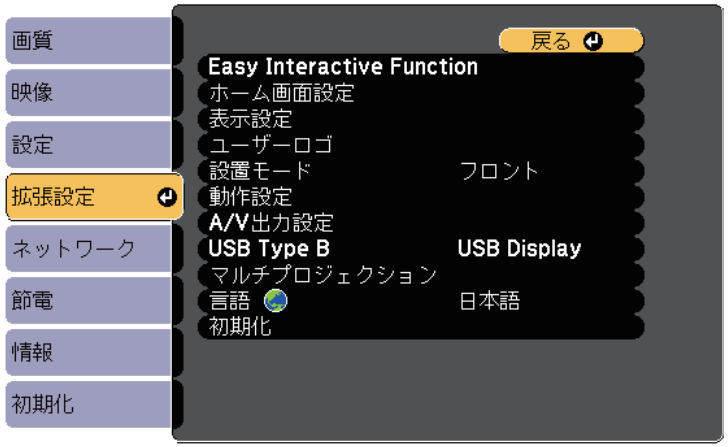
位置合わせ後は、ペンを押し当てた位置と描画される位置が合致します。合っていないときは、手動位置合わせを行ってください。

手動位置合わせ

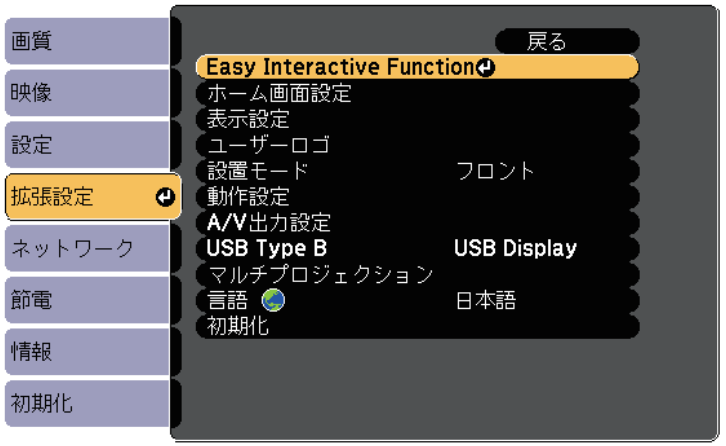
自動位置合わせを行っても、ペンを押し当てた位置と描画される位置がずれるときは、手動位置合わせを行います。

円形に曲がった壁に投写するときは、手動位置合わせを行ってください。

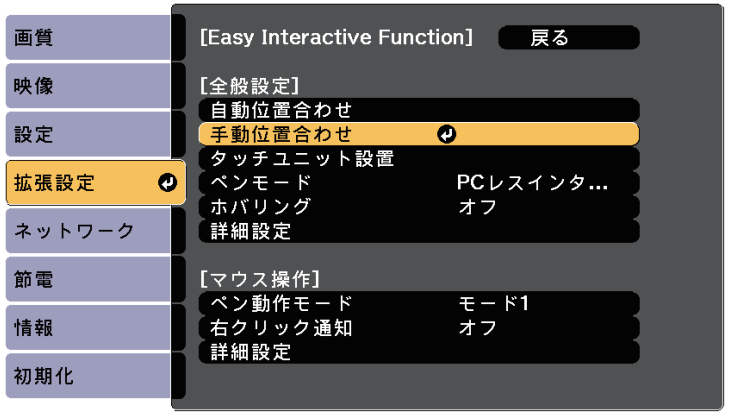
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］メニューを選択して、【決定】ボタンを押します。



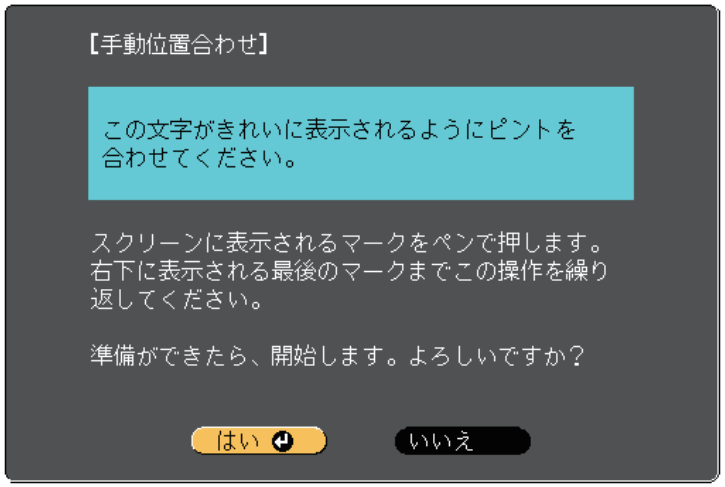
2 ［Easy Interactive Function］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［手動位置合わせ］を選択し、【決定】ボタンを押します。



次の画面が表示されます。

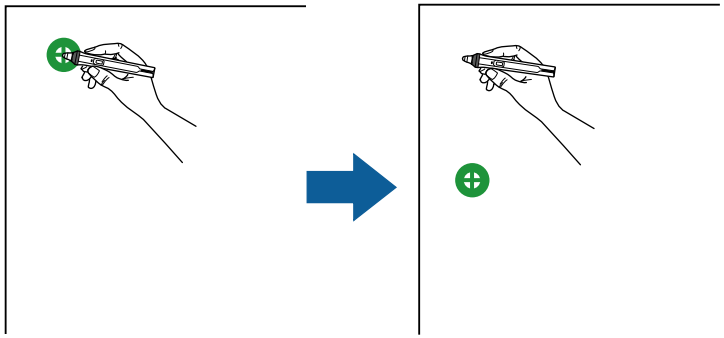


4 必要に応じて、プロジェクターの側面にあるエアフィルターカバーを開け、フォーカスレバーを操作してピントを合わせます。

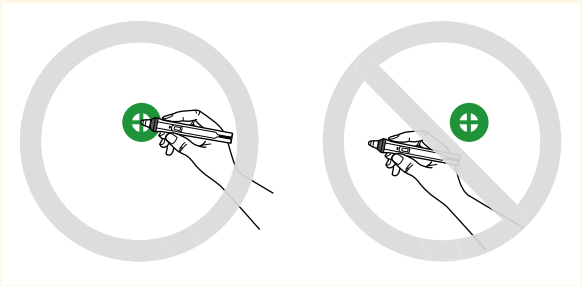
5 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。
投写画面の左上に緑色のドットが表示されます。

6 ドットの中心をペン先で押します。

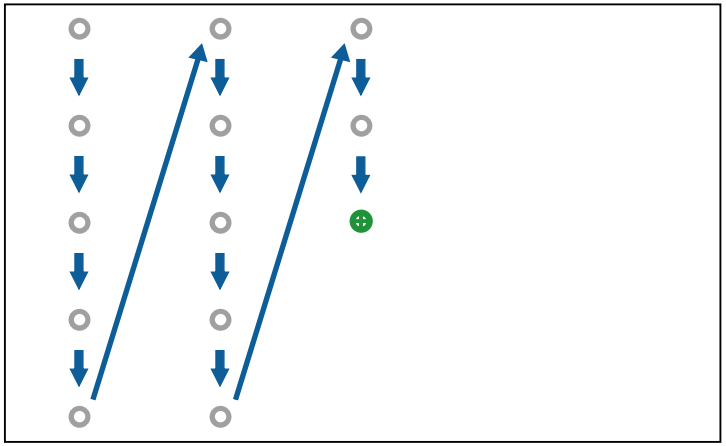
ドットが消えて次の位置に移動します。



必ずドットの中心を押してください。中心以外を押すと位置ずれの原因となります。



7 次のドットの中心をペン先で押します。この操作を繰り返します。ドットはスクリーンの左上から右下に向かって、順番に表示されます。



- ペンとインタラクティブペン受光部との間に障害物がないことを確認してください。
- 押す位置を間違えたときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押して1つ前のドットに戻ります。
- 中止するときは、【戻る】ボタンを2秒間押し続けます。

8 すべてのドットが消えるまで、繰り返します。

指を使って操作する

インタラクティブペンと同じように、投写画面で指を使ってタッチ操作ができます。インタラクティブペンと指は同時に使用できます。

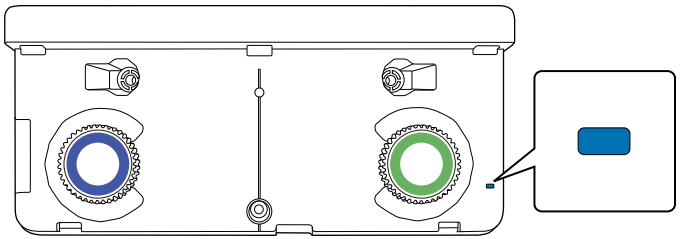
マウス操作では、最大6点までのタッチ操作を認識します。アノテーションモードおよびホワイトボードモードでは、2本の指で操作ができます。

指での操作を始める前に、次の設定が完了していることを確認します。

- タッチユニットの取り付け
- 手動位置合わせ
- タッチユニットの角度調整
- 指タッチ位置合わせ

詳しくは、『設置工事説明書』をご覧ください。

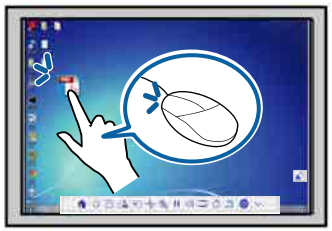
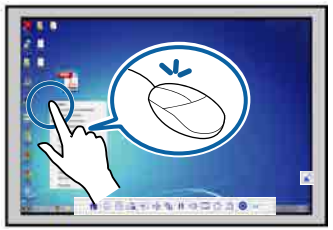
プロジェクターの電源を入れると、タッチユニットの電源がオンになります。インジケーターが青色に点灯すると、指での操作が可能になります。



- タッチユニットの電源がオンにならないときは、以下をご確認ください。
  - ［タッチユニット設置］の［電源］が［オン］に設定されている。
    ☛［拡張設定］＞［Easy Interactive Function］＞［タッチユニット設置］＞［電源］
  - タッチユニットと本機のTCH端子が、タッチユニット接続ケーブルで接続されている。
- 指の向きや角度により、タッチ操作の位置がずれることがあります。
- 付け爪やマニキュア、包帯などをしている指で操作すると、正しく動作しないことがあります。
- 指同士またはペン同士、あるいはその両方が近い場合、または複雑に交差する動きの場合は、複数の指を正しく認識しないことがあります。
- 衣服の袖や身体の一部がスクリーンに近づいたり接触したりすると、誤動作する場合があります。
- 投写面内に手をついて描画や操作を行うと、誤動作する場合があります。

次の操作ができます。

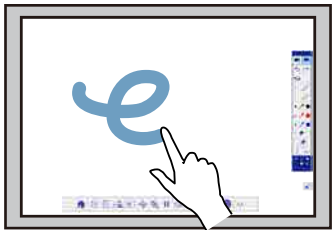
- 指をマウス操作として使用しているときは、以下の操作ができます。

- クリックするには、投写面に指先を押し当ててすぐに離します。
- ダブルクリックするには、指先を2回押し当てます。
- ドラッグ＆ドロップするには、移動したいアイコンなどの上に指を押し当てて、投写面から離さずに移動し、移動先で指を離します。

- お使いの機器が以下の操作に対応しているときは、投写画面からも同様の操作ができます。
  - 画像を拡大・縮小するには、投写面上を2本の指で触れ、指の間隔を広げたり（拡大）近づけたり（縮小）します。
  - 画像を回転するには、投写面上を2本の指で触れ、そのまま回します。
  - ページ送りをしたり、ブラウザー上で画面を切り替えるには、指ではじきます（フリック操作）。
- 複数の指でそれぞれ異なるツールを選択することはできません。

- ホワイトボードモードまたはアノテーションモードでは、以下の操作ができます。



- アイコンなどを選択するには、指先を投写面に押し当ててすぐ離します。
- 描画をするには、ツールバーからペンを選択し、指先を投写面に押し当てて動かします。本機の電源をオンにしてから初めて指タッチ操作を行うときは、消しゴムが選択されています。

関連項目

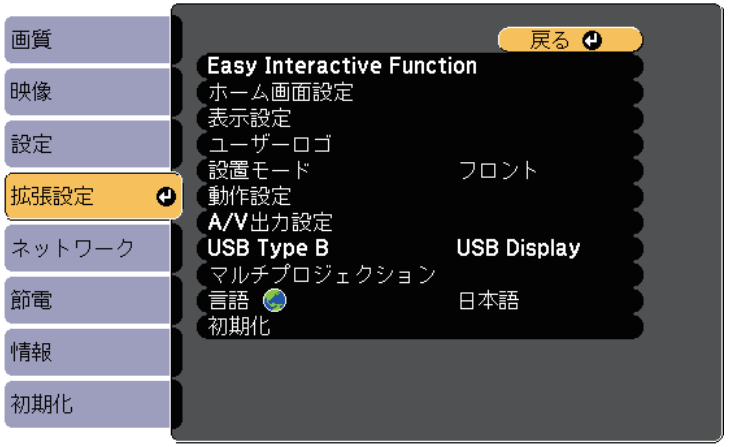
- 「指タッチ位置合わせ」 p.94
- 「指での操作を安全に行っていただくために」 p.96

指タッチ位置合わせ

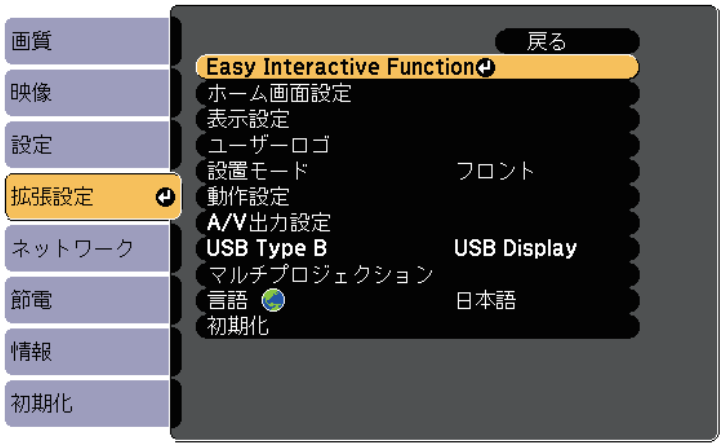
指の位置を正しく認識させるために、必ず指タッチ位置合わせを行ってください。指を押し当てた位置と描画される位置がずれるときは、再度指タッチ位置合わせを行います。

- 指タッチ位置合わせは、タッチユニットを設置したときに行います。詳しくは、『設置工事説明書』をご覧ください。
- 指タッチ位置合わせの前に、インタラクティブペンの［自動位置合わせ］または［手動位置合わせ］が終了していることを確認してください。
- 指タッチ位置合わせを行った後に以下の操作を行うと、位置がずれることがあります。位置ずれが気になるときは、再度指タッチ位置合わせを行ってください。
  - インタラクティブペンの自動位置合わせまたは手動位置合わせを行ったとき
  - タッチユニットの角度調整を行ったとき
  - 幾何学歪み補正を行ったとき
  - 映像のサイズを調整したとき
  - デジタル ピクチャーシフトを行ったとき
  - プロジェクターの投写位置が変わったとき

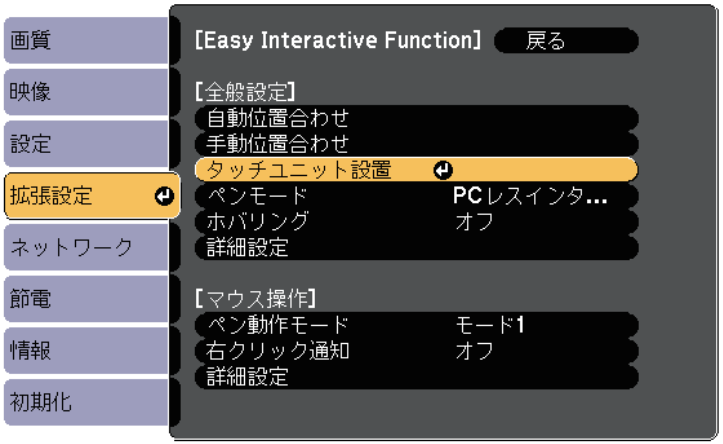
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



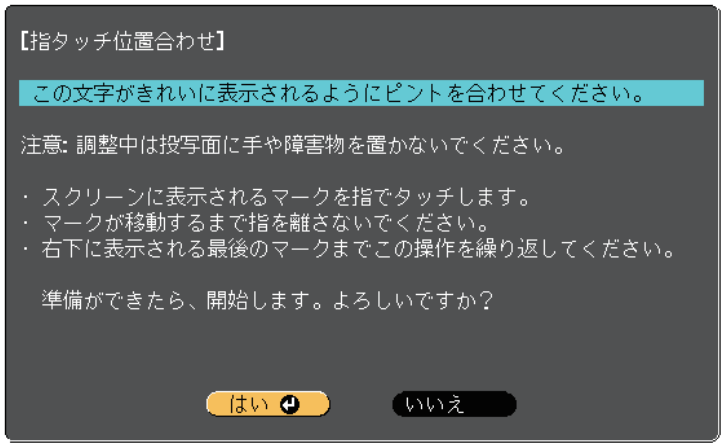
2 ［Easy Interactive Function］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［タッチユニット設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。



次の画面が表示されます。

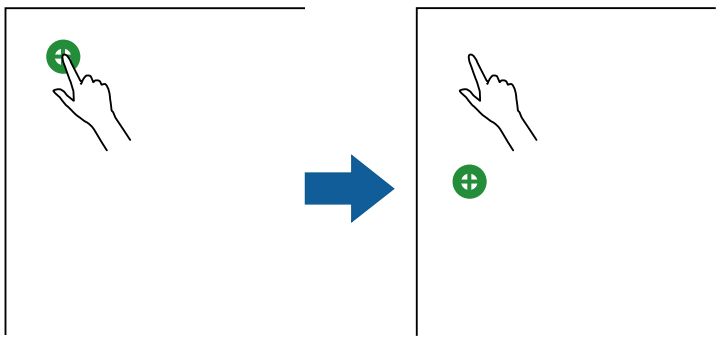


4 ［指タッチ位置合わせ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 必要に応じて、プロジェクターの側面にあるエアフィルターカバーを開け、フォーカスレバーを操作してピントを合わせます。

6 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。
投写画面の左上に緑色のドットが表示されます。

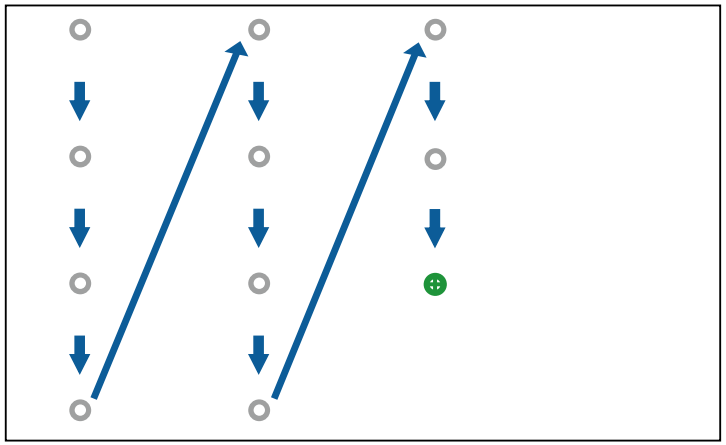
7 ドットの中心を指で押してください。ドットが消えて次の位置に表示されたら、指を離します。



- 必ずドットの中心を押してください。中心以外を押すと位置ずれの原因となります。

- 手の甲など、指以外の場所が触れないようにしてください。

8 次のドットの中心を指で押します。この操作を繰り返します。ドットはスクリーンの左上から右下に向かって、順番に表示されます。



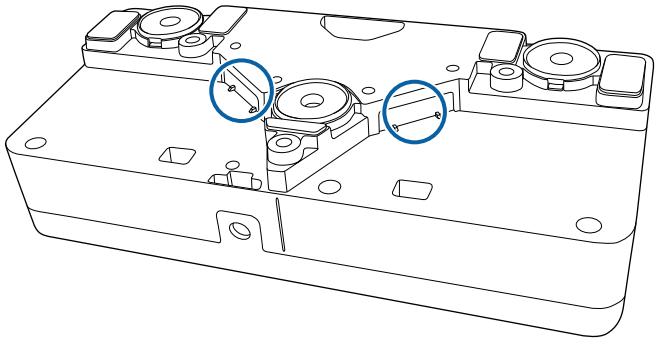
- 指とインタラクティブペン受光部との間に障害物がないことを確認してください。
- 押す位置を間違えたときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押してください。
- 指タッチ位置合わせを中止するときは、【戻る】ボタンを2秒間押します。

9 すべてのドットが消えるまで、繰り返します。

指での操作を安全に行っていただくために

タッチユニットに組み込まれた高出力レーザーによって、指での操作を可能にします。

レーザー光は、タッチユニット背面のレーザー照射口から照射されます。



関連項目

- 「レーザー警告ラベル - タッチユニット」 p.273

投写映像に描画する（アノテーションモード）

アノテーションモードでは、コンピューター、タブレット端末、ビデオ機器などから投写した資料に、ペンまたは指を使って注釈を書き込めます。

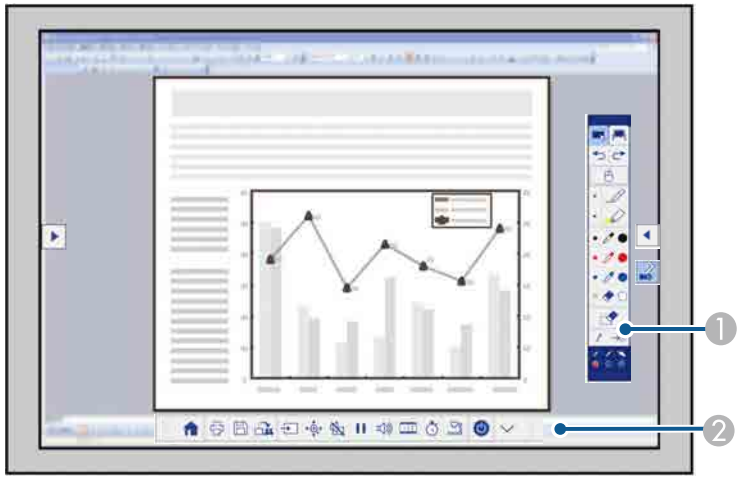
- 2本のペンを同時に使用できます。
- 2本のペンと指2本を同時に使用することもできます。
- 事前にインタラクティブペンや指タッチの位置合わせをする必要があります。

1 接続機器から映像を投写します。

2 ペンを投写画面に近づけます。または、指で投写画面に触れます。

3 描画するには、◀ または ▶ ツールバータブを押します。

投写画面に次のようなツールバーが表示されます。



❶ 描画ツールバー

❷ 下段ツールバー

ツールバーが表示されたら、インタラクティブペンや指を使って投写画面に書き込みができます。

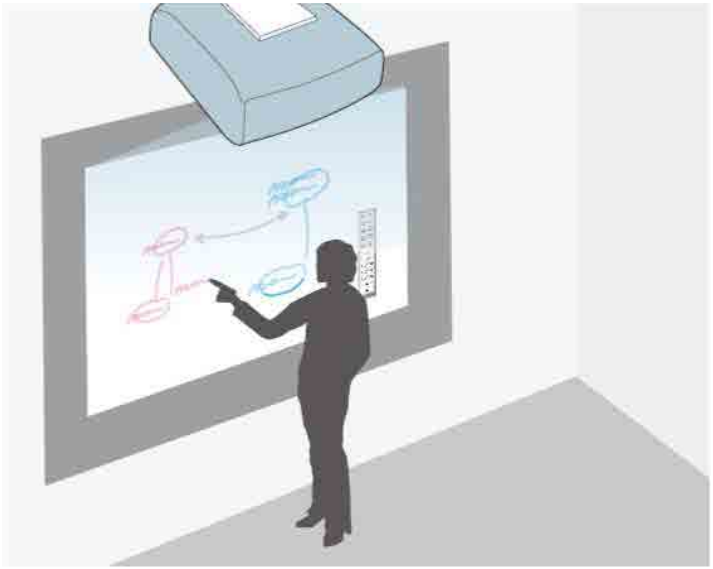
描画ツールバーには、描画用のペンや消しゴムなどの機能があります。

下段ツールバーには、プロジェクターの制御や投写画面の保存などの機能があります。

- 下段ツールバーを使うと、投写画面からプロジェクターを操作できます。下段ツールバーが表示されないときは、 ツールバータブを押します。
- および ツールバータブは上下に移動できます。 ツールバータブは左右に移動できます。

関連項目

- 「アノテーションモード/ホワイトボードモードのツールバー」 p.108
- 「下段ツールバー（プロジェクター制御）」 p.110



ホワイトボードのような無地の背景を投写して、ペンまたは指を使って投写画面に描画できます。

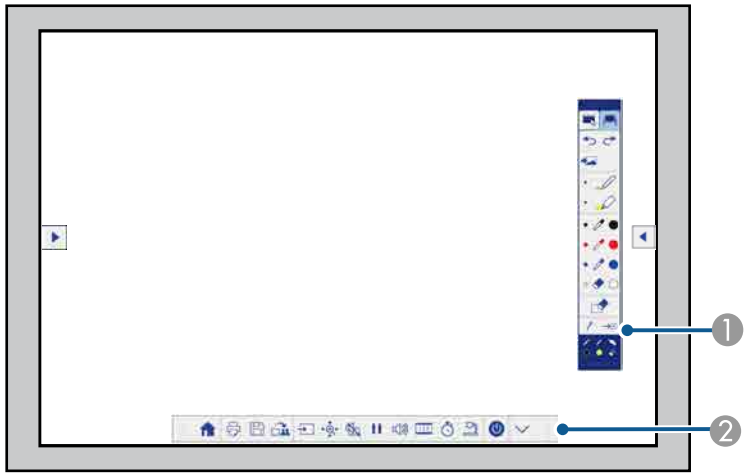
- 2本のペンを同時に使用できます。
- 2本のペンと指2本を同時に使用することもできます。
- 事前にインタラクティブペンや指タッチの位置合わせをする必要があります。

1 ペンを投写画面に近づけます。または、指で投写画面に触れます。

2 または ツールバータブを押します。
ツールバーが表示されます。

3 ツールバーの アイコンを押します。

次のようなホワイトボード画面とツールバーが表示されます。



1. 描画ツールバー
2. 下段ツールバー

ツールバーが表示されたら、インタラクティブペンや指を使って投写画面に書き込みができます。

描画ツールバーには、描画用のペンや消しゴムなどの機能があります。

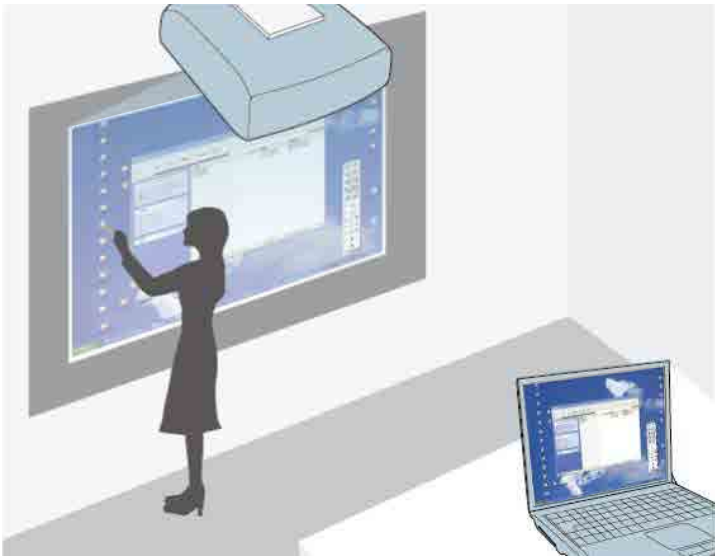
下段ツールバーには、プロジェクターの制御や投写画面の保存などの機能があります。

- 下段ツールバーを使うと、投写画面からプロジェクターを操作できます。下段ツールバーが表示されないときは、 ツールバータブを押します。
- および ツールバータブは上下に移動できます。 ツールバータブは左右に移動できます。

同梱の描画アプリケーションソフトEasy Interactive Toolsを使うと、さらに多くの機能を使うことができます。機能の詳細については、『Easy Interactive Tools操作ガイド』をご覧ください。

関連項目

- 「アノテーションモード/ホワイトボードモードのツールバー」 p.108
- 「下段ツールバー（プロジェクター制御）」 p.110



本機とコンピューターをUSBケーブルで接続すると、インタラクティブペンまたは指を使って、投写画面上でコンピューターを操作できます。コンピューターのマウスと同じように、クリックやドラッグ＆ドロップなどができます。

- Windows 7以降でマルチディスプレイのセカンダリディスプレイを投写してインタラクティブ機能を使用するときは、以下の設定を行ってください。
  - ［拡張設定］メニューの［Easy Interactive Function］で、［ペン動作モード］を［モード1］に設定する
  - コンピューターの［コントロール パネル］ > ［ハードウェアとサウンド］ > ［Tablet PC 設定］ > ［セットアップ］からセットアッププログラムを起動して、インタラクティブ機能を設定する

  3台のディスプレイを使用しているときは、3番目のディスプレイではインタラクティブ機能を使用できません。
  また、複数の画面から同時に描画できません。
- ネットワーク経由でマウス操作をするには、Epson iProjection (iOS/Android)をコンピューターにインストールする必要があります。

関連項目

- 「マウス操作機能の動作条件」 p.101
- 「マウス操作機能を使う」 p.102
- 「ペン操作エリアを調整する」 p.104
- 「Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ）」 p.106

マウス操作機能の動作条件

マウス操作機能を使用するには、お使いのコンピューターのOSが以下のいずれかである必要があります。

Windows	Windows Vista Service Pack 2 • Ultimate（32ビット） • Enterprise（32ビット） • Business（32ビット） • Home Premium（32ビット） • Home Basic（32ビット）
	Windows 7 Service Pack 1 • Ultimate（32/64ビット） • Enterprise（32/64ビット） • Professional（32/64ビット） • Home Premium（32/64ビット）
	Windows 8 • Windows 8（32/64ビット） • Windows 8 Pro（32/64ビット） • Windows 8 Enterprise（32/64ビット）
	Windows 8.1 • Windows 8.1（32/64ビット） • Windows 8.1 Pro（32/64ビット） • Windows 8.1 Enterprise（32/64ビット）
	Windows 10 • Windows 10 Home（32/64ビット） • Windows 10 Pro（32/64ビット）
Mac	OS X • OS X 10.7.x • OS X 10.8.x • OS X 10.9.x • OS X 10.10.x • OS X 10.11.x macOS • 10.12.x
Ubuntu	Ubuntu • 16.04 LTS • 16.10 • 17.04 • 17.10

マウス操作機能を使う

マウス操作機能を使って、投写画面上からコンピューターを操作できます。

1 Macで初めてインタラクティブ機能を使うときは、コンピューターにEasy Interactive Driverをインストールします。

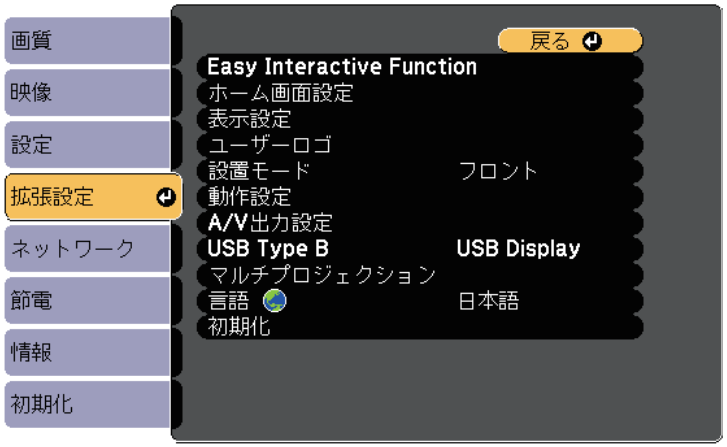
2 USBケーブルを使用してプロジェクターとコンピューターを接続します。

> • ネットワーク経由でマウス操作機能を使用するときは、USBケーブルは不要です。

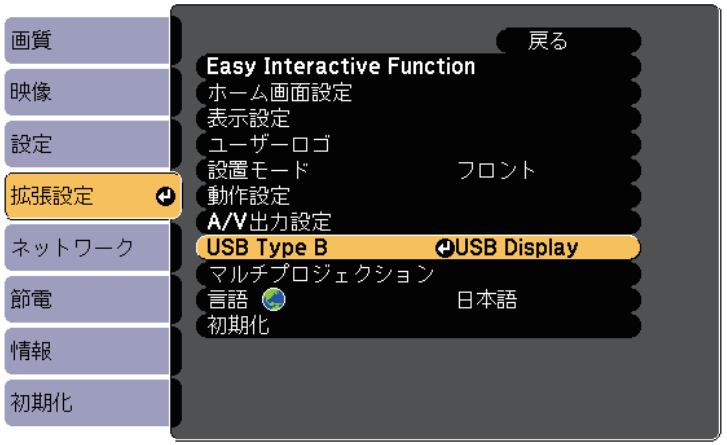
3 本機の電源を入れます。

4 コンピューターの画面を投写します。

5 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



6 ［USB Type B］を選択し、【決定】ボタンを押します。

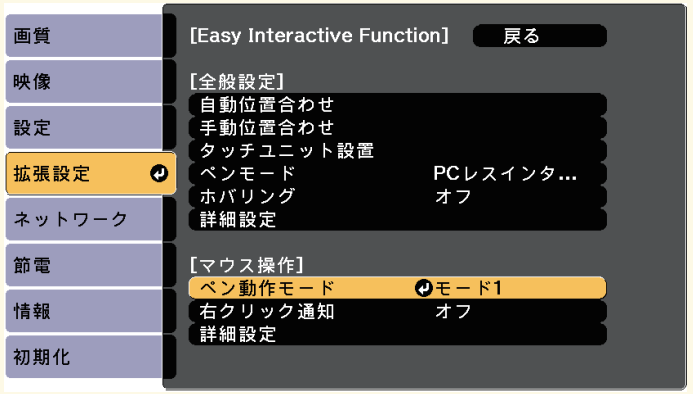


7 次のいずれかを選択します。

- コンピューターケーブル、HDMIケーブル、ネットワーク経由で投写している場合は、［Easy Interactive Function］を選択します。
- USB Displayで投写している場合は、［USB Display/Easy Interactive Function］を選択します。

- USB Displayで投写しているときは、操作に対する反応が遅くなることがあります。
- 2本のインタラクティブペンを同時に使用すると、ご使用のアプリケーションソフトによっては干渉が起こることがあります。インタラクティブペンを投写画面から遠ざけてください。
- 接続しているコンピューターのOSに合わせて、［拡張設定］メニューの［Easy Interactive Function］で、［ペン動作モード］を選択します。

☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［ペン動作モード］



8 【メニュー】ボタンを押して終了します。

9 プロジェクターを初めて使うときは、必ず位置合わせを行ってください。

10 インタラクティブペンを投写画面に近づけます。または、指で投写画面に触れます。

アイコンが投写画面の右側に表示されます。

- 初めて使用するときは、 アイコンは右側に表示されます。2回目以降は、最後に開いた場所に表示されます。
- アイコンが表示されていない場合は、［拡張設定］メニューから［ペンモードアイコン］の設定を［オン］にします。
  ☛［拡張設定］＞［表示設定］＞［ペンモードアイコン］

11 アイコンを選択して、 アイコンを選択します。

以下の方法でもマウス操作に切り替えられます。
- リモコンの【ペンモード】ボタンを押す。
- ［拡張設定］メニューで、［ペンモード］を［マウス操作］に変更する。
  ☛［拡張設定］＞［Easy Interactive Function］＞［ペンモード］

ペンまたは指を使ってコンピューターの操作ができます。以下の操作もできます。

- Windows 7またはWindows Vistaでタブレット PCの入力パネルを使用する。
- Microsoft Officeアプリケーションで、インクツールを使用する。

» 関連項目

- 「Windowsのペン入力とインクツール」 p.116
- 「ペン位置合わせ」 p.88
- 「Easy Interactive Driverシステム動作条件」 p.269
- 「Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ）」 p.106
- 「ネットワーク経由でインタラクティブ機能を利用する」 p.114
- 「指タッチ位置合わせ」 p.94

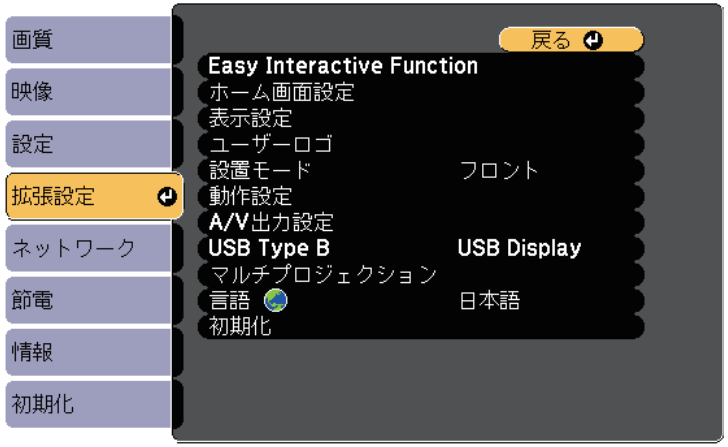
ペン操作エリアを調整する

接続するコンピューターを変えたときや、コンピューターの解像度が変わったときは、ペン操作エリアが自動調整されます。投写画面からコンピューターを操作しているときに（マウス操作）、ペンの位置ずれが気になるときは、操作エリア手動調整を行います。

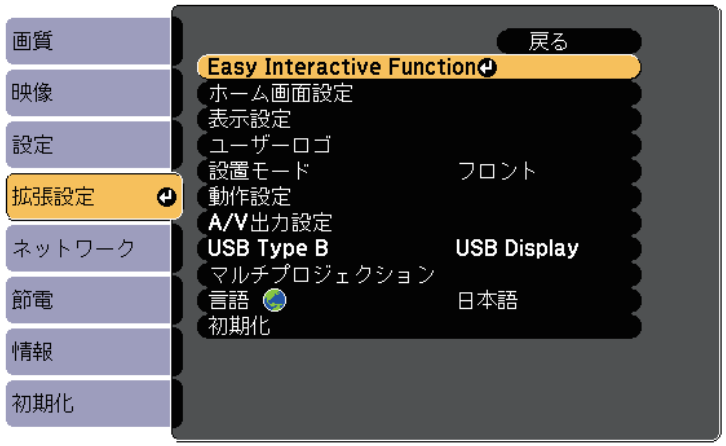
ネットワーク経由で映像を投写しているときは、調整できません。

1 必要に応じて、マウス操作に切り替えます。

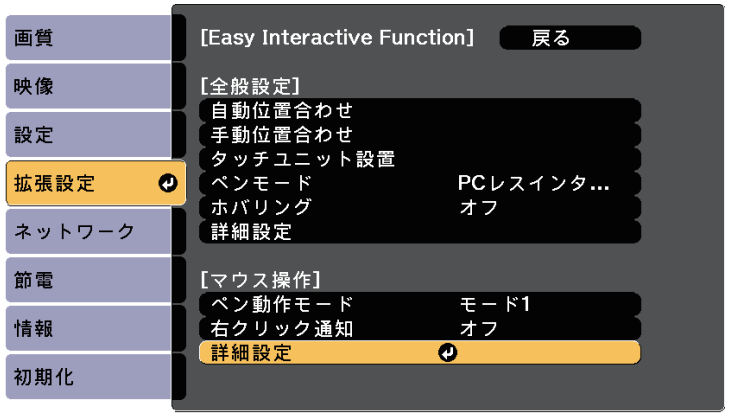
2 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



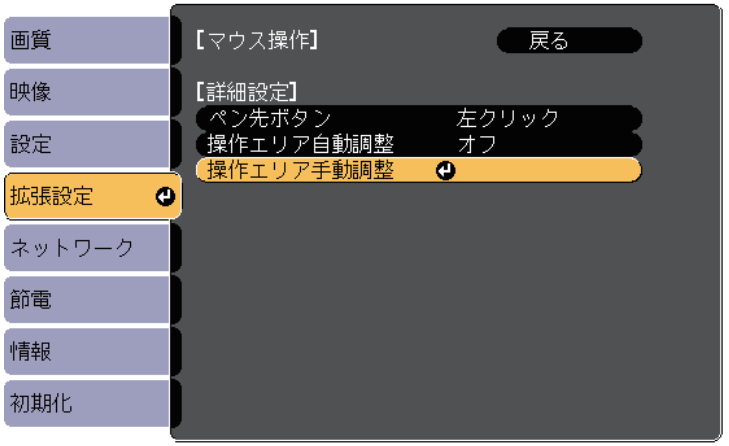
3 ［Easy Interactive Function］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［マウス操作］から［詳細設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

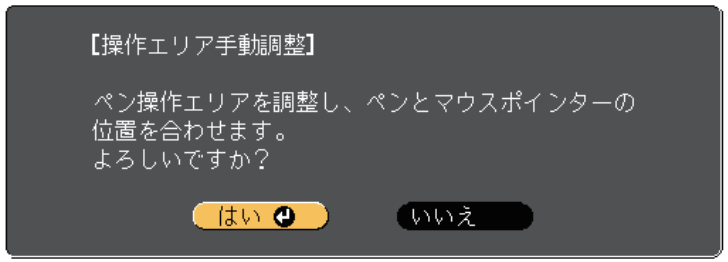


5 ［操作エリア手動調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。



［操作エリア自動調整］が［オン］に設定されているときは、［オフ］に変更してください。

6 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。



マウスポインターが左上に移動します。

7 左上で停止したマウスポインターの先端を、ペンで押します。
マウスポインターが右下に移動します。

8 右下で停止したマウスポインターの先端を、ペンで押します。

関連項目
- 「マウス操作機能を使う」 p.102

Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ）

マウス操作機能を使用するには、お使いのコンピューターにEasy Interactive Driverをインストールします。

Easy Interactive Toolsを［おすすめインストール］でインストールしたときは、Easy Interactive DriverはEasy Interactive Toolsと一緒にインストールされているので、以下の操作は不要です。機能の詳細については、『Easy Interactive Tools操作ガイド』をご覧ください。

1 コンピューターの電源を入れます。

2 コンピューターにEPSON Projector Software for Easy Interactive Function CD-ROMをセットします。
EPSONウィンドウが表示されます。

3 EPSONウィンドウで［Install Navi］アイコンをダブルク リックします。

4 ［カスタムインストール］を選択します。

5 画面の指示に従って、インストールを進めます。

6 コンピューターを再起動します。

以下の手順に従って、投写映像に描画したり、プロジェクターを操作したりします。

関連項目

- 「インタラクティブ機能のモードを切り替える」 p.107
- 「アノテーションモード/ホワイトボードモードのツールバー」 p.108
- 「下段ツールバー（プロジェクター制御）」 p.110

インタラクティブ機能のモードを切り替える

インタラクティブ機能のモードは、簡単に切り替えられます。

- マウス操作とアノテーションモードを切り替えるには、次のアイコンのいずれかを選択します。
  - アノテーションモードからマウス操作に切り替えるとき

  - マウス操作からアノテーションモードに切り替えるとき

- アノテーションモードとホワイトボードモードを切り替えるには、ツールバーの上部にあるアイコンのいずれかを選択します。

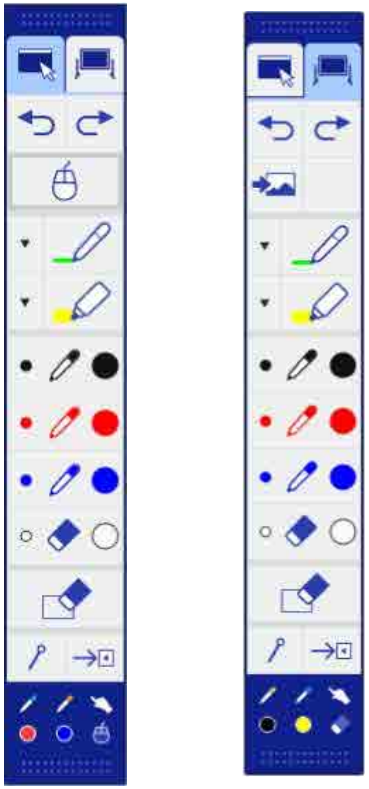
- 以下の方法でもモードを切り替えられます。
  - リモコンの【ペンモード】ボタンを押す。
  - プロジェクターの［拡張設定］メニューで［ペンモード］を［PCレスインタラクティブ］または［マウス操作］に切り替える。

    ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［ペンモード］
- プロジェクターの［拡張設定］メニューの［USB Type B］が［ワイヤレスマウス/USB Display］に設定されている場合は、マウス操作に切り替えることができません。
- マウス操作に切り替えた後も、アノテーションモードで描画した内容は保持されます。

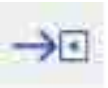
アノテーションモード/ホワイトボードモードのツールバー

ツールバーを使うと、投写画面に描画できます。アノテーションモードとホワイトボードモードを簡単に切り替えることもできます。

以下のイラストでは、左側にアノテーションモードのツールバーを、右側にホワイトボードモードのツールバーを示しています。



	アノテーションモードに切り替えます。
	ホワイトボードモードに切り替えます。
	1つ前の操作を元に戻します。
	元に戻す操作をキャンセルして、元に戻す前の状態にします。
	マウス操作に切り替えます。
	あらかじめ用意された6種類の背景パターンから、ホワイトボードの背景を選択できます。
	フリーハンドで描けるペンに切り替わります。 アイコンの左端にある をクリックすると、ペンの色と太さを設定できます。
	半透明の線を描ける蛍光ペンに切り替わります。 アイコンの左端にある をクリックすると、蛍光ペンの色と太さを設定できます。
	黒色のペンに切り替わります。アイコンの右側をクリックすると太い線、左側をクリックすると細い線が描けます。

	赤色のペンに切り替わります。アイコンの右側をクリックすると太い線、左側をクリックすると細い線が描けます。
	青色のペンに切り替わります。アイコンの右側をクリックすると太い線、左側をクリックすると細い線が描けます。
	消しゴムに切り替わります。アイコンの右側をクリックすると太い消しゴム、左側をクリックすると細い消しゴムになります。
	描画した内容をすべて消去します。
	描画中にツールバーの表示/非表示を切り替えます。 : 非表示 : 常に表示
	ツールバーを閉じます。
	インタラクティブペン や指 で使用中の機能を表示します。 : ペン使用中。アイコンの色は使用中のペンの色によって変わります。 : 消しゴム使用中。 : マウス操作中。

関連項目

- 「ペンの色と太さを選択する」 p.109
- 「背景を選択する」 p.110

ペンの色と太さを選択する

フリーハンドで描けるペンと蛍光ペンの、色と太さを選択できます。

1 それぞれのアイコンの左端にある を選択します。
次のようなボックスが表示されます。

2 ペンまたは蛍光ペンで使用したい色と太さを選択します。

- カラーパレットの上でホバリングすると、色の名前が表示されます。
- カラーパレットの色が見えにくいときは、［拡張設定］メニューで［カラーパレット］の設定を変更してください。
  ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［カラーパレット］

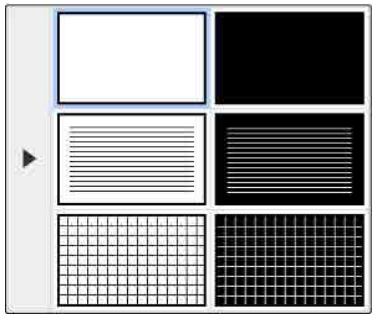
3 または を選択し、ペンまたは指を使って投写画面に描画します。

> 複数のペンで同時に描画するときは、それぞれのペンに異なる色と太さを設定できます。指を使うときは、全員が同じ色と太さになります。

背景を選択する

ホワイトボードモードでは、背景の色を変えたり、罫線や格子などの補助線を表示したりできます。

1 ホワイトボードモードで、 アイコンを選択します。
次のようなボックスが表示されます。



2 使用する背景のパターンを選択します。

下段ツールバー（プロジェクター制御）

下段ツールバーを使って、投写画面の印刷や保存、プロジェクターの操作ができます。

	ホーム画面を表示します。
	投写画面を印刷します。 HDCPで保護されたコンテンツは印刷できません。
	投写画面の内容を、プロジェクターに接続したUSBストレージに保存します。 HDCPで保護されたコンテンツは保存できません。
	現在表示中の画面を、Epson iProjectionを使って共有します。 HDCPで保護されたコンテンツは配信できません。
	入力ソースの一覧から投写する入力ソースを選択します。入力ソース一覧を非表示にするには、上部にある アイコンを選択します。

	投写映像を拡大/縮小します。
	映像と音声を一時的に遮断します。再開するには、投写画面をペンか指で押してください。
	映像を一時停止します。
	音量を調整します。
	2画面投写に切り替えます。2画面投写中に選択すると、2画面投写でインタラクティブ機能を使うための詳細な設定ができます。
	タイマーを表示します。

	書画カメラ操作用のツールバーを表示します。 以下の操作が可能です。 使用できる機能は、お使いの書画カメラの機種によって異なります。 ：ピント自動調整 ：映像の一時停止 ：映像の拡大、縮小 ：映像の180°回転 ：静止画の撮影 ：動画の録画 ：動画の再生 ：ツールバーの終了
	本機の電源をオフにします。
	下段ツールバーを閉じます。

関連項目

- 「描画内容を保存する」 p.112
- 「描画内容を印刷する」 p.112
- 「ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する」 p.112

描画内容を保存する

描画した内容を、プロジェクターに接続したUSBストレージに保存できます。JPG形式で保存できます。USBストレージに接続できないときはエラーになります。ファイル名は自動的に設定されます。

セキュリティ機能付きのUSBストレージには保存できません。

1 本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。

2 下段ツールバーの アイコンを選択します。
［はい］を選択して保存します。

描画内容を印刷する

描画した内容を印刷するには、［ネットワーク］メニューの［プリンター設定］でプリンターの設定をします。プリンターが接続されていないときはエラーになります。

印刷できるプリンターは以下のとおりです。*

制御コマンド	接続方法
ESC/P-R	ネットワーク経由
ESC/Page、ESC/Page-Color	
PCL6、PCL6 Mode 1、PCL6 Mode 2	

* 対応していないプリンターもあります。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

1 下段ツールバーの アイコンを選択します。
印刷画面が表示されます。

2 印刷する枚数を設定します（最大20枚）。

3 ［プリント］を選択します。

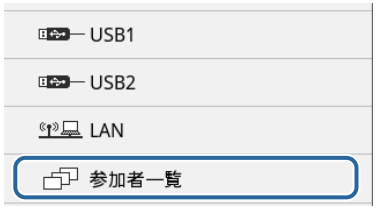
ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する

ネットワーク経由でプロジェクターに接続している機器の中から、目的の機器を選択して映像を投写できます。

Epson iProjection (Windows/Mac)を使用するコンピューターとEpson iProjection (iOS/Android)を使用するスマートフォンやタブレット端末から選択できます。

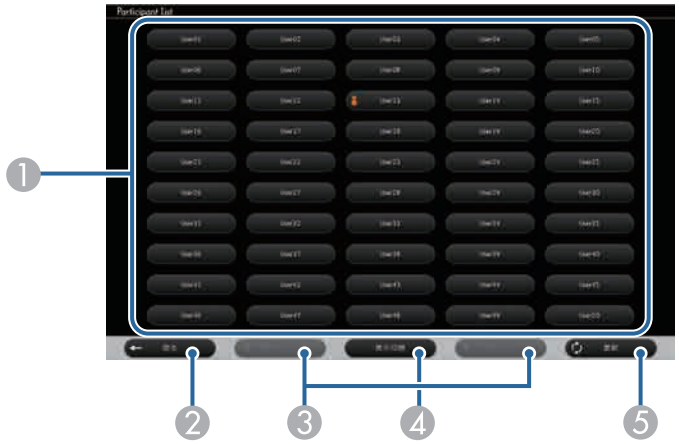
Epson iProjectionでモデレーター機能が有効になっていても、ネットワーク経由で接続している機器を自由に選択して投写できます。モデレーター機能について詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

1 下段ツールバーで アイコンを選択して、入力ソース一覧から［参加者一覧］を選択します。



ユーザー選択画面が表示されます。

2 投写する機器のユーザー名を選択します。



1. ネットワーク経由でプロジェクターに接続している機器のユーザー名を表示します。
   サムネイル表示にしているときは、各ユーザーの機器の画面がサムネイルで表示されます。
   画面を投写している機器のユーザー名の横には、 アイコンが表示されます。
2. ユーザー選択画面を閉じて前の画面に戻ります。
3. クリックして前後のページに移動します。
4. ユーザー選択画面の表示をサムネイル表示かアイコン表示に切り替えます。
5. ユーザー選択画面を更新します。
   ネットワーク経由で、新たにプロジェクターに接続したユーザーがいるときは、このボタンを選択してユーザー選択画面を更新します。

- ユーザー選択画面では、ペン2本と指1本を同時に使用できます。
- ユーザー選択画面の表示中は、次の操作はできません。
  - 投写する入力ソースを切り替える。
  - その他のインタラクティブ機能
  - 下段ツールバーからのプロジェクター操作
  - 複数のプロジェクターへの接続
  - プロジェクターからの音声出力（一時的に遮断されます）
  - Epson iProjectionを使用して映像を投写する。

選択したユーザーの画面が表示されます。

投写するユーザーを変更するには、この手順を繰り返します。

- Epson iProjection (Windows/Mac)で複数のプロジェクターに接続して同じ映像を投写しているときは（ミラーリング）、ユーザー選択画面を表示できません。
- ユーザー選択画面でペンまたは指を使った操作ができなくなったときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ってください。

ネットワーク経由でマウス操作機能が使用できます。

ネットワーク経由でコンピューターを操作しているときに描画するには、Easy Interactive Toolsまたはその他のインタラクティブ描画ソフトを使用する必要があります。Easy Interactive Toolsを使うと、さまざまな描画ツールを使用でき、描画した内容をページとして扱ったり、ファイルに保存して後から編集したりできます。Easy Interactive Toolsは、Epson Projector Software for Easy Interactive Function CD-ROMからインストールできます。また、 EpsonのWebサイトからダウンロードすることもできます。

プロジェクターをネットワークに接続して、ネットワーク経由でコンピューターを操作するには、Epson iProjection (Windows/Mac)を使用します。

［一般設定］タブの［インタラクティブペンを使用する］と ［パフォーマンス調整］タブの［レイヤードウィンドウの転送］を選択します。

詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

- 同時に使用できるペンまたは指の数は以下のとおりです。
  - Windows：ペン2本、指6本
  - Mac：ペン1本、または指1本
- ネットワーク経由でインタラクティブ機能を使用しているときは、ペンや指での操作に対する反応が遅くなることがあります。
- 環境設定メニューの［拡張設定］から［ペン動作モード］は変更できません。
- Epson iProjectionを使用すると、同時に4台までのプロジェクターに接続できます。複数のプロジェクターに同時に接続しているときは、いずれの投写画面からもマウス操作ができます。1台のプロジェクターで行ったマウス操作が他のプロジェクターにも反映されます。
- ネットワーク経由でコンピューターの映像を投写してアノテーションモードを使用するには、Epson iProjectionで、［一般設定］タブの［インタラクティブペンを使用する］および［パフォーマンス調整］タブの［レイヤードウィンドウの転送］のチェックを外してから、ネットワークに接続し直す必要があります。

関連項目

- 「サブネットの異なる場所にあるプロジェクターに接続する際のご注意」 p.114

サブネットの異なる場所にあるプロジェクターに接続する際のご注意

Epson iProjection (Windows/Mac)でサブネットの異なる離れた場所にあるプロジェクターに接続して、インタラクティブ機能を使用するときは、以下の点にご注意ください。

- プロジェクターのIPアドレスを指定してネットワーク上のプロジェクターを検索してください。プロジェクター名では検索できません。

- pingコマンドでネットワークプロジェクターとの接続を確認したときに、正しく応答することを確認してください。ルーターでインターネット制御通知プロトコル（ICMP）の設定を無効にしているときは、pingコマンドでの応答がなくても、離れた場所にあるプロジェクターに接続できる場合があります。
- 次のポートが開いていることを確認してください。

ポート	プロトコル	用途	通信
3620	TCP/UDP	接続・制御	双方向
3621	TCP	画像転送	双方向
3629	TCP	プロジェクター制御	双方向

- ルーターで、MACアドレスフィルタリングおよびアプリケーションフィルタリングが正しく設定されていることを確認してください。
- 拠点間の通信で帯域が管理されており、Epson iProjectionが制限を越えるときは、離れた場所にあるプロジェクターに接続できません。

上記の条件を満たすことで、Epson iProjectionでのサブネットの異なるプロジェクターへの接続を必ず保証するものではありません。導入を検討いただく際には、必ず、事前にお使いのネットワーク環境での接続を検証してください。

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7、またはWindows Vistaをお使いのときは、ペン入力とインクツールを使って手書きで入力したり、注釈を追加したりできます。

また、ネットワーク経由でインタラクティブ機能を利用しているときは、ネットワークを介してペン入力とインクツールを使用できます。

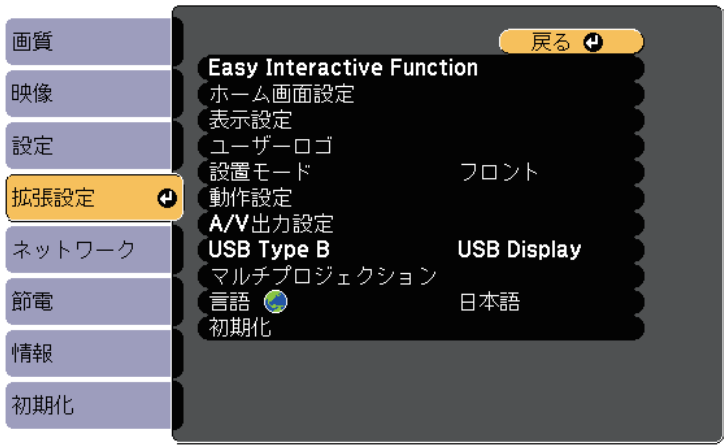
関連項目

- 「Windowsのペン入力とインク機能を有効にする」 p.116
- 「Windowsのペン入力とインク機能を使用する」 p.117

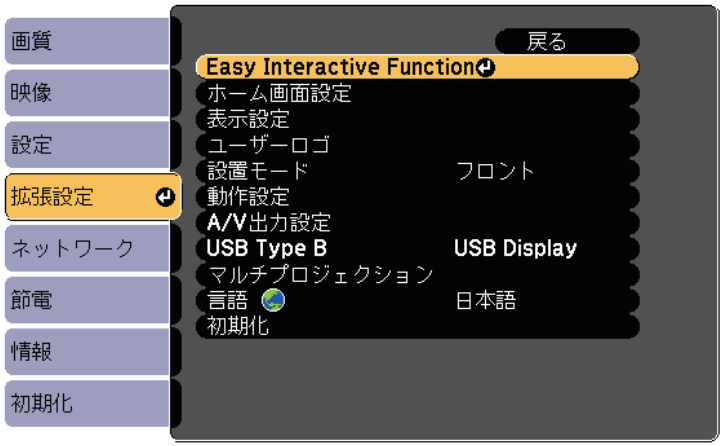
Windowsのペン入力とインク機能を有効にする

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7、またはWindows Vistaでペン入力とインク機能を使用するには、［拡張設定］メニューからペンの動作を設定します。

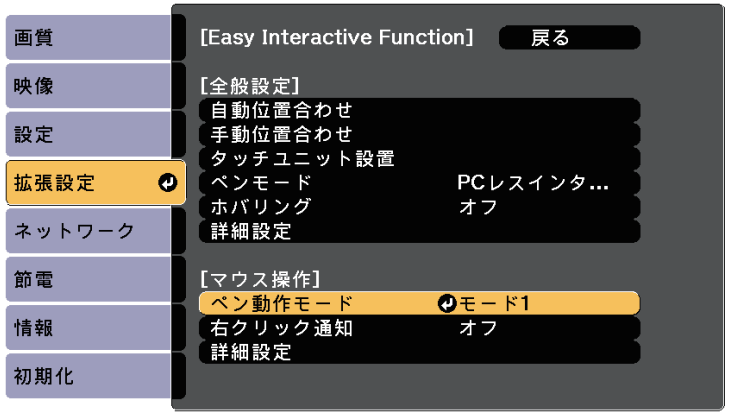
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］メニューを選択して、【決定】ボタンを押します。



2 ［Easy Interactive Function］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［ペン動作モード］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［モード1］を選択し、【決定】ボタンを押します。

Windowsのペン入力とインク機能を使用する

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7、またはWindows Vistaをお使いのときは、手書きで描画したり、手書き入力をテキストに変換したりできます。

Microsoft Office 2007以降では、インク機能を使って、Word、Excel、またはPowerPointのファイルに手書きで注釈を追加できます。

Microsoft Officeのバージョンにより、機能のオプション名が異なる場合があります。

- Windows 10でタッチキーボードを表示するには、タスクバーで右クリックまたは長押しして、［タッチキーボードのボタンを表示］を選択します。キーボードアイコンを選択します。
- Windows 8でタッチキーボードを表示するには、タスクバーで右クリックまたは長押しして、［ツールバー］ > ［タッチ キーボード］の順に選択します。キーボードアイコンを選択して、ペンアイコンを選択します。
- Windows 7またはWindows Vistaでタブレット PCの入力パネルを表示するには、 > ［すべてのプログラム］ > ［アクセサリ］ > ［Tablet PC］ > ［Tablet PC入力パネル］の順に選択します。

  ペンまたは指を使ってボックス内に書き込み、さまざまなオプションを使って、テキストを編集したり変換したりできます。
- Microsoft Officeアプリケーションでインク注釈を追加するには、［校閲］メニューから［インクの開始］を選択します。

  WordまたはExcelでは、［挿入］タブから［インクの開始］をクリックしてください。
- PowerPointのスライドショーに注釈を追加するには、投写面上でペンまたは指操作で右クリックをして、［ポインタ オプション］ > ［ペン］の順に選択します。

機能の詳細については、Windowsのヘルプをご覧ください。

2 つの入力ソースからの映像を1 つのスクリーンの左右に同時に投写して、インタラクティブ機能を利用できます。

投写画面をまたいで描画できます。

- マウス操作は、左右どちらか1画面でのみ使用できます。
- 描画できる範囲を枠で表示できます。2画面で投写中に、【メニュー】ボタンを押して、［描画エリア表示］を［オン］にしてください。
- 2画面で投写中にインタラクティブ機能を使用するときは、ペンや指の操作に対する反応が遅くなることがあります。

関連項目

- 「2画面投写に切り替える」 p.118
- 「2画面投写の設定をする」 p.118
- 「2つの映像を同時に投写する」 p.123

2画面投写に切り替える

下段ツールバーまたはリモコンから2画面投写に切り替えられます。ここでは、下段ツールバーからの操作を例に説明します。

1 下段ツールバーの アイコンを選択します。

2 左画面、右画面で投写する入力ソースをそれぞれ選択します。

組み合わせ可能な入力ソースのみを選択できます。

3 ［ソース切替実行］を選択します。

2画面投写の設定をする

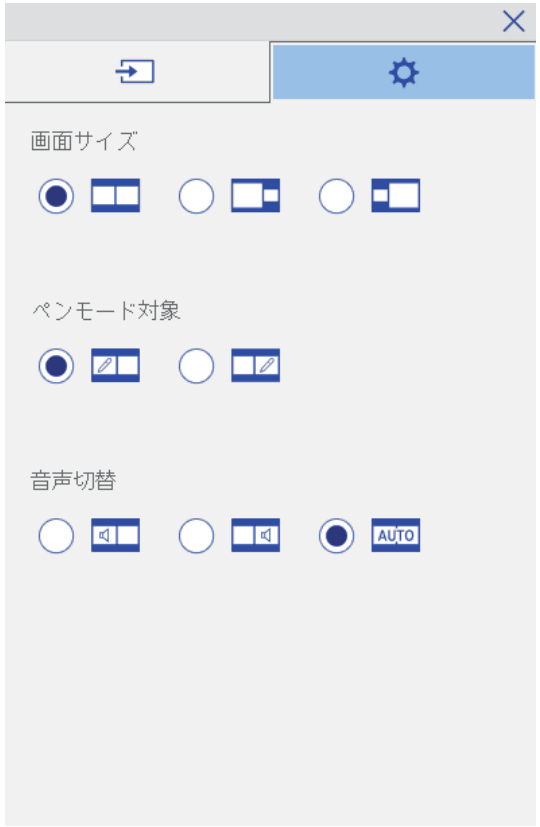
2画面投写時の設定を変更できます。

1 下段ツールバーの アイコンを選択します。

2画面設定画面が表示されます。

2 タブを選択します。

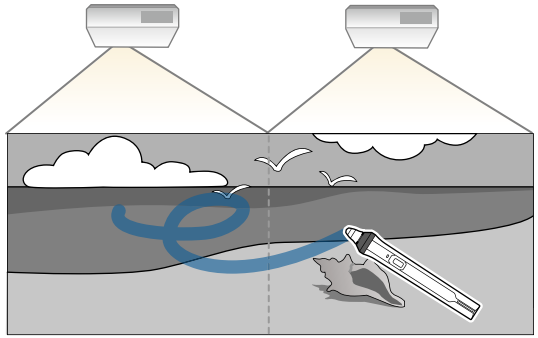
3 以下の設定をします。



- ［画面サイズ］：一方の画面を拡大して、もう一方の画面を縮小します。映像信号によっては、（［均等］）アイコンを選択しても左右の画面の大きさが一致しないことがあります。
- ［ペンモード対象］：ペンまたは指をマウスとして使用する画面を選択します。
- ［音声切替］：出力する音声を切り替えます。（［オート］）アイコンを選択すると、拡大している方の画面、または左画面の音声が出力されます。

4 を選択すると設定画面を終了します。

本機を2台並べて投写した画面でインタラクティブ機能を利用できます。同梱のEPSON Projector Software for Easy Interactive Function CD-ROMから、Easy Interactive Driver Ver. 4.0をインストールする必要があります。



2台のプロジェクターを並べて設置する方法については、『設置工事説明書』をご覧ください。

2つの画面をまたいで描画すると、正しく描画できないことがあります。

関連項目

- 「一時的に1台だけでインタラクティブ機能を利用する」 p.120
- 「複数台のプロジェクターから投写する（マルチプロジェクション機能）」 p.142
- 「複数台のプロジェクターを接続する」 p.40

一時的に1台だけでインタラクティブ機能を利用する

本機を2台並べて投写しているときに、一時的に1台だけでインタラクティブ機能を使えるように設定できます。ホーム画面でのみ設定できます。

1 リモコンの【ホーム】ボタン、または下段ツールバーの アイコンを押します。

ホーム画面が表示されます。

2 アイコンを選択します。

3 ［このプロジェクターのみ使用する］で［オン］を選択します。

4 ［閉じる］を押して、前の画面に戻ります。

一時的に1台だけでインタラクティブ機能を利用できるようになります。

本機の電源を切ると、［このプロジェクターのみ使用する］の設定は［オフ］に戻ります。

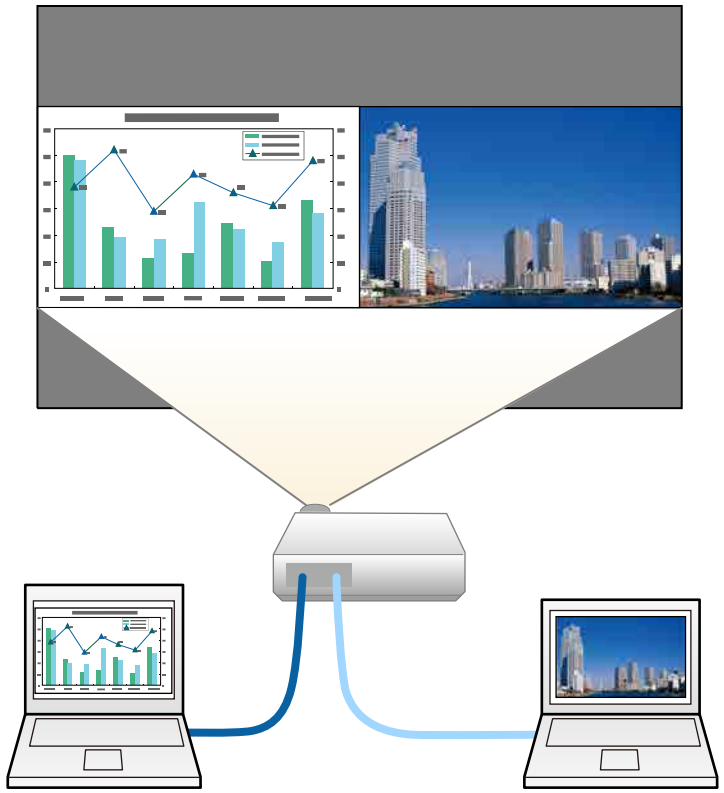
プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

関連項目

- 「2つの映像を同時に投写する」 p.123
- 「PC Free機能で投写する」 p.126
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.131
- 「映像を一時的に停止する」 p.132
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.133
- 「リモコンでコンピューターのマウス操作をする」 p.134
- 「リモコンでポインターを表示する」 p.136
- 「ユーザーロゴを設定する」 p.137
- 「ユーザーパターンを登録する」 p.140
- 「複数台のプロジェクターから投写する（マルチプロジェクション機能）」 p.142
- 「オプションのインターフェースボックスを使ってHDMI3端子の映像を投写する」 p.149
- 「セキュリティー機能」 p.151

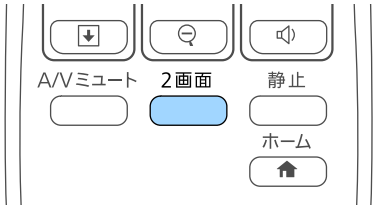
2画面機能を使用して、2つの機器の映像を同時に投写します。2画面機能はリモコンまたはメニューから実行できます。



- 2画面機能を使用しているときは、本機の一部の機能が使用できなかったり、一部の設定が自動的に両方の映像に適用されたりすることがあります。
- ［拡張設定］メニューで［ELPCB02を接続する］を［オン］に設定しているときは、2画面機能を使用できません（EB-710UT）。

  ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［ELPCB02を接続する］

1 リモコンの【2画面】ボタンを押します。

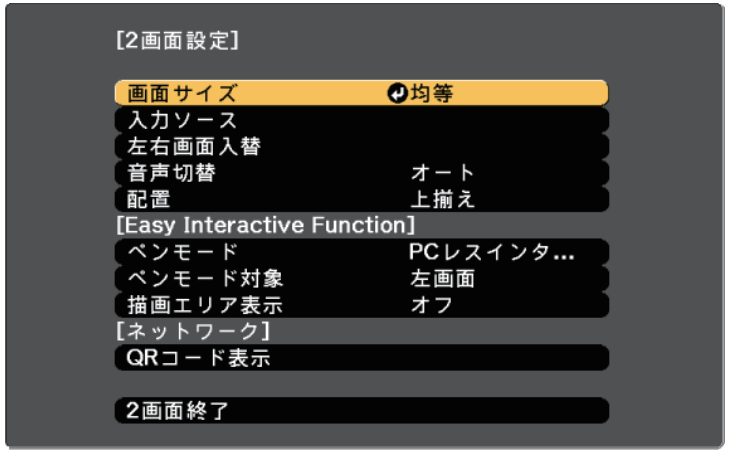


投写している入力ソースの映像が左画面に投写されます。

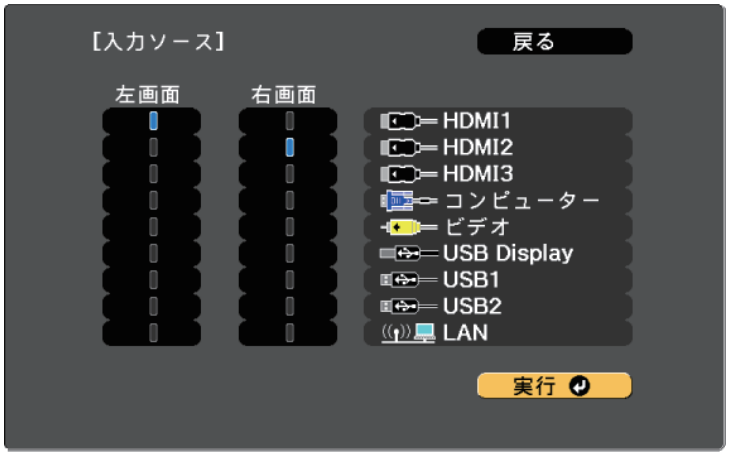
［設定］メニューの［2画面］からも同じ操作ができます。

2 【メニュー】ボタンを押します。

次の画面が表示されます。



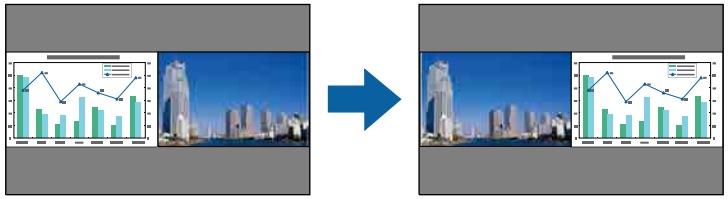
3 右画面に投写する入力ソースを選択するには、［入力ソース］を選択し、【決定】ボタンを押します。入力ソースを選択し、［実行］を選択して【決定】ボタンを押します。



- 組み合わせ可能な入力ソースのみを選択できます。
- 2画面で投写中は、リモコンで入力ソースを切り替える操作をしたときにも［入力ソース］画面が表示されます。

4 左右の映像を切り替えるには、［左右画面入替］を選択し、【決定】ボタンを押します。

投写映像の左右が入れ替わります。



5 一方の映像を縮小してもう一方の映像を拡大するには、［画面サイズ］を選択し、【決定】ボタンを押します。拡大する画面を選択し、【決定】ボタンを押します。設定を終了するには【メニュー】ボタンを押します。

映像信号によっては、［均等］を選択しても左右の映像の大きさが一致しないことがあります。

6 出力する音声を切り替えるには、［音声切替］を選択し、【決定】ボタンを押します。音声を出力する画面を選択し、【決定】ボタンを押します。設定を終了するには【メニュー】ボタンを押します。

［オート］を選択すると、拡大している方の画面、または左画面の音声が出力されます。

7 画面の位置揃えを変更するには、［配置］を選択し、【決定】ボタンを押します。変更したい設定を選択し、再度【決定】ボタンを押します。設定を終了するには【メニュー】ボタンを押します。

8 2画面機能を終了するには、【2画面】ボタンまたは【戻る】ボタンを押します。

関連項目

- 「2画面投写できない入力ソースの組み合わせ」 p.125
- 「2画面投写中の制限事項」 p.125
- 「2画面投写時にインタラクティブ機能を利用する」 p.118

2画面投写できない入力ソースの組み合わせ

以下の入力ソースの組み合わせでは、2画面投写はできません。

- コンピューターとビデオ
- USB DisplayとUSB1/USB2/LAN
- USB1/USB2とLAN
- USB1とUSB2

2画面投写中の制限事項

操作に関する制限事項

2画面で投写中は、以下の操作はできません。

- メニューの設定
- E-Zoom
- アスペクトモードの切り替え（アスペクトモードは［ノーマル］に設定されます。）
- リモコンの【ユーザー】ボタンでの操作
- ダイナミックコントラスト

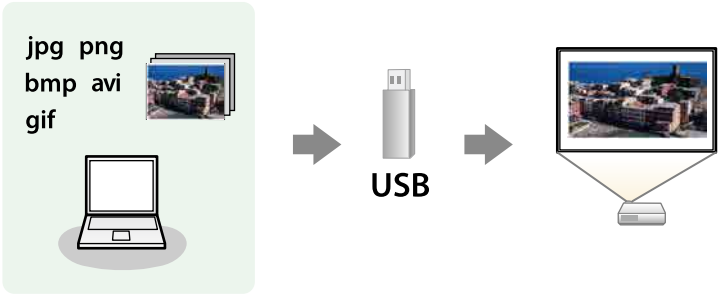
画質調整に関する制限事項

- ［画質］メニューで調整した設定（［明るさ］、［コントラスト］、［色の濃さ］、［色合い］、［シャープネス］）は左画面にのみ適用され、右画面には初期設定が適用されます。［カラーモード］や［色温度］など、映像全体に対する設定は、両方の画面に適用されます。
- 右画面では、［画質］メニューの［ノイズリダクション］は0に、［プログレッシブ変換］は［オフ］に設定されます。
  - ☛ ［画質］ > ［イメージ強調］ > ［ノイズリダクション］
  - ☛ ［画質］ > ［アドバンスト］ > ［プログレッシブ変換］
- 映像信号の未入力時にユーザーロゴを表示することはできません。ユーザーロゴを設定していても、青い画面が表示されます。

» 関連項目

- 「映像のアスペクト比を設定する」 p.71
- 「カラーモードを設定する」 p.73
- 「映像メニュー」 p.197
- 「設定メニュー」 p.199
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.133

PC Free機能は、USB機器を本機に接続して、保存されたファイルを投写できます。素早く簡単に映像を投写でき、リモコンから映像を操作することもできます。



関連項目

- 「サポートファイル形式」 p.126
- 「PC Free使用時の注意事項」 p.126
- 「PC Freeのスライドショーを開始する」 p.127
- 「PC Freeで動画を投写する」 p.129
- 「PC Freeの表示オプション」 p.130

サポートファイル形式

以下の形式のファイルをPC Freeで投写できます。

- FAT16/32でフォーマットされたUSB機器にファイルを保存してください。
- Windows以外のファイルシステムでフォーマットしたUSB機器で投写に問題があるときは、Windowsでフォーマットしてください。

ファイルの内容	ファイルタイプ（拡張子）	詳細
静止画	.jpg	以下のファイル形式は投写できません。 • CMYK形式 • プログレッシブ形式 • 高圧縮 • 解像度が8192 × 8192を超えるファイル
	.bmp	以下のファイル形式は投写できません。 • 解像度が1280 × 800を超えるファイル
	.gif	以下のファイル形式は投写できません。 • 解像度が1280 × 800を超えるファイル • アニメーションファイル
	.png	以下のファイル形式は投写できません。 • 解像度が1920 × 1200を超えるファイル
動画	.avi（Motion JPEGのみ）	AVI 1.0のみ投写できます。 以下のファイル形式は投写できません。 • PCM、ADPCM以外の音声コーデックで保存されたファイル • 解像度が1280 × 720を超えるファイル • サイズが2 GBを超えるファイル

PC Free使用時の注意事項

PC Free機能を使用するときは、以下の点に注意してください。

- USBキーとして使用しているUSBメモリーは、PC Free機能では使用できません。

- PC Freeで投写中は、USB機器を本機から取り外さないでください。PC Freeが正しく動作しなくなるおそれがあります。
- セキュリティー機能が搭載されているUSB機器は、使用できないことがあります。
- ACアダプターが付属されているUSB機器を接続するときは、ACアダプターを電源コンセントに接続してください。
- 市販のUSBカードリーダーの中には、本機で使用できないものもあります。
- 本機は、同時に5つまでのメディアを認識できます。
- PC Freeで投写中は映像のゆがみを補正できないため、PC Freeを実行する前に補正してください。
- 以下の機能はPC Freeで投写しているときでも使用できます。
  - 静止
  - A/Vミュート
  - E-Zoom
  - ポインター

関連項目

- 「映像を一時的に停止する」 p.132
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.131
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.133
- 「リモコンでポインターを表示する」 p.136

PC Freeのスライドショーを開始する

USB機器をプロジェクターに接続した後、入力ソースを切り替えてスライドショーを開始します。

- 画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押して、PC Freeの動作設定を変更したり、画面切替効果を追加したりできます。
- マウス操作に切り替えると、インタラクティブペンや指を使ってスライドショーを操作することもできます（EB-710UT）。

1 操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押します。［USB1］ を選択します。

PC Freeファイル一覧画面が表示されます。

- ドライブの選択画面が表示されたときは、上下左右ボタンでドライブを選択して、【決定】ボタンを押します。
- 別のUSBドライブの画像を表示するには、ファイル一覧画面上部の［ドライブの選択］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 以下の操作で投写するファイルを探します。

- USB機器のサブフォルダーにあるファイルを投写するときは、上下左右ボタンで該当のフォルダーを選択して、【決定】ボタンを押します。
- ひとつ上のフォルダーに戻るときは、［上へ戻る］を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 同一フォルダー内の表示されていないファイルを表示するには、［次のページ］または［前のページ］を選択して【決定】ボタンを押すか、リモコンの【ページ】送り/戻しボタンを押します。

3 以下のいずれかの操作でファイルを投写します。

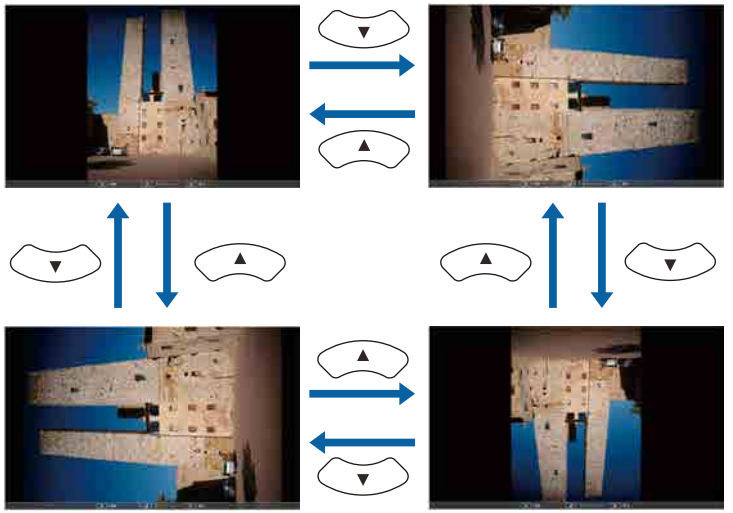
- 投写するファイルを1つずつ選択するときは、上下左右ボタンで画像を選択し、【決定】ボタンを押します。（ファイル一覧画面に戻るには、【戻る】ボタンを押します。）
- 同一フォルダー内のすべての画像をスライドショーで表示するには、上下左右ボタンで画面下部の［スライドショー］を選択し、【決定】ボタンを押します。

- 画像の切り替え時間を変更できます。画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押して、表示オプション設定画面で変更してください。
- ファイル名の文字数が表示幅を超える場合や、非対応の記号が含まれている場合は、PC Free機能ではファイル名が短縮または変更されます。

4 投写中は、以下の操作ができます。

- 画像の回転：上下ボタンを押して、画像を回転できます。

  インタラクティブペンや指（EB-710UT）で回転させるには、画像を回転方向に回すようにフリックします。



- 画像の送り戻し：左右ボタンを押して、表示中の画像の前または次の画像を表示します。

  インタラクティブペンや指（EB-710UT）で送り戻しするには、画像を送りたい方向にフリックします。

5 画像の投写を終了するときは、【戻る】ボタンを押します。

ファイル一覧画面に戻ります。

6 必要に応じてUSB機器の電源を切り、本機から取り外します。

関連項目

- 「PC Freeの表示オプション」 p.130
- 「USB機器を接続する」 p.37

PC Freeで動画を投写する

USB機器をプロジェクターに接続した後、入力ソースを切り替えて動画の投写を開始します。

- 画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押して、PC Freeの動作設定オプションを変更できます。

1 操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押します。［USB1］ を選択します。

PC Freeファイル一覧画面が表示されます。

- ドライブの選択画面が表示されたときは、上下左右ボタンでドライブを選択して、【決定】ボタンを押します。
- 別のUSBドライブの動画ファイルを表示するには、ファイル一覧画面上部の［ドライブの選択］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 以下の操作で投写するファイルを探します。

- USB機器のサブフォルダーにあるファイルを投写するときは、上下左右ボタンで該当のフォルダーを選択して、【決定】ボタンを押します。
- ひとつ上のフォルダーに戻るときは、［上へ戻る］を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 同一フォルダー内の表示されていないファイルを表示するには、［次のページ］または［前のページ］を選択して【決定】ボタンを押すか、リモコンの【ページ】送り/戻しボタンを押します。

3 上下左右ボタンでファイルを選択し、【決定】ボタンを押します。

- ファイル名の文字数が表示幅を超える場合や、非対応の記号が含まれている場合は、PC Free機能ではファイル名が短縮または変更されます。
- 同一フォルダー内のすべての動画を連続再生するには、画面下部の［スライドショー］を選択します。

4 投写を終了するときは、【戻る】ボタンを押し、［終了］を選択して【決定】ボタンを押します。

ファイル一覧画面に戻ります。

5 必要に応じてUSB機器の電源を切り、本機から取り外します。

関連項目

- 「PC Freeの表示オプション」 p.130
- 「USB機器を接続する」 p.37

PC Freeの表示オプション

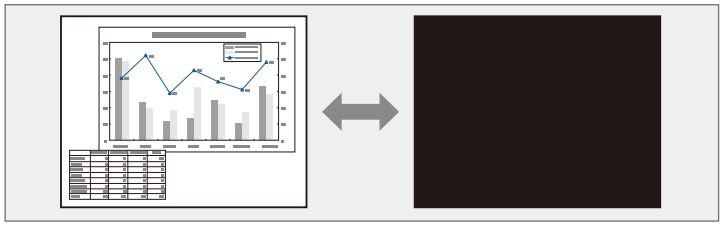
PC Freeでは、以下の表示オプションを設定できます。PC Freeファイル一覧画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押します。

設定	選択肢	説明
表示順序設定	ファイル名順	ファイル名順でファイルを表示
	更新日付順	更新日付順でファイルを表示
ソート方向	昇順	数字やアルファベットの小さい順にファイルを並べる
	降順	数字やアルファベットの大きい順にファイルを並べる
繰り返し再生	オン	スライドショーを連続表示
	オフ	スライドショーを1回のみ表示

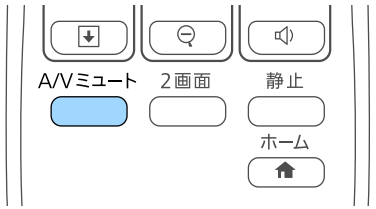
設定	選択肢	説明
表示時間設定	なし	画像の自動送りなし
	1秒～60秒	設定した秒数の間画像を表示した後、自動的に次の画像を表示（高解像度の画像は、設定秒数よりも切り替えが遅れることがあります）
画面切替効果	なし	切り替え効果なし
	ワイプ	画像の切り替え時にワイプ効果を入れる
	ディゾルブ	画像の切り替え時にディゾルブ効果を入れる
	ランダム	画像の切り替え時にランダム効果を入れる

映像と音声を一時的に遮断する

プレゼンテーション中に聴衆の関心を引きたいときなど、投写映像と音声を一時的に消すことができます。停止中も映像と音声は進んでいるため、停止した場面から投写を再開することはできません。



1 リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押して、映像と音声を一時的に遮断します。



2 投写を再開するときは、再度【A/Vミュート】ボタンを押します。

- A/Vミュートの実行後30分経過すると、自動的に本機の電源が切れます。この機能は、［節電］メニューで無効にできます。
  ☛ ［節電］ > ［A/Vミュートタイマー］

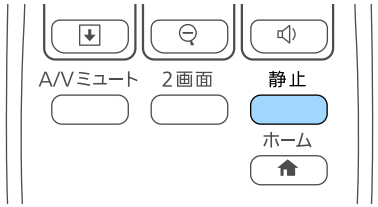
関連項目

- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「節電メニュー」 p.217

映像を一時的に停止する

動画やプレゼンテーションスライドを一時的に停止して、静止画像として投写します。停止中も映像と音声は進んでいるため、停止した場面から投写を再開することはできません。

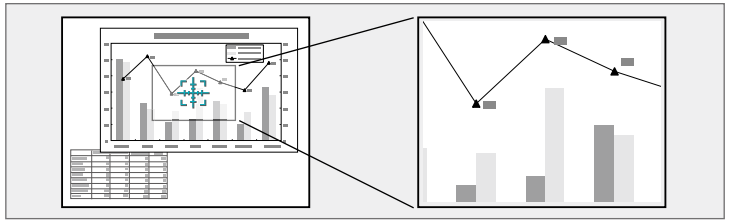
1 リモコンの【静止】ボタンを押して、動画を停止します。



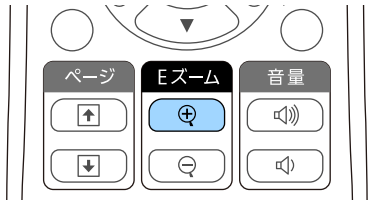
2 停止を解除するときは、再度【静止】ボタンを押します。

画面の一部を拡大表示する

映像の一部をズームして拡大表示することで、プレゼンテーションのポイントに注目させることができます。



1 リモコンの【Eズーム】（+）ボタンを押します。



ズームエリアの中心を示す十字カーソルが画面に表示されます。

2 以下の操作でズームエリアを決めてズームします。

- 十字カーソルの移動：上下左右ボタンでズームしたい位置に十字カーソルを移動します。隣り合う上下左右ボタンを2つ同時に押すと、十字カーソルを斜めに移動できます。
- ズームイン：【Eズーム】（+）ボタンを繰り返し押します。ズームインの速度を上げるには、【Eズーム】（+）ボタンを長押しします。
- ズームエリアの移動：ズームイン中に上下左右ボタンを押すと、ズーム表示エリアを移動できます。
- ズームアウト：【Eズーム】（-）ボタンを押します。
- ズーム解除：【戻る】ボタンを押します。

拡大された映像が投写され、拡大倍率が画面に表示されます。

1～4倍まで、25段階で拡大できます。

リモコンでコンピューターのマウス操作をする

本機のリモコンをコンピューターのワイヤレスマウスとして使用して、コンピューターの画面を操作できます。

> ワイヤレスマウス機能はWindows Vista以降とOS X 10.7.x以降で使用できます。

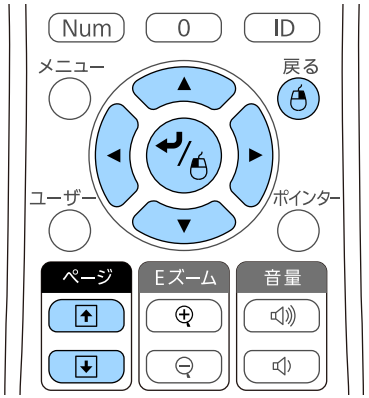
1 本機のUSB-B、コンピューター、またはHDMIのいずれかの端子にコンピューターを接続します。

> MHLケーブルを使って携帯端末をHDMI1/MHL端子に接続して投写しているときは、ワイヤレスマウス機能は動作しません。

2 手順1でUSB-B以外の端子にコンピューターを接続したときは、本機のUSB-B端子とコンピューターをUSBケーブルで接続します（ワイヤレスマウス用）。

3 映像を投写します。

4 以下のボタンでコンピューターを操作します。



- スライド、ページの送り/戻し：【ページ】送り/戻しボタンを押します。
- カーソルの移動：上下左右ボタンを押します。隣り合う上下左右ボタンを2つ同時に押すと、ポインターを斜めに移動できます。
- クリック：【決定】ボタンを1回押します（ダブルクリックは2回押します）。右クリックするには【戻る】ボタンを押します。
- ドラッグ＆ドロップ：【決定】ボタンを押したまま上下左右ボタンを押してカーソルを移動し、目的の場所で【決定】ボタンを離します。

- コンピューターでマウス機能を左右逆に設定しているときは、リモコンでの操作も左右逆になります。
- 以下のときは、ワイヤレスマウス機能は動作しません。
  - メニューまたはヘルプ画面の表示中
  - ［拡張設定］メニューの［USB Type B］を［Easy Interactive Function］または［USB Display/Easy Interactive Function］に設定しているとき（EB-710UT）
  - ワイヤレスマウス以外の機能（音量調整など）を実行しているとき

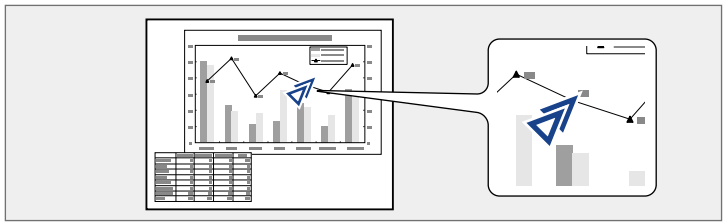
    ただし、Eズームまたはポインター機能を使用しているときは、ページ送り/戻しができます。

関連項目

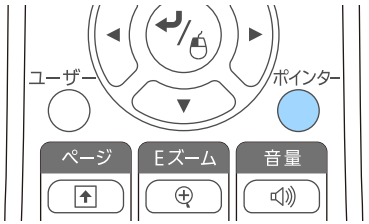
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.133
- 「リモコンでポインターを表示する」 p.136

リモコンでポインターを表示する

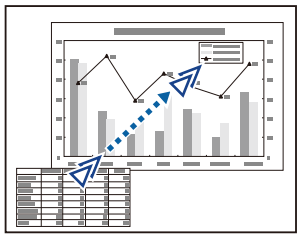
本機のリモコンをポインターとして使用して、画面上の重要な情報に注目させることができます。ポインターの形状は、初期設定では矢印に設定されています。ポインターの形状は、［設定］メニューの［ポインター形状］で変更できます。



1 リモコンの【ポインター】ボタンを押します。



2 上下左右ボタンでポインターを移動します。隣り合う上下左右ボタンを2つ同時に押すと、ポインターを斜めに移動できます。



3 ポインターを消すときは、【戻る】ボタンを押します。

関連項目

- 「設定メニュー」 p.199

ユーザーロゴを設定する

プロジェクターの電源投入時に表示する画像を設定します。この画像は、入力信号が未検出のときにも表示できます。 この画像をユーザーロゴと呼びます。

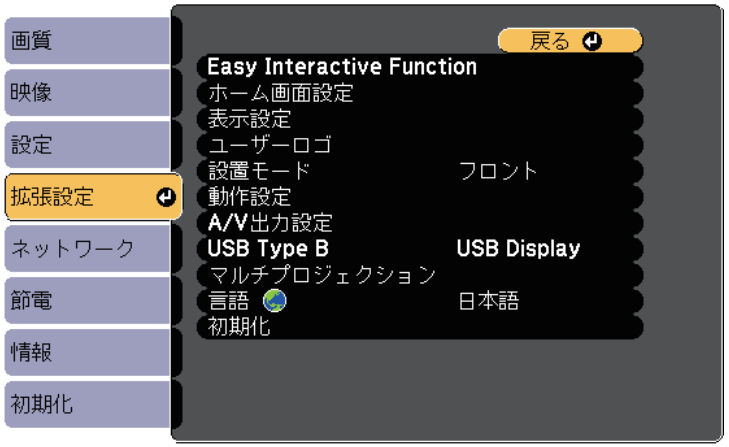
写真、グラフィック、会社のロゴなどをユーザーロゴとして設定し、プロジェクターの所有者を明示することで、本機の盗難防止などに役立ちます。また、パスワードプロテクトを設定して、ユーザーロゴを変更できないようにすることができます。

- ユーザーロゴの設定後は、初期設定のロゴに戻せません。
- ［パスワードプロテクト］設定画面で［ユーザーロゴ保護］を［オン］にしているときは、［オフ］にしてからユーザーロゴを設定してください。
- 一括設定機能を使用して、複数のプロジェクター間でメニュー設定をコピーすると、ユーザーロゴもコピーされます。複数のプロジェクター間で共有したくない画像は、ユーザーロゴとして設定しないでください。

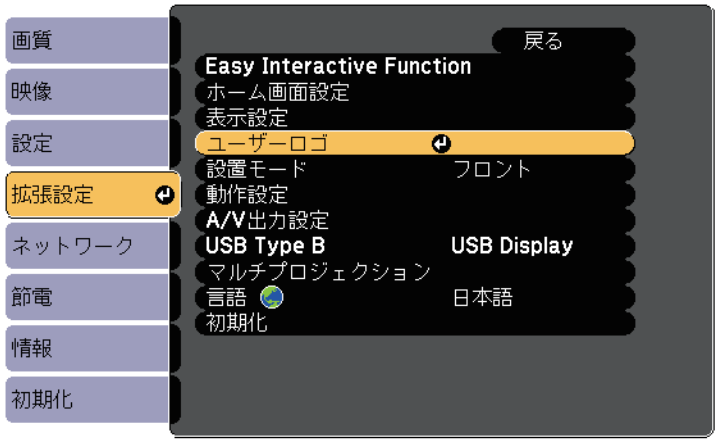
1 ユーザーロゴとして設定する画像を投写します。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

3 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［ユーザーロゴ］を選択し、【決定】ボタンを押します。



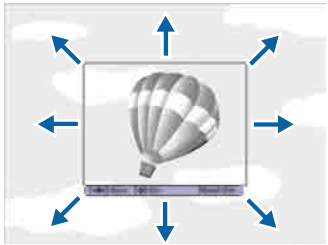
確認画面が表示されます。

［ユーザーロゴ］を選択すると、台形補正、Eズーム、アスペクトなどの設定が、一時的に無効になります。

5 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。
投写している画像上に選択枠が表示されます。

投写している映像信号によっては、映像信号の解像度に合わせて画面サイズが変更されることがあります。

6 上下左右ボタンを押して、ユーザーロゴとして使用する範囲を選択枠で囲み、【決定】ボタンを押します。

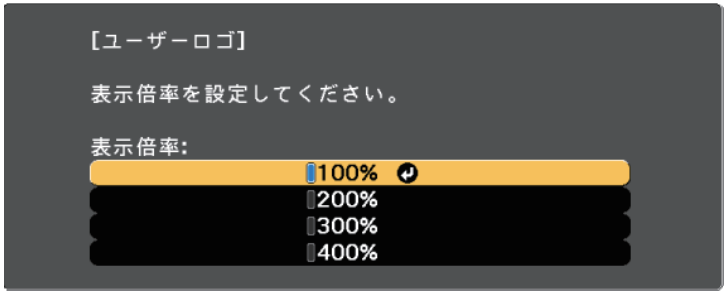


確認画面が表示されます。

選択枠の大きさ（400 × 300ピクセル）は変更できません。

7 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。（選択範囲を変更するときは、［いいえ］を選択し、【決定】ボタンを押します。）
ユーザーロゴの表示倍率設定画面が表示されます。

8 表示倍率を選択し、【決定】ボタンを押します。



確認画面が表示されます。

9 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。
ユーザーロゴが保存され、完了メッセージが表示されます。

10 【戻る】ボタンを押して、メッセージを閉じます。

11 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

12 ［表示設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

13 ユーザーロゴを表示するタイミングを設定します。

- 入力信号を未検出のときに表示する：［背景表示］を［ロゴ］に設定します。
- 本機の電源投入時に表示する：［スタートアップスクリーン］を［オン］に設定します。

ユーザーロゴが自由に変更されることを防ぐには、［パスワードプロテクト］設定画面で［ユーザーロゴ保護］を［オン］にしてパスワードを設定してください。

関連項目

- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.152

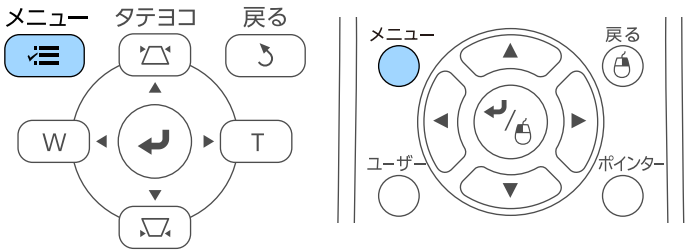
ユーザーパターンを登録する

本機には罫線や格子など4種類のパターン映像が登録されています。投写中に［設定］メニューの［パターン表示］を選択して、これらのパターン映像を投写できます。

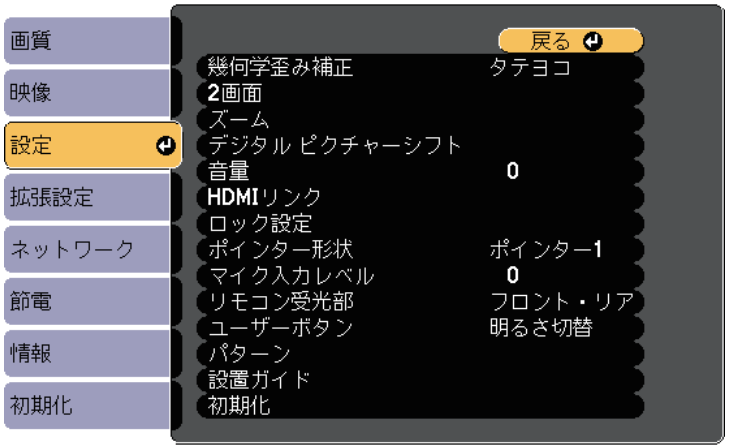
また、現在表示している映像をユーザーパターンとして登録することもできます。

> ユーザーパターンは、一度登録すると初期設定には戻せません。

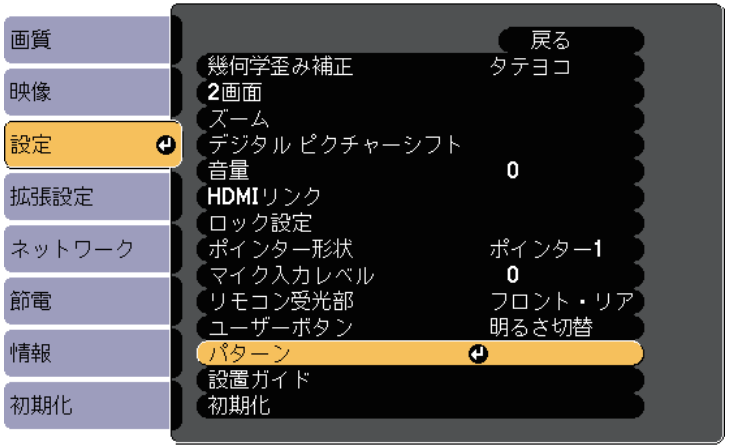
1 ユーザーパターンとして登録したい映像を投写し、操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



2 ［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［パターン］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［ユーザーパターン］を選択し、【決定】ボタンを押します。

投写した画像をユーザーパターンとして使用するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

［ユーザーパターン］を選択すると、台形補正、Eズーム、アスペクト、ズーム調整、デジタル ピクチャーシフトで調整した設定は一時的に無効になります。

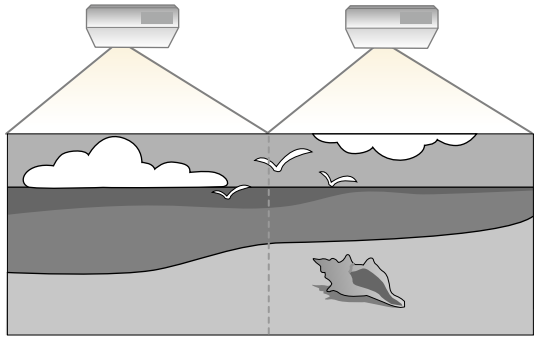
5 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

画像をユーザーパターンとして保存するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

6 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

終了メッセージが表示されます。

複数台のプロジェクターを並べて、ひとつの大きな映像として投写できます（マルチプロジェクション機能）。



- 事前に、すべてのプロジェクターで［マルチプロジェクション］を［オン］に設定しておく必要があります。
  ☛［拡張設定］>［マルチプロジェクション］>［マルチプロジェクション］
- 事前に、すべてのプロジェクターで同じカラーモードを選択しておく必要があります。
  ☛［拡張設定］>［マルチプロジェクション］>［カラーモード］

関連項目

- 「プロジェクターのID設定」 p.142
- 「ユニフォーミティーを調整する」 p.144
- 「カラーマッチングを調整する」 p.146
- 「RGBCMYを調整する」 p.147

プロジェクターのID設定

本機を複数台並べて投写するときは、それぞれの映像の明るさや色合いの違いを補正します。

プロジェクターごとにリモコンで補正するため、各プロジェクターにプロジェクターIDを設定してから明るさと色合いを補正します。

- 補正を行っても、それぞれの映像の明るさと色合いは完全に一致しないことがあります。
- 時間の経過とともに、映像の明るさと色合いの違いが目立つことがあります。その場合は、再度補正を行ってください。

関連項目

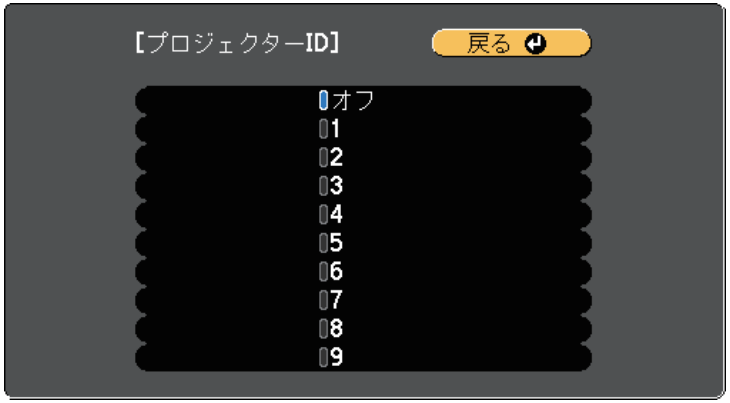
- 「プロジェクターにIDを設定する」 p.142
- 「操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する」 p.143

プロジェクターにIDを設定する

リモコンで操作するプロジェクターを選択するために、各プロジェクターに一意のIDを指定します。

1. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
2. ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。
3. ［マルチプロジェクション］を選択し、【決定】ボタンを押します。
4. ［プロジェクターID］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 対象のプロジェクターに設定するID番号を選択します。その後、【決定】ボタンを押します。



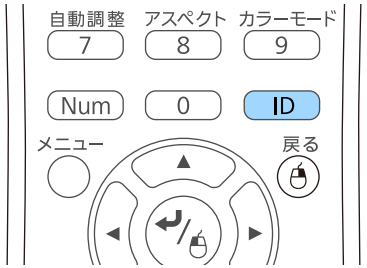
6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

リモコンから操作するすべてのプロジェクターに対して、同様の手順を繰り返します。

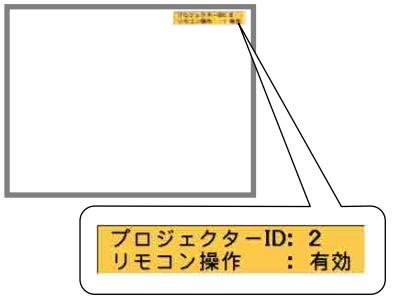
操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する

プロジェクターのIDを設定した後、リモコンで操作対象のプロジェクターのIDを選択します。

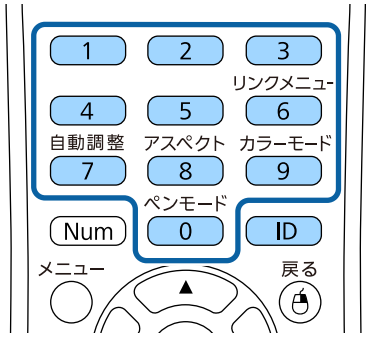
1 操作対象のプロジェクターにリモコンを向けて、【ID】ボタンを押します。



プロジェクターに設定されたIDが投写画面に表示されます。表示は約3秒後に消えます。



2 【ID】ボタンを押したまま、操作対象のプロジェクターIDと同じ数字のボタンを押します。



選択したIDが設定されたプロジェクターのリモコン操作が有効になります。

3 【ID】ボタンを押して、IDの設定を確認します。

以下が表示されます。

- リモコン操作：［有効］と表示：現在操作中のプロジェクターでリモコン操作ができるよう設定されています。
- リモコン操作：［無効］と表示：リモコン操作ができないように設定されています。上記の手順を繰り返して、リモコン操作を有効にしてください。

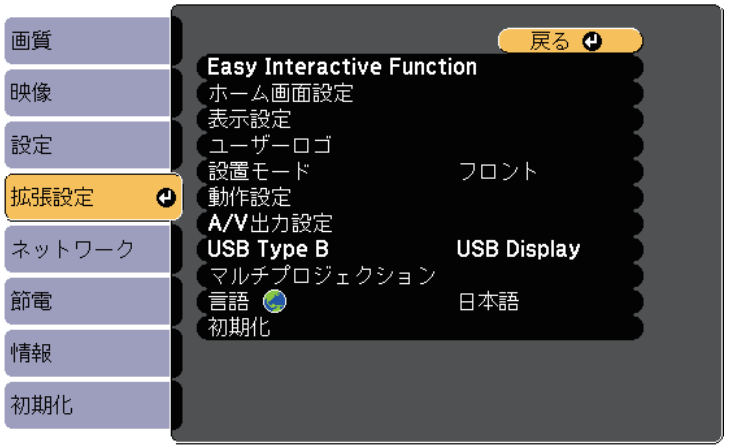
- IDを0に設定したときは、プロジェクターIDの設定に関わらず、すべてのプロジェクターを操作できます。
- プロジェクターの電源を入れなおしたときは、再度リモコンでIDを選択する必要があります。電源投入時、リモコンのID設定は0になっています。
- ［プロジェクターID］を［オフ］に設定しているときは、リモコンで選択したID設定に関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。

ユニフォーミティーを調整する

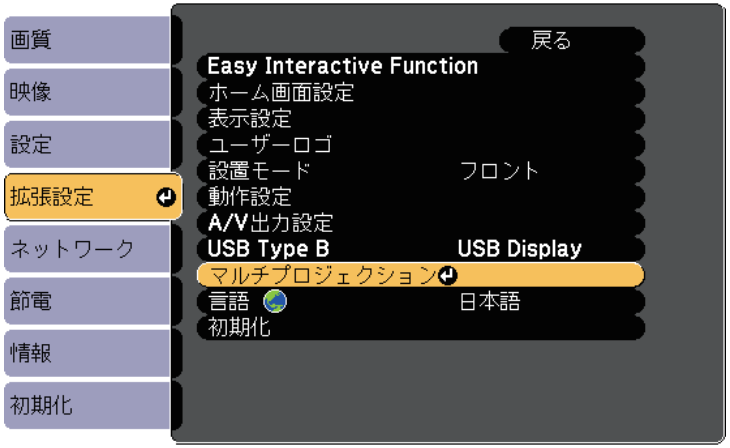
各プロジェクターの投写画面に色むらがあるときは、［拡張設定］メニューのユニフォーミティーで画面全体の色味を補正します。

- ユニフォーミティーを調整後も、色味が均一にならない場合があります。
- カラーモードを［ダイナミック］に設定しているときは、この機能は使用できません。
  ☛ ［画質］ > ［カラーモード］
- ホワイトボードモードのときは、この機能は使用できません（EB-710UT）。

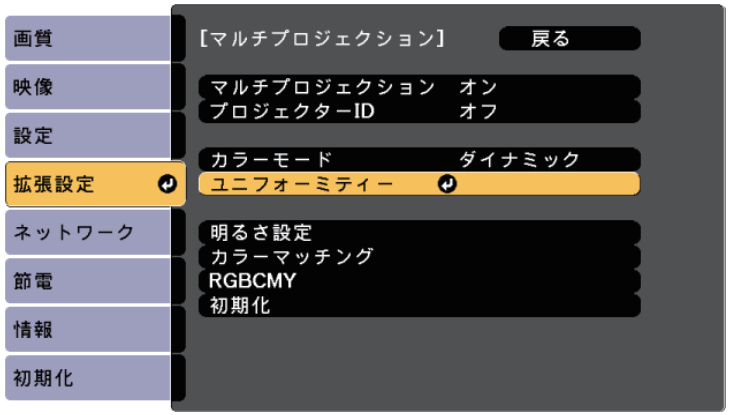
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



2 ［マルチプロジェクション］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［ユニフォーミティー］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［ユニフォーミティー］を選択し、【決定】ボタンを押します。

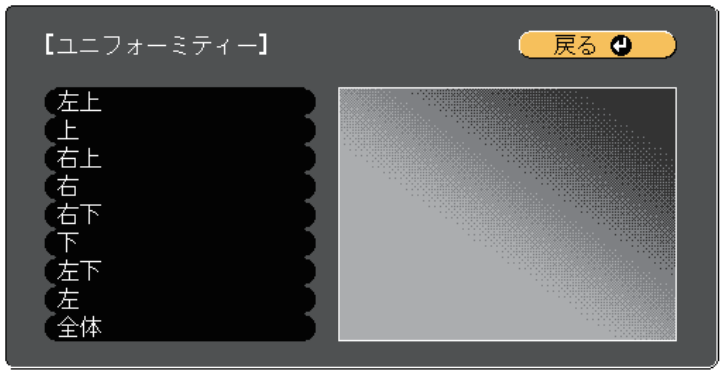
5 ［オン］を選択し、【決定】ボタンを押します。その後、【戻る】ボタンを押します。

6 ［調整レベル］を選択し、【決定】ボタンを押します。

7 レベルを調整し、【戻る】ボタンを押します。

8 ［調整開始］を選択し、【決定】ボタンを押します。

9 調整するエリアを選択し、【決定】ボタンを押します。



最初に画面の周囲を調整します。最後に［全体］を選択し、画面全体を調整します。

10 調整する色（［赤］、［緑］、［青］）を選択し、左ボタンで色味を弱く、右ボタンで色味を強くします。

調整画面は、【決定】ボタンを押すたびに更新されます。

11 【戻る】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

12 この手順を繰り返して、すべてのエリアを調整します。

13 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

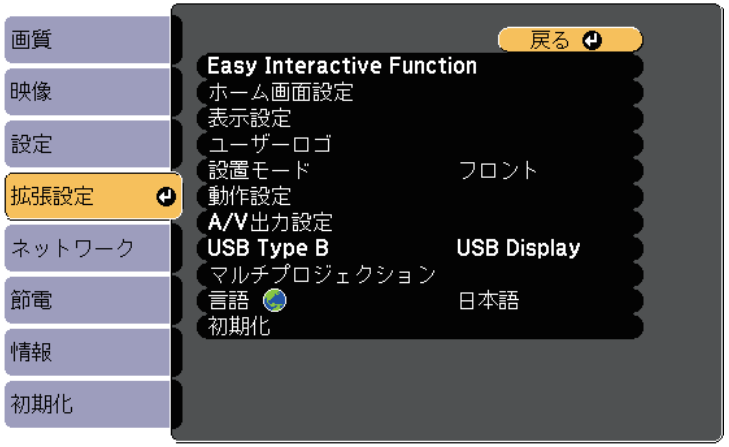
カラーマッチングを調整する

本機を複数台並べて投写するときの、それぞれの映像の色合いを合わせます。

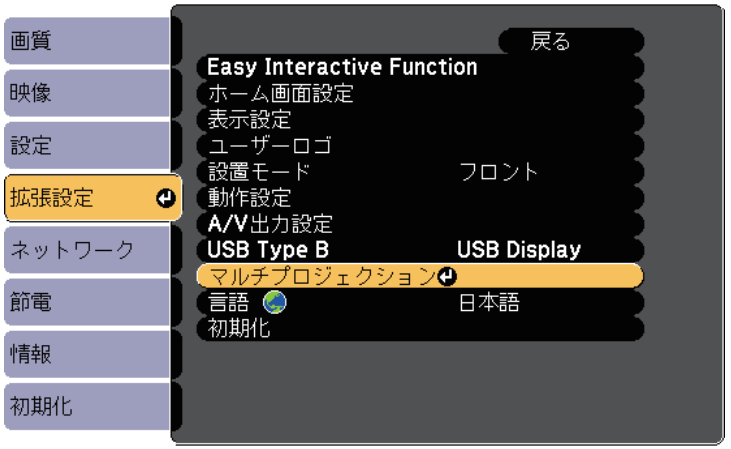
すべてのプロジェクターの電源を入れ、［拡張設定］メニューの［カラーマッチング］をプロジェクターごとに調整します。投写画面全体の色味と明るさが均一になるように調整します。

ホワイトボードモードのときは、この機能は使用できません（EB-710UT）。

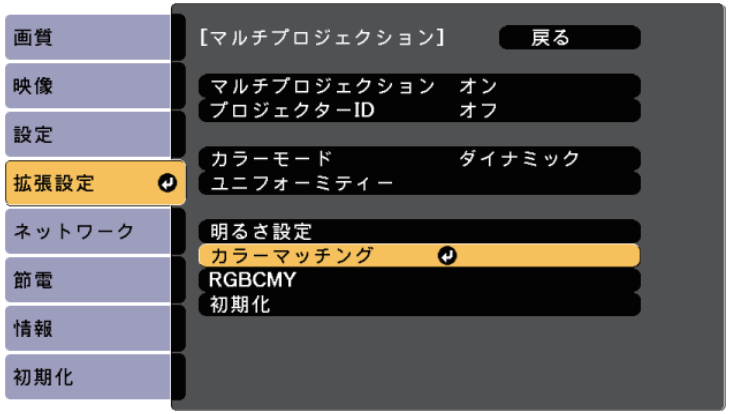
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



2 ［マルチプロジェクション］を選択し、【決定】ボタンを押します。

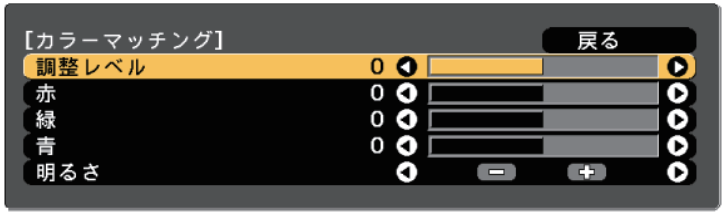


3 ［カラーマッチング］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［調整レベル］を選択します。

白 - グレー - 黒まで8つのレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。



5 ［赤］、［緑］、［青］を選択し、それぞれの色味を調整します。

6 ［明るさ］を選択し、明るさを調整します。

7 手順4に戻り、それぞれのレベルで調整します。

8 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

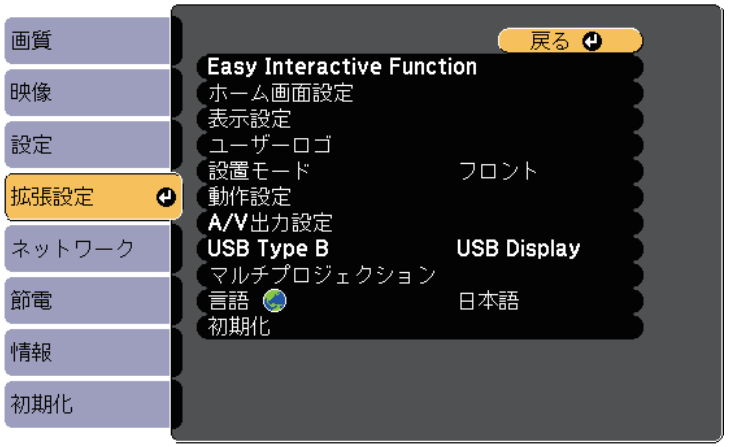
RGBCMYを調整する

R（赤）、G（緑）、B（青）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）の各色について、［色相］、［彩度］、［明度］を調整します。

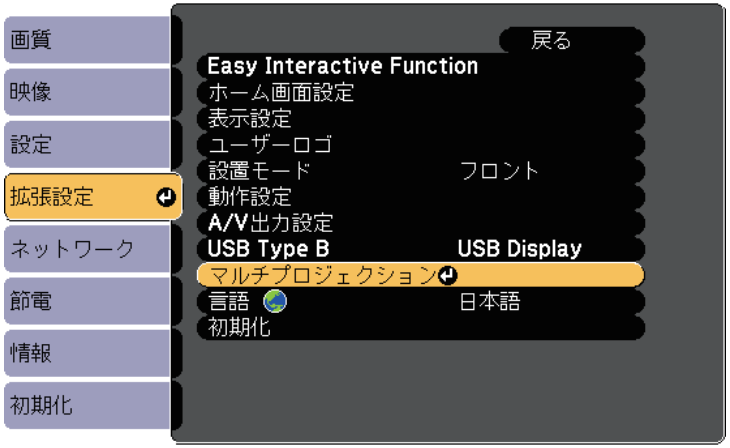
すべてのプロジェクターの電源を入れ、［拡張設定］メニューの［RGBCMY］をプロジェクターごとに調整します。投写画面全体の色調が均一になるように調整します。

ホワイトボードモードのときは、この機能は使用できません（EB-710UT）。

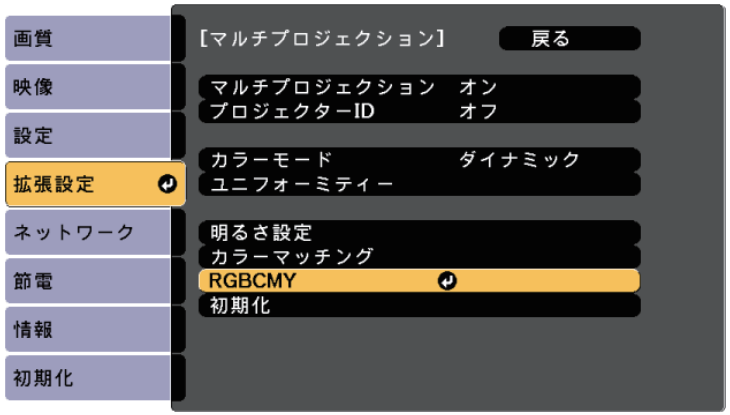
1 【メニュー】ボタンを押し、［拡張設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



2 ［マルチプロジェクション］を選択し、【決定】ボタンを押します。



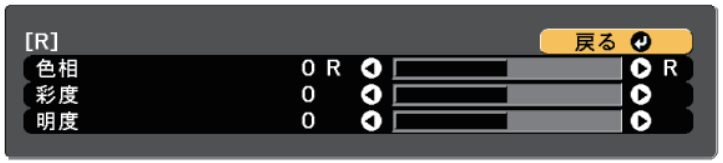
3 ［RGBCMY］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 調整する色を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 必要に応じて以下を調整します。

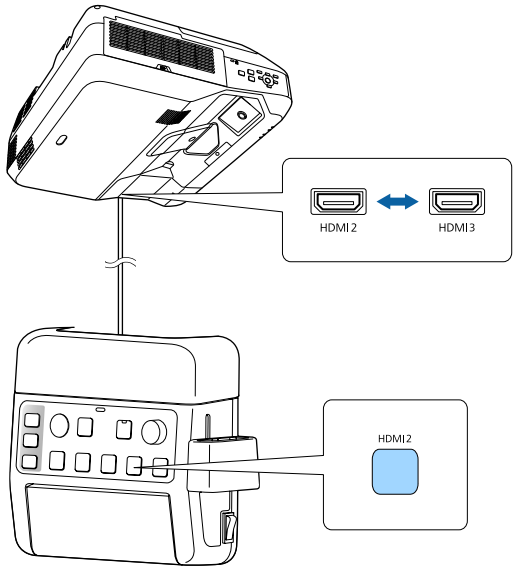
- ［色相］：映像全体の色味を、青系～緑系～赤系へと調整します。
- ［彩度］：映像全体の鮮やかさを調整します。
- ［明度］：映像全体の明るさを調整します。



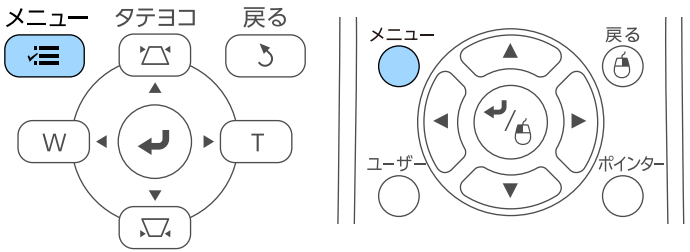
6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

オプションのインターフェースボックスを使ってHDMI3端子の映像を投写する

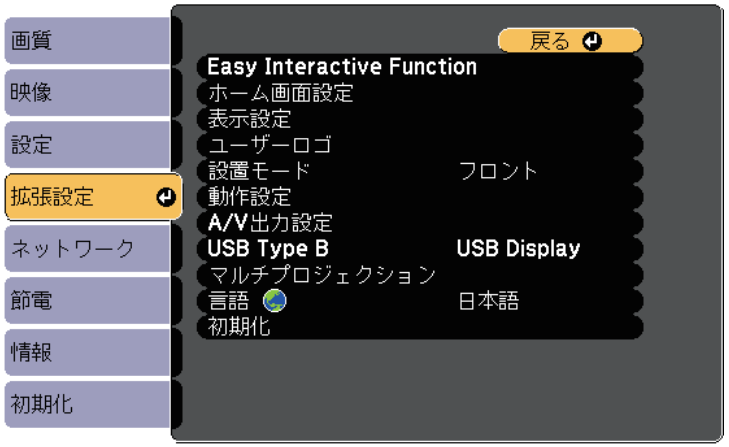
オプションのインターフェースボックス（ELPCB02）を接続しているときは、プロジェクターのHDMI3端子に接続している機器からの映像を投写するには、以下の設定が必要です。設定後は、インターフェースボックスの【HDMI2】ボタンを押すたびに、投写される入力ソースがHDMI2とHDMI3とで切り替わります（EB-710UT）。



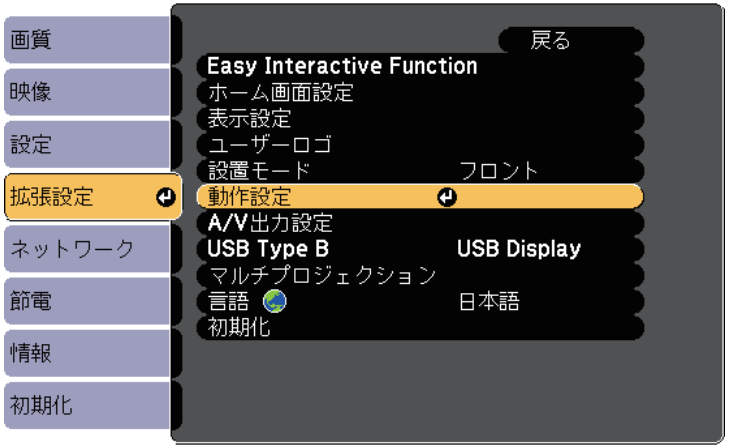
1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



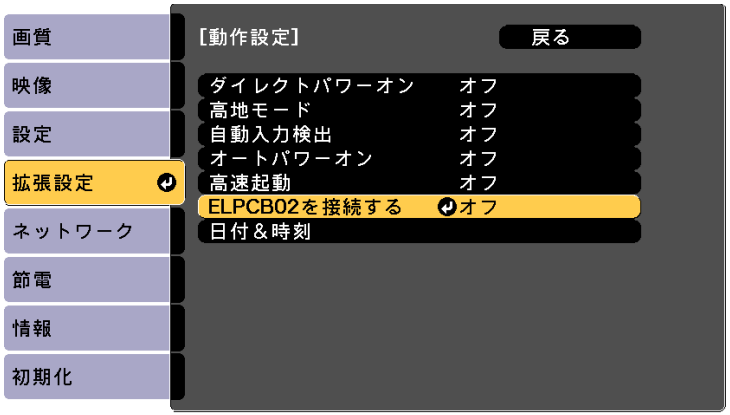
2 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



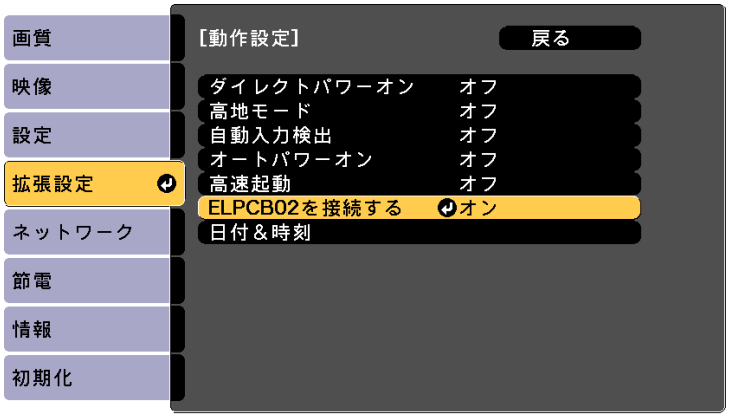
3 ［動作設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［ELPCB02を接続する］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 ［オン］を選択し、【決定】ボタンを押します。



設定後は、インターフェースボックスの【HDMI2】ボタンを押すたびに、投写される入力ソースがHDMI2とHDMI3とで切り替わります。

6 【メニュー】ボタン、または【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

以下のセキュリティー機能を使用することで、プロジェクターの盗難や誤用・悪用を防止します。

- パスワードプロテクト：パスワードを知らないユーザーが本機を使用できないようにします。また、起動時に表示する画面などの設定を変更できないようにします。
  本機を使用できるユーザーを制限したり、プロジェクターを持ち出しても使用できないことで盗難防止の効果があります。
- 操作ボタンロック：操作パネルのボタン操作をできないようにします。
  イベントや展示会などで投写中にプロジェクターを操作できないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利です。
- セキュリティーケーブル：プロジェクターを固定して盗難を防ぎます。

関連項目

- 「パスワードプロテクトの種類」 p.151
- 「操作パネルのボタン操作を制限する」 p.154
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.155

パスワードプロテクトの種類

パスワードを1つ設定して、以下の種類のパスワードプロテクトを設定できます。

- ［電源投入時］：パスワードを知らないユーザーが本機を起動できないようにします。電源コードで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたときに、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。ダイレクトパワーオンおよびオートパワーオン機能でプロジェクターが起動したときも、パスワードの入力が必要になります。
- ［ユーザーロゴ保護］：プロジェクターの電源を入れたときや、入力信号が未検出のときに表示されるユーザーロゴの画面設定を変更できないようにします。ユーザーロゴを設定していると、プロジェクターの所有者が特定されるため、盗難防止につながります。
- ［ネットワーク保護］：［ネットワーク］メニューの設定を変更できないようにします。
- ［スケジュール保護］：スケジュール設定を変更できないようにします（EB-700U）。

関連項目

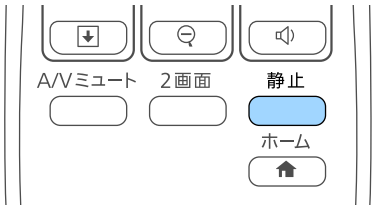
- 「パスワードを設定する」 p.151
- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.152
- 「パスワードを入力する」 p.153

パスワードを設定する

パスワードプロテクトを行うためのパスワードを設定します。

初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。異なるパスワードに変更してください。

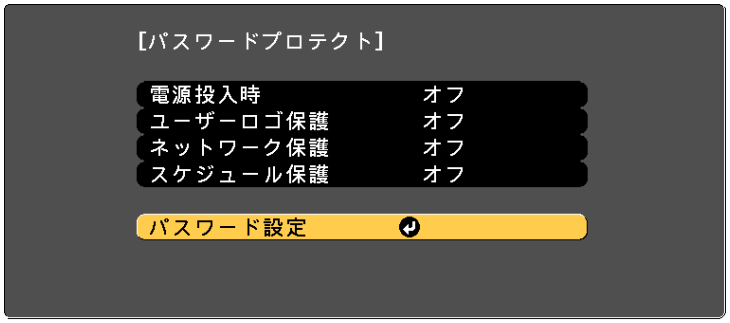
1 リモコンの【静止】ボタンを約5秒間押し続けます。



パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

すでにパスワードプロテクトが有効になっているときは、パスワードプロテクト設定メニューを表示する前にパスワードの入力が求められます。

2 ［パスワード設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

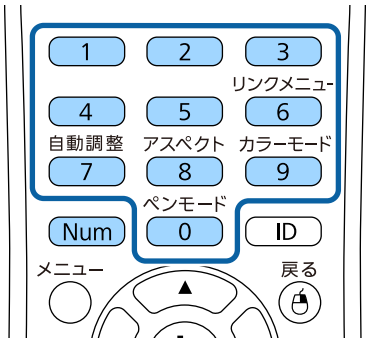


「パスワードを変更しますか？」というメッセージが表示されます。

3 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

［いいえ］を選択したときは、パスワードプロテクト設定メニューが再度表示されます。

4 リモコンの【Num】ボタンを押したままテンキーボタンを押して、4桁のパスワードを設定します。



入力したパスワードは、「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面が表示されます。

5 パスワードを再入力します。

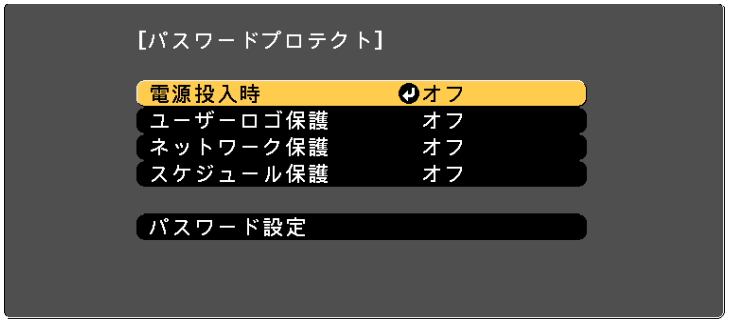
「パスワード設定が終了しました。」というメッセージが表示されます。間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

6 【戻る】ボタンを押してメニューに戻ります。

7 パスワードを控えて、安全な場所に保管してください。

パスワードプロテクトの種類を設定する

パスワードの設定後、パスワードプロテクト設定メニューで設定したいパスワードプロテクトの種類を選択します。



このメニューが表示されないときは、メニューが表示されるまで約5秒間リモコンの【静止】ボタンを押し続けてください。

- プロジェクターの無断使用を防止したいときは、［電源投入時］を［オン］に設定します。
- ユーザーロゴなどの表示設定の変更を防止したいときは、［ユーザーロゴ保護］を［オン］に設定します。

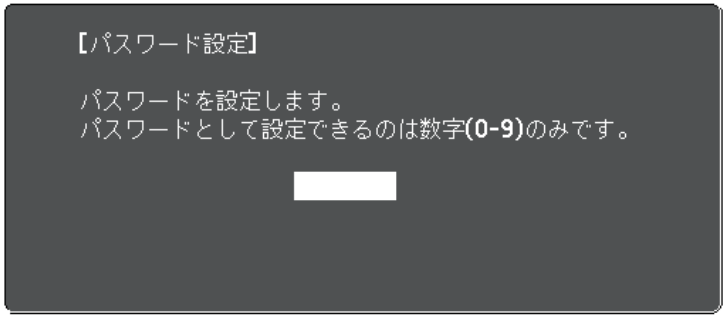
- ネットワーク設定の変更を防止したいときは、［ネットワーク保護］を［オン］に設定します。
- スケジュール設定の変更を防止したいときは、［スケジュール保護］を［オン］に設定します（EB-700U）。

パスワードプロテクトステッカーを本機に貼り付けることで、盗難防止効果を向上できます。

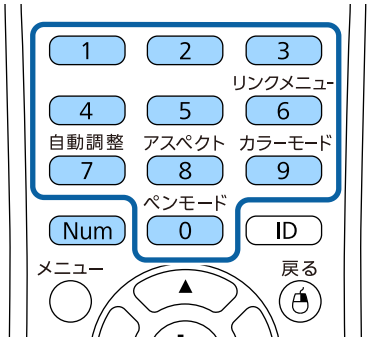
リモコンは必ず安全な場所に保管してください。リモコンを失くすとパスワードを入力できなくなります。

パスワードを入力する

パスワード画面が表示されたときは、正しいパスワードを入力します。



1 リモコンの【Num】ボタンを押したままテンキーボタンを押してパスワードを入力します。



パスワード画面が閉じます。

2 誤ったパスワードを入力したときは、再入力用の画面が表示されます。正しいパスワードを入力します。

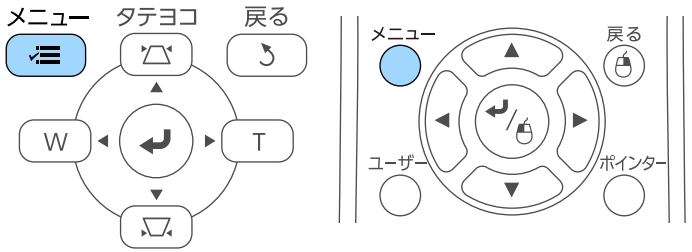
注意

- 誤ったパスワードを3回連続で入力すると、「プロジェクターの動作を停止します。」というメッセージが約5分間表示され、プロジェクターはスタンバイ状態になります。電源プラグを抜いて差し直してから、本機の電源を入れます。パスワード入力画面が表示されたら、正しいパスワードを入力してください。
- パスワードを忘れたときは、画面に表示される「［問い合わせコード］: xxxxx」の番号を控えて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- 上記の操作を繰り返し、誤ったパスワードを連続30回入力したときは、「プロジェクターの動作が停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。」というメッセージが表示され、それ以上パスワードを入力できなくなります。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報＋正式保証書発行カード』と照合しご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報＋正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。

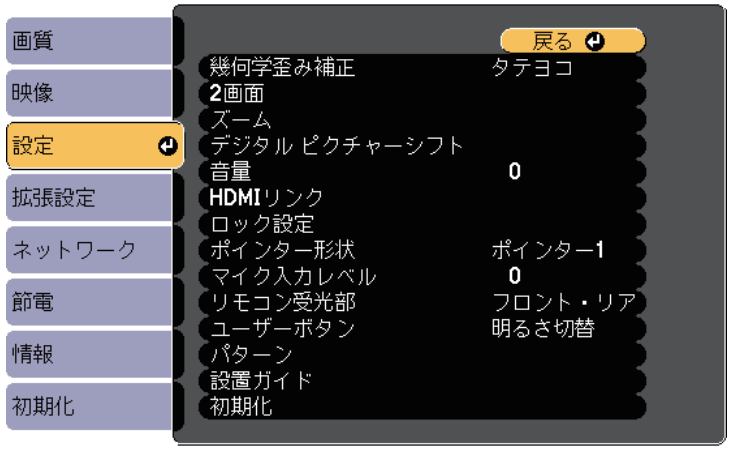
操作パネルのボタン操作を制限する

操作パネルのボタンをロックして、本機の無断使用を防止します。リモコンからは通常どおり操作できます。

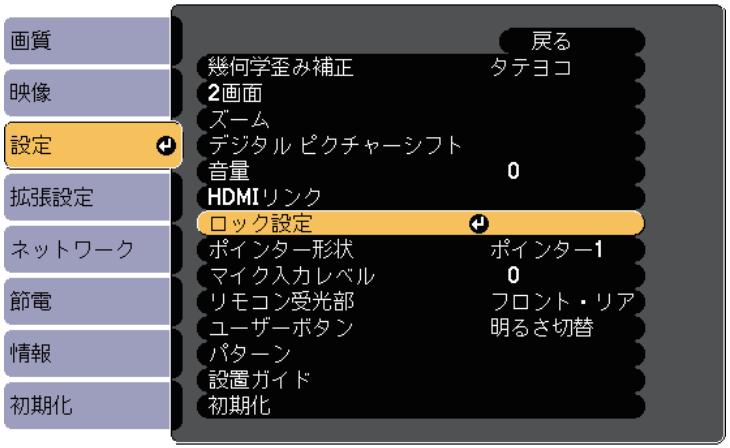
1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



2 ［設定］メニューを選択し、【決定】を押します。



3 ［ロック設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［操作ボタンロック］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ロックの種類を選択し、【決定】ボタンを押します。

- ［全ロック］：操作パネルのすべてのボタンをロックします。
- ［操作ロック］：電源ボタン以外のすべてのボタンをロックします。

確認メッセージが表示されます。

6 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

［操作ボタンロック］の設定が有効になります。

関連項目

- 「操作ボタンロックを解除する」 p.155

操作ボタンロックを解除する

以下の方法で、操作ボタンロックを解除します。

- 操作パネルの【決定】ボタンを約7秒間押し続けます。メッセージが表示され、ロックが解除されます。
- ［設定］メニューの［操作ボタンロック］を［オフ］に設定します。

☛ ［設定］ > ［ロック設定］ > ［操作ボタンロック］

関連項目

- 「設定メニュー」 p.199

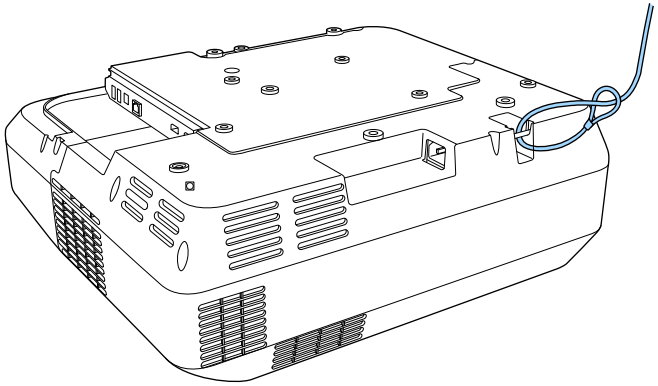
セキュリティーケーブルを取り付ける

盗難防止のために、セキュリティーケーブルを本機に取り付けることができます。

- Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムを本機のセキュリティースロットに取り付けます。

マイクロセーバーセキュリティーシステムについての詳細は、http://www.kensington.com/をご覧ください。

- ワイヤーケーブルを、本機のセキュリティーケーブル取付け部に取り付けて、部屋の建具や動かないものに固定します。



市販の盗難防止用ワイヤーロックを使用できます。ワイヤーロックの施錠方法は、ワイヤーロックに添付の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク上のプロジェクターを使用する

ネットワーク経由でプロジェクターから映像を投写するための設定について説明します。

関連項目

- 「有線LANでの映像投写」 p.158
- 「無線LANでの映像投写」 p.161
- 「セキュアHTTP」 p.170

有線LAN経由でプロジェクターから映像を投写できます。ネットワーク経由で投写するには、プロジェクターをネットワークに接続し、プロジェクターおよびコンピューターのネットワーク設定をします。

プロジェクターの接続とネットワーク設定が終わったら、EPSON Projector Software CD-ROM（同梱されている場合）またはWebサイトから、Epson iProjection (Windows/Mac)をインストールします。

Epson iProjectionを使用すると、コンピューターの映像をネットワーク経由で投写できます。また、ネットワークに接続された複数のコンピューターの映像を同時に投写して、ミーティングをより活発にできます。詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

関連項目

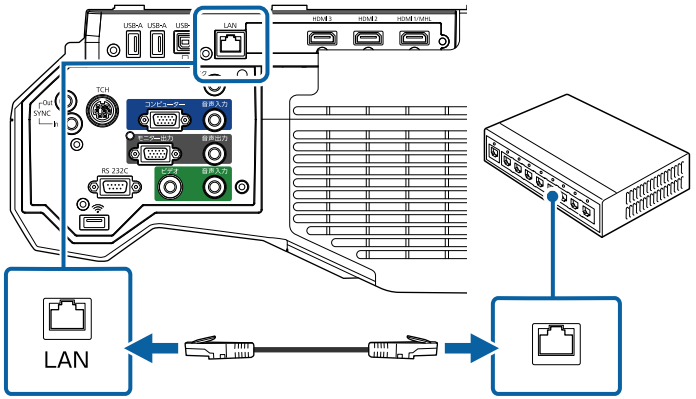
- 「有線LANに接続する」 p.158
- 「有線LANを設定する」 p.158

有線LANに接続する

プロジェクターを有線LANに接続するには、100Base-TXまたは10Base-Tネットワークケーブルを使用します。誤作動防止のために、カテゴリー5以上のシールド付きケーブルをお使いください。

1 LANケーブルをネットワークハブ、スイッチ、またはルーターに接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターをプロジェクターのLAN端子に接続します。



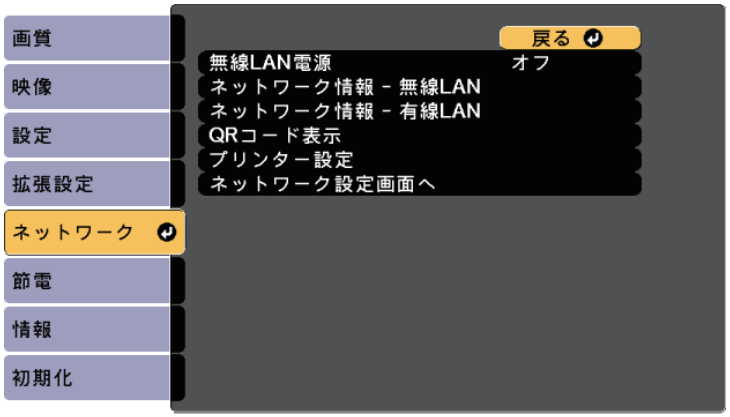
有線LANを設定する

ネットワーク経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。

設定の前に、LAN端子にLANケーブルを接続し、プロジェクターを有線LANに接続してください。

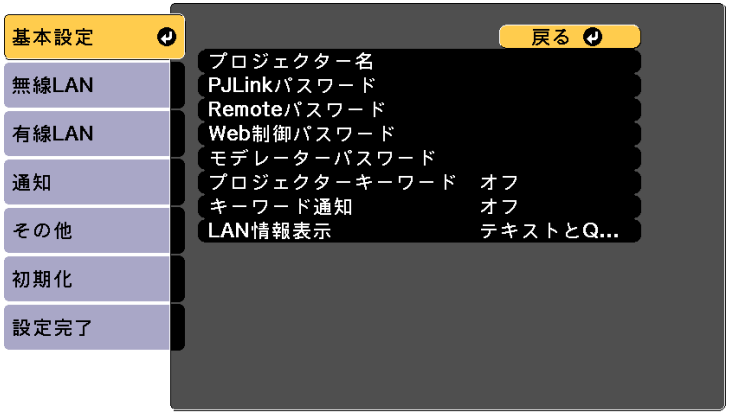
1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

2 ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［基本設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 必要に応じて以下を設定します。

- ［プロジェクター名］：ネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。半角英数字で16文字以内で入力します。
- ［PJLinkパスワード］：PJLink対応アプリケーションを使って本機を制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で32文字以内で入力します。
- ［Remoteパスワード］：Web Remote機能を使用するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で8文字以内で入力します。（ユーザー名は［EPSONREMOTE］、デフォルトのパスワードは［guest］です。）
- ［Web制御パスワード］：Web制御で本機の設定や制御をするときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で8文字以内で入力します。（ユーザー名は［EPSONWEB］、デフォルトのパスワードは［admin］です。）
- ［モデレーターパスワード］：Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを設定します。4桁の数字を入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）
- ［プロジェクターキーワード］：他のユーザーが誤って接続しないように、セキュリティーパスワードを有効にできます。映像を投写したり、データを送受信したりするには、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。
- ［キーワード通知］：Epson iProjectionを使って本機に接続するときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示するかどうかを設定します。
- ［LAN情報表示］：本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。

名前、パスワード、およびキーワードの入力には、表示されたソフトキーボードを使用します。リモコンの上下左右ボタンを押して文字を選択し、【決定】ボタンを押して入力します。

6 ［有線LAN］を選択し、【決定】ボタンを押します。

7 ［IP設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

8 必要に応じて［IP設定］を設定します。

- DHCPを使用できるネットワークの場合は、［DHCP］を［オン］にします。
- DHCPを使用できないネットワークの場合は、［DHCP］を［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。

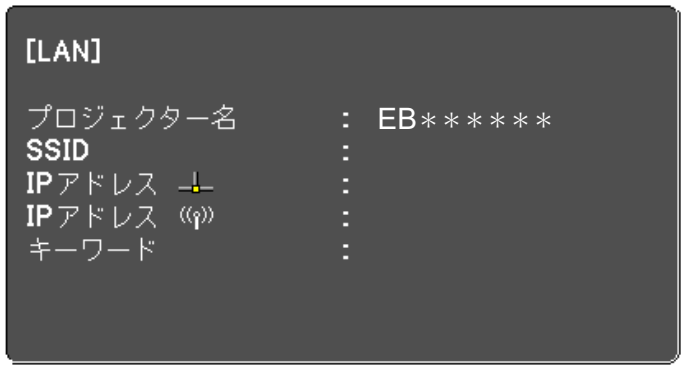
リモコンの上下左右ボタンを押して、表示されたスクリーンキーボードで入力する数字を選択します。【決定】ボタンを押して入力します。

9 設定したIPアドレスがLAN待機画面やホーム画面に表示されないようにするには、［IPアドレス表示］を［オフ］に設定します。

10 設定が終わったら、［設定完了］を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

11 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

LAN待機画面に正しいIPアドレスが表示されていれば、設定完了です。



無線LAN経由でプロジェクターから映像を投写できます。

無線LAN経由で投写するときは、無線LANユニットをプロジェクターに取り付けて、［ネットワーク］メニューでプロジェクターとコンピューターの無線LAN設定をしてください。

無線LANユニットの取り付けとプロジェクターのネットワーク設定が終わったら、EPSON Projector Software CD-ROM（同梱されている場合）またはダウンロードしたソフトウェアから、ネットワークソフトウェアをインストールします。無線LAN経由で映像を投写するには、以下のネットワークソフトウェアを使用します。

- Epson iProjection (Windows/Mac)を使用すると、ネットワークに接続された複数のコンピューターの映像を同時に投写して、ミーティングをより活発にできます。詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド(Windows/Mac)』をご覧ください。
- Epson iProjection (iOS/Android)を使用すると、iOSやAndroidなどのモバイルデバイスから映像を投写できます。
  Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。
- Epson iProjection (Chromebook)を使用すると、Chromebookから映像を投写できます。
  Epson iProjectionは、Chromeウェブストアから無料でダウンロードできます。Chromeウェブストアへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

関連項目

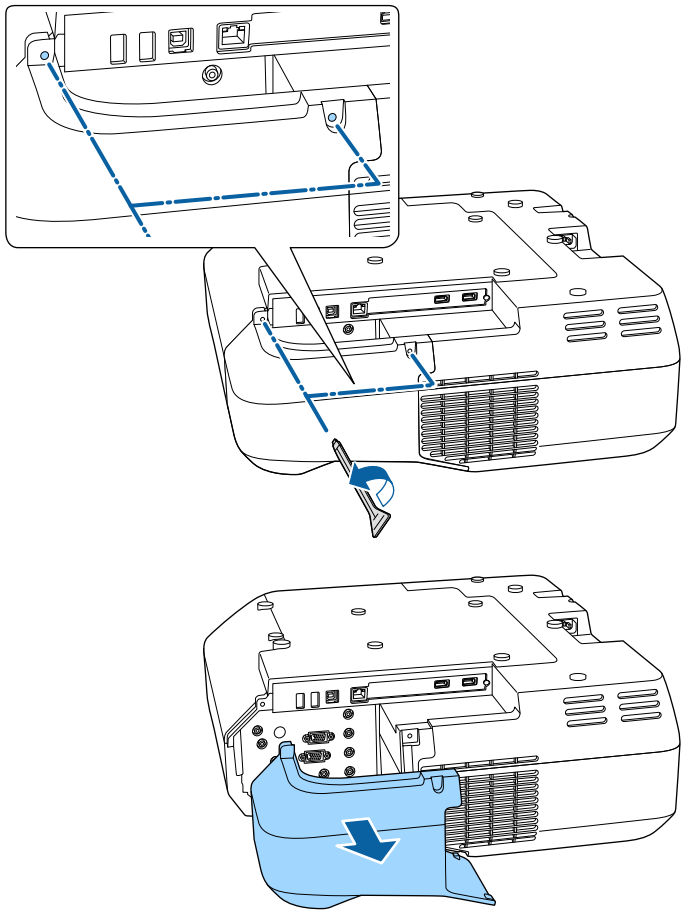
- 「無線LANユニットを取り付ける」 p.161
- 「プロジェクターの無線LANを設定する」 p.162
- 「Windowsで無線LANを設定する」 p.165
- 「Macで無線LANを設定する」 p.165
- 「無線LANのセキュリティーを設定する」 p.165
- 「QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する」 p.168
- 「USBキーを使って接続する（Windowsのみ）」 p.169

無線LANユニットを取り付ける

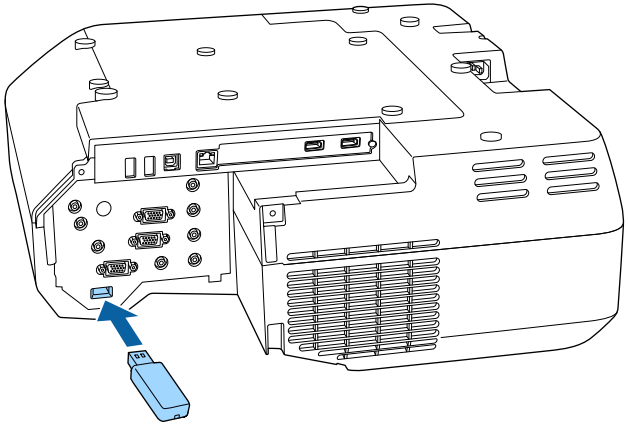
無線LAN経由でプロジェクターを使用するときは、無線LANユニットを取り付けます。エプソン純正の無線LANユニット以外は取り付けないでください。

注意
無線LANユニットのインジケーターが青色に点灯または点滅しているときや、無線LAN経由で映像を投写しているときは、無線LANユニットを取り外さないでください。無線LANユニットの破損や故障の原因となります。

1 ケーブルカバー固定ネジ2本を外し、ケーブルカバーを開けます。



2 無線LANユニット装着部に無線LANユニットを取り付けます。

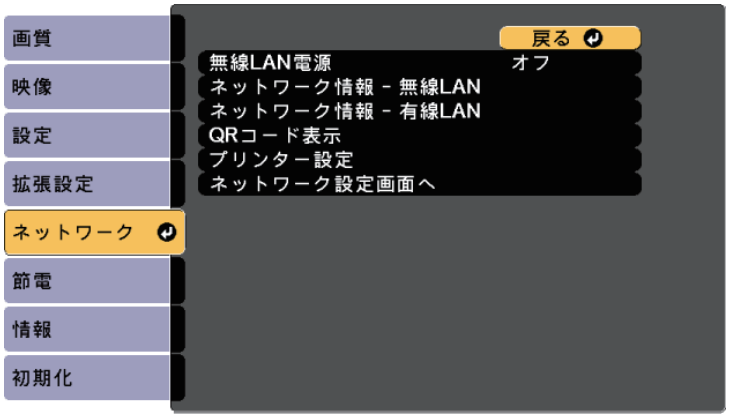


プロジェクターの無線LANを設定する

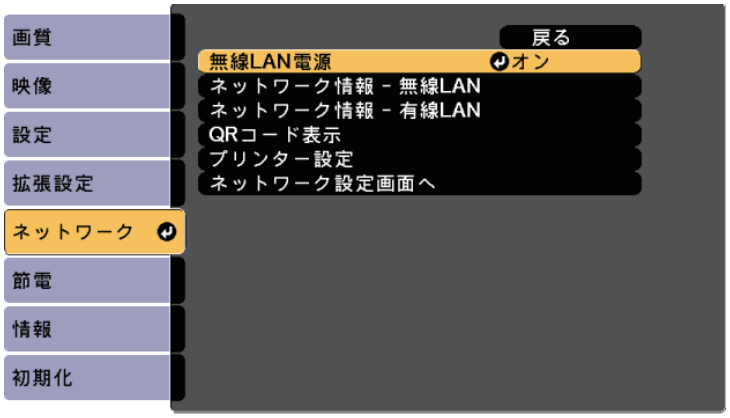
無線LAN経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。

1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

2 ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［無線LAN電源］を［オン］に設定します。



4 ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［基本設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 必要に応じて以下を設定します。

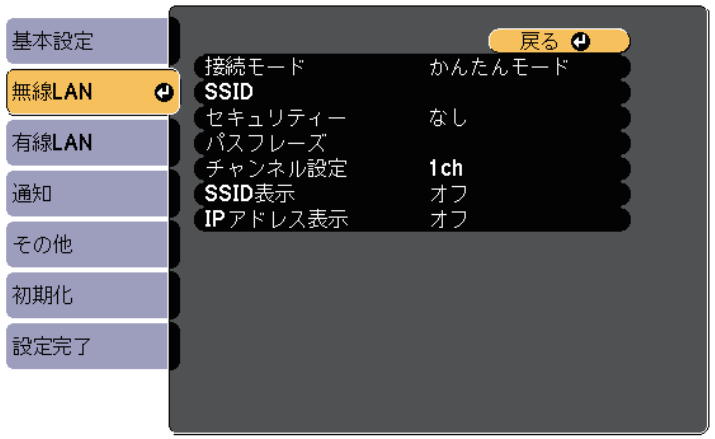
- ［プロジェクター名］：ネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。半角英数字で16文字以内で入力します。
- ［PJLinkパスワード］：PJLink対応アプリケーションを使って本機を制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で32文字以内で入力します。
- ［Remoteパスワード］：Web Remote機能を使用するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で8文字以内で入力します。（ユーザー名は［EPSONREMOTE］、デフォルトのパスワードは［guest］です。）
- ［Web制御パスワード］：Web制御で本機の設定や制御をするときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で8文字以内で入力します。（ユーザー名は［EPSONWEB］、デフォルトのパスワードは［admin］です。）
- ［モデレーターパスワード］：Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを設

定します。4桁の数字を入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）

- ［プロジェクターキーワード］：他のユーザーが誤って接続しないように、セキュリティーパスワードを有効にできます。映像を投写したり、データを送受信したりするには、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。
- ［キーワード通知］：Epson iProjectionを使って本機に接続するときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示するかどうかを設定します。
- ［LAN情報表示］：本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。

名前、パスワード、およびキーワードの入力には、表示されたソフトキーボードを使用します。リモコンの上下左右ボタンを押して文字を選択し、【決定】ボタンを押して入力します。

7 ［無線LAN］を選択し、【決定】ボタンを押します。



8 ［接続モード］を選択します。

- ［かんたんモード］：スマートフォンやタブレット端末、コンピューターとワイヤレスに直接接続できます。
- ［マニュアルモード］：無線LANアクセスポイント経由でスマートフォンやタブレット端末、コンピューターと接続できます。

9 ［マニュアルモード］を選択した場合は、［アクセスポイント検索］を行って接続する無線LANアクセスポイントを選択します。

手動でSSIDを割り当てるときは、［SSID］を選択してSSIDを入力します。

10 ［マニュアルモード］の場合は、必要に応じてプロジェクターにIPアドレスを割り当てます。

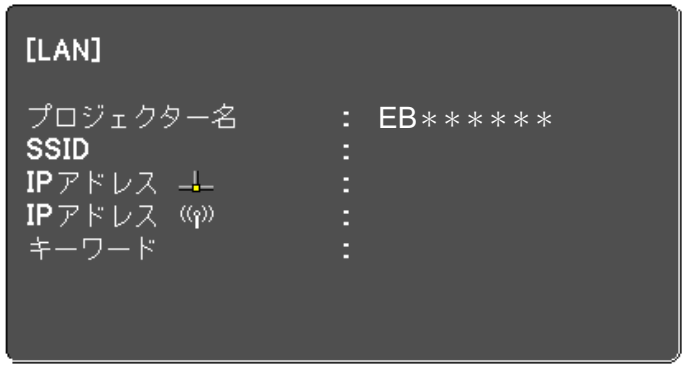
- DHCPを使用できるネットワークの場合は、［IP設定］を選択して、［DHCP］を［オン］にします。
- DHCPを使用できないネットワークの場合は、［IP設定］を選択して［DHCP］を［オフ］にし、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。

11 設定したSSIDやIPアドレスがLAN待機画面およびホーム画面に表示されないようにするには、［SSID表示］または［IPアドレス表示］を［オフ］に設定します。

12 設定が終わったら、［設定完了］を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

13 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

LAN待機画面に正しいIPアドレスが表示されていれば、設定完了です。



無線LAN設定が完了したら、コンピューターの無線LAN設定をしてください。ネットワークソフトウェアを起動して、無線LAN経由で映像をプロジェクターに送ります。

Windowsで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

1. Windowsタスクバーのネットワークアイコンをクリックし、無線ユーティリティソフトウェアを起動します。
2. マニュアルモードで接続するときは、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名（SSID）を選択します。
3. ［接続］をクリックします。

Macで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

1. 画面上部にあるメニューバーのWi-Fiアイコンをクリックします。
2. マニュアルモードで接続するときは、Wi-Fiがオンに設定されていることを確認し、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名（SSID）を選択します。

無線LANのセキュリティーを設定する

プロジェクターの無線通信に使うセキュリティーを設定できます。無線LANの設定に合わせて、以下のいずれかのセキュリティーを設定します。

- WPA2-PSKセキュリティー
- WPA2-EAPセキュリティー *
- WPA/WPA2-PSKセキュリティー *
- WPA/WPA2-EAPセキュリティー *

* マニュアルモードで接続しているときのみ

> 無線LANのネットワーク設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

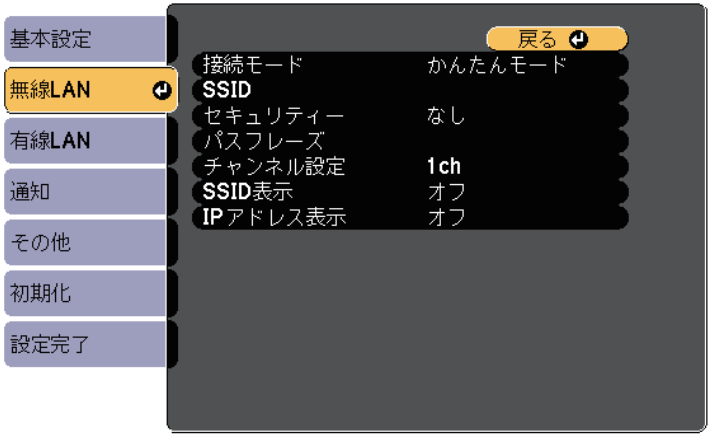
1. WPA2-EAPまたはWPA/WPA2-EAPセキュリティーを設定する場合は、本機に対応した形式の証明書をUSBストレージのルートディレクトリーに格納します。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

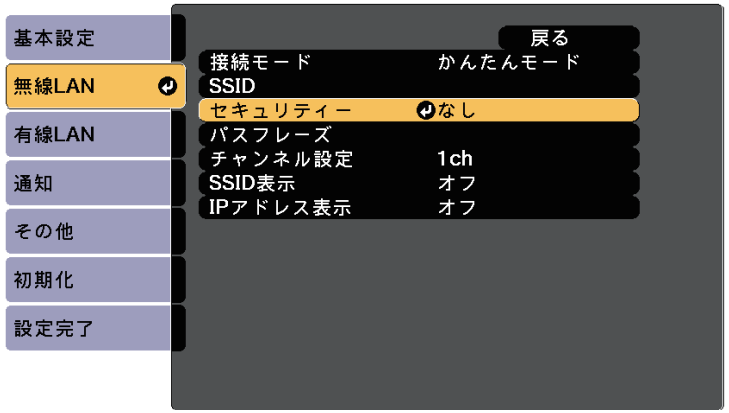
3 ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［無線LAN］を選択し、【決定】ボタンを押します。



6 ［セキュリティー］を選択し、【決定】ボタンを押します。



7 無線LANの設定に合わせて、セキュリティーを設定します。

8 選択したセキュリティーに応じて、以下のいずれかの操作をします。

- ［WPA2-PSK］、［WPA/WPA2-PSK］の場合：［設定完了］を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。
- ［WPA2-EAP］、［WPA/WPA2-EAP］の場合：［EAP設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

9 ［EAP種類］で認証プロトコルを選択します。

10 証明書の種類を選択し、【決定】ボタンを押します。

- ［クライアント証明書］：［PEAP-TLS］、［EAP-TLS］用のクライアント証明書をインポートします。
- ［CA証明書］：［PEAP］、［PEAP-TLS］、［EAP-TLS］、［EAP-FAST］用のCA証明書をインポートします。

電子証明書はWebブラウザーからも設定できます。ただし、Webブラウザーとプロジェクターメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

11 ［登録］を選択し、【決定】ボタンを押します。

12 画面の指示に従って本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。

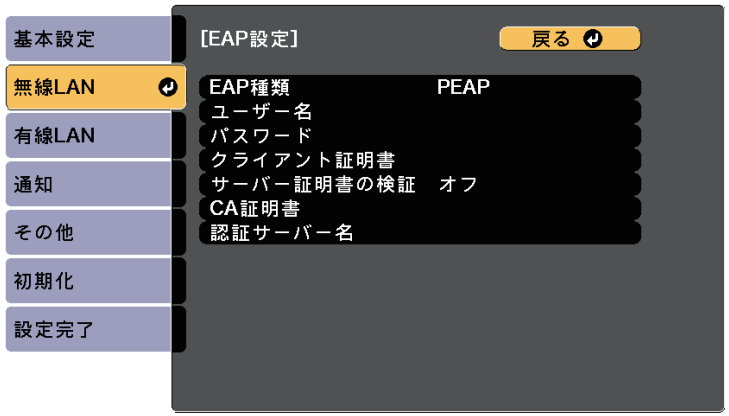
13 【決定】ボタンを押して、証明書の一覧を表示します。

14 一覧からインポートする証明書を選択します。
パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

15 証明書のパスワードを入力し、【決定】ボタンを押します。
証明書がインストールされ、完了メッセージが表示されます。

16 必要に応じてEAPセキュリティーを選択します。

- ［ユーザー名］：ユーザー名を入力します。半角英数字で64文字以内で入力します。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。クライアント証明書をインポートしたときは、証明書の発行先が自動で設定されます。
- ［パスワード］：［PEAP］、［EAP-FAST］、［LEAP］の認証用パスワードを入力します。半角英数字で64文字以内で入力します。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。
- ［サーバー証明書の検証］：CA 証明書が設定されているときに、サーバー証明書を照合するかどうかを選択します。
- ［認証サーバー名］：認証サーバー名を入力します。



17 設定が終わったら、［設定完了］を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

関連項目

- 「サポートするクライアント・CA証明書の一覧」 p.167
- 「ネットワークメニュー - 無線LANメニュー」 p.211

サポートするクライアント・CA証明書の一覧

以下の種類の電子証明書を設定できます。

クライアント証明書（PEAP-TLS/EAP-TLS）

項目	説明
フォーマット	PKCS#12
拡張子	PFX、P12
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512

項目	説明
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
パスワード*	設定が必要。32文字以内の半角英数字。

CA証明書（PEAP/PEAP-TLS/EAP-TLS/EAP-FAST）

項目	説明
フォーマット	X509v3
拡張子	DER/CER/PEM
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
エンコード	BASE64/バイナリー

* パスワードは半角英数字で64文字以内で設定できます。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。

QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する

プロジェクターの無線LAN設定が完了したら、LAN待機画面に投写されるQRコードをEpson iProjection (iOS/Android)で読み取って、スマートフォンやタブレット端末などのモバイルデバイスを接続できます。

- お使いのモバイルデバイスに、最新版のEpson iProjectionがインストールされていることを確認してください（本機能は、V1.3.0以降のEpson iProjectionでサポートされています）。
- Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。
- かんたんモードでEpson iProjectionを使うときは、セキュリティーの設定をすることをお勧めします。

1 リモコンの【LAN】ボタンを押します。
QRコードが投写画面に表示されます。

- QRコードが表示されないときは、［ネットワーク］メニューで［LAN情報表示］を［テキストとQRコード］に設定します。
  ☛［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［基本設定］ > ［LAN情報表示］
- QRコードを非表示にしたいときは、【戻る】ボタンを押してください。
- QRコードが表示されないときは、【決定】ボタンを押してください。
- ホーム画面からもQRコードを表示できます。

2 モバイルデバイスにインストールされているEpson iProjectionを起動します。

3 投写されているQRコードをEpson iProjectionで読み取って、プロジェクターに接続します。

投写画面に近づいて、正面からQRコードを読み取ります。QRコードがモバイルデバイスのQRコードリーダーのガイド内に収まっていることを確認します。画面から離れすぎると、正しく読み取れないことがあります。

接続が完了したら、☰から［コンテンツ］ メニューを選択し、投写するファイルを選択してください。

USBキーを使って接続する（Windowsのみ）

USBメモリーをUSBキーとして設定し、無線LANに対応したWindowsコンピューターとプロジェクターを簡単に無線接続します。USBキーを使うと、お使いのコンピューターの無線LAN設定を自動で選択し、ワイヤレスに映像を投写できます。

1. Epson iProjection (Windows/Mac)でUSBキーを設定します。

   詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

2. 無線LANユニットが取り付けられていることを確認します。
3. 本機の電源を入れます。
4. リモコンの【LAN】ボタンを押します。

   LAN待機画面が表示されます。SSIDおよびIPアドレスが表示されていることを確認します。

5. USBキーをプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

   ネットワーク情報の更新が終了したことを通知するメッセージが表示されます。

6. USBキーを取り外します。
7. コンピューターのUSB端子にUSBキーを接続します。

   Windows Vistaで自動再生ウィンドウが表示された場合は、［MPPLaunch.exe］を選択し、［許可］を選択します。

8. 画面の指示に従って、必要なアプリケーションのインストールを進めます。

   - Windowsファイアウォールのメッセージが表示されたときは、［はい］をクリックしてファイアウォールを無効にします。
   - コンピューターにソフトウェアをインストールするには、管理者権限が必要です。
   - 自動的にインストールされないときは、USBキー内の［MPPLaunch.exe］をダブルクリックします。

   しばらくすると、コンピューターの映像がプロジェクターから投写されます。

9. 投写が終了したら、Windowsタスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］を選択し、コンピューターからUSBキーを取り外します。

   USBキーを使用する前に接続していたアクセスポイントに接続するには、コンピューターの再起動が必要になることがあります。

HTTPSプロトコルを用いて、プロジェクターとWebブラウザー間の通信のセキュリティーを強固にできます。HTTPSプロトコルを用いたセキュリティーを適用するには、Webブラウザーから信頼性を検証できるサーバー証明書を作成してプロジェクターにインストールし、［セキュアHTTP］設定をオンにします。

☛［ネットワーク］>［ネットワーク設定画面へ］>［その他］>［セキュアHTTP］

サーバー証明書がないときは、プロジェクター内部で自己署名証明書を自動作成して通信します。自己署名証明書はWebブラウザーから信頼性を検証できないため、Webブラウザーからプロジェクターにアクセスしたときにサーバーの信頼性に関する警告が表示されます。この警告を無視することで通信を継続できます。

関連項目

- 「メニューからWebサーバー証明書を設定する」 p.170

メニューからWebサーバー証明書を設定する

プロジェクターメニューとUSBメモリーを使って、作成したWebサーバー証明書を本機にインストールします。

> 電子証明書はWebブラウザーからも設定できます。ただし、Webブラウザーとプロジェクターメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

1. 本機に対応した形式の証明書をUSBストレージのルートディレクトリーに格納します。
2. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
3. ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。
4. ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。
5. ［その他］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6. ［セキュアHTTP］を［オン］に設定します。
7. ［Webサーバー証明書］を選択し、【決定】ボタンを押します。
8. ［登録］を選択し、【決定】ボタンを押します。
9. 画面の指示に従って本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。
10. 【決定】ボタンを押して、証明書の一覧を表示します。
11. 一覧からインポートする証明書を選択します。
    パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。
12. 証明書のパスワードを入力し、【決定】ボタンを押します。

証明書がインストールされ、完了メッセージが表示されます。

関連項目

- 「サポートするWebサーバー証明書の一覧」 p.171

サポートするWebサーバー証明書の一覧

以下の種類の電子証明書を設定できます。

Webサーバー証明書（セキュアHTTP）

項目	説明
フォーマット	PKCS#12
拡張子	PFX、P12
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
Common Name	ネットワークホスト名
Organization	任意
パスワード*	設定が必要。32文字以内の半角英数字。

* パスワードは半角英数字で64文字以内で設定できます。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。

プロジェクターを監視および制御する

ネットワーク経由でプロジェクターの監視と制御を行う方法について説明します。

関連項目

- 「Epson Projector Management」 p.173
- 「Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する」 p.174
- 「メールでプロジェクターの異常を通知する」 p.178
- 「SNMPを使ってプロジェクターを監視する」 p.180
- 「ESC/VP21コマンドを使用する」 p.181
- 「PJLinkについて」 p.183
- 「Crestron RoomViewについて」 p.184
- 「プロジェクターのイベントスケジュールを設定する」 p.189

Epson Projector Managementを使用すると、ネットワークに接続されたプロジェクターの状態をコンピューターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます（Windowsのみ）。詳しくは、『Epson Projector Management操作ガイド』をご覧ください。

Epson Projector Managementは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

http://www.epson.jp/download/

Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する

コンピューターのWebブラウザーを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターのメニュー設定や制御を離れた場所から行えます。

- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。無線LANで接続するときは、［マニュアルモード］で接続してください。
- 以下のWebブラウザーを使用できます。
  - Internet Explorer 11.0以降（Windows）
  - Microsoft Edge（Windows）
  - Safari（Mac）
  - Safari（iOS）
  - Google Chrome（Android）
- お使いのWebブラウザーで、接続にプロキシサーバーを使用しないように設定してください。メニュー設定の中には、Webブラウザーからは設定できない項目があります。
- ［節電］メニューで［待機モード］を［通信オン］に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）のときも、Webブラウザーを使って設定や制御ができます。
  ☛ ［節電］ > ［待機モード］ > ［待機モード］

1 本機の電源がオンになっていることを確認します。

2 お使いの機器を、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。

3 お使いの機器でWebブラウザーを起動します。

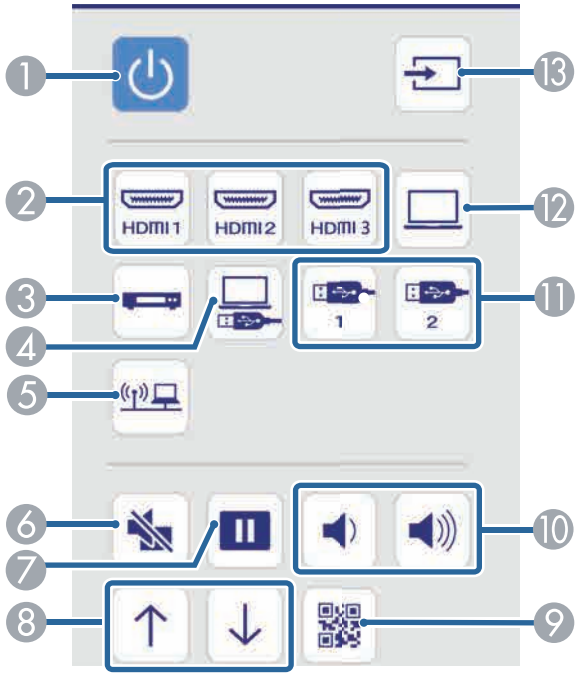
4 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。

Epson Web Control画面が表示されます。

5 投写映像を操作するには、［ベーシックコントロール］を選択します。

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。（ユーザー名は**EPSONREMOTE**、デフォルトのパスワードは**guest**です。）
- パスワードは、［ネットワーク］メニューの［Remoteパスワード］で変更できます。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［基本設定］ > ［Remoteパスワード］

6 アイコンを選択して、本機の操作をします。



① 電源ボタン
② 映像の入力ソースをHDMIに切替
③ 映像の入力ソースをビデオに切替
④ 映像の入力ソースをUSB Displayに切替
⑤ 映像の入力ソースをネットワークに切替
⑥ A/Vミュートボタン
⑦ 静止ボタン
⑧ ページ送り/戻しボタン
⑨ QRコード表示ボタン
⑩ 音量ボタン
⑪ 映像の入力ソースをUSB機器に切替
⑫ 映像の入力ソースをコンピューターに切替
⑬ 映像の入力検出

7 プロジェクターのメニューを設定するには、Epson Web Control画面で［詳細設定］を選択します。

- ［OSDコントロールパッド］からも、プロジェクターのメニューを操作して、設定を変更できます。OSDコントロールパッド画面の操作方法については、ヘルプをご覧ください。
- Epson Web Control画面のオプション設定をするためにログインを求められる場合があります。ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。（ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。）
- パスワードは、［ネットワーク］メニューの［Web制御パスワード］で変更できます。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［基本設定］ > ［Web制御パスワード］

8 設定したいメニューを選択し、画面の指示に従って設定します。

- 以下の項目はWebブラウザーでは設定できません。
  - デジタル ピクチャーシフト
  - HDMIリンク
  - ポインター形状
  - ユーザーボタン
  - テストパターン
  - 設置ガイド
  - Easy Interactive Function（EB-710UT）
  - ツールバー（EB-710UT）
  - ペンモードアイコン（EB-710UT）
  - プロジェクター制御（EB-710UT）
  - ユーザーロゴ
  - ELPCB02を接続する（EB-710UT）
  - USB Type B（EB-710UT）
  - 言語
  - プリンター設定（EB-710UT）
- 以下の項目はWebブラウザーでのみ設定できます。
  - Monitorパスワード（半角英数字で16文字以内）
  - HTTPポート追加（Web制御に使用するポート番号で、80 (デフォルト)、843、3620、3621、3625、3629、4352、4649、5357、10000、10001、41794以外の番号）

関連項目
- 「Webブラウザーで証明書を設定する」 p.176
- 「ネットワークメニュー」 p.209
- 「節電メニュー」 p.217

Webブラウザーで証明書を設定する

セキュリティー設定に用いる電子証明書を本機に設定します。

本機への電子証明書のインストールは、［ネットワーク］メニューからも行うことができます。ただし、Webブラウザーとプロジェクターメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

☛［ネットワーク］＞［ネットワーク設定画面へ］＞［無線LAN］＞［EAP設定］＞［クライアント証明書］

☛［ネットワーク］＞［ネットワーク設定画面へ］＞［無線LAN］＞［EAP設定］＞［CA証明書］

☛［ネットワーク］＞［ネットワーク設定画面へ］＞［その他］＞［Webサーバー証明書］

1. 本機に対応した形式の証明書を用意します。
2. 本機の電源がオンになっていることを確認します。
3. ネットワークに接続されているコンピューターまたはモバイルデバイスでWebブラウザーを起動します。
4. ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。

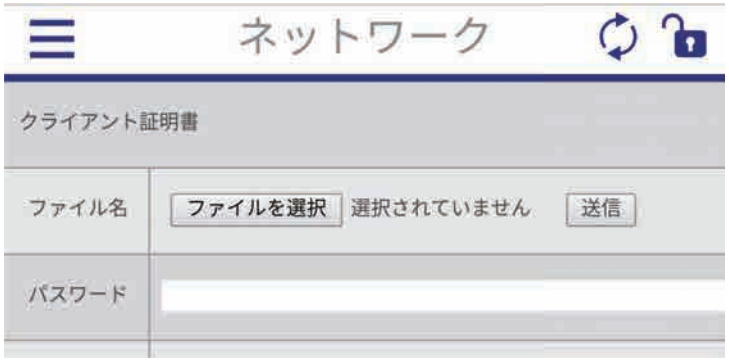
Epson Web Control画面が表示されます。

5 ［詳細設定］を選択します。

- 詳細設定画面を表示するには、ログインが必要です。ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。（ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。）
- パスワードは、［ネットワーク］メニューの［Web制御パスワード］で変更できます。
  ☛［ネットワーク］＞［ネットワーク設定画面へ］＞［基本設定］＞［Web制御パスワード］

6 ［ネットワーク］から［証明書］を選択します。

Web制御画面が表示されます。



7 登録する証明書を選択します。

8 ［パスワード］ボックスにパスワードを入力し、［送信］をクリックします。

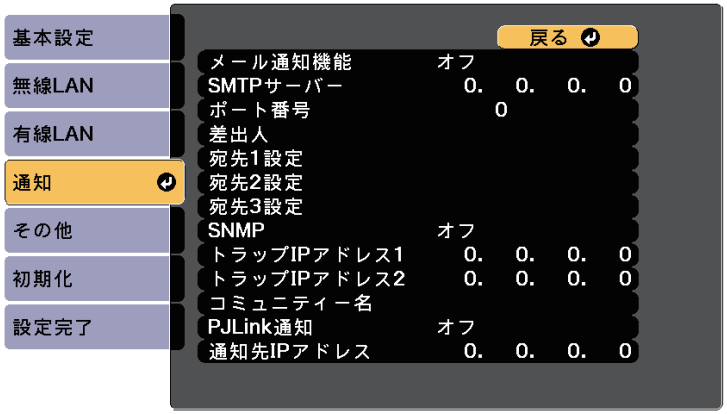
9 設定が終了したら、［確定］をクリックします。

プロジェクターが異常/警告状態になったとき、異常状態が電子メールで通知されるようにメール通知機能を設定できます。

［節電］メニューで［待機モード］を［通信オン］に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）のときも、通知メールを送信できます。

☛［節電］＞［待機モード］＞［待機モード］

1. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
2. ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。
3. ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。
4. ［通知］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5. ［メール通知機能］を［オン］に設定します。
6. ［SMTPサーバー］にIPアドレスを入力します。

> 127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。

7. ［ポート番号］にSMTPサーバーのポート番号を0〜65535の数値で入力します（デフォルトは25）。
8. 送信者として表示されるメールアドレスを［差出人］に入力します。
9. 宛先を選択し、メールアドレスとメール通知する異常/警告の種類を選択します。宛先は3つまで設定できます。

> メールアドレスは半角英数字で32文字以内で入力します。

10. 設定が終わったら、［設定完了］を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

> 本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になったときは、メールを送信できないことがあります。

関連項目

- 「異常通知メールの見方」 p.178
- 「節電メニュー」 p.217

異常通知メールの見方

通知メールを送信する設定をしているとき、本機が異常/警告状態になると、以下の情報を含むメールが送信されます。

- メール差出人：［差出人］のメールアドレス

メールでプロジェクターの異常を通知する

- メール件名：［Epson Projector］
- 1行目：異常が生じたプロジェクター名
- 2行目：異常が生じたプロジェクターのIPアドレス
- 3行目：異常の内容

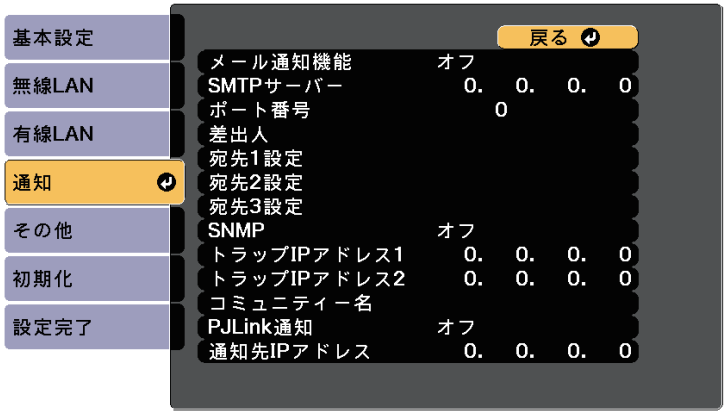
コンピューターにSNMP（Simple Network Management Protocol）ソフトウェアをインストールして、プロジェクターを監視できます。SNMPによる管理は、ネットワーク管理者が行います。SNMPソフトウェアを使用するときは、本機のSNMP設定をします。

1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

2 ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［通知］を選択し、【決定】ボタンを押します。



5 ［SNMP］を［オン］にします。

6 トラップIPアドレスに、SNMP通知を受信するIPアドレスを入力します。0〜255の数字を入力します。

127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。本機のSNMPエージェントはバージョン1（SNMPv1）に対応しています。

7 SNMPの［コミュニティー名］を半角英数字32文字以内で入力します。

8 設定が終わったら、［設定完了］を選択します。画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

ESC/VP21を使用して外部機器から本機を制御できます。

関連項目

- 「ESC/VP21コマンドリスト」 p.181
- 「ケーブル配線」 p.181

ESC/VP21コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。電源オンの状態になると、本機はコロン':'（3Ah）を返信します。

本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後':'を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に':'を返信します。

以下のコマンドを使用できます。

項目		コマンド
電源のオン/オフ	オン	PWR ON
	オフ	PWR OFF

項目			コマンド
信号切り替え	コンピューター	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11
		コンポーネント	SOURCE 14
	HDMI1/MHL		SOURCE 30
	HDMI2		SOURCE A0
	HDMI3		SOURCE C0
	ビデオ		SOURCE 41
	USB Display		SOURCE 51
	USB1		SOURCE 52
	LAN		SOURCE 53
	USB2		SOURCE 54
A/Vミュート機能のオン/オフ	オン		MUTE ON
	オフ		MUTE OFF

各コマンドの最後に復帰（CR）コード（0Dh）を追加して送信してください。

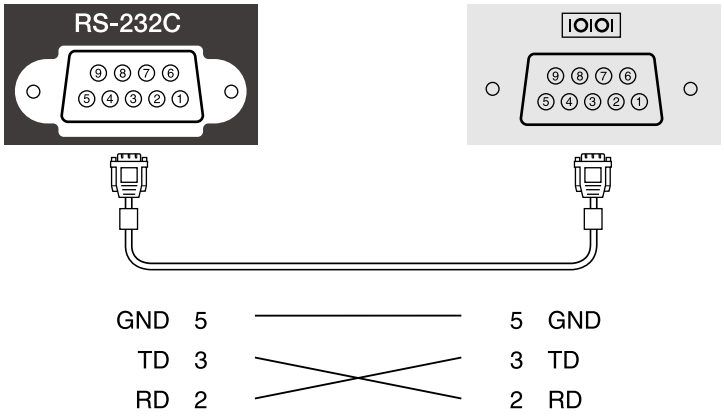
詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

ケーブル配線

シリアル接続

- コネクター形状：D-Sub 9pin（オス）
- プロジェクター入力端子名：RS-232C
- ケーブルタイプ：クロスケーブル

以下の図では、左の端子がプロジェクター側、右の端子がコンピューター側を示しています。



信号名	働き
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティー：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

JBMIA（社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLinkが策定されました。

このプロジェクターは、JBMIAによって策定されたPJLink Class2規格に準拠しています。

PJLinkの検索機能で使用するポート番号は4352（UDP）です。

PJLinkを使用するには、事前にネットワーク設定を行う必要があります。

次のコマンドを除く、PJLink Class2によって規定されているすべてのコマンドに対応しており、PJLink規格適合性検証の結果が承認されています。

http://pjlink.jbmia.or.jp/

- 非対応コマンド

働き		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

- 入力端子名称および入力ソース番号の対応表

入力端子名称	入力ソース番号
コンピューター	11
ビデオ	21
HDMI1/MHL	32
HDMI2	33
HDMI3	36
USB1	41
USB2	42
LAN	52
USB Display	53

- 「メーカ名問合せ」で表示するメーカ名
  EPSON
- 「機種情報問合せ」で表示する機種名
  - EPSON 710Ui/710UT
  - EPSON 700U

Crestron RoomViewは統合コントロールシステムです。ネットワークで接続された複数の機器を一括して監視、制御できます。Crestron RoomViewを使うと、Webブラウザーを利用してプロジェクターの制御や監視ができます。

- Crestron RoomViewを使用するときは、本機のEpson Web Control機能や、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能を使用できません。
- ［節電］メニューで［待機モード］を［通信オン］に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）でもプロジェクターを制御できます。
  ☛ ［節電］ > ［待機モード］ > ［待機モード］

Crestron RoomViewの詳細については、Crestron社Webサイトを参照してください。

http://www.crestron.com

システム内の機器の監視には、Crestron社が提供するCrestron RoomView ExpressまたはCrestron RoomView Server Editionを使用できます。監視の他にヘルプデスクとの通信、緊急時のメッセージ送信ができます。詳細は以下をご覧ください。

http://www.crestron.com/getroomview

本書では、Webブラウザーを利用してコンピューターの画面上で本機を操作する方法を説明します。

関連項目

- 「Crestron RoomViewを設定する」 p.184
- 「Crestron RoomViewを使ってネットワークプロジェクターを制御する」 p.185

Crestron RoomViewを設定する

Crestron RoomViewを使ってプロジェクターの監視と制御をするには、コンピューターとプロジェクターがネットワークに接続されていることを確認します。無線で接続する場合は、マニュアルモードでネットワークに接続します。

1. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。
2. ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。
3. ［ネットワーク設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。
4. ［その他］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5. ［Crestron RoomView］を［オン］に設定して、プロジェクターが検出されるようにします。
6. 設定が終わったら、［設定完了］を選択し、画面の指示に従って設定を保存してメニューを終了します。

7 プロジェクターの電源を入れなおして設定を有効にします。

Crestron RoomViewを使ってネットワークプロジェクターを制御する

プロジェクターでCrestron RoomViewを使用する設定にすると、コンピューターのWebブラウザーを使ってネットワークに接続されたプロジェクターの設定や制御ができます。

1 ネットワークに接続されているコンピューターでWebブラウザーを起動します。

2 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、コンピューターの**Enter**キーを押します。

次の画面が表示されます。

3 投写する入力ソースを［Sources List］から選択します。上下ボタンをクリックして、入力ソースをスクロールできます。

4 画面上のボタンを操作します。プロジェクターのリモコンボタンと同様の操作ができます。画面の下部にあるボタンは左右にスクロールできます。

ボタンは以下のように動作します。
- OK：【決定】ボタン
- Menu ：プロジェクターのメニュー表示

5 プロジェクターの情報を表示するには、［Info］をクリックします。

6 プロジェクター情報、Crestron Control情報、およびパスワードを変更するには、［Tools］をクリックし、表示された画面で設定してから、［Send］をクリックします。

7 設定が終わったら、［Exit］をクリックして画面を閉じます。

関連項目
- 「Crestron RoomView操作画面」 p.186
- 「Crestron RoomView Tools画面」 p.187

Crestron RoomView操作画面

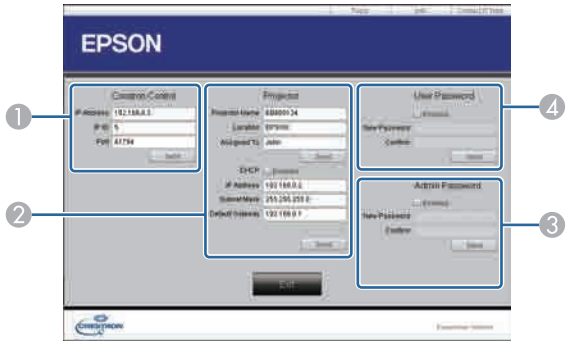
操作画面を使って、プロジェクターの制御と投写映像の調整ができます。

❶	Power	電源をオン/オフします。
	Vol-/Vol+	音量を調整します。
	A/V Mute	映像と音声を一時的に遮断/解除します。
❷	投写する入力ソースを切り替えます。［Sources List］に表示されていない入力ソースを表示するには、（a）、（b）をクリックして上下にスクロールします。映像信号が入力されているソースは青色で表示されます。 入力ソース名は任意で変更できます。	

❸	Freeze	映像を一時停止/解除します。
	Contrast	映像のコントラストを調整します。
	Brightness	映像の明るさを調整します。
	Color	映像の色の濃さを調整します。
	Sharpness	映像のシャープ感を調整します。
	Zoom	投写映像の一部をズームします。上下左右ボタンをクリックすると、ズームされた映像の表示位置を移動できます。
❹	上下左右ボタン	リモコンの上下左右ボタンと同じ操作をします。
	OK	リモコンの【決定】ボタンと同じ操作をします。
	Menu	メニュー画面を表示/終了します。
	Auto	コンピューター端子からアナログRGB信号を投写しているときにクリックすると、［映像］メニューの［トラッキング］、［同期］、［表示位置］の設定を最適にします。
	Search	映像信号が入力されている入力ソースの映像に切り替えます。
	Esc	リモコンの【戻る】ボタンと同じ操作をします。
❺	Contact IT Help	Help Desk画面が表示されます。Crestron RoomView Expressを利用する管理者に対して、メッセージの送受信を行えます。
	Info	接続しているプロジェクターの情報を表示します。
	Tools	接続しているプロジェクターの設定を変更します。

Crestron RoomView Tools画面

Tools画面を使って、接続しているプロジェクターの設定を変更できます。



❶	Crestronの集中制御コントローラーを設定します。

❷	Projector Name	接続しているプロジェクターを、ネットワーク上で識別するための個別の名前を入力します。（半角英数字16文字以内）
	Location	接続しているプロジェクターの設置場所名を入力します。（半角英数字記号32文字以内）
	Assigned To	プロジェクターのユーザー名を入力します。（半角英数字記号32文字以内）
	DHCP	DHCPを使用するときは選択します。DHCPを有効にしたときは、IPアドレスなどは入力できません。
	IP Address	接続しているプロジェクターに割り当てるIPアドレスを入力します。
	Subnet Mask	現在接続しているプロジェクターのサブネットマスクを入力します。
	Default Gateway	現在接続しているプロジェクターのゲートウェイアドレスを入力します。
	Send	変更した内容を確定します。
❸	Enabled（Admin Password）	Tools画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは選択します。
	New Password	Tools画面を開くときのパスワードを変更するには新しいパスワードを入力します。（半角英数字26文字以内）
	Confirm	［New Password］に入力したパスワードを再度入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
	Send	［Admin Password］で変更した内容を確定します。

❹	Enabled（User Password）	操作画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは選択します。
	New Password	操作画面を開くときのパスワードを変更するには新しいパスワードを入力します。（半角英数字26文字以内）
	Confirm	［New Password］に入力したパスワードを再度入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
	Send	［User Password］で変更した内容を確定します。

プロジェクターのイベントスケジュールを設定する

プロジェクターの電源のオン/オフや入力ソースの切り替えなど、最大30件のイベントをプロジェクターにスケジュール登録できます（EB-700U）。設定した日時に選択したイベントが自動的に実行されます。

⚠ 警告

燃えやすい物をプロジェクターのレンズの前に置かないでください。スケジュール機能によりプロジェクターの電源が自動でオンになり、火災の原因となることがあります。

- パスワードプロテクト画面で［スケジュール保護］をオンにしているときは、事前に［スケジュール保護］をオフにします。
- 本機を24時間以上連続して使用する場合や、常にダイレクトシャットダウンで本機の電源を切る場合は、［光源キャリブレーション］は自動的に開始されません。実行するには、［光源キャリブレーション］をイベントとしてスケジュール設定してください。

1 ［日付＆時刻］メニューで日時を設定します。

☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［日付＆時刻］

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

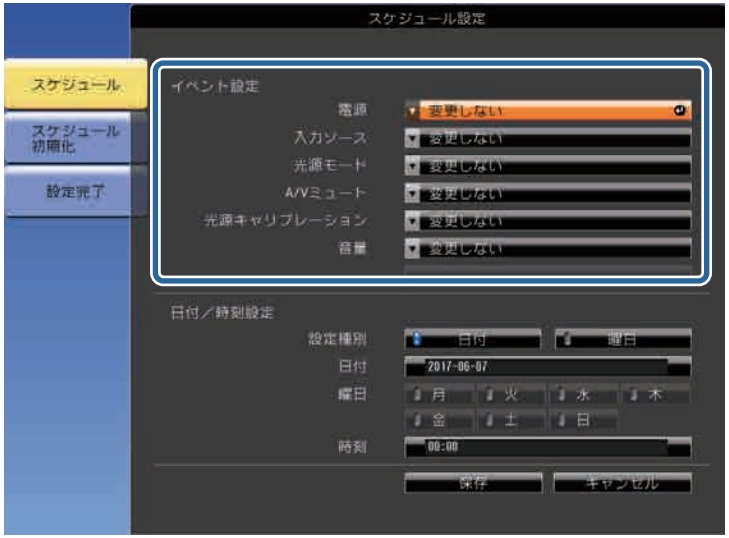
3 ［拡張設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［スケジュール設定画面へ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［スケジュール］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 ［新規追加］を選択し、【決定】ボタンを押します。

7 イベント実行時のプロジェクターの動作内容を設定します。



8 イベントを実行する日付や曜日、時刻を選択します。

9 ［保存］を選択し、【決定】ボタンを押します。

登録したイベントが画面に表示されます。イベントのステータスや時刻はアイコンやインジケーターで示されます。

❶ ：有効なイベント
：定期的なイベント
：無効なイベント

❷ 選択している日付（黄色で強調表示）

❸ ：1回限りのイベント
：定期的なイベント
：通信監視のオン/オフ
：無効なイベント

10 登録されているイベントを編集するには、イベントを選択し、【戻る】ボタンを押します。

11 表示されたメニューから操作を選択します。

- ［有効］/［無効］：選択したイベントを有効または無効にできます。
- ［編集］：イベントの動作内容または日時を変更できます。
- ［削除］：登録したイベントを一覧から削除できます。

12 ［設定完了］を選択して、［はい］を選択します。

登録したイベントをすべて削除するには、［スケジュール初期化］を選択します。

メニューの設定

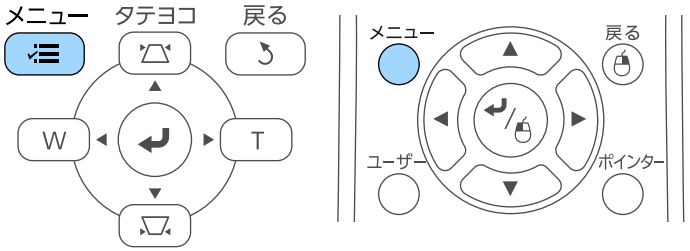
プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

関連項目

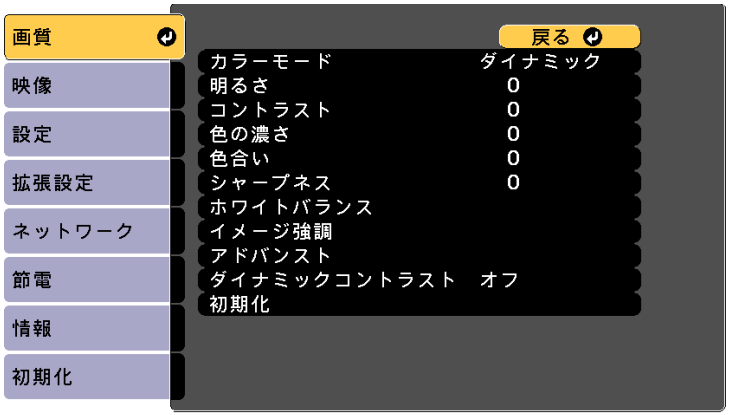
- 「プロジェクターメニューを操作する」 p.193
- 「ソフトキーボードを操作する」 p.194
- 「画質メニュー」 p.195
- 「映像メニュー」 p.197
- 「設定メニュー」 p.199
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「ネットワークメニュー」 p.209
- 「節電メニュー」 p.217
- 「情報メニュー」 p.219
- 「初期化メニュー」 p.222
- 「メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能）」 p.223

投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



［画質］メニューが表示されます。



2 上下ボタンを押して、左側に表示されるメニュー項目を選択します。各メニューの設定が右側に表示されます。

現在投写している入力ソースによって設定できる項目が異なります。

3 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。

4 上下ボタンを押して、設定項目を選択します。

5 メニュー画面の下に表示されるナビゲーションに従って、設定を変更します。

6 メニュー設定をすべて初期設定に戻すには、［初期化］を選択します。

7 メニューの設定が終わったら、【戻る】ボタンを押します。

8 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

数字や文字の入力が必要なときはソフトキーボードが表示されます。

1 リモコンまたは操作パネルの上下左右ボタンを使って、入力する数字や文字を選択し、【決定】ボタンを押します。

［CAPS］キーを選択すると、大文字小文字が切り替わります。［SYM1/2］キーを選択すると、枠に囲まれている記号が変わります。

2 テキストの入力後、キーボードの［Finish］を選択して入力を確定します。［Cancel］を選択すると、テキストの入力を取り消します。

コンピューターのWebブラウザーを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターの設定や制御ができます。

プロジェクターメニューのソフトキーボードでは入力できない文字があります。ソフトキーボードで入力できない文字はWebブラウザーを使って入力してください。

関連項目

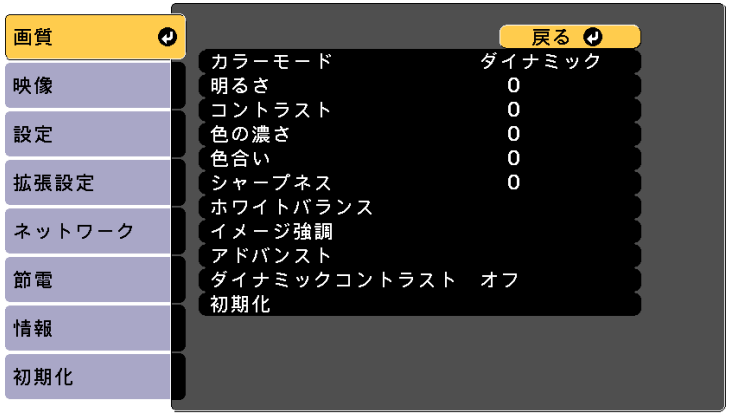
- 「ソフトキーボードで入力可能な文字」 p.194
- 「Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する」 p.174

ソフトキーボードで入力可能な文字

ソフトキーボードでは、以下の文字を入力できます。

文字タイプ	詳細
数字	0123456789
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ~

［画質］メニューでは、現在投写している入力ソースの映像の画質を調整できます。現在投写している入力ソースによって設定できる項目が異なります。



設定を変更するには、変更したい入力ソースの映像が投写されていることを確認してください。

設定	選択肢	説明
カラーモード	カラーモードの一覧を参照	映像の種類や使用環境に応じて、適当なカラーモードを選択します。
明るさ	レベル調整	映像の明るさを調整します。
コントラスト	レベル調整	映像のコントラストを調整します。
色の濃さ	レベル調整	映像の色の濃さを調整します。
色合い	レベル調整	映像の色合いを調整します。
シャープネス	レベル調整	映像のシャープ感を調整します。
ホワイトバランス		映像全体の色合いを調整します。

設定	選択肢	説明
	色温度	［色温度］：選択したカラーモードに応じて設定します。値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。
	G-M補正	［G-M補正］：映像の色合いを細かく調整します。値を高くすると緑がかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。
	カスタム	［カスタム］：R（赤）、G（緑）、B（青）の各色ごとにオフセットとゲインを調整します。
イメージ強調	ノイズリダクション	アナログ映像のざらつきを抑えます。
アドバンスト		映像の色に関する設定をします。
	ガンマ	［ガンマ］：補正値を選んだり、投写映像やガンマグラフを見ながら映像の発色を調整します。
	RGBCMY	［RGBCMY］：R（赤）、G（緑）、B（青）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）ごとに色相、彩度、明度を調整します。

設定	選択肢	説明
	プログレッシブ変換 （インターレース信号[480i/576i/1080i]入力時）	［プログレッシブ変換］：インターレース信号をプログレッシブ信号に変換します。 • ［オフ］：動きの速いビデオ映像に適しています。 • ［ビデオ］：一般のビデオ映像に適しています。 • ［フィルム/オート］：映画フィルムやCG、アニメーションに適しています。
ダイナミックコントラスト	オフ 標準 高速	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。 カラーモードを［ダイナミック］または［シネマ］に設定しているときに調整できます。 この項目は［マルチプロジェクション］を［オン］に設定しているときは設定できません。 ☛ ［拡張設定］ > ［マルチプロジェクション］ > ［マルチプロジェクション］
初期化	—	［カラーモード］を除く、［画質］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

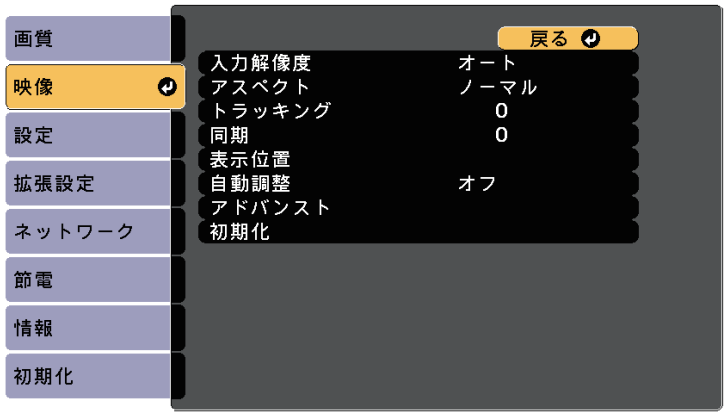
• ［明るさ］の設定は光源の明るさには影響しません。光源の明るさを変更するには、［節電］メニューで［明るさ設定］を設定します。

関連項目

• 「カラーモードの種類」 p.73

本機は入力信号方式を自動的に検出し、映像設定を最適化します。詳細な設定が必要なときは、［映像］メニューで設定します。現在投写している入力ソースによって設定できる項目が異なります。

以下の入力ソースのときは、［映像］メニューを設定できません。
- USB Display
- USB
- LAN



リモコンの【自動調整】ボタンを押して、［トラッキング］、［同期］、［表示位置］の設定を初期値に戻すことができます。

設定を変更するには、変更したい入力ソースの映像が投写されていることを確認してください。

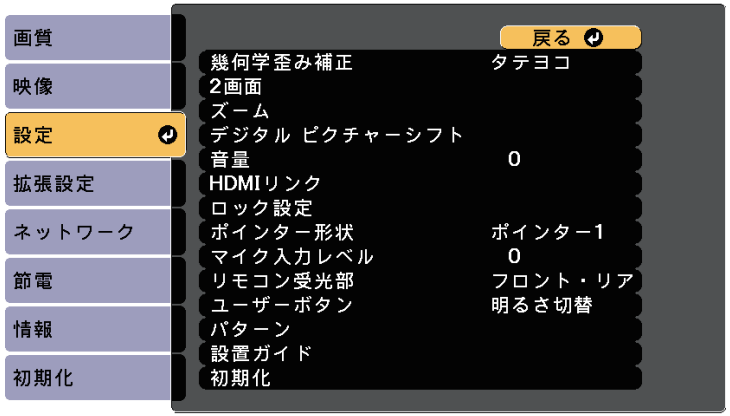
設定	選択肢	説明
入力解像度	オート ワイド ノーマル	［オート］に設定しても投写映像が欠けるときは、入力信号の解像度を設定します。
アスペクト	アスペクトモードの種類を参照	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。
トラッキング	レベル調整	映像に縦の縞模様が出ないように調整します。
同期	レベル調整	映像にぼやけ、ちらつきが出ないように調整します。
表示位置	—	投写画面内の映像の表示位置を調整します。
自動調整	オン オフ	［オン］にすると、トラッキング、同期、表示位置を最適な状態に自動調整します。
オーバースキャン	オート オフ 4% 8%	出画率（投写する映像の範囲）を変更して、映像がトリミングされる範囲を設定します。

設定	選択肢	説明
アドバンスト	HDMI ビデオレベル	［HDMI ビデオレベル］：HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。 • ［オート］：ビデオレベルを自動的に検出します。 • ［通常］：コンピューター以外の機器からの映像に適しています。映像の黒い部分が明るすぎる場合に選択すると効果的です。 • ［拡張］：コンピューターからの映像に適しています。映像が暗すぎる場合に選択すると効果的です。
	入力信号方式	［入力信号方式］：コンピューター端子からの映像信号を設定します。 • ［オート］：映像信号を自動的に検出します。 • ［RGB］：コンピューター/RGBビデオ信号を入力します。 • ［コンポーネント］：コンポーネントビデオ信号を入力します。
	ビデオ信号方式	［ビデオ信号方式］：ビデオ端子からの映像信号を設定します。［オート］に設定している場合に映像にノイズが入ったり、映像が映らないときは、接続している機器に応じて適切な映像信号を選択します。
初期化	—	［映像］メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 • ［入力信号方式］

関連項目

• 「アスペクトモードの種類」 p.71

［設定］メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



設定	選択肢	説明
幾何学歪み補正		投写画面のゆがみを補正します。
	タテヨコ	［タテヨコ］：縦方向、横方向のゆが みを補正します。
	Quick Corner	［Quick Corner］：投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。
	湾曲補正	［湾曲補正］：曲面に投写した映像のゆがみを補正します。 • ［メモリー呼出］：メモリーとして登録した映像の形状を呼び出します。 • ［メモリー登録］：補正した映像の形状を、メモリーとして登録します。

設定	選択肢	説明
2画面 （［ELPCB02を接続する］* が［オフ］に設定さているときのみ）	画面サイズ 入力ソース 左右画面入替 音声切替 配置 ペンモード * ペンモード対象 * 描画エリア表示 * QRコード表示 2画面終了	投写画面を分割し、2つの映像を横に並べて表示します。（【戻る】ボタンを押すと、2画面表示を終了します。）
ズーム	レベル調整	投写映像のサイズを調整します。
デジタル ピクチャーシフト	位置調整	本機を動かさずに映像の投写位置を調整します。
音量	レベル調整	本機のスピーカーの音量を調整します。 また、外部スピーカーの音量も調整できます。 設定した内容は入力ソースごとに保持されます。
HDMIリンク		HDMIリンクの設定をします。
	接続機器一覧	［接続機器一覧］：HDMI端子に接続されている機器の一覧を表示します。
	HDMIリンク	［HDMIリンク］：HDMIリンクの有効/無効を切り替えます。

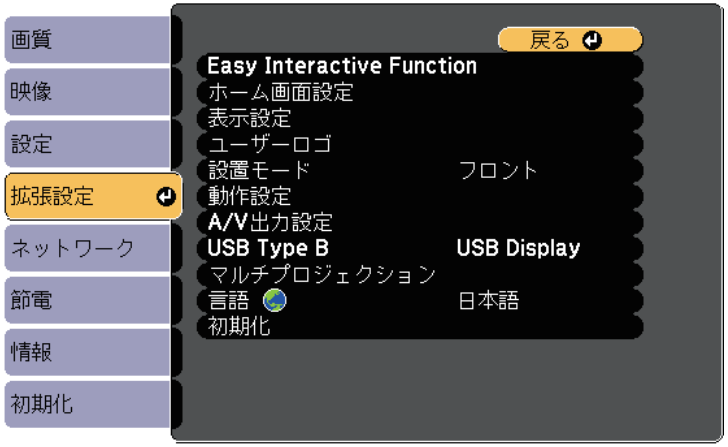
設定	選択肢	説明
	音声出力機器	［音声出力機器］：AVアンプを接続している場合に、本機のスピーカーから音声を出力するか、AVアンプのスピーカーから音声を出力するかを選択します。
	電源オン連動	［電源オン連動］：本機または接続機器の電源をオンにしたときの動作を設定します。 • ［双方向］：本機の電源オンに連動して接続機器の電源をオンに、また、接続機器の電源オンに連動して本機の電源をオンにします。 • ［接続機器→PJ］：接続機器の電源オンに連動して、本機の電源をオンにします。 • ［PJ→接続機器］：本機の電源オンに連動して、接続機器の電源をオンにします。
	電源オフ連動	［電源オフ連動］：本機の電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにするかしないかを設定します。
	リンクバッファー	［リンクバッファー］：HDMIリンクが正しく動作しないときに、設定を変更するとリンク動作が向上することがあります。

設定	選択肢	説明
ロック設定	操作ボタンロック	操作パネルの操作制限を設定します。 ［全ロック］：すべてのボタンをロックします。 ［操作ロック］：電源ボタンを除くすべてのボタンをロックします。 ［オフ］：ボタンをロックしません。
ポインター形状	ポインター1： ポインター2： ポインター3： 	ポインター形状を選択します。
マイク入力レベル*	—	マイクを接続しているときに、本機のスピーカーの音量を調整します。 マイク入力レベルを上げると、その他の接続機器からの音量が下がります。下げると、その他の接続機器からの音量が上がります。
リモコン受光部	フロント・リア フロント リア オフ	リモコンからの操作信号を受信する受光部を制限します。［オフ］にすると、リモコンからの操作ができなくなります。

設定	選択肢	説明
ユーザーボタン	光源モード 情報 プログレッシブ変換 入力解像度 マイク入力レベル* パターン表示 自動位置合わせ* QRコード表示 設置ガイド	リモコンの【ユーザー】ボタンに割り当てるメニュー項目を設定します。ボタンを押すと、割り当てたメニュー項目がワンタッチで表示されます。
パターン		パターン表示に関する設定をします。 **注意** 長時間パターンを表示していると投写映像に残像が現れることがあります。
	パターン表示	［パターン表示］：投写画面にパターン映像を表示させます。
	パターン種類	［パターン種類］：パターン1~4と、［ユーザーパターン］の5種類が選べます。パターン1～4には、罫線や格子などのパターンが登録されています。
	ユーザーパターン	［ユーザーパターン］：現在投写している映像を、パターン映像として登録します。
	テストパターン	［テストパターン］：機器を接続せずに映像のピントやズーム、映像のゆがみを調整できるように、テストパターンを表示します。（【戻る】ボタンを押すと表示を終了します。）
設置ガイド	—	本機の設置時に、ガイドスクリーンを表示します。
初期化	—	［設定］メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 • ［ズーム］ • ［デジタル ピクチャーシフト］ • ［音声出力機器］ • ［電源オン連動］ • ［電源オフ連動］ • ［リンクバッファー］ • ［ユーザーボタン］

* EB-710UTのみ

［拡張設定］メニューでは、プロジェクターの詳細な設定ができます。



設定	選択肢	説明
Easy Interactive Function *	Easy Interactive Functionメニューの画面へ移動	インタラクティブ機能を使うための各種設定をします。
ホーム画面設定		ホーム画面の表示オプションを選択します。
	ホーム画面自動表示	［ホーム画面自動表示］：本機を起動したとき入力信号がない場合に、ホーム画面を自動的に表示するかしないかを選択します。
	カスタム機能1 カスタム機能2	［カスタム機能1］/［カスタム機能2］：よく使う機能や設定メニューをホーム画面に割り当てます。
表示設定		表示に関する設定をします。

設定	選択肢	説明
	メッセージ表示	［メッセージ表示］：［オン］にすると、入力ソース名、カラーモード名、アスペクト比、映像信号が入力されていないときのメッセージや高温警告などのメッセージが投写画面上に表示されます。メッセージを表示させたくないときは［オフ］を選択します。
	背景表示	［背景表示］：映像信号が入力されていないときに投写する画面の背景色またはロゴ表示を選択します。
	スタートアップスクリーン	［スタートアップスクリーン］：［オン］にすると、投写開始時にユーザーロゴを表示します。
	ユニフォーミティー	［ユニフォーミティー］：［オン］にすると画面全体の色味のバランスを調整します。 • ［調整レベル］：レベルを設定します。 • ［調整開始］：色味を調整するエリアを選択し、赤、緑、青ごとの色味を調整します。
	ツールバー *	［ツールバー］：インタラクティブ機能使用時に、描画ツールバーを常に表示するかしないかを選択します。初期値は［一定時間で消去］です。
	ペンモードアイコン *	［ペンモードアイコン］：［オン］にすると、インタラクティブ機能使用時に、ペンモードを切り替えるアイコンを常に表示します。

設定	選択肢	説明
	プロジェクター制御 *	［プロジェクター制御］：［オン］にすると、 インタラクティブ機能使用時に、下段ツールバーを常に表示します。
ユーザーロゴ	—	本機の識別やセキュリティー向上のために、本機で表示するユーザーロゴを登録します。
設置モード	フロント フロント・上下反転 リア リア・上下反転	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
動作設定		本機の動作に関する設定をします。
	ダイレクトパワーオン	［ダイレクトパワーオン］：電源プラグを差し込むだけで、本機の電源が入ります。
	高地モード	［高地モード］：標高約1500m以上の場所で本機を使えるように動作を制御します。
	自動入力検出	［自動入力検出］：［オン］にすると、現在の入力ソースからの映像信号がないときに、自動的に他の入力ソースからの信号を検出して映像を投写します。 高速起動モードで本機を起動したときは、この機能は無効です。

設定	選択肢	説明
	オートパワーオン	［オートパワーオン］：本機がスタンバイ状態のときに、選択した入力ソースからの映像信号を検出すると、自動的に本機の電源が入ります。 以下の入力ソースに対応しています。 • HDMI1 • コンピューター • USB Display
	高速起動	［高速起動］：高速起動モードを維持する時間を設定します。本機の電源を切ると高速起動モードに入ります。高速起動モード中に電源ボタンを押すと、約5秒で投写できます。 （事前に［A/V出力］を［投写時］に設定してください。） 以下の場合は、通常の起動時間となります。 • USB端子からの映像を投写するとき
	ELPCB02を接続する *	［ELPCB02を接続する］：本機にインターフェースボックスを接続しているときに、本機のHDMI3端子に接続された機器からの映像を投写するには、［オン］を選択します。［オン］にすると、インターフェースボックスの【HDMI2】ボタンを押すたびに、投写される入力ソースがHDMI2とHDMI3とで切り替わります。

設定	選択肢	説明
	日付＆時刻	［日付＆時刻］：本機の日付と時刻を設定します。 • ［夏時間設定］：［夏時間］を［オン］にすると、夏時間が有効になります。 • ［インターネット時刻］：［オン］にすると、インターネット時刻サーバーから時刻を自動的に更新します。
A/V出力設定		音声出力、映像出力に関する設定をします。
	A/V出力	［A/V出力］：［常時］に設定すると、本機がスタンバイ状態のときも、外部機器に音声と映像を出力します。 （事前に［高速起動］を［オフ］に設定します。）
	音声出力	［音声出力］：HDMI以外の端子から映像を投写するときに、音声を入力する端子を選択します。
	HDMI1音声出力 HDMI2音声出力 HDMI3音声出力	［HDMI1音声出力］/［HDMI2音声出力］/［HDMI3音声出力］：HDMI端子からの映像を投写するときに、音声を入力する端子を選択します。
USB Type B *	Easy Interactive Function	［Easy Interactive Function］：インタラクティブ機能のコンピューター操作（マウス操作）を有効にします。USB Displayとワイヤレスマウス機能は使えません。

設定	選択肢	説明
	USB Display/Easy Interactive Function	［USB Display/Easy Interactive Function］：インタラクティブ機能のコンピューター操作（マウス操作）とUSB Displayを有効にします。ワイヤレスマウス機能は使えません。
	ワイヤレスマウス/USB Display	［ワイヤレスマウス/USB Display］：ワイヤレスマウス機能とUSB Displayを有効にします。インタラクティブ機能のコンピューター操作（マウス操作）はできません。
マルチプロジェクション		本機を2台以上並べて使用するときの設定をします。
	マルチプロジェクション	［マルチプロジェクション］：複数台並べて色合いを合わせる場合に、［オン］に設定します。［オン］に設定すると、左右の画面の色ムラを防ぐため、以下の項目が自動的に設定されます。 ☛［画質］>［ダイナミックコントラスト］>［オフ］ ☛［節電］>［明るさ設定］>［光源モード］>［カスタム］
	プロジェクターID	［プロジェクターID］：複数のプロジェクターをリモコンから操作するときに使う本機のIDを設定します。
	カラーモード	［カラーモード］：映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。すべてのプロジェクターで同じカラーモードを選択してください。
	ユニフォーミティー	［ユニフォーミティー］：画面全体の色味のバランスを調整します。

設定	選択肢	説明
	明るさ設定	［明るさ設定］：光源の明るさを選択します。
	カラーマッチング	［カラーマッチング］：各映像の色合いや明るさの差を補正します。
	RGBCMY	［RGBCMY］：R（赤）、G（緑）、B（青）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）の各色について、色相、彩度、明度を調整します。
	初期化	［初期化］：［マルチプロジェクション］メニューの調整値を初期値に戻します。
スケジュール設定画面へ **	スケジュール設定画面へ移動	プロジェクターにイベントスケジュールを登録して、設定した日時に選択したイベントを自動的に実行します。
言語	言語設定	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。

設定	選択肢	説明
初期化	—	［拡張設定］メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 • ［Easy Interactive Function］ * • ［ユニフォーミティー］ • ツールバー * • ［ペンモードアイコン］ * • ［プロジェクター制御］ * • ［ユーザーロゴ］ • ［設置モード］ • ［高地モード］ • ［自動入力検出］ • ［ELPCB02を接続する］ * • ［日付＆時刻］ • ［A/V出力］ • ［USB Type B］ * • ［マルチプロジェクション］ • ［プロジェクターID］ • ［カラーモード］ • ［カラーマッチング］ • ［スケジュール設定］ ** • ［言語］

* EB-710UTのみ

** EB-700Uのみ

［パスワードプロテクト］で［ユーザーロゴ保護］を［オン］にすると、ユーザーロゴに関する以下の設定は変更できません。事前に［ユーザーロゴ保護］を［オフ］に設定します。
- ［背景表示］
- ［スタートアップスクリーン］

関連項目
- 「拡張設定メニュー - Easy Interactive Functionメニュー」 p.206
- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.152

拡張設定メニュー - Easy Interactive Functionメニュー

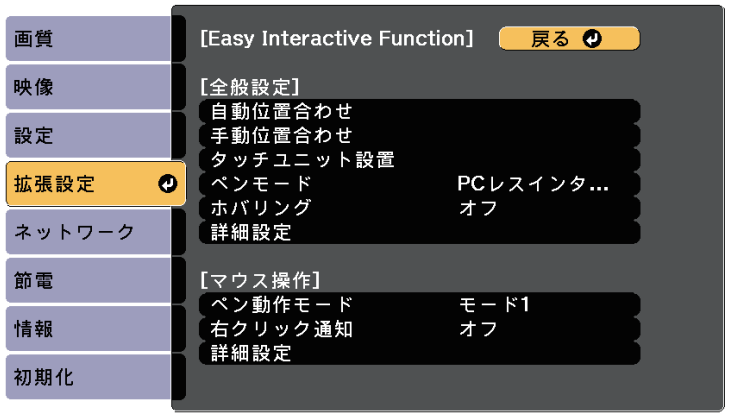
インタラクティブ機能を使うための各種設定ができます（EB-710UT）。

関連項目
- 「全般設定」 p.206
- 「マウス操作」 p.208

全般設定

インタラクティブ機能を使うための各種設定ができます 。

☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］



設定	選択肢	説明
自動位置合わせ	—	インタラクティブペンの位置合わせをします。
手動位置合わせ		
タッチユニット設置		タッチユニットの設定をします。
	設置パターン	［設置パターン］：タッチユニットの設置位置を決める際の基準点を表示します。
	電源	［電源］：タッチユニットの電源を入れます。
	角度調整	［角度調整］：レーザー照射の角度調整を行います。
	指タッチ位置合わせ	［指タッチ位置合わせ］：指タッチ操作の位置合わせをします。

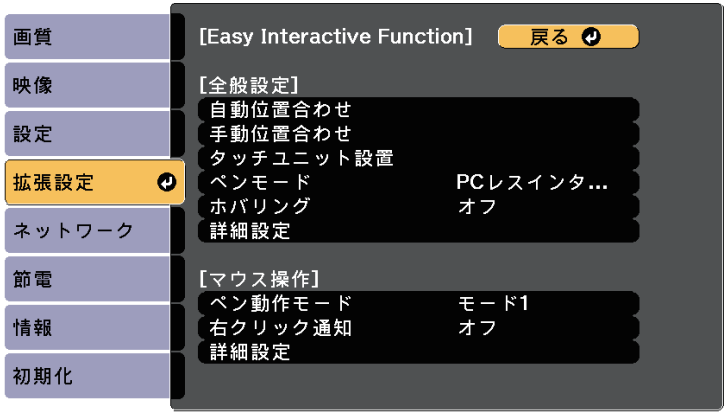
設定	選択肢	説明
ペンモード	PCレスインタラクティブ マウス操作	インタラクティブペンの動作を選択します。 ［PCレスインタラクティブ］に設定すると、投写画面への描画ができます。［マウス操作］に設定すると、投写画面上でコンピューターのマウス操作ができます。
ホバリング	オン オフ	［オン］（初期設定）に設定すると、ペン先を投写面から浮かせて動かしたときに、ペン先の動きに合わせてポインターが移動します。
詳細設定（詳細設定画面）	複数台設置距離	［複数台設置距離］：通常は［モード2］（初期設定）でお使いください。プロジェクター間の距離が2m以上のとき、または［モード2］でインタラクティブペンの動作が不安定なときは、［モード1］を選択します。
	複数台同期	［複数台同期］：同じ部屋で本機を2台以上使用するときに、オプションのワイヤードリモコンケーブルを使ってプロジェクター同士を接続しているときは、［有線接続］を選択します。
	マルチプロジェクション	［マルチプロジェクション］：本機を2台並べて投写した画面でインタラクティブ機能を使うには、それぞれのプロジェクターの投写位置を選択します。

設定	選択肢	説明
	有線接続同期モード	［有線接続同期モード］：同じ部屋で本機を2台以上使用するときに、プロジェクター同士がオプションのワイヤードリモコンケーブルで接続されていないときや、［モード1］でインタラクティブペンの動作が不安定なときは、［モード2］を選択します。
	プリセットペン太さ	［プリセットペン太さ］：インタラクティブペンで描画する線の太さを、［標準］、または［細い］から選択します。
	消しゴム大きさ	［消しゴム大きさ］：インタラクティブペンの消しゴム機能で消せる範囲を、［標準］、または［大きい］から選択します。
	カラーパレット	［カラーパレット］：初期設定のパレットの色が見えにくいときは、［パレット2］をお試しください。
詳細設定 （PCレスインタラクティブ画面）	ペンボタン動作	［ペンボタン動作］：インタラクティブペン側面のボタンを押したときの動作を選択します。
	既定のタッチ操作	［既定のタッチ操作］：アノテーションモードに切り替えたときに、［消しゴム］と［マウス操作］のどちらの機能を有効にするかを選択します。
	画面クリア確認	［画面クリア確認］：［オン］（初期設定）に設定すると、投写画面に描画した内容をすべて消去する前に、確認画面を表示します。

マウス操作

投写画面上でコンピューターを操作するときの各種設定ができます。

☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［マウス操作］



設定	選択肢	説明
ペン動作モード		接続しているコンピューターのOSに合わせて、インタラクティブペンまたは指タッチ操作の動作モードを設定します。
	モード1	［モード1］：Windows、Macの場合に選択します。
	モード2	［モード2］：PenPlusやUbuntuをお使いの場合に選択します。このモードでは、インタラクティブペンを使ってWindowsのインク機能を利用できません。

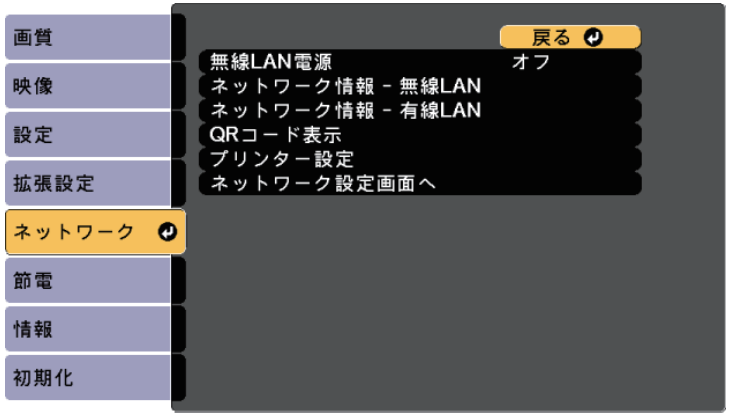
設定	選択肢	説明
右クリック通知	オン オフ	［オン］に設定すると、ペン先の長押しが右クリックとして機能します。 （［ペン動作モード］が［モード2］に設定されているときのみ。）
詳細設定	ペン先ボタン	［ペン先ボタン］：ペン先の動作を、左クリック/右クリックのいずれかに設定します。 （［ペン動作モード］が［モード2］に設定されているときのみ。）
	操作エリア自動調整	［操作エリア自動調整］：［オン］に設定すると、接続するコンピューターの解像度が変わったときに、ペン操作エリアを自動で調整します。手動調整したペン操作エリアを自動調整したくないときは、［オフ］に設定します。
	操作エリア手動調整	［操作エリア手動調整］：ペン操作エリアを手動で調整します。

関連項目

- 「複数台のプロジェクターを接続する」 p.40

［ネットワーク］メニューでは、ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を使うための設定ができます。

［パスワードプロテクト］で［ネットワーク保護］を［オン］にすると、ネットワーク設定は変更できません。事前に［ネットワーク保護］を［オフ］に設定します。



設定	選択肢	説明
無線LAN電源	オン オフ	無線LAN接続を設定します。 無線LAN経由で映像を投写するには［オン］を選択します。無線LANで接続しないときは、第三者の不正アクセスを防ぐためにオフに設定してください。

設定	選択肢	説明
ネットワーク情報 - 無線LAN	接続モード 無線LAN方式 アンテナレベル プロジェクター名 SSID DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス MACアドレス 地域コード	無線LANのステータス、詳細情報を表示します。 ［無線LAN電源］を［オン］に設定しているときのみ有効。
ネットワーク情報 - 有線LAN	プロジェクター名 DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス MACアドレス	有線LANのステータス、詳細情報を表示します。
QRコード表示	—	Epson iProjectionを使って、iOSまたはAndroid機器を接続するときに読み取るQRコードを表示します。
プリンター設定 *	IPアドレス 品質 用紙サイズ	インタラクティブ機能を使って描画した内容を印刷するときの、プリンターの設定をします。
ネットワーク設定画面へ	ネットワーク設定画面へ移動	ネットワークの詳細設定をします。

* EB-710UTのみ

プロジェクターをネットワークに接続すると、コンピューターのWebブラウザーを使って、プロジェクターのメニュー設定や制御を離れた場所から操作できます。

関連項目

- 「ネットワークメニュー - 基本設定メニュー」 p.210
- 「ネットワークメニュー - 無線LANメニュー」 p.211
- 「ネットワークメニュー - 有線LANメニュー」 p.213
- 「ネットワークメニュー - 通知メニュー」 p.214
- 「ネットワークメニュー - その他メニュー」 p.215
- 「ネットワークメニュー - 初期化メニュー」 p.216
- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.152

ネットワークメニュー - 基本設定メニュー

［基本設定］メニューでは、ネットワークの基本設定ができます。

☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［基本設定］

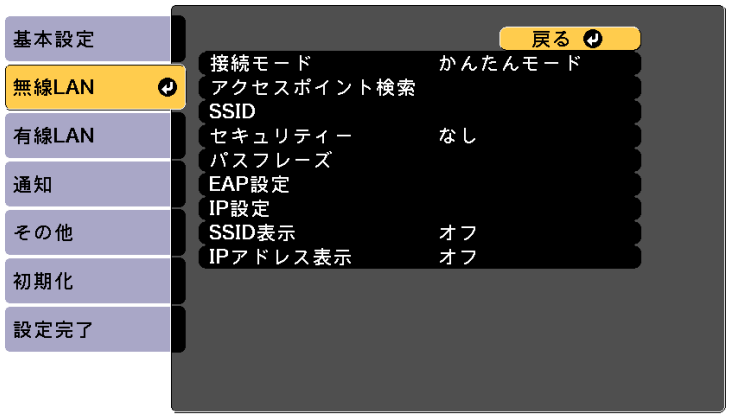
設定	選択肢	説明
プロジェクター名	16文字以内の半角英数字 （" * + , / : ; < = > ? [\ ] ` | スペースは使用不可）	ネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。
PJLinkパスワード	32文字以内の半角英数字	PJLink対応アプリケーションを使って本機を制御するときの認証用パスワードを設定します。
Remoteパスワード	8文字以内の半角英数字 （* : スペースは使用不可）	ベーシックコントロール機能で本機の制御をするときの認証用パスワードを設定します。（ユーザー名は**EPSONREMOTE**、デフォルトのパスワードは**guest**です。）
Web制御パスワード	8文字以内の半角英数字 （* : スペースは使用不可）	Web制御で本機の設定や制御をするときの認証用パスワードを設定します。（ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。）
モデレーターパスワード	4桁の数字	Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）
プロジェクターキーワード	オン オフ	［オン］にすると、他のユーザーが誤って映像を投写しないように、セキュリティーパスワードを有効にできます。コンピューターやモバイルデバイスの映像を投写するときは、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。

設定	選択肢	説明
キーワード通知	オン オフ	［オン］にすると、Epson iProjectionでプロジェクターに接続したときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示します。 ［プロジェクターキーワード］が［オン］に設定されているときのみ有効。
LAN情報表示	テキストとQRコード テキスト	本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。 QRコードを表示させると、Epson iProjectionでQRコードを読み取るだけで本機とモバイルデバイスをネットワーク接続できます。初期値は、［テキストとQRコード］です。

ネットワークメニュー - 無線LANメニュー

［無線LAN］メニューでは、無線LANの設定ができます。

☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［無線LAN］



設定	選択肢	説明
接続モード		接続モードを選択します。
	かんたんモード	［かんたんモード］：スマートフォンやタブレット端末、コンピューターとワイヤレスに直接接続できます。 ［かんたんモード］で接続すると、本機が簡易アクセスポイントになります。（プロジェクターに接続するコンピューターやタブレット端末の数は、6台以下を目安としてください。目安を超えると投写映像の更新が遅くなることがあります。）
	マニュアルモード	［マニュアルモード］：無線LANアクセスポイント経由でスマートフォンやタブレット端末、コンピューターと接続できます。
アクセスポイント検索	検索画面へ移動	マニュアルモードで接続するとき、周囲の無線LANアクセスポイントを検索します。アクセスポイントの設定によっては、一覧に表示されないアクセスポイントがあります。
SSID	32文字以内の半角英数字	本機のSSID（ネットワーク名）を設定します。本機が接続する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを設定します。
セキュリティー		無線LANの設定に合わせてセキュリティーの種類を選択します。 セキュリティーの設定については、ネットワーク管理者の指示に従ってください。
	なし	［なし］：セキュリティーを設定しません。

設定	選択肢	説明
	WPA2-PSK	［WPA2-PSK］：WPA2によるセキュリティーを使って通信を行います。暗号化にはAES方式を使用します。コンピューターからプロジェクターに接続するときは、パスフレーズに設定した値を入力してください。
	WPA/WPA2-PSK	［WPA/WPA2-PSK］：WPAパーソナルモードで接続を行います。暗号化方式はアクセスポイントの設定に応じて自動的に選択されます。アクセスポイントと共通のパスフレーズを設定します。
	WPA2-EAP	［WPA2-EAP］：WPA2によるセキュリティーを使って通信を行います。暗号化にはAES方式を使用します。
	WPA/WPA2-EAP	［WPA/WPA2-EAP］：WPAエンタープライズモードで接続を行います。アクセスポイントの設定に応じて自動的に暗号化方式を選択します。
パスフレーズ	8〜32文字のパスフレーズ （Webブラウザーから入力する場合：8〜63文字のパスフレーズ）	セキュリティーの設定で［WPA2-PSK］または［WPA/WPA2-PSK］を選択したときは、ネットワークに接続するためのパスフレーズを入力します。 パスフレーズを入力し、【決定】ボタンを押すと、値が設定されます。設定された値はアスタリスク（*）で表示されます。 セキュリティー強化のため、パスフレーズは定期的に変更することをお勧めします。ネットワーク設定を初期化すると、パスフレーズは初期値に戻ります。

設定	選択肢	説明
EAP設定		［WPA2-EAP］および［WPA/WPA2-EAP］セキュリティーのEAPを設定します。
	EAP種類	［EAP種類］：認証プロトコルを選択します。 • ［PEAP］：Windows Serverで広く使われている認証プロトコルです。 • ［PEAP-TLS］：Windows Serverで使われている認証プロトコルです。クライアント証明書を使用する場合に選択します。 • ［EAP-TLS］：一般的に広く使われている、クライアント証明書を使用する認証プロトコルです。 • ［EAP-FAST］/［LEAP］：これらの認証プロトコルが使用されているときに指定します。
	ユーザー名	［ユーザー名］：半角英数字で64文字以内で入力します。プロジェクターのメニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。ドメイン名を含めて入力する必要があるときは、ユーザー名の前にバックスラッシュで区切ってドメイン名を追加します（ドメイン名\ユーザー名）。 クライアント証明書をインポートしたときは、証明書の発行先が自動で設定されます。

設定	選択肢	説明
	パスワード	［パスワード］：［PEAP］、［EAP-FAST］、［LEAP］の認証用パスワードを入力します。半角英数字で64文字以内で入力します。プロジェクターのメニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。パスワードを入力し、［変更］を選択すると、パスワードはアスタリスク（*）で表示されます。
	クライアント証明書	［クライアント証明書］：［PEAP-TLS］、［EAP-TLS］のクライアント証明書をインポートします。
	サーバー証明書の検証	［サーバー証明書の検証］：CA 証明書が設定されているときに、サーバー証明書を照合するかどうかを選択します。
	CA証明書	［CA証明書］：［PEAP］、［PEAP-TLS］、［EAP-TLS］、［EAP-FAST］用のCA証明書をインポートします。
	認証サーバー名	［認証サーバー名］：認証サーバー名を入力します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。
チャンネル設定	1ch 6ch 11ch	かんたんモードの無線通信で使用する周波数の帯域（チャンネル）を選択します。

設定	選択肢	説明
IP設定	DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス	［DHCP］：DHCPを使用できるネットワークの場合は、［オン］にします。DHCPを使用できないネットワークの場合は、［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。0～255の数字を入力します。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255のアドレスは、IPアドレス、ゲートウェイアドレスに使用できません（xは0～255の数値）。 255.255.255.255、0.0.0.0～254.255.255.255のアドレスはサブネットマスクに使用できません。
SSID表示	オン オフ	LAN待機画面やホーム画面にSSIDを表示するかしないかを選択します。
IPアドレス表示	オン オフ	LAN待機画面やホーム画面にIPアドレスを表示するかしないかを選択します。

ネットワークメニュー - 有線LANメニュー

［有線LAN］メニューでは、有線LANの設定ができます。

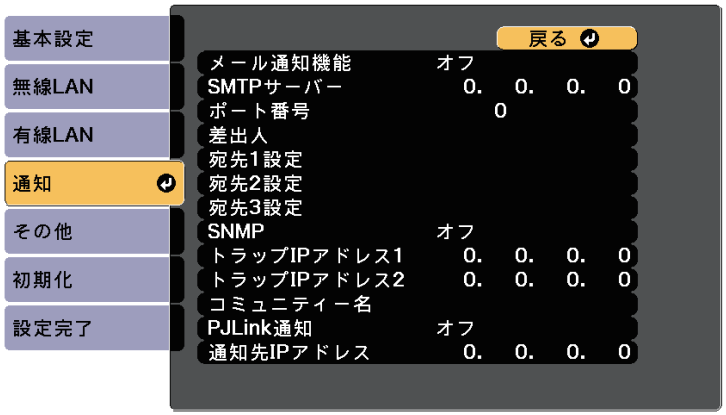
☛［ネットワーク］>［ネットワーク設定画面へ］>［有線LAN］

設定	選択肢	説明
IP設定	DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス	［DHCP］：DHCPを使用できるネットワークの場合は、［オン］にします。DHCPを使用できないネットワークの場合は、［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。0～255の数字を入力します。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255のアドレスは、IPアドレス、ゲートウェイアドレスに使用できません（xは0～255の数値）。 255.255.255.255、0.0.0.0～254.255.255.255のアドレスはサブネットマスクに使用できません。
IPアドレス表示	オン オフ	LAN待機画面にIPアドレスを表示するかしないかを選択します。

ネットワークメニュー - 通知メニュー

［通知］メニューでは、本機が異常/警告状態になったとき、異常状態を電子メールで通知するための設定ができます。

☛［ネットワーク］>［ネットワーク設定画面へ］>［通知］



設定	選択肢	説明
メール通知機能	オン オフ	［オン］にすると、本機が異常/警告状態になったとき、設定した宛先に異常状態を通知するメールを送信します。
SMTPサーバー	IPアドレス	SMTPサーバーのIPアドレスを入力します。0～255の数字を入力します。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0～255の数値）。
ポート番号	0～65535（デフォルトは25）	SMTPサーバーのポート番号を選択します。

設定	選択肢	説明
差出人	32文字以内の半角英数字 Webブラウザーからは64文字以内の半角英数字 （" ( ) , : ; < > [\] スペースは使用不可）	送信者のメールアドレスを入力します。
宛先1設定 宛先2設定 宛先3設定		メールアドレスおよびメール通知する異常/警告の種類を選択します。宛先は3つまで設定できます。
SNMP	オン オフ	［オン］にすると、SNMPを使用して本機を監視します。本機を監視するには、コンピューターにSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。 初期値は［オフ］です。
トラップIPアドレス1 トラップIPアドレス2	IPアドレス	SNMP通知を受信するIPアドレスを入力します。0～255の数字を入力します。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0～255の数値）。
コミュニティー名	32文字以内の半角英数字 （@以外の記号は使用不可）	SNMPコミュニティー名を入力します。
PJLink通知	オン オフ	PJLink通知機能の有効/無効を切り替えます。

設定	選択肢	説明
通知先IPアドレス	IPアドレス	PJLink通知機能が有効なとき、プロジェクターのステータスを通知するコンピューターのIPアドレスを入力します。0～255の数字を入力します。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0～255の数値）。

ネットワークメニュー - その他メニュー

［その他］メニューでは、ネットワークの詳細な設定ができます。

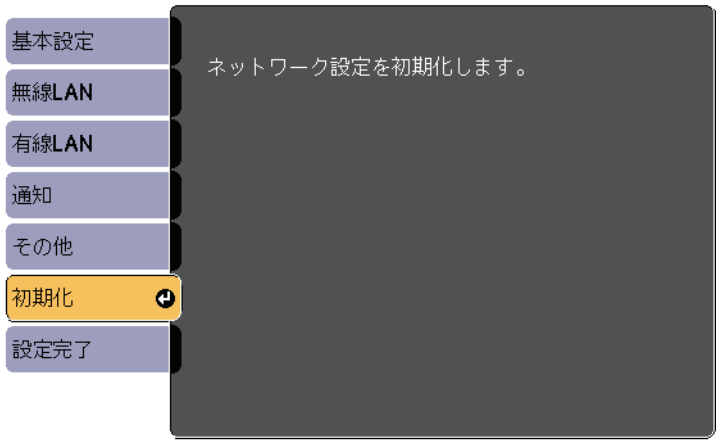
☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［その他］

設定	選択肢	説明
セキュアHTTP	オン オフ	Web制御でのプロジェクターとコンピューターの通信を暗号化し、セキュリティーを強化します。セキュリティーの設定をWeb制御で行う場合は、［オン］に設定することをお奨めします。
Webサーバー証明書	—	セキュアHTTP機能のWebサーバー証明書を本機にインポートします。
優先ゲートウェイ	有線LAN 無線LAN	優先ゲートウェイを設定できます。
AMX Device Discovery	オン オフ	［オン］にすると、AMX Device Discoveryを使用して本機の検出ができます。
Crestron RoomView	オン オフ	［オン］にすると、Crestron RoomViewを使用してプロジェクターの監視と制御ができます。 Crestron RoomViewを有効にすると、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能が無効になります。
Control4 SDDP	オン オフ	［オン］にすると、Control4 SDDP（Simple Device Discovery Protocol）を使って本機の情報を送信します。
メッセージ配信	オン オフ	［オン］にすると、メッセージ配信機能が有効になります。詳しくは『Epson Projector Management操作ガイド』をご確認ください。

ネットワークメニュー - 初期化メニュー

［初期化］メニューでは、ネットワーク設定をすべて初期化できます。

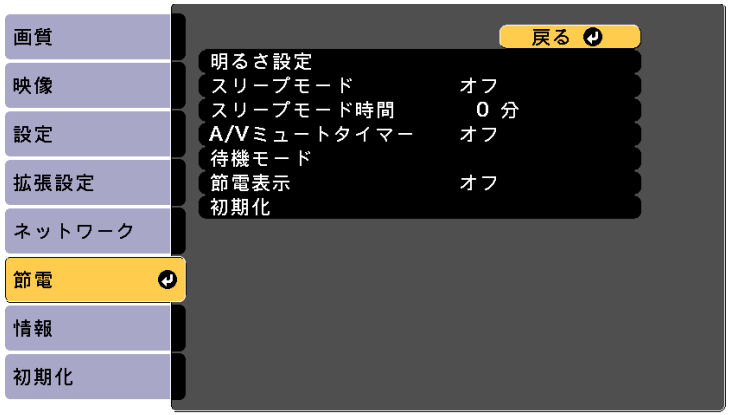
☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［初期化］



設定	選択肢	説明
ネットワーク設定を初期化します。	はい いいえ	［はい］を選択すると、ネットワーク設定をすべて初期化します。

［節電］メニューでは、本機の消費電力を抑えるための設定ができます。

節電効果が有効な設定をしているときは、メニュー項目の横に葉っぱのアイコンが表示されます。



設定	選択肢	説明
明るさ設定		光源の明るさを選択します。

設定	選択肢	説明
	光源モード	［光源モード］：光源の明るさを設定します。 ［マルチプロジェクション］を［オフ］に設定しているときのみ設定可能です。 ☛［拡張設定］＞［マルチプロジェクション］＞［マルチプロジェクション］ • ［オート］*：明るさを自動で設定します。本機を上下反転して設置しているときのみ選択可能です。 • ［ノーマル］：明るさを落としたくないときに選択します。 • ［静音］：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。 • ［ロング］：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。 • ［カスタム］：明るさレベルを設定します。
	明るさレベル	［明るさレベル］：［カスタム］を選択したときに、明るさを設定します。 ［光源モード］で［カスタム］を選択したときのみ設定可能です。
	一定モード	［一定モード］：光源の明るさを一定に保ちます。オンにすると、［光源モード］と［明るさレベル］は変更できなくなります。 ［光源モード］で［カスタム］を選択したときのみ設定可能です。

設定	選択肢	説明
	残り時間目安	［残り時間目安］：明るさを一定に保つことができる時間の目安を表示します。 （［光源モード］を［カスタム］に、［一定モード］を［オン］に設定したときのみ。）
スリープモード	オン オフ	［オン］に設定すると、一定時間映像信号の入力がないときに、自動的に本機の電源が切れます。
スリープモード時間	1～30分	スリープモードで電源が自動で切れるまでの時間を設定します。
A/Vミュートタイマー	オン オフ	［オン］に設定すると、A/Vミュートを実行してから30分後に自動的に本機の電源が切れます。
待機モード		［A/V出力］を［投写時］に設定したときのみ設定可能です。
	待機モード	［通信オン］に設定すると、スタンバイ状態でも以下の操作が可能です。 • ネットワーク経由で本機を監視・制御する
	通信ポート	［待機モード］で［通信オン］を選択したときに、使用するポートを［有線LAN］、または［無線LAN］のどちらかに設定します。
節電表示	オン オフ	［オン］に設定すると、光源の明るさが通常状態と節電状態で切り替わるときに、投写画面の左下に節電状態を示す葉っぱのアイコンを表示します。
初期化	—	［待機モード］を除く、［節電］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

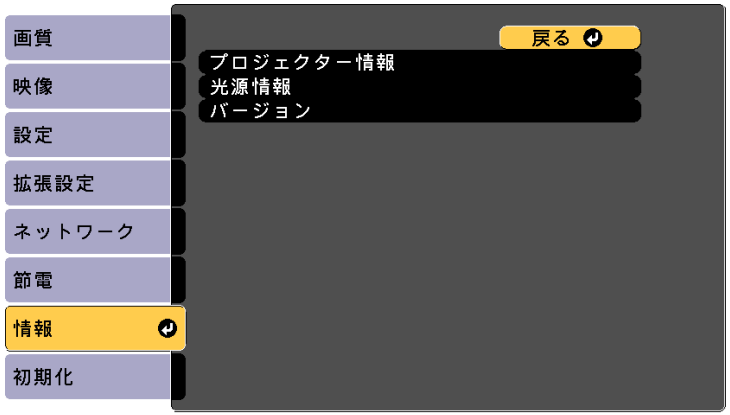
* EB-710UTのみ

• ［スリープモード時間］が設定されていると、一定時間映像信号の入力がないときは、電源が切れるまで光源の明るさを抑えて動作します。映像信号が入力されたときは、通常どおり動作します。

関連項目

• 「拡張設定メニュー」 p.202

［情報］メニューでは、本機の情報、バージョンを確認できます。このメニューの設定は変更できません。



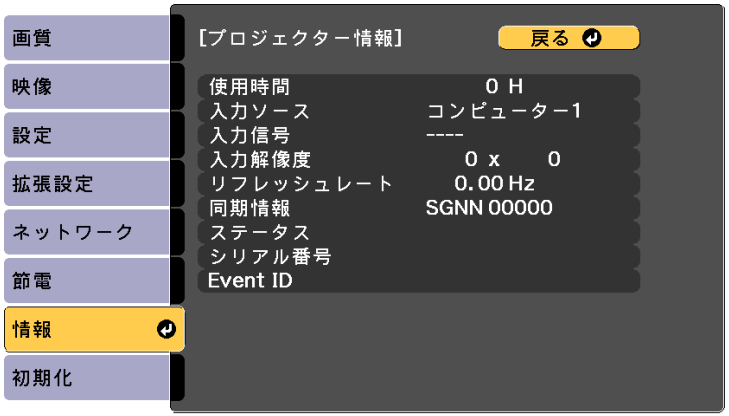
情報の項目	説明
プロジェクター情報	プロジェクターの情報を表示します。
光源情報	光源の情報を表示します。
バージョン	ファームウェアバージョンを表示します。

関連項目

- 「情報メニュー - プロジェクター情報」 p.219
- 「情報メニュー - 光源情報」 p.221

情報メニュー - プロジェクター情報

［情報］メニューの［プロジェクター情報］では、本機の状態や投写している映像信号の情報を確認できます。



現在投写している入力ソースによって表示される項目が異なります。

情報の項目	説明
使用時間	プロジェクターの使用時間を表示します。
入力ソース	現在の入力ソースを表示します。
入力信号	現在の入力ソースの入力信号方式を表示します。
入力解像度	現在の入力ソースの解像度を表示します。
ビデオ信号方式	現在の入力ソースのビデオ信号方式を表示します。
リフレッシュレート	現在の入力ソースのリフレッシュレートを表示します。

情報の項目	説明
同期情報	サービス技術者が必要とする情報を表示します。
ステータス	サービス技術者が必要とするプロジェクターの問題に関する情報を表示します。
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。
Event ID	ネットワーク接続の問題に対応するEvent ID番号を表示します。Event IDコードの一覧を参照してください。

関連項目

- 「Event ID一覧」 p.220

Event ID一覧

［プロジェクター情報］メニューの［Event ID］に番号が表示されるときは、番号を確認して以下のとおり対処してください。

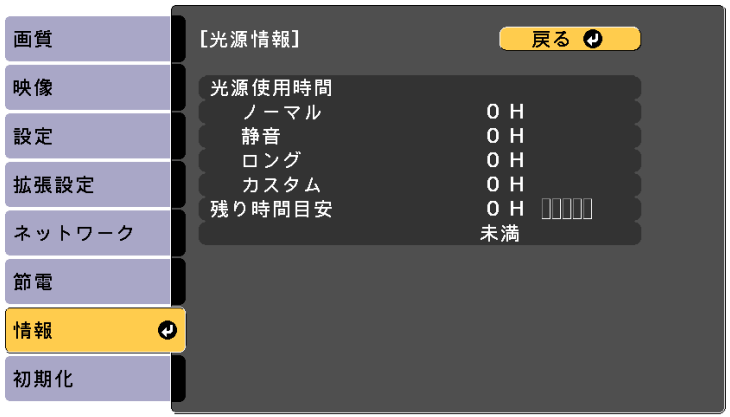
問題が解決しないときは、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、お問い合わせ先に記載の連絡先にお問い合わせください。

Event ID	原因と対処法
0432 0435	ネットワークソフトウェアの起動に失敗しました。プロジェクターの電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
0433	転送した映像を表示できません。ネットワークソフトウェアを再起動してください。
0434 0481 0482 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。ネットワークの通信状態を確認し、しばらくしてから再接続します。
0483 04FE	ネットワークソフトウェアが予期せず終了しました。ネットワークの通信状態を確認してから、プロジェクターの電源を一度切り、再度電源を入れます。
0484	コンピューターから通信が切断されました。ネットワークソフトウェアを再起動してください。
0479 04FF	プロジェクターにシステムエラーが発生しました。プロジェクターの電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。プロジェクター、コンピューター、アクセスポイントに同一のSSIDを設定します。
0892	WPA/WPA2の認証方式が一致しません。無線ネットワークのセキュリティー設定が正しいことを確認します。
0893	WEP/TKIP/AESの暗号化方式が一致しません。無線ネットワークのセキュリティー設定が正しいことを確認します。
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。ネットワーク管理者にお問い合わせください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。DHCPサーバーが正しく動作していることを確認します。DHCPを使用しないときは、本機の［ネットワーク］メニューにある［DHCP］設定を［オフ］にします。 ☛［ネットワーク］>［ネットワーク設定画面へ］>［無線LAN］>［IP設定］>［DHCP］ ☛［ネットワーク］>［ネットワーク設定画面へ］>［有線LAN］>［IP設定］>［DHCP］
0899	その他、接続に関するエラー
089A	EAP認証方式がネットワークと一致しません。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
089B	EAPのサーバー認証が失敗しました。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。

Event ID	原因と対処法
089C	EAPのクライアント認証が失敗しました。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
089D	鍵交換が失敗しました。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
0920	時刻を保持する内部電源の残量が低下しています。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

情報メニュー - 光源情報

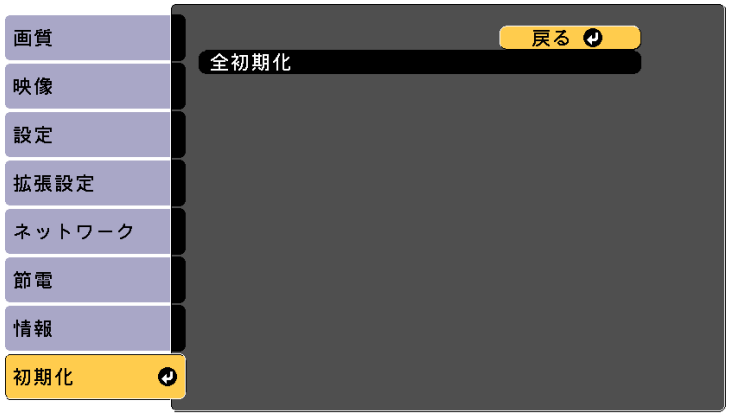
［情報］メニューの［光源情報］では、本機の光源の情報を確認できます。



情報の項目	説明
光源使用時間	［光源モード］ごとに光源の使用時間を表示します。
残り時間目安	［一定モード］をオンにしたときに、明るさを一定に保つことができる時間の目安を表示します。 ☛ ［節電］ > ［明るさ設定］ > ［一定モード］

初期化メニュー

［初期化］メニューの［全初期化］を選択して、本機の設定を初期化できます。



以下の設定は、［全初期化］を実行しても初期値に戻りません。

- 入力信号方式
- ズーム
- デジタル ピクチャーシフト
- ユーザーロゴ
- ユニフォーミティー
- カラーマッチング
- スケジュール設定 *
- 言語
- 日付＆時刻
- ネットワークメニュー項目（以下を除く）
  - 無線LAN電源
  - プリンター設定
- パスワード
- 使用時間
- 光源情報

* EB-700Uのみ

本機で設定したメニューの内容を、以下の方法で他の複数台のプロジェクターにコピーできます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

- USBメモリーを使って設定する
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する
- EasyMP Network Updaterを使って設定する

以下の内容は一括設定機能ではコピーされません。

- ［ネットワーク］メニュー（［通知］メニュー、［その他］メニューを除く）

台形補正などの投写画面の調整をする前に一括設定機能を実行してください。一括設定機能では、タテヨコ補正などの投写画面の調整値もコピーされます。投写画面の調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。

一括設定機能を実行すると、ユーザーロゴもコピーされます。複数のプロジェクター間で共有したくない画像は、ユーザーロゴとして設定しないでください。

⚠ 注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

関連項目

- 「USBメモリーを使って一括設定する」 p.223
- 「コンピューターを使って一括設定する」 p.224

USBメモリーを使って一括設定する

USBメモリーを使用して、同じ型番のプロジェクターにメニュー設定をコピーできます。

FAT形式でフォーマットされ、セキュリティー機能のついていないUSBメモリーを使用してください。また、空のUSBメモリーを使用してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定を正しく保存できないことがあります。

1. プロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。
2. 空のUSBメモリーを、コピー元のプロジェクターのUSB-A端子に直接接続します。
3. リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。
4. インジケーターがすべて点灯したら、【戻る】ボタンを離します。

   インジケーターが点滅に変わると、一括設定ファイルがUSBメモリーに書き込まれます。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

   ⚠ 注意

   ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
5. USBメモリーを取り外します。

一括設定ファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときは、半角英数字のみを使用してPJCONFDATAの後に文字列を追加します。ファイル名のPJCONFDATAの部分を変更すると、ファイルが正しく認識できないことがあります。

6 コピー先のプロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

7 一括設定ファイルが保存されているUSBメモリーを、コピー先のプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

8 リモコンまたは操作パネルの【メニュー】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。

9 インジケーターがすべて点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。（インジケーターは約75秒点灯します。）

インジケーターが点滅に変わると、一括設定の書き込みが始まります。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

> ⚠ **注意**
>
> ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

10 USBメモリーを取り外します。

コンピューターを使って一括設定する

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して、同じ型番のプロジェクターにメニュー設定をコピーできます。

> USBケーブルを使用した一括設定機能は、以下のバージョンで使用できます。
> - Windows Vista以降
> - OS X 10.7.x以降

1 プロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

2 コンピューターのUSB端子とコピー元のプロジェクターのUSB-B端子を、USBケーブルで接続します。

3 リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。

4 インジケーターがすべて点灯したら、【戻る】ボタンを離します。

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

5 リムーバブルディスクを開き、一括設定ファイルをコンピューターにコピーして保存します。

> 一括設定ファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときは、半角英数字のみを使用してPJCONFDATAの後に文字列を追加します。ファイル名のPJCONFDATAの部分を変更すると、ファイルが正しく認識できないことがあります。

6 コンピューター上でUSB機器の取り外し（Windows）、またはリムーバブルディスクの取り出し（Mac）をします。

7 USBケーブルを取り外します。

プロジェクターがスタンバイ状態になります。

8 コピー先のプロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

9 USBケーブルを、コンピューターのUSB端子とコピー先のプロジェクターのUSB-B端子に接続します。

10 リモコンまたは操作パネルの【メニュー】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。

11 インジケーターがすべて点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

12 コンピューターに保存した一括設定ファイル（PJCONFDATA.bin）を、リムーバブルディスクの最上位のフォルダーにコピーします。

> 一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをリムーバブルディスクにコピーしないでください。

13 コンピューター上でUSB機器の取り外し（Windows）、またはリムーバブルディスクの取り出し（Mac）をします。

14 USBケーブルを取り外します。

インジケーターが点滅に変わると、一括設定の書き込みが始まります。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

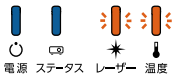
> **⚠ 注意**
>
> ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。

関連項目

- 「一括設定でエラーが発生したときは」 p.225

一括設定でエラーが発生したときは

一括設定でエラーが発生したときは、インジケーターでお知らせします。インジケーターの状態をご確認ください。

インジケーターの状態	状態と対処法
 • レーザー：橙 速点滅 • 温度：橙 速点滅	一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーまたはUSBケーブルが正しく接続されていない可能性があります。 USBメモリーまたはUSBケーブルを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。
 • 電源：青 速点滅 • ステータス：青 速点滅 • レーザー：橙 速点滅 • 温度：橙 速点滅	一括設定ファイルの書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 p.227
- 「投写窓を清掃する」 p.228
- 「障害物検知センサーを清掃する」 p.229
- 「本機を清掃する」 p.230
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 p.231
- 「リモコンの電池を交換する」 p.235
- 「インタラクティブペンの電池を交換する」 p.236
- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.237

プロジェクターの投写窓と障害物検知センサーは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機内部の温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、エアフィルター、リモコンの電池、インタラクティブペンの電池、およびインタラクティブペンのペン先です。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

⚠ 警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

インタラクティブペンはEB-710UTでのみ使用できます。

投写窓を清掃する

プロジェクターの投写窓（レンズ）は定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。ホコリや汚れを市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

⚠ 警告

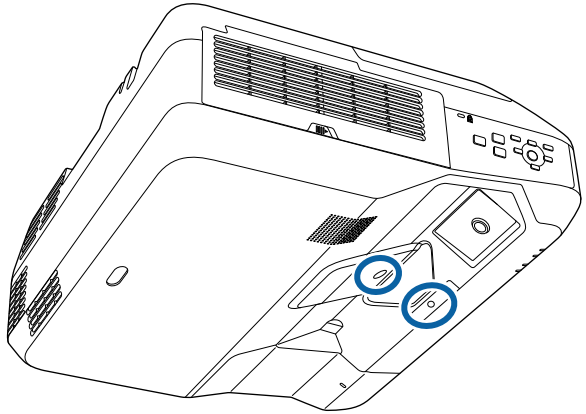
レンズに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

投写窓の表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

障害物検知センサーを清掃する

障害物がないのに、投写窓付近の障害物を取り除くようメッセージが表示されるときは、障害物検知センサーを掃除してください。定期的に掃除することをお勧めします。ホコリや汚れを市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。



⚠ 警告

障害物検知センサーに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

障害物検知センサーは傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。センサーの表面に傷がつくと、誤作動の原因となります。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のホコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意
ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクター内部の温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを清掃してください。エアフィルターの掃除は20,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で清掃してください。

注意
定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクター内部の温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

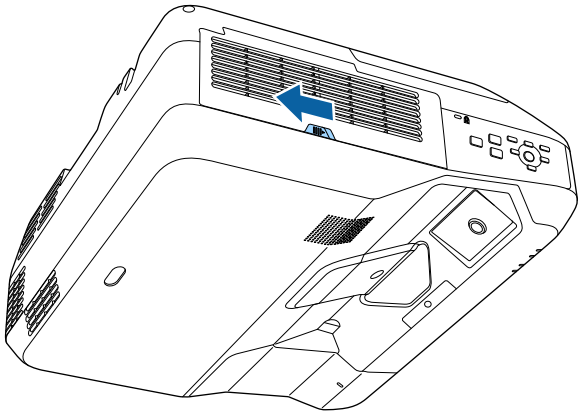
関連項目
- 「エアフィルターを清掃する」 p.231
- 「エアフィルターを交換する」 p.233

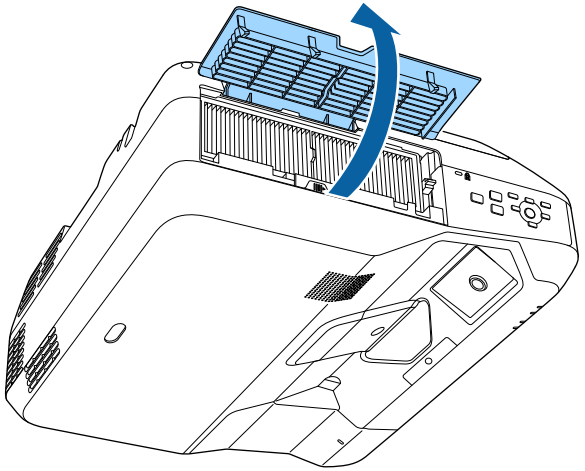
エアフィルターを清掃する

エアフィルターは、汚れたときや掃除を促すメッセージが表示されたときに掃除してください。

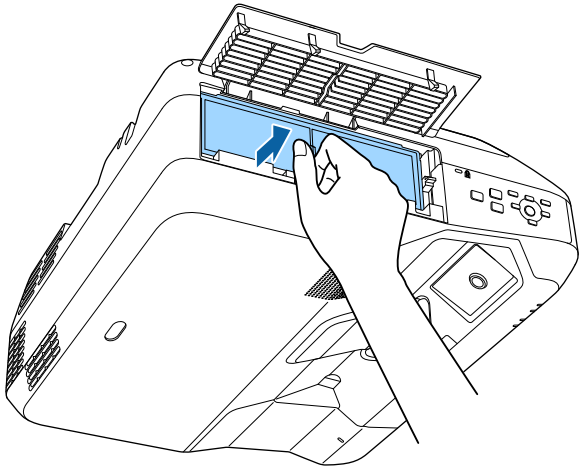
1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

2 エアフィルターカバー操作つまみを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。

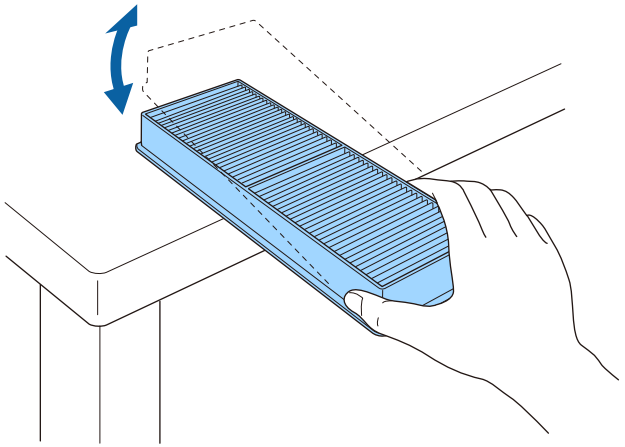




3 エアフィルターを取り外します。

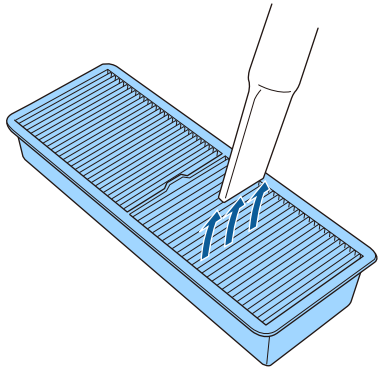


4 エアフィルターの両端を4〜5回軽く叩いて、ホコリを落とします。



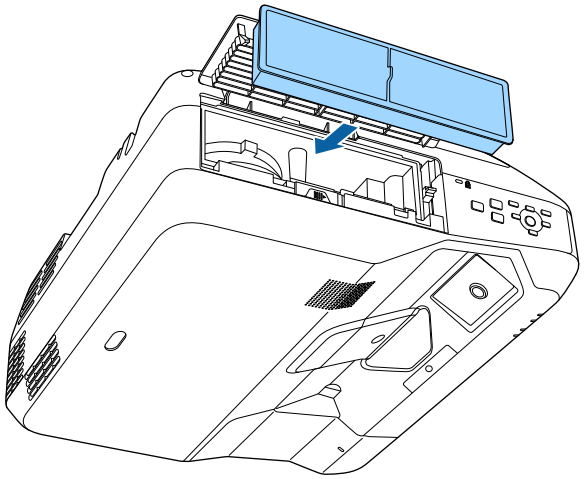
注意
強く叩きすぎると、エアフィルターが割れて正しく装着できなくなることがあります。

5 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側から吸い取ります。



注意
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

6 エアフィルターを差し込み、カチッと音がするまで丁寧に押し込みます。



7 エアフィルターカバーを閉めます。

エアフィルターを交換する

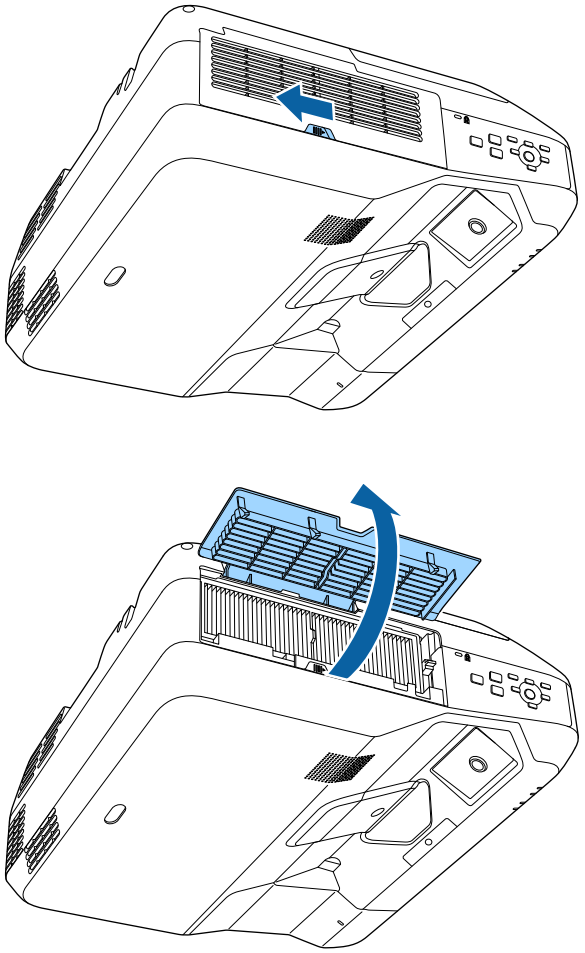
以下の場合は、エアフィルターを交換してください。

- エアフィルターの清掃後に、清掃または交換することを促すメッセージが表示される
- エアフィルターが破損している

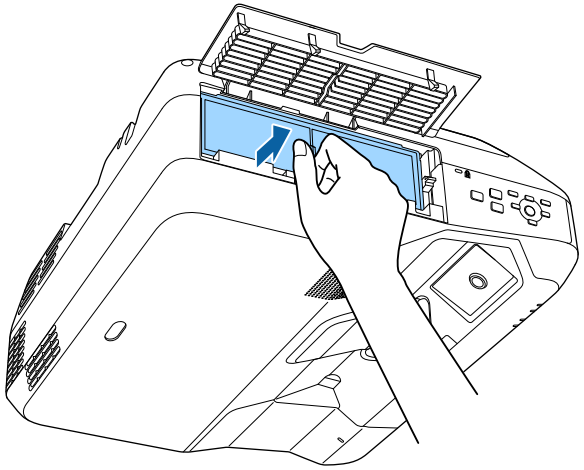
本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

2 エアフィルターカバー操作つまみを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



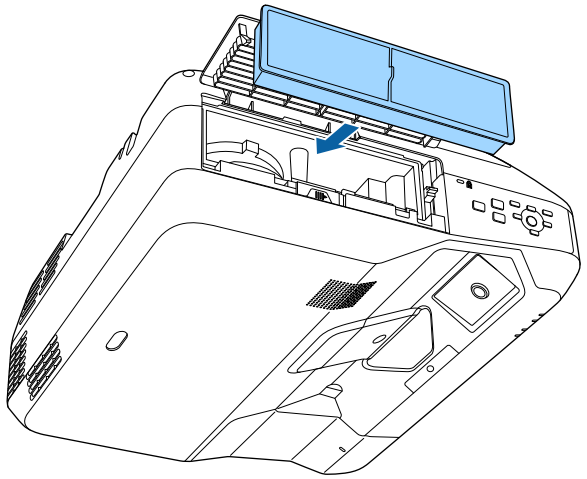
3 エアフィルターを取り外します。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

- フィルターの枠：ポリプロピレン
- フィルター：ポリプロピレン

4 新しいエアフィルターをプロジェクターに差し込み、カチッと音がするまで丁寧に押し込みます。



5 エアフィルターカバーを閉めます。

関連項目

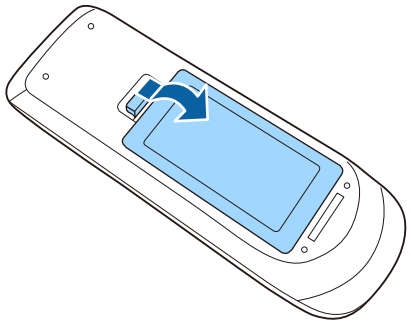
- 「消耗品」 p.259

リモコンの電池を交換する

リモコンの交換用電池は単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池2本を用意してください。電池がなくなったら電池を交換してください。

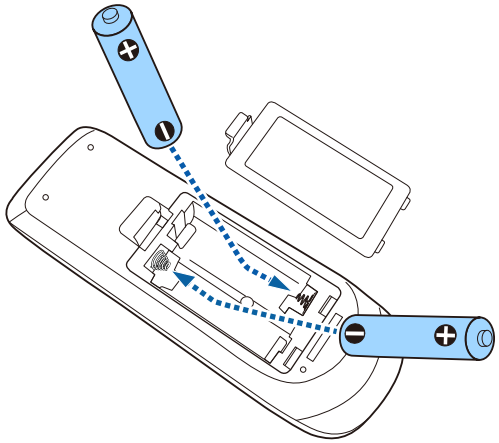
注意
電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

1 電池カバーを外します。



2 古い電池を取り外します。

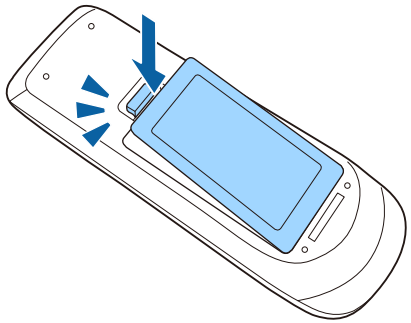
3 電池の+と–の向きを確認してリモコンにセットします。



⚠ 警告

電池ホルダー内の表示を確認し、（+）（-）を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



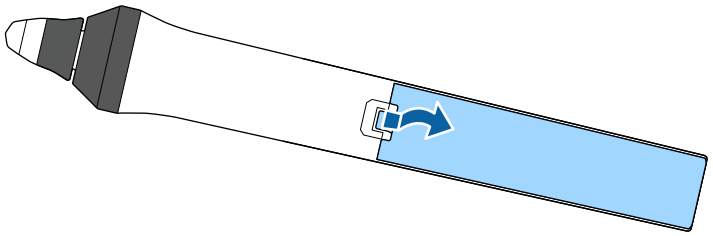
インタラクティブペンの電池を交換する

インタラクティブペンの交換用電池は、単3形マンガン乾電池、単3形アルカリ乾電池、またはeneloop（BK-3MCC）充電池を用意してください。電池がなくなったら電池を交換してください。

電池残量が少ない場合は、ペン側面のボタンを押したときにバッテリーインジケーターが点滅します。電池残量がない場合は、点灯・点滅しません。

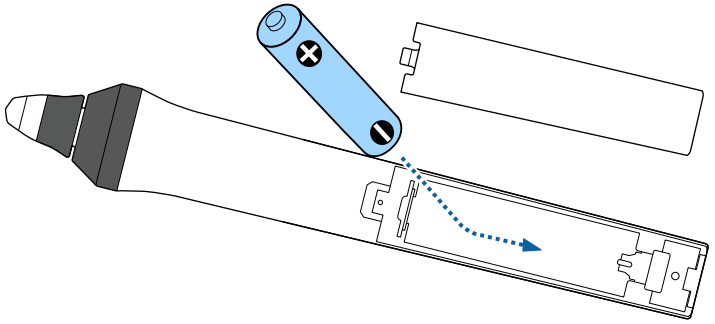
注意
電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

1 電池カバーを外します。



2 古い電池を取り外します。

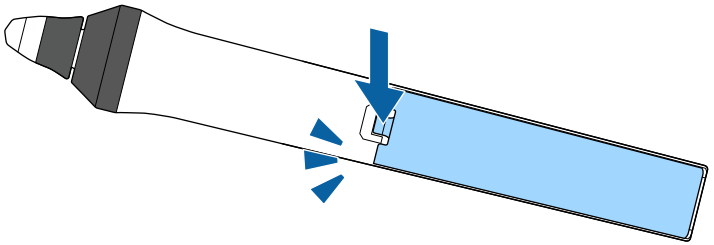
3 電池の+と–の向きを確認してインタラクティブペンにセットします。



⚠ 警告

電池ホルダー内の表示を確認し、（+）（–）を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



インタラクティブペンのペン先を交換する

本機で使えるインタラクティブペン（2本）には、それぞれソフトペン先とハードペン先の2種類が同梱されています。お買い上げ時は、両方のペンにソフトペン先が取り付けられています。

- ソフトペン先が汚れたり傷ついたりすると、インタラクティブペンの反応が悪くなります。新しいソフトペン先と交換してください。
- 投写画面によってソフトペン先が使いづらいときは、ハードペン先と交換してください。

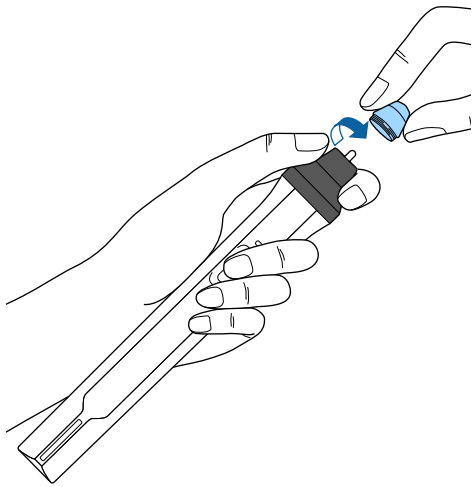
ハードペン先が傷ついたりすり減ったりしたときは、新しいハードペン先と交換してください。

関連項目

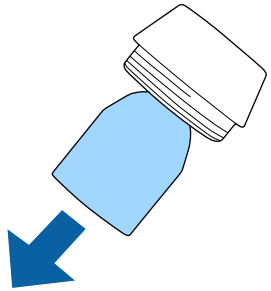
- 「ソフトペン先を交換する」 p.237
- 「ハードペン先に交換する」 p.238

ソフトペン先を交換する

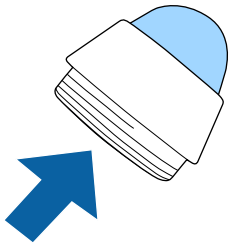
1 ペン先を回して外します。



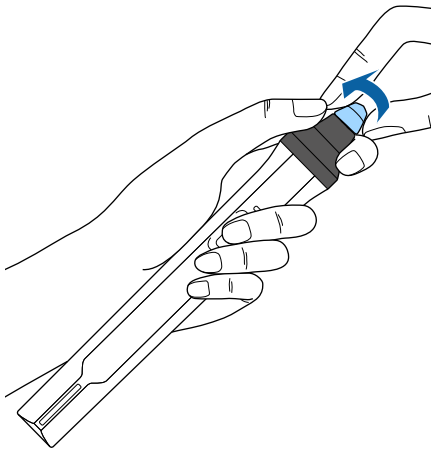
2 ソフトペン先を矢印の方向に取り外します。



3 新しいソフトペン先を取り付けます。

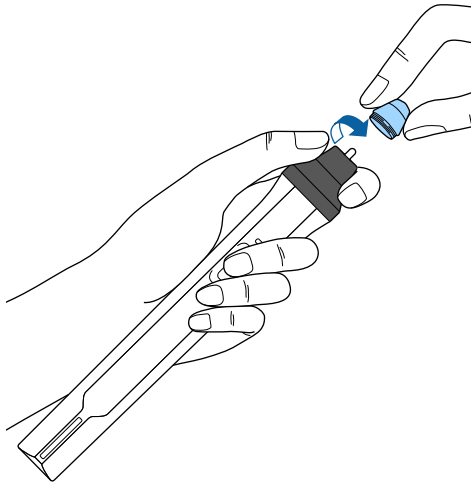


4 ペン先をインタラクティブペンに取り付けます。

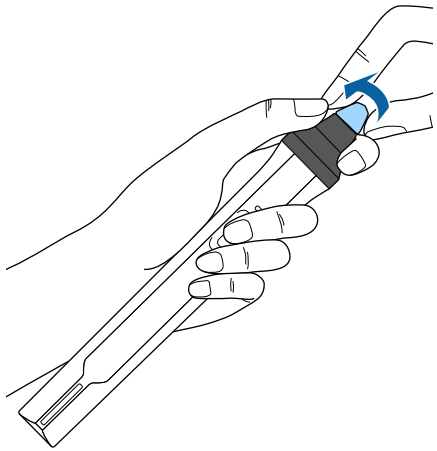


ハードペン先に交換する

1 ペン先を回して外します。



2 ハードペン先をインタラクティブペンに取り付けます。



困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

関連項目

- 「トラブルの対処方法」 p.240
- 「インジケーターの見方」 p.241
- 「ヘルプの見方」 p.243
- 「映像や音声に関するトラブル」 p.244
- 「プロジェクター、リモコンの操作に関するトラブル」 p.250
- 「インタラクティブ機能に関するトラブル」 p.252
- 「ネットワークに関するトラブル」 p.255

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

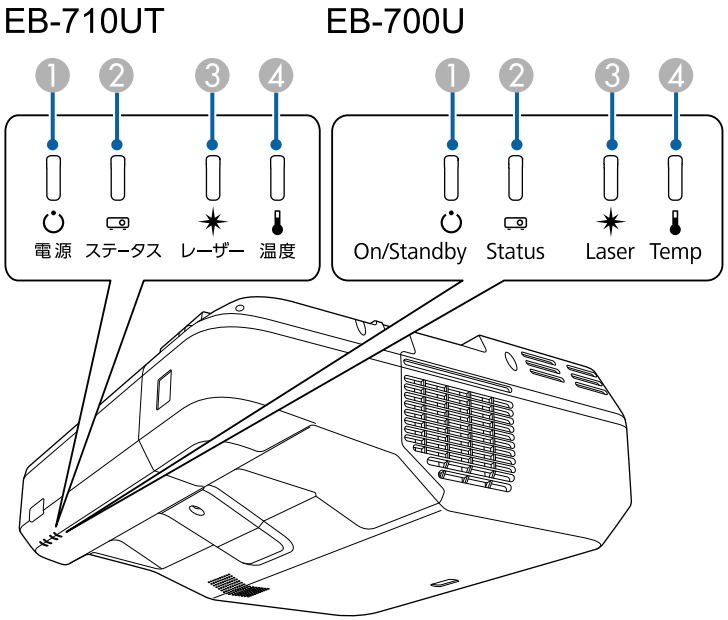
問題が解決しないときは、以下を確認します。

- インジケーターで本機の状態を確認する。
- ヘルプでトラブル発生時の解決方法を確認する。
- 本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケーターは、本機の状態をお知らせします。インジケーターの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。

- 各インジケーターがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



1. 電源インジケーター
2. ステータスインジケーター
3. レーザーインジケーター
4. 温度インジケーター

プロジェクターの状態

インジケーターの状態	状態と対処方法
電源： 青点灯 ステータス： 青点灯 レーザー： 消灯 温度： 消灯	投写中の状態です。
電源： 青点灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 消灯 温度： 消灯	ウォームアップ中またはシャットダウン中です。 ウォームアップ中の場合は、約30秒経つと映像が表示されます。 ウォームアップ中、シャットダウン中は、すべてのボタン操作が無効になります。
電源： 青点灯 ステータス： 消灯 レーザー： 消灯 温度： 消灯	スタンバイ状態、スリープモード、ネットワーク監視状態のいずれかの状態です。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。
電源： 青点滅 ステータス： 消灯 レーザー： 消灯 温度： 消灯	ネットワーク監視、または高速起動モードの準備状態のため、すべての操作が無効になります。
電源： 青点滅 ステータス： 状態依存 レーザー： 状態依存 温度： 橙点滅	内部温度が高くなっています。 • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 • 高温にならない環境で使用するようにします。

インジケーターの状態	状態と対処方法
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 消灯 温度： 橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 • 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、［拡張設定］メニューで［高地モード］を［オン］にします。 ☛［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［高地モード］ • 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 青点滅 ステータス： 状態依存 レーザー： 橙点滅 温度： 状態依存	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点灯 温度： 消灯	レーザー異常です。 • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 • 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 消灯 温度： 橙点滅	ファン異常またはセンサー異常状態です。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点滅 温度： 消灯	内部異常状態です。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 青点滅 ステータス： 状態依存 レーザー： 橙点滅 温度： 橙点滅	障害物検知警告です。警告音が鳴り、「投写窓付近の障害物を取り除いてください。」と表示されます。 • 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。 • 障害物がないときは、障害物検知センサーを掃除します。 そのままにしておくと、自動的に電源がオフになります。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点灯 温度： 橙点灯	障害物検知異常です。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

» 関連項目

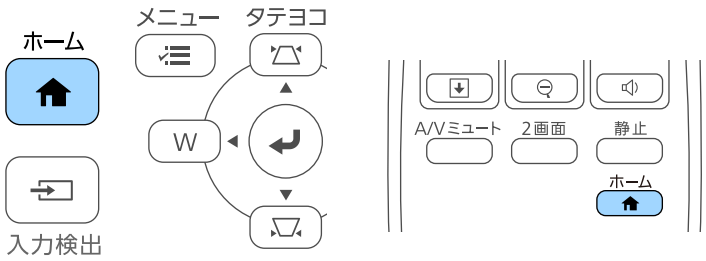
- 「エアフィルターを清掃する」 p.231
- 「エアフィルターを交換する」 p.233

ヘルプの見方

トラブルの解決方法を表示します。

1 本機の電源を入れます。

2 操作パネルまたはリモコンの【ホーム】ボタンを押します。

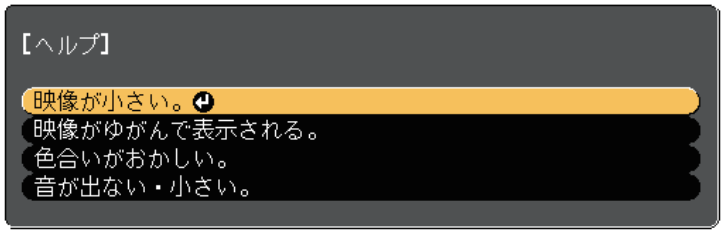


3 ホーム画面で ? アイコンを選択します。

4 メッセージが表示されたら、［ヘルプを表示する］を選択します。

ヘルプメニューが表示されます。

5 上下ボタンを使用して、解決したい問題を選択します。



6 【決定】ボタンを押して、対処方法を表示します。

7 確認が終わったら、以下のいずれかの操作をします。

- 他の問題を選ぶ場合は【戻る】ボタンを押します。
- ヘルプを終了する場合は【メニュー】ボタンを押します。

投写映像や音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

関連項目

- 「映像が表示されない」 p.244
- 「USB Displayの映像が表示されない」 p.245
- 「「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示される」 p.245
- 「「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示される」 p.246
- 「映像の一部が表示されない」 p.246
- 「映像がゆがむ」 p.247
- 「映像にノイズが入る、乱れる」 p.247
- 「映像がぼやける」 p.248
- 「映像の明るさや色合いが違う」 p.248
- 「音が出ない、小さい」 p.249
- 「PC Freeで画像ファイル名が正しく表示されない」 p.249

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 電源ボタンを押して電源を入れます。
- リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
- 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていること、接続された映像機器の電源が入っていることを確認します。
- 入力映像が黒一色でないことを確認します（コンピューターの映像投写時のみ）。
- 本機のメニュー設定が正しいことを確認します。
- スタンバイ状態、スリープモードから復帰するには、本機の電源ボタンを押します。また、接続されたコンピューターがスリープ状態でないか、黒一色のスクリーンセーバーが表示されていないか確認します。
- ［映像］メニューの設定が接続している機器に合っているか確認します。
- ［画質］メニューの［明るさ］を調整します。
- ［節電］メニューの［明るさ設定］を調整します。
- ［拡張設定］メニューの［表示設定］で［メッセージ表示］を［オン］に設定します。
- 操作パネルのボタンを押してもプロジェクターが反応しないときは、ボタン操作がロックされている可能性があります。［設定］メニューで［操作ボタンロック］を解除するか、リモコンを使用して本機の電源を入れます。
  ☛ ［設定］ > ［ロック設定］ > ［操作ボタンロック］
- リモコンのボタンを押してもプロジェクターが反応しないときは、リモコン受光部の設定を確認します。
- Windows Media Centerで映像を投写するときは、全画面表示を使用せず、縮小画面表示にしてください。
- Windows DirectXを使用するアプリケーションは、正しく表示されないことがあります。
- 著作権保護された動画をコンピューターで再生すると、プロジェクターから投写されないことがあります。詳しくは、コンピューターの取扱説明書をご覧ください。

関連項目

- 「映像メニュー」 p.197
- 「画質メニュー」 p.195
- 「節電メニュー」 p.217
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「操作ボタンロックを解除する」 p.155

USB Displayの映像が表示されない

USB Displayで映像が正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの 【USB】 ボタンを押します。
- USB Displayドライバーが正しくインストールされていることを確認します。
  お使いのOSまたはコンピューターの設定によっては、ドライバーが自動でインストールされない場合があります。以下のWebサイトから最新のドライバーをダウンロードし、インストールしてください。
  http://www.epson.jp/download/
- Macの場合：［Dock］の［USB Display］アイコンを選択します。USB Displayアイコンが［Dock］に表示されないときは、［アプリケーション］フォルダーの［USB Display］をダブルクリックします。
  ［Dock］の［USB Display］アイコンメニューで［終了］を選択すると、次回USBケーブルを接続したときにUSB Displayは自動的に起動しません。
- Windows Media Centerで映像を投写するときは、全画面表示を使用せず、縮小画面表示にしてください。
- Windows DirectXを使用するアプリケーションは、正しく表示されないことがあります。
- マウスカーソルがちらつくときは、［Epson USB Displayの設定］で、［デスクトップ画面のマウスカーソルをきれいにする］を選択します。
- ［Epson USB Displayの設定］で、［レイヤードウィンドウの転送］をオフにします。
- 解像度がWUXGA（1920 × 1200）のプロジェクターで投写中にコンピューターの解像度を変更すると、映像の品質が低下することがあります。
- ［拡張設定］メニューで［USB Type B］を［USB Display/Easy Interactive Function］、または［ワイヤレスマウス/USB Display］に設定します（EB-710UT）。

関連項目

- 「USBケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.31

「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示される

「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示されるときは、次の対処方法を確認してください。

- 【入力検出】ボタンを押し、映像が表示されるまで数秒待ちます。
- 接続された映像機器の電源を入れ、必要な場合は再生を押してプレゼンテーションや動画の再生を開始します。
- 投写に必要なケーブルがすべて接続されているか確認します。
- プロジェクターと映像機器を直接接続してください。
- ノート型コンピューターから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。
- 接続されたコンピューターがスリープ状態でないことを確認します。
- 必要に応じて、本機および接続された映像機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
- HDMIケーブルで接続しているときは、より短いケーブルに交換して試してください。

関連項目

- 「ノート型コンピューターから映像を出力する」 p.246
- 「Macのノート型コンピューターから映像を出力する」 p.246

ノート型コンピューターから映像を出力する

ノート型コンピューターから投写時に「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示されるときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

1. ノート型コンピューターの［Fn］キーを押しながら、モニターのアイコンや［CRT/LCD］が印字されているキーを押します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）映像が表示されるまで数秒待ちます。
2. ノート型コンピューターの画面とプロジェクターの両方で映像を表示するには、もう一度同じキーを押します。
3. ノート型コンピューターとプロジェクターで同じ映像が表示されないときは、Windowsの［ディスプレイ］ユーティリティで、外部モニター端子が有効であるか、拡張ディスプレイが無効になっているかを確認します。（詳しくはお使いのコンピューターまたはWindowsの取扱説明書をご覧ください。）
4. 必要に応じて、ビデオカードの設定を確認し、マルチディスプレイオプションを［クローン］または［ミラー］に設定します。

Macのノート型コンピューターから映像を出力する

Macのノート型コンピューターから投写時に、「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示されるときは、コンピューターの設定でディスプレイをミラーリングします。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

1. ［システム環境設定］を開き、［ディスプレイ］を選択します。
2. 必要に応じて、［ディスプレイ］または［カラーLCD］を設定します。
3. ［調整］または［アレンジメント］をクリックします。
4. ［ディスプレイをミラーリング］を選択します。

「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示される

「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示されるときは、次の対処方法を確認してください。

- ［映像］メニューで正しい入力信号方式が選択されているか確認します。
- コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

関連項目

- 「映像メニュー」 p.197
- 「対応解像度」 p.262

映像の一部が表示されない

映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- VGAケーブルを使ってコンピューターから映像を投写しているときは、リモコンの【自動調整】ボタンを押して、映像信号を最適化します。
- ［映像］メニューの［表示位置］で映像の表示位置を調整します。
- リモコンの【アスペクト】ボタンを押して、アスペクト比を変更します。

- 接続された機器の信号に応じて、［映像］メニューの［入力解像度］を設定します。
- 【Eズーム】ボタンで映像をズームしたときは、【戻る】ボタンを押してEズームを解除します。
- コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）
- プレゼンテーションファイルが本機の対応解像度を超えていないか確認します。（詳しくはお使いのソフトウェアのヘルプをご覧ください。）
- 正しい設置モードを選択していることを確認します。［拡張設定］メニューの［設置モード］で選択できます。
- 映像のサイズ調整後、または台形補正後にデジタル ピクチャーシフトで映像の位置を調整します。

関連項目

- 「映像メニュー」 p.197
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「対応解像度」 p.262
- 「映像の位置を調整する」 p.68

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 操作パネルの台形補正ボタンを押して映像のゆがみを補正します。
- Quick Cornerを使って、コーナーの形状を個別に補正します。
  ☛ ［設定］ > ［幾何学歪み補正］ > ［Quick Corner］
- 湾曲したスクリーンに投写するときは、湾曲補正で映像の形状を補正します。
  ☛ ［設定］ > ［幾何学歪み補正］ > ［湾曲補正］

関連項目

- 「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 p.60
- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.61
- 「湾曲補正で映像のゆがみを補正する」 p.63

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機と映像機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
  - 干渉を受けないように、電源コードから離れている
  - ケーブルの両端が確実に接続されている
  - 延長ケーブルを使用していない
- ［映像］メニューの設定が、接続している機器に合っているか確認します。
- ［画質］メニューの［プログレッシブ変換］と［ノイズリダクション］が設定できる入力ソースのときは、これらの設定をします。
- コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。
- VGAケーブルを使ってコンピューターから映像を投写しているときは、リモコンの【自動調整】ボタンを押して［トラッキング］と［同期］の設定を最適化します。映像が正しく調整されないときは、［映像］メニューで［トラッキング］と［同期］を設定します。
- ［映像］メニューで［入力解像度］を［オート］に設定します。
- 映像のゆがみを補正したときは、［画質］メニューで［シャープネス］を低い値に設定し、表示画質を向上させます。

- 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- USB Displayを使って投写するときは、［Epson USB Displayの設定］で［レイヤードウィンドウの転送］をオフにします。

関連項目
- 「映像メニュー」 p.197
- 「画質メニュー」 p.195
- 「対応解像度」 p.262

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 映像のピントを合わせます。
- 本機の投写窓を掃除します。

寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に、通電しない状態で本機を設置するようにします。

- 投写距離の推奨範囲内に設置します。
- 映像の高さ調整のために本機の傾斜角度を大きくすると映像がゆがみます。傾斜角度を小さくして台形補正の調整値を小さくします。
- ［画質］メニューで［シャープネス］を調整して、表示画質を上げます。
- VGAケーブルを使ってコンピューターから映像を投写しているときは、リモコンの【自動調整】ボタンを押して、トラッキングと同期の設定を最適化します。映像に縦の縞模様が出たり、全体的にぼやけるときは、均一なパターン画面を表示し、［映像］メニューで［トラッキング］と［同期］を設定します。
- コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

関連項目
- 「映像メニュー」 p.197
- 「画質メニュー」 p.195
- 「対応解像度」 p.262
- 「投写窓を清掃する」 p.228

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎたり明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの【カラーモード】ボタンを押して、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
- お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- ［画質］メニューで［明るさ］、［コントラスト］、［色合い］、［ホワイトバランス］、［色の濃さ］などを設定します。
- ［映像］メニューで［入力信号方式］、または［ビデオ信号方式］を正しく設定します。
  - ☛ ［映像］ > ［アドバンスト］ > ［入力信号方式］
  - ☛ ［映像］ > ［アドバンスト］ > ［ビデオ信号方式］
- ［画質］ メニューで［ガンマ］、［RGBCMY］を正しく設定します。
  - ☛ ［画質］ > ［アドバンスト］
- 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- ［節電］メニューで［明るさ設定］が正しく設定されているか確認します。
- 投写距離の推奨範囲内に設置します。

関連項目
- 「カラーモードを設定する」 p.73
- 「映像メニュー」 p.197
- 「画質メニュー」 p.195

- 「節電メニュー」 p.217

音が出ない、小さい

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機の音量設定を調整します。
- 一時的に映像と音を消したときは、リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押して、映像と音を再開します。
- コンピューター、ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
- オーディオケーブルを一度外し、再度接続します。
- プロジェクターとビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- HDMIケーブルで接続している機器の音声が出ないときは、接続機器の音声出力をPCMに設定します。
- 接続するオーディオケーブルは「抵抗なし」と表記されているものを使用します。
- USB Displayを使って投写するときは、［Epson USB Displayの設定］で［音声をプロジェクターで出力する］をオンにします。
- ［拡張設定］メニューで［A/V出力設定］を正しい音声入力に設定します。
- MacとプロジェクターをHDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、MacがHDMI端子からの音声出力に対応しているか確認します。
- 本機がスタンバイ状態のときも、接続しているオーディオ機器の音声を出力するときは、［拡張設定］メニューで［高速起動］を［オフ］に設定し、［A/V出力設定］が正しく設定されていることを確認します。

  ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［高速起動］

  ☛ ［拡張設定］ > ［A/V出力設定］
- コンピューターの音量を最小、プロジェクターの音量を最大に設定していると、ノイズが入ることがあります。コンピューターの音量を上げて、プロジェクターの音量を下げてください。（Epson iProjection (Windows/Mac)またはUSB Displayを使用する場合）
- ［設定］メニューで［音声出力機器］を正しい音声出力に設定します。

  ☛ ［設定］ > ［HDMIリンク］ > ［音声出力機器］
- ［設定］メニューの［マイク入力レベル］を確認します（EB-710UT）。マイク入力レベルを上げすぎると、その他の接続機器からの音声が聞こえなくなります。

関連項目

- 「マイクの音が出ない」 p.249
- 「プロジェクターを接続する」 p.30
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「節電メニュー」 p.217
- 「音量ボタンで音量を調整する」 p.82

マイクの音が出ない

プロジェクターに接続したマイクの音が出ないときは、次の対処方法を確認してください（EB-710UT）。

- マイクが正しく接続されていることを確認します。
- ［設定］メニューの［マイク入力レベル］を調整します。

PC Freeで画像ファイル名が正しく表示されない

ファイル名の文字数が表示幅を超える場合や、非対応の記号が含まれている場合は、PC Free機能ではファイル名が短縮または変更されます。ファイル名を短縮もしくは変更してください。

プロジェクター、リモコンの操作に関するトラブルの対処方法を確認してください。

関連項目
- 「電源が入らない、予期せず切れる」 p.250
- 「リモコンで操作できない」 p.250
- 「パスワードが入力できない」 p.251
- 「「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される」 p.251

電源が入らない、予期せず切れる

電源ボタンを押しても本機の電源が入らない、予期せず電源が切れるときは、次の対処方法を確認してください。

- 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- セキュリティーのため、操作パネルのボタン操作がロックされていることがあります。［設定］メニューで［操作ボタンロック］を解除するか、リモコンを使用して本機の電源を入れます。
  ☛［設定］＞［ロック設定］＞［操作ボタンロック］
- 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- 本機の光源が予期せず消えるときは、一定時間操作が行われずスリープモードになっている可能性があります。いずれかのボタンを押して、スリープモードから復帰します。スリープモードを無効にするには、［節電］メニューで［スリープモード］を［オフ］にします。
- 本機の光源が予期せず消えるときは、A/Vミュートタイマーが有効になっている可能性があります。A/Vミュートタイマーを無効にするには、［節電］メニューで［A/Vミュートタイマー］を［オフ］にします。
- 本機の光源が消え、ステータスインジケーターが点滅して温度インジケーターが点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。
- リモコンの電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、リモコンの電池を確認します。また、［設定］メニューの［リモコン受光部］で、いずれかの受光部がオンになっていることを確認します。
- プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

関連項目
- 「節電メニュー」 p.217
- 「インジケーターの見方」 p.241
- 「設定メニュー」 p.199
- 「操作ボタンロックを解除する」 p.155

リモコンで操作できない

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 本機がウォームアップ中またはシャットダウン中でないか確認します。
- リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または

直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。

- ［設定］メニューの［リモコン受光部］で、いずれかの受光部がオンになっていることを確認します。
- ［リモコン受光部］がオフに設定されているときは、リモコンの【メニュー】ボタンを15秒以上押したままにして、この設定を初期値に戻します。
- プロジェクターIDを設定しているときは、プロジェクターIDと同じ番号をリモコンで選択してリモコン操作を有効にします。
- リモコンを紛失した場合は、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.45
- 「設定メニュー」 p.199
- 「操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する」 p.143
- 「リモコンの電池を交換する」 p.235

パスワードが入力できない

パスワードを入力できない、または忘れたときは、次の対処方法を確認してください。

- パスワードを設定せずに、パスワードプロテクトを有効にしていることがあります。初期パスワード**0000**を入力します。
- 誤ったパスワードを何度も入力すると、問い合わせコードを示すメッセージが表示されます。そのコードをメモして、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。パスワードに関してお問い合わせをいただいた際は、お客様のお名前や連絡先をお聞きし、ご本人であることを確認させていただきます。
- リモコンを紛失したときはパスワードを入力できません。新たにリモコンをお買い求めください。

「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される

「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される場合は、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インタラクティブ機能を使用するときに想定されるトラブルの対処方法を確認してください（EB-710UT）。

関連項目

- 「「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というメッセージが表示される」 p.252
- 「インタラクティブペンが動作しない」 p.252
- 「手動でペン位置合わせができない」 p.253
- 「投写画面上でコンピューターを操作できない」 p.253
- 「インタラクティブペンの位置が正しくない」 p.253
- 「インタラクティブペンの反応が遅い、使いにくい」 p.254
- 「指タッチ操作がうまくできない」 p.254

「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というメッセージが表示される

「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というエラーメッセージが表示されるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください

インタラクティブペンが動作しない

インタラクティブペンが正しく動作しないときは、次の対処方法を確認してください。

- ペン先の黒い部分を持たないでください。
- 手が信号を妨げないように、ペンを持つ角度を変えてみてください。
- ペン側面のボタンを押して、電池残量を確認します。バッテリーインジケーターが点灯しないときは、電池を交換します。
- ペン先がしっかりと取り付けられていることを確認します。
- ペン先がすり減ったり壊れたりしているときは、新しいペン先と交換します。
- ペンとインタラクティブペン受光部との間に障害物がないか確認します。
- ケーブル類が信号を妨げないよう、ケーブルカバーが正しく取り付けられているか確認します。
- 室内の照明を暗くします。蛍光灯類は消灯します。投写画面とインタラクティブペン受光部に、直射日光や強い光が当たっていないか確認します。
- インタラクティブペン受光部が汚れていないか、ホコリがたまっていないか確認します。
- 赤外線リモコン、赤外線マウス、赤外線マイクなど、赤外線を使う機器からの干渉がないか確認します。
- インタラクティブペンを初めて使うときは、ペン位置を本機に正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。
- ［拡張設定］メニューの［Easy Interactive Function］で［ペンモード］や［ペン動作モード］が正しく設定されているか確認します。
- 同じ部屋で本機を2台以上使用しているときは、インタラクティブペン同士が干渉して、動作が不安定になることがあります。オプションのワイヤードリモコンケーブルでプロジェクター同士を接続してください。ワイヤードリモコンケーブルをお持ちでない方は、［拡張設定］メニューの［複数台設置距離］の設定を変更してください。

  ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［複数台設置距離］
- ソフトペン先をお使いの場合は、ハードペン先に交換してみてください。本機以外のプロジェクターはソフトペン先に対応していない場合があります。

関連項目

- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.237
- 「ペン位置合わせ」 p.88
- 「拡張設定メニュー」 p.202

- 「インタラクティブペンの電池を交換する」 p.236

手動でペン位置合わせができない

手動でインタラクティブペンの位置合わせができないときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機が投写画面に近すぎないか確認します。
- 本機の位置を移動するか、赤外線を使う機器の電源を切ります。

投写画面上でコンピューターを操作できない

投写画面上でコンピューターを操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- ［拡張設定］メニューで［USB Type B］が［Easy Interactive Function］または［USB Display/Easy Interactive Function］に設定されていることを確認します。
- インタラクティブペンを初めて使うときは、ペン位置を本機に正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。
- リモコンの【ペンモード】ボタンを押して、［ペンモード］を［マウス操作］に設定します。［ペンモード］は［拡張設定］メニューでも設定できます。
  ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［ペンモード］
- USBケーブルが正しく接続されているか確認します。USBケーブルを一度外し、再度接続します。
- 本機を2台並べて投写している画面でインタラクティブ機能を使うときは、［マルチプロジェクション］の設定を変更します。また、操作したいコンピューターにEpson Projector Software for Easy Interactive Function CD-ROMをセットして、Easy Interactive Driver Ver. 4.0をインストールしてください。
  ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［詳細設定］ > ［マルチプロジェクション］
- 本機を2台並べて設置している場合に、1台だけで投写しているときは、投写画面上でコンピューターを操作できないことがあります。

  ホーム画面で アイコンを選択し、［このプロジェクターのみ使用する］を［オン］に設定します。

関連項目

- 「ペン位置合わせ」 p.88
- 「拡張設定メニュー」 p.202

インタラクティブペンの位置が正しくない

インタラクティブペンの位置が正しく認識されないときは、次の対処方法を確認してください。

- インタラクティブペンを初めて使うときは、ペン位置を本機に正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。自動ペン位置合わせを行っても、ペンで描画している位置と実際に描画される位置がずれるときは、手動ペン位置合わせを行います。
- ケーブル類が信号を妨げないよう、ケーブルカバーが正しく取り付けられているか確認します。
- ペン操作エリアを調整します。
- リモコンの【Eズーム】ボタンで映像を拡大しているときは、ペン位置が正しく認識されません。映像を元のサイズに戻します。
- ［拡張設定］メニューで［ペンモード］を［マウス操作］に設定しているときは、［操作エリア自動調整］を［オフ］に設定して、［操作エリア手動調整］を選択します。
  ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［操作エリア自動調整］
  ☛ ［拡張設定］ > ［Easy Interactive Function］ > ［全般設定］ > ［詳細設定］ > ［操作エリア手動調整］

関連項目
- 「ペン位置合わせ」 p.88
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「ペン操作エリアを調整する」 p.104

インタラクティブペンの反応が遅い、使いにくい

インタラクティブペンの反応が遅いときや使いにくいときは、次の対処方法を確認してください。

- 投写画面に対してペンを垂直に持ちます。
- インタラクティブ機能の動作を安定させるために、コンピューターとプロジェクターを接続するときは、映像投写用にはVGAケーブルまたはHDMIケーブル、インタラクティブ機能用にはUSBケーブルの使用をお勧めします。
- USB Displayを使ってWindowsコンピューターの映像を投写するときは、［Epson USB Displayの設定］でWindows Aeroを無効にします。

関連項目
- 「プロジェクターを接続する」 p.30

指タッチ操作がうまくできない

指タッチ操作がうまくできないときは、次の対処方法を確認してください。

- タッチユニットが正しく設置されているか、電源コードが確実に接続されているか確認してください。詳しくは、『設置工事説明書』をご覧ください。
- タッチユニットのインジケーターが点灯していないときは、［拡張設定］メニューの［タッチユニット設置］で［電源］が［オン］になっているか確認してください。
- タッチユニットの角度調整を行います。詳しくは、『設置工事説明書』をご覧ください。
- タッチユニットのレーザー照射口と投写画面の間に、ケーブル類やペントレイなどの障害物がないか確認します。投写画面の周囲に移動できない障害物があるときは、スクリーンに赤外線ディフレクターを取り付けます。詳しくは、『設置工事説明書』をご覧ください。
- 赤外線リモコン、赤外線マウス、赤外線マイクなど、赤外線を使う機器からの干渉がないか確認します。
- 指で描画している位置と実際に描画される位置がずれるときは、［拡張設定］メニューから［指タッチ位置合わせ］を行ってください。
- 投写画面の前や周囲（約10cm以内）に人が立っていたり障害物があったりすると、指タッチ操作がうまくできないことがあります。
- 衣服の袖や身体の一部が投写画面に近づいたり接触したりすると、指タッチ操作がうまくできないことがあります。投写画面から1 cm以上離れてください。
- 位置合わせを行っても指タッチ操作がうまくできないときは、ホーム画面で アイコンを選択して、［タッチ補正範囲］の設定を確認します。
  - 指タッチがドラッグになってしまうときは、［広い］を選択します。
  - なめらかにマウス操作ができないときは、［狭い］を選択します。

関連項目
- 「拡張設定メニュー」 p.202
- 「指を使って操作する」 p.92

ネットワーク経由でプロジェクターを使用するときに想定されるトラブルの対処方法を確認してください。

関連項目
- 「無線LAN認証できない」 p.255
- 「Webブラウザーを使って設定を変更できない」 p.255
- 「異常が起きたときにメール通知されない」 p.255
- 「ネットワーク経由で投写した映像が乱れる」 p.256

無線LAN認証できない

無線LANの認証に失敗するときは、次の対処方法を確認してください。

- 無線LANが正しく設定されていても認証できないときは、［拡張設定］メニューで［日付＆時刻］を設定し直してください。
  ☛ ［拡張設定］ > ［動作設定］ > ［日付＆時刻］
- ［ネットワーク］メニューで［セキュリティー］の設定を確認します。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［無線LAN］

Webブラウザーを使って設定を変更できない

Webブラウザーを使って本機の設定を変更できないときは、正しいユーザー名とパスワードを確認します。

- ［Epson Web Control］の［ベーシックコントロール］を開くときは、ユーザー名に**EPSONREMOTE**と入力します。（ユーザー名は変更できません。）
- ベーシックコントロール機能のパスワードには、［ネットワーク］メニューで設定しているパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは**guest**です。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［基本設定］ > ［Remoteパスワード］
- ［Epson Web Control］の［ベーシックコントロール］以外の項目を開くときは、ユーザー名に**EPSONWEB**と入力します。（ユーザー名は変更できません。）
- ［ベーシックコントロール］機能以外の項目のパスワードには、［ネットワーク］メニューで設定しているパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは**admin**です。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定画面へ］ > ［基本設定］ > ［Web制御パスワード］
- プロジェクターが接続しているネットワークへのアクセス権を持っていることを確認します。
- ご使用のWebブラウザーで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、［Epson Web Control］画面を表示できません。プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

ユーザー名、パスワードの大文字小文字は区別されます。

関連項目
- 「ネットワークメニュー - 基本設定メニュー」 p.210

異常が起きたときにメール通知されない

プロジェクターの異常/警告を通知するメールが受け取れないときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機の電源が入っているか、ネットワークに正しく接続されているか確認します。本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になったときは、メールが送信できないことがあります。

- ［通知］メニューまたはネットワークソフトウェアでメール通知機能を正しく設定していることを確認します。
- 本機がスタンバイ状態のときもプロジェクターを監視できるように、［節電］メニューで［待機モード］を［通信オン］に設定します。
  お使いのネットワーク環境に応じて、［通信ポート］の設定を変更します。
  ☛ ［節電］ > ［待機モード］ > ［待機モード］
- 本機をお使いの地域が停電になっていたり、本機の電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。

関連項目

- 「ネットワークメニュー - 通知メニュー」 p.214

ネットワーク経由で投写した映像が乱れる

ネットワーク経由で投写した映像が乱れるときは、次の対処方法を確認してください。

- アクセスポイントとコンピューターやモバイルデバイス、プロジェクターの間に障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- アクセスポイントとコンピューターやモバイルデバイス、プロジェクターが離れすぎていないか確認します。離れすぎているときは、近づけて接続します。
- 映像の表示が遅いときや、投写映像にノイズが入るときは、Bluetoothを使用する機器や電子レンジなどからの干渉がないか確認してください。干渉の可能性のある機器を遠ざけるか、無線帯域を確保します。
- 映像の表示が遅いときは、接続している機器の数を減らしてください。

付録

本機の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 p.258
- 「スクリーンサイズと投写距離」 p.260
- 「対応解像度」 p.262
- 「本機仕様」 p.264
- 「接続端子」 p.265
- 「外形寸法図」 p.266
- 「USB Displayのシステム要件」 p.268
- 「Easy Interactive Driverシステム動作条件」 p.269
- 「IEC60950-1 A2対応 安全規格対応シンボルマーク」 p.270
- 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 p.272
- 「用語解説」 p.274
- 「一般のご注意」 p.277

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2017年7月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

関連項目

- 「ケーブル」 p.258
- 「設置用金具」 p.258
- 「インタラクティブ用オプション」 p.258
- 「無線LAN用オプション」 p.259
- 「外付けオプション」 p.259
- 「消耗品」 p.259

ケーブル

コンピューターケーブル **ELPKC02 （ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用1.8m）**
コンピューターケーブル **ELPKC09 （ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m）**
コンピューターケーブル **ELPKC10 （ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m）**
コンピューター端子に接続するときに使います。

ワイヤードリモコンケーブル **ELPKC28 （EB-710UT）**
インタラクティブ機能に対応した複数台のプロジェクターを接続するためのケーブルです。

USB延長ケーブル ELPKC31 （EB-710UT）
USBケーブルの長さが足りないときに、USBケーブルに接続して延長します。

設置用金具

セッティングプレート **ELPMB53**
壁に取り付けるときに使います。

天吊金具 **ELPMB22**
本機を天井に取り付けるときに使います。

パイプ**450（450mm） ELPFP13**
パイプ**700（700mm） ELPFP14**
高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。

テーブル投写金具 **ELPMB29 （EB-710UT）**
机に取り付けるときに使います。

天吊り設置には特別な技術が必要です。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インタラクティブ用オプション

インタラクティブ機能は、EB-710UTでのみ使用できます。

インタラクティブペン **ELPPN05A**
インタラクティブペン **ELPPN05B**
投写画面上で描画をするときや、コンピューター画面を操作するときに使います。

交換用ハードペン先 **ELPPS03**
交換用ソフトペン先 **ELPPS04**
インタラクティブペンの交換用ペン先です。

無線LAN用オプション

無線LANユニット **ELPAP10**
無線LAN接続で投写するときに使います。（使用周波数帯：2.4GHz帯）

外付けオプション

書画カメラ **ELPDC21**
書籍やOHP原稿、スライドなどを投写するときなどに使います。

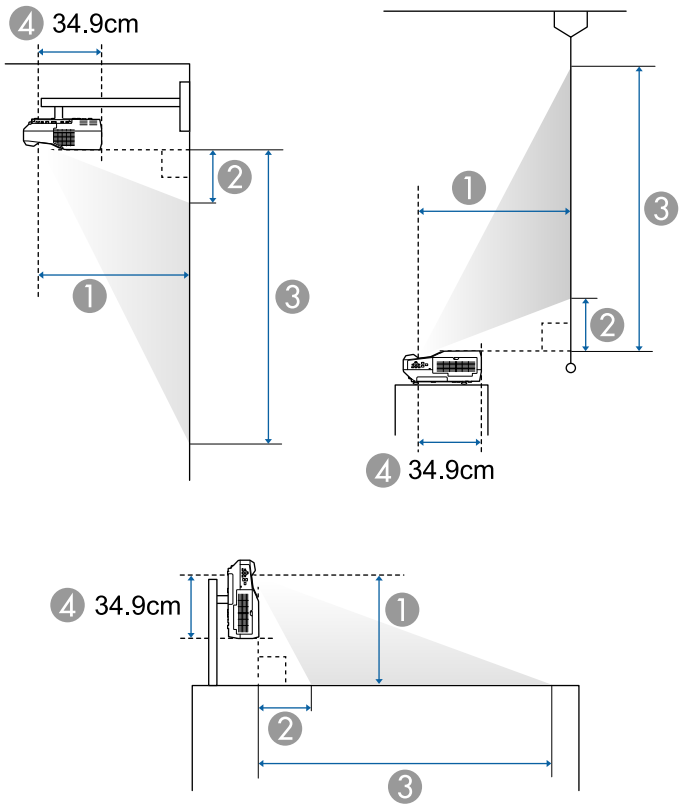
スピーカー **ELPSP02**
電源内蔵の外付けスピーカーです。

インターフェースボックス **ELPCB02（EB-710UT）**
本機を天井や壁に取り付けて使うときに、本機の操作を手元で行うために設置するリモコンです。

消耗品

エアフィルター **ELPAF43**
使用済みエアフィルターと交換します。

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



1. 投写距離（cm）
2. 本機からスクリーン上端までの長さ（壁掛け・天吊り・縦に設置する場合）（cm）
   本機からスクリーン下端までの長さ（机などに設置する場合）（cm）
3. 本機からスクリーン下端までの長さ（壁掛け・天吊り・縦に設置する場合）（cm）
   本機からスクリーン上端までの長さ（机などに設置する場合）（cm）
4. レンズ中心から本機の背面までの長さ（cm）

EB-710UT/EB-700U

16：10スクリーンサイズ		1 最短（ワイド）～最長（テレ）	2 最短（ワイド）	3 最短（ワイド）
70型	151 × 94	40.5 - 55.8	12.9	107.2
75型	162 × 101	43.6 - 60.1	14.3	115.3
80型	172 × 108	46.7 - 64.3	15.7	123.4
90型	194 × 121	53.0 - 72.8	18.6	139.7
100型	215 × 135	59.3 *	21.4	156.0
110型	237 × 148	65.6 *	24.2	172.2
120型	259 × 162	71.9 *	27.0	188.5
130型	280 × 175	78.1 *	29.8	204.8

* ワイド（最大ズーム）で投写

投写映像が100型を超える場合は、インタラクティブ機能が正常に動作しないことがあります（EB-710UT）。

EB-700U

4：3スクリーンサイズ		1 最短（ワイド）～最長（テレ）	2 最短（ワイド）	3 最短（ワイド）
70型	142 × 107	46.3 - 63.7	15.5	122.2
80型	163 × 122	53.4 - 73.3	18.7	140.6

4：3スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）～最長（テレ）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
90型	183 × 137	60.5 *	21.9	159.0
100型	203 × 152	67.6 *	25.1	177.5
110型	224 × 168	74.7 *	28.2	195.9
114"	232 × 174	77.5 *	29.5	203.2

* ワイド（最大ズーム）で投写

EB-700U

16：9スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）～最長（テレ）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
70型	155 × 87	41.7 - 57.5	18.3	105.5
80型	177 × 100	48.1 - 66.2	21.9	121.5
90型	199 × 112	54.6 - 74.9	25.5	137.6
100型	221 × 125	61.0 *	29.1	153.6
110型	244 × 137	67.5 *	32.6	169.6
120型	266 × 149	73.9 *	36.2	185.6
126"	279 × 157	77.8 *	38.3	195.3

* ワイド（最大ズーム）で投写

対応解像度

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度を示します。

コンピューター映像（アナログ**RGB**）

信号	リフレッシュレート（Hz）	解像度（ドット）
VGA	60/72/75/85	640 × 480
SVGA	60/72/75/85	800 × 600
XGA	60/70/75/85	1024 × 768
WXGA	60	1280 × 768
	60	1366 × 768
	60/75/85	1280 × 800
WXGA+	60/75/85	1440 × 900
WXGA++	60	1600 × 900
SXGA	70/75/85	1152 × 864
	60/75/85	1280 × 960
	60/75/85	1280 × 1024
SXGA+	60/75	1400 × 1050
WSXGA+ *	60	1680 × 1050
UXGA	60	1600 × 1200
WUXGA (Reduced Blanking)	60	1920 × 1200

* ［映像］メニューの［入力解像度］で［ワイド］を選択しているときのみ

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

信号	リフレッシュレート（Hz）	解像度（ドット）
SDTV (480i/480p)	60	720 × 480
SDTV (576i/576p)	50	720 × 576
HDTV (720p)	50/60	1280 × 720
HDTV (1080i)	50/60	1920 × 1080

コンポジットビデオ

信号	リフレッシュレート（Hz）	解像度（ドット）
TV (NTSC)	60	720 × 480
TV (SECAM)	50	720 × 576
TV (PAL)	50/60	720 × 576

HDMI入力

信号	リフレッシュレート（Hz）	解像度（ドット）
VGA	60	640 × 480
SVGA	60	800 × 600
XGA	60	1024 × 768
WXGA	60	1280 × 800
	60	1366 × 768
WXGA+	60	1440 × 900
WXGA++	60	1600 × 900
SXGA	60	1280 × 960
	60	1280 × 1024

信号	リフレッシュレート（Hz）	解像度（ドット）
SXGA+	60	1400 × 1050
WSXGA+	60	1680 × 1050
UXGA	60	1600 × 1200
WUXGA (Reduced Blanking)	60	1920 × 1200
SDTV (480i/480p)	60	720 × 480
SDTV (576i/576p)	50	720 × 576
HDTV (720p)	50/60	1280 × 720
HDTV (1080i)	50/60	1920 × 1080
HDTV (1080p)	24/30/50/60	1920 × 1080

MHL入力

信号	リフレッシュレート（Hz）	解像度（ドット）
VGA	60	640 × 480
SDTV (480i/480p)	60	720 × 480
SDTV (576i/576p)	50	720 × 576
HDTV (720p)	50/60	1280 × 720
HDTV (1080i)	50/60	1920 × 1080
HDTV (1080p)	24/30	1920 × 1080

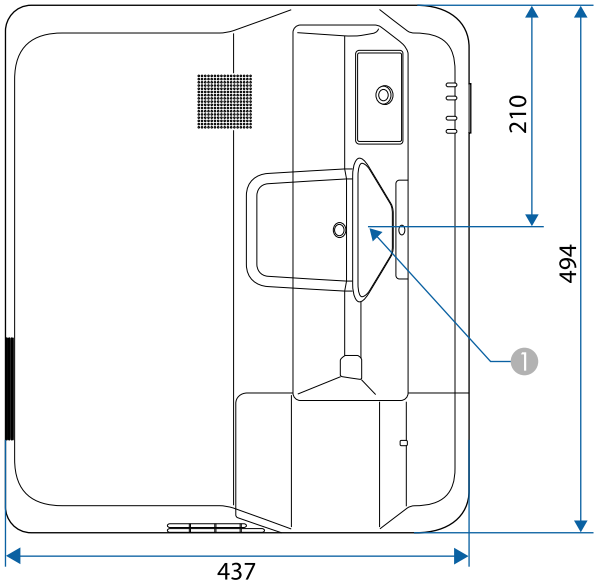
商品名	EB-710UT/EB-700U
外形サイズ	幅494 × 高さ172 × 奥行き437 mm（突起部を含まず）
液晶パネルサイズ	0.67型
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
画素数	2,304,000 ピクセル WUXGA（横1,920 × 縦1,200ドット） × 3
フォーカス調整	手動
ズーム調整	1.0 - 1.35（デジタル）
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大108 W
波長	450 - 460nm
光源寿命 *	光源モードがノーマルまたは静音の場合： 約20,000時間 光源モードがロングの場合： 約30,000時間
音声最大出力	16 W
スピーカー	1個
電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 4.6 - 2.0 A
消費電力（100-120V エリア）	定格消費電力：448 W 待機時消費電力（通信オン）：2.0 W 待機時消費電力（通信オフ）：0.5 W
消費電力（220-240V エリア）	定格消費電力：423 W 待機時消費電力（通信オン）：2.0 W 待機時消費電力（通信オフ）：0.5 W
動作高度	標高 0〜3,000 m

動作温度範囲	0〜+45°C（結露しないこと） 複数のプロジェクターを同時に使用するとき： 0〜+40°C（結露しないこと）
保存温度範囲	-10〜+60°C（結露しないこと）
質量	**EB-710UT**： 約11.2kg **EB-700U**： 約11.0kg

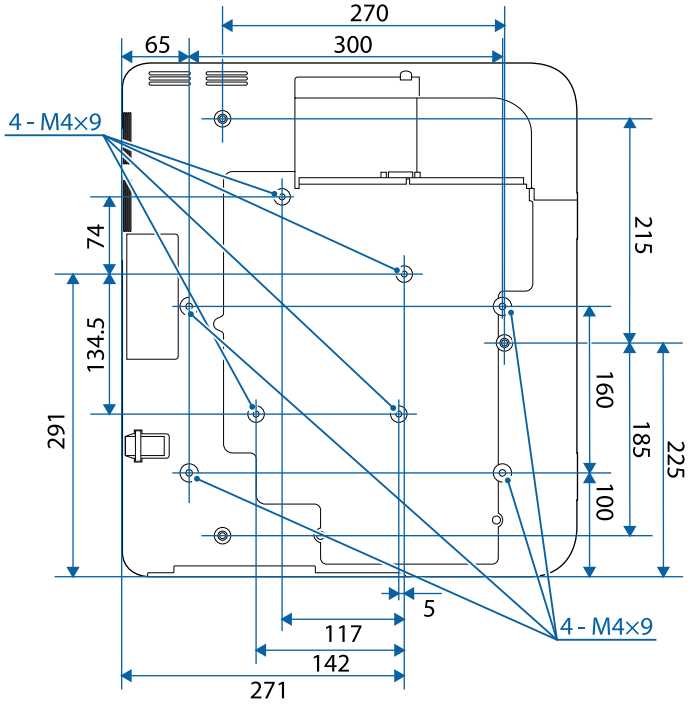
* 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。

コンピューター端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
モニター出力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
ビデオ端子	1系統	RCAピンジャック
音声入力端子	2系統	ステレオミニピンジャック
マイク端子（EB-710UT）	1系統	ステレオミニピンジャック
音声出力端子	1系統	ステレオミニピンジャック
HDMI1/MHL端子	1系統	HDMI（音声はPCMにのみ対応）
HDMI2端子	1系統	HDMI（音声はPCMにのみ対応）
HDMI3端子	1系統	HDMI（音声はPCMにのみ対応）
USB-A端子	2系統	USBコネクター（Aタイプ）
USB-B端子	1系統	USBコネクター（Bタイプ）
USB端子（無線LANユニット専用）	1系統	USBコネクター（Aタイプ）
LAN端子	1系統	RJ-45
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin（オス）
SYNC端子（EB-710UT）	2系統	ステレオミニピンジャック
TCH端子（EB-710UT）	1系統	ミニDIN 8pin

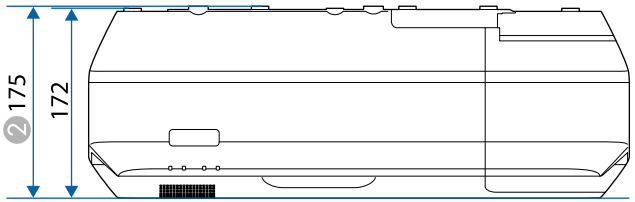
- USB-A端子とUSB-B端子はUSB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- USB-B端子はUSB 1.1には対応していません。



1 投写窓の中心

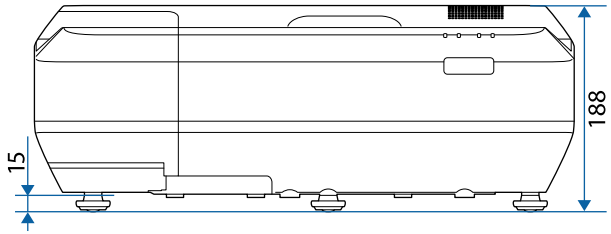


フットなし



2 上面から天吊り金具固定部まで

フットあり（**EB-700U**）



単位： mm

USB Displayのシステム要件

USB Displayは以下の条件を満たすコンピューターで使用できます。

条件	Windows	Mac
OS	Windows Vista • Ultimate（32ビット） • Enterprise（32ビット） • Business（32ビット） • Home Premium（32ビット） • Home Basic（32ビット）	OS X • 10.7.x（32/64ビット） • 10.8.x（64ビット） • 10.9.x（64ビット） • 10.10.x（64ビット） • 10.11.x（64ビット） macOS • 10.12.x（64ビット）
	Windows 7 • Ultimate（32/64ビット） • Enterprise（32/64ビット） • Professional（32/64ビット） • Home Premium（32/64ビット） • Home Basic（32ビット） • Starter（32ビット）	
	Windows 8.1 • Windows 8.1（32/64ビット） • Windows 8.1 Pro（32/64ビット） • Windows 8.1 Enterprise（32/64ビット）	
	Windows 10 • Windows 10 Home（32/64ビット） • Windows 10 Pro（32/64ビット） • Windows 10 Enterprise（32/64ビット）	

条件	Windows	Mac
CPU	Intel Core2Duo 以上 （推奨：Intel Core i3 以上）	Intel Core2Duo 以上 （推奨：Intel Core i5 以上）
メモリー容量	2GB 以上 （推奨：4GB 以上）	
ハードディスク空き容量	20 MB以上	
ディスプレイ	640 × 480から1920 × 1200までの解像度 16ビットカラー以上	

Service Packがインストールされていないwindows Vista と Windows Vista Service Pack 1は動作保証の対象外です。

Easy Interactive Driverシステム動作条件

マウス操作機能を使用するために、お使いのコンピューターにEasy Interactive Driverをインストールする必要があります。動作条件を確認してください。

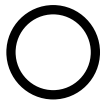
インタラクティブ機能は、EB-710UTでのみ使用できます。

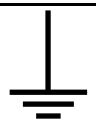
条件	Windows	Mac
OS	Windows 7 • Ultimate（32/64ビット） • Enterprise（32/64ビット） • Professional（32/64ビット） • Home Premium（32/64ビット） • Home Basic（32ビット）	OS X • OS X 10.7.x（32/64ビット） • OS X 10.8.x（64ビット） • OS X 10.9.x（64ビット） • OS X 10.10.x（64ビット） • OS X 10.11.x（64ビット） macOS • 10.12.x（64ビット）
	Windows 8 • Windows 8（32/64ビット） • Windows 8 Pro（32/64ビット） • Windows 8 Enterprise（32/64ビット）	
	Windows 8.1 • Windows 8.1（32/64ビット） • Windows 8.1 Pro（32/64ビット） • Windows 8.1 Enterprise（32/64ビット）	

条件	Windows	Mac
	Windows 10 • Windows 10 Home（32/64ビット） • Windows 10 Pro（32/64ビット） • Windows 10 Enterprise（32/64ビット）	
CPU	Core2 Duo 1.2 GHz以上 （推奨：Core i3以上）	Core2 Duo 1.2 GHz以上 （推奨：Core i5以上）
メモリー容量	1 GB以上 （推奨：2 GB以上）	1 GB以上 （推奨：2 GB以上）
ハードディスク空き容量	100 MB以上	100 MB以上
ディスプレイ	XGA（1024 x 768）以上、WUXGA（1920 x 1200）以下の解像度 16ビットカラー以上	XGA（1024 x 768）以上、WUXGA（1920 x 1200）以下の解像度 16ビットカラー以上

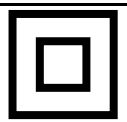
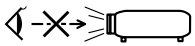
IEC60950-1 A2対応 安全規格対応シンボルマーク

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
❶		IEC60417 No.5007	電源ON 電源への接続を示す。
❷		IEC60417 No.5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
❸		IEC60417 No.5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
❹		ISO7000 No.0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
❺		IEC60417 No.5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
❻		IEC60417 No.6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
❼		IEC60417 No.5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
❽		IEC60417 No.5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
❾		—	No.8と同じ
❿		IEC60417 No.5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⓫		IEC60417 No.5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⓬		—	No.11と同じ
⓭		IEC60417 No.5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⓮		IEC60417 No.5017	アース No.13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⓯		IEC60417 No.5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

IEC60950-1 A2対応 安全規格対応シンボルマーク

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑯		IEC60417 No.5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
⑰		IEC60417 No.5172	クラスII機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスII機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
⑱		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
⑲		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
⑳		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
㉑		—	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。
㉒		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザ放射部があることを示す。
㉓		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
㉔		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
㉕		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。

本機はJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 本機およびタッチユニットのケースを開けないでください。また、分解・改造は絶対にしないでください。本機の内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。
- 本機およびタッチユニットに異常が発生したときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、感電や火災の原因だけでなく、視力障害の原因にもなります。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- 本機の光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。
  - 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
  - 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。
- 光源キャリブレーションについては以下の内容についてご注意ください。
  - 使用時間が100時間を経過する度に、電源オフと同時に自動で光源キャリブレーションが開始します。
    ただし、以下の場合には自動的に開始しません。
    - 本機を24時間以上連続して使用する場合
    - 常にダイレクトシャットダウンで本機の電源を切る場合

    ［拡張設定］メニューで［光源キャリブレーション］を設定してください（EB-700U）。
    ☛ ［拡張設定］ > ［スケジュール設定画面へ］
  - 光源キャリブレーションを実行すると、光源のホワイトバランスや明るさレベルのずれが補正されます。

関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 p.272
- 「レーザー警告ラベル - タッチユニット」 p.273

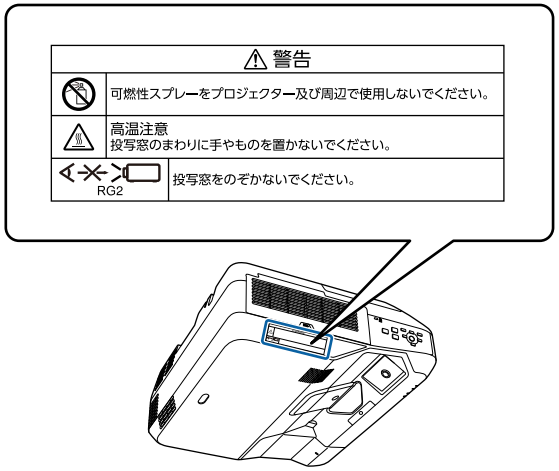
レーザー警告ラベル

本機の内部および側面にはレーザー警告ラベルが貼られています。

内部

外部

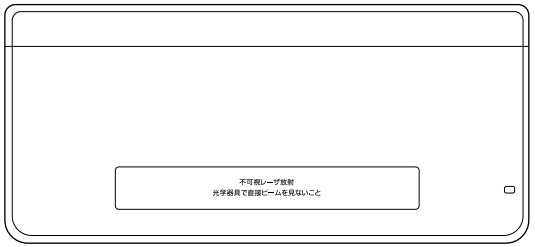
投写中は、投写窓から放射されるレーザービームをのぞかないでください。（RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠）

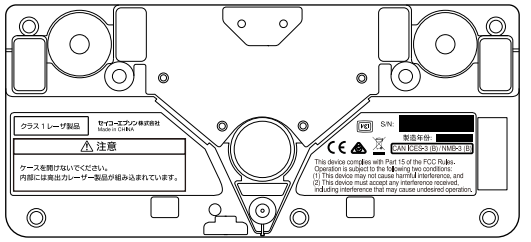


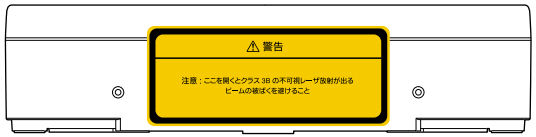
レーザー警告ラベル - タッチユニット

タッチユニットはJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。

タッチユニットにはクラス1レーザー製品であることと警告を示すラベルが貼られています。貼られている場所は次のとおりです。







ラベルの内容は次のとおりです。

- クラス1レーザ製品
- 警告：ケースを開けないでください。内部には高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 警告：
  - 注意：ここを開くとクラス3Bの不可視レーザー放射が出る
  - ビームの被ばくを避けること

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryとは、AMX社のコントロールシステムとその対象機器の構成を容易にする、AMX社の提唱する技術です。 エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効（ON）にできる設定を用意しました。 詳細に関しては、AMX社のWebサイトを参照してください。 URL http://www.amx.com/
アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16：9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4：3です。
コンポーネントビデオ	映像信号を、輝度信号（Y）や青色差信号（CbまたはPb）と赤色差信号（CrまたはPr）に分離して伝送する方式です。
コンポジットビデオ	映像信号の輝度信号や色信号を、1本のケーブルで伝送する方式です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、IPアドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
DICOM	Digital Imaging and Communication in Medicineの略称です。 医用画像の画像規格および通信プロトコルを定義した世界標準規格です。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスクによって分割したネットワーク（サブネット）を超えて通信するためのサーバー（ルーター）のことです。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 • 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） • 画面のアスペクト比は16：9
インフラストラクチャーモード	無線LANの通信方式の一つで、各機器がアクセスポイントを経由して通信を行います。
インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。 1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき（フリッカー）が出やすくなります。
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。

MHL	Mobile High-definition Linkの略で、モバイル端末で映像信号の高速伝送を実現する、高精細映像向けの接続インターフェースの規格のことをいいます。 MHLはスマートフォンやタブレット端末をターゲットにした規格であり、デジタル信号を圧縮せず高品質のまま伝送し、電源供給も行います。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。 そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルーターやコンピューターなどネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム（OS）やインターネットで簡単に扱うために規定された、色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
SSID	SSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。SSIDが一致している機器同士で無線通信できます。

サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク（サブネット）のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
SVGA	画面サイズの規格で、横800ドット × 縦600ドットのものを呼びます。
SXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット × 縦1,024ドットのものを呼びます。
同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。 その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないと、きれいな映像になりません。 信号の位相（山のずれ）を合わせることを「同期を合わせる」といいます。 同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。 その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないと、きれいな映像になりません。 信号の周波数（山の数）を合わせることを「トラッキングを合わせる」といいます。 トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレスのことです。
VGA	画面サイズの規格で、横640ドット × 縦480ドットのものを呼びます。
XGA	画面サイズの規格で、横1,024ドット × 縦768ドットのものを呼びます。
WXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット × 縦800ドットのものを呼びます。

WUXGA	画面サイズの規格で、横1,920ドット × 縦1,200ドットのものを呼びます。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

関連項目

- 「使用限定について」 p.277
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 p.277
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 p.277
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 p.277
- 「表記について」 p.277
- 「商標について」 p.278
- 「ご注意」 p.278
- 「著作権について」 p.279

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。
- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基づき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。 電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

- Microsoft® Windows Vista® operating system
- Microsoft® Windows® 7 operating system
- Microsoft® Windows® 8 operating system
- Microsoft® Windows® 8.1 operating system
- Microsoft® Windows® 10 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows Vista」、「Windows 7」、「Windows 8」、「Windows 8.1」、「Windows 10」と表記しています。また、これらを総称する場合は「Windows」と表記します。

- OS X 10.7.x
- OS X 10.8.x
- OS X 10.9.x
- OS X 10.10.x
- OS X 10.11.x
- macOS 10.12.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「OS X 10.7.x」、「OS X 10.8.x」、「OS X 10.9.x」、「OS X 10.10.x」、「OS X 10.11.x」、「macOS 10.12.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「Mac」と表記します。

商標について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」、「ELPLP」はセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、Mac OS、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPoint、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

WPA™、WPA2™はWi-Fi Allianceの登録商標です。WPA and WPA2 are registered trademarks of Wi-Fi Alliance.

App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。

Chrome、Chromebook、Google PlayはGoogle Inc.の商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI LicensingLLCの商標、または登録商標です。

MHLとMHLのロゴ、及びMobile High-Definition Linkは、米国およびその他の国におけるMHL、LLCの商標または登録商標です。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標、または登録商標です。

Crestron®およびCrestron RoomView®は、Crestron Electronics, Inc.の登録商標です。

UbuntuとCanonicalは、Canonical Ltdの登録商標です。

Intel®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの登録商標です。

本製品には、RSA Security Inc.のRSA BSAFE™を使用しています。RSAはRSA Security Inc.の登録商標です。BSAFEは、米国およびその他の国におけるRSA Security Inc.の登録商標です。

Eneloop®はパナソニックグループの登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因

して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2017. All rights reserved.

2017.07 413500300JA